加須市埋蔵文化財調査報告書　第４集

埼玉県加須（かぞ）市

騎西城武家屋敷跡（きさいじょうぶけやしきあと）

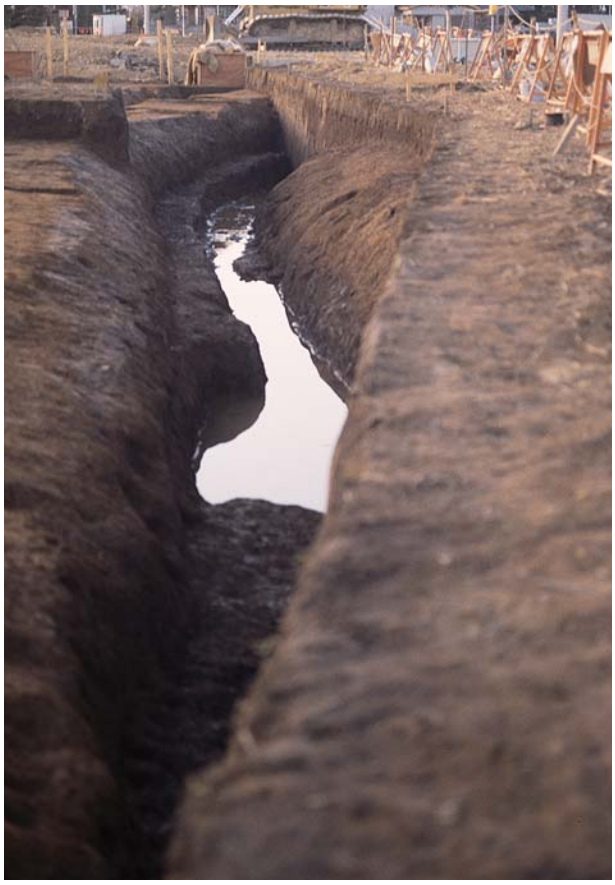
KB３・６・９区

第19・20・21・29次調査

－中近世編－

2012
加須市教育委員会

KB３区１号溝完掘



２号溝完掘

同２号菊皿（土－36）出土

同竹タガ（未図化）出土

同曲物（木－１）出土

同漆椀（未図化）出土

口絵２

KB３区22号土壙遺物出土

KB３区33号土壙遺物出土

KB３区14号溝板碑出土

83　84　85　86

同上出土板碑

口絵４

KB３区　土器類１

KB３区　土器類２

KB３区　土器類３

KB３区　土器類４

KB６区　完掘

KB６区　土器類

口絵８

KB９区　２号井戸完掘（井戸側あり）

KB９区　２号井戸漆椀（木－10）出土

KB９区　16号土壙遺物出土

KB９区　16号土壙漆椀（木－11）出土

口絵 10

366

390

398

479

437

424

423

439

383

408

KB９区　土器類

木製品

口絵 12

鉄製品

銅製品

序

加須市は埼玉県の北東部に位置し、利根川をはじめ多くの河川を擁する豊かな田園地帯であります。

市の南部に位置する騎西地域はその中央に延喜式内社玉敷神社が鎮座する、歴史の古い地域であります。地域には、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が多数所在しており、近年進行する都市化にともなう開発により事前に発掘調査を実施しております。

今回の調査報告は、昭和60～平成５年に実施された根古屋地域に所在する騎西城武家屋敷跡 KB３・６・９区、第19・20・21・29次調査の記録であります。調査の結果、当時の堀や井戸の跡、居住した武士が使用した陶磁器など貴重な遺構・遺物が検出され、城館跡を研究する上で、騎西城の重要性を再認識することとなりました。

本報告が文化財の保護に対する理解の一助として、また郷土資料として広く活用されることを望んでおります。

最後になりましたが、調査の実施、本書の刊行に当たりまして深いご理解と多くのご協力をいただきました開発者の方々をはじめ関係各位の皆様に対しまして深く感謝申し上げます。

平成24年３月

加須市教育委員会

教育長　若山　勝彦

例　言

1　本書は埼玉県加須市騎西地域内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は根古屋外川土地区画整理に先立つもので、昭和60～平成５年に実施したものである。

3　発掘調査組織

調査主体者　騎西町教育委員会

担　当　者　各調査に記載

調査協力員

青木幸子　青山進作　秋池えの　秋池角蔵
秋山ノリ子　梓澤ユキ子　網野のぶ　網野由美子
新井富子　荒川晃子　飯塚剛一　五十嵐喜一郎
五十嵐清　五十嵐まさ子　五十嵐米太郎　石井たね
石坂正幸　猪股栄子　江原福太郎　岡田金之助
小川征子　小熊嘉助　小澤守　小野田誠　小野田靖
梶原妙子　方波見良子　金久保清　金久保政子
川島久男　木下雅子　来須きく　栗原政子
小久保衛　小坂恭子　小林妙子　小林徳治郎
小坂忠一　小森谷アサ　斉藤悦子　斉藤年治
斉藤久夫　斉藤光良　酒巻勇　坂本一政　坂本ゲン
坂本佐一　坂本セイ　坂本波江　坂本ふく
佐藤ヨシ　塩野繁一　塩崎順子　篠塚よね
島村忠志　鈴木房子　須永善之助　須永春雄
関口千代　関口登喜子　関口のぶ　関根長一
高鳥一郎　高鳥長吉　高原真実　田口島蔵
田口ひろみ　田口ふみ　田島松五郎　田村源太郎
塚田好男　土屋トヨ　中島かづ江　内藤ふく　中根聡
根岸孝子　野原よし子　野本友吉　萩原ヨネ
橋本一雄　福島利夫　福島秀夫　古沢繁子
細野年一　細野万次郎　増田留次郎　松村重明
松村二郎　松村一枝　松永鶴子　丸山このみ
柳田由弘　山口保夫　山崎綾子　吉野武一
吉沢初江　吉沢幸夫　若林クニ子　若林美知子
若林慶助　渡辺美幸

4　整理組織

（平成23年度）加須市教育委員会

教育長　　若山勝彦

生涯学習部長　　牛久保達三郎

生涯学習副部長　奈良邦彦

騎西教育事務所　所長　中野一成

主幹　嶋村英之

主査　坂本征男

5　本書の刊行に際して次のように分担して業務に当たった。

（1）執筆　　土器類　島村範久

木製品　嶋村薫

ほか　　嶋村英之

※基礎データ　　銭貨は坂本征男、板碑は『騎西町史考古資料編２』による。

（2）写真撮影は現場は調査担当者が、その他は嶋村英之のもと整理協力員が行った。

（3）出土品の整理・図版の作成は下記の指導者の下、整理員協力員が行った。

指導者

土器類・金属・木・石製品の一部　島村範久

銭貨　坂本征男

ほか　嶋村英之

※木製品の一部は嶋村薫が実測・修正した。『騎西町史考古資料編１』掲載のものは本報告の図を優先する。

※板碑の拓本は『騎西町史考古資料編２』掲載のものを加工した。

整理協力員

秋山ノリ子　新井博子　五十嵐まさ子　石渡とみ江
石坂正幸　小川征子　小川美津子　小野田誠
小野田靖　小澤守　梶原妙子　方波見良子
加藤菊代　木下雅子　酒巻勇　塩崎順子　鈴木房子
高原真実　田口ひろみ　遠井恭子　中根聡
長谷川恵　松村順子　丸山このみ　渡辺美幸

5　本書の編集は嶋村英之が行った。

6　資料は加須市教育委員会が保管している。

7　挿図について

○縮尺は以下の通りである。

遺構　土層堆積　１／40

溝断面・井戸状遺構・土壙　１／60

遺物出土１／40・１／20

遺物　陶磁器類・木製品１／３

金属製品１／１～２（銭貨１／１）

土製品・石製品１／２～３

石器１／２～１／３　板碑類１／４

○遺構断面図の基準標高は各々に記載した。

○遺物の図ナンバーは土器類・木製品類などの製品毎に通しとした。

8　本文および表について

○（　）の数値は残存値である。

○※は不確定な推定復元値

○土層説明は土層色調／含有物の順に記載した。

略称凡例

※テフラ＝T、ローム＝L、炭化物＝C、焼土＝S、酸化鉄＝FE、黒褐色＝BB、黒色＝B、褐色＝Br

※粒子＝R、ブロック＝B

※非常に多い＝☆、多量＝◎、少量＝△、微量＝▲、万遍なく＝アンダーライン

※やや明るい＝やや明、やや暗い＝やや暗、

※非常に軟らかい＝軟度高・軟らかい＝軟質・やや軟らかい＝軟度低・硬い＝堅緻

※締まり良し＝締良・締まり悪し＝締悪・粘性強し＝粘強・粘性有り＝粘有

○煩雑な記載を避けるため下記の通り略した。

□号線区→□区。井戸状遺構→井戸・井。□号溝→□溝。□号土壙→□壙

○銭貨の文字は欠損等しているが確定できるものは明記し、不明なものは□とした。

9　騎西城は遺跡名・調査名は私市城であるがここでは武家屋敷が存在していた時期の古文書等により騎西城とする。

10　整理報告に際して下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。

（敬称略）

豊田勝彦　藤澤良祐　三浦一郎

目　次

序／例言／目次
第Ⅰ章　遺跡の立地・環境
　第１節　遺跡の位置……1
　第２節　遺跡の地理的環境……1
　第３節　遺跡の歴史的環境……2

第Ⅱ章　調査に至る経過……9

第Ⅲ章　調査概要と検出された遺構
　第１節　　KB３区 ……12
　第２節　　KB６区 ……27
　第３節　　KB９区 ……29
　第４節　　第19次……40
　第５節　　第20次……42
　第６節　　第21次……45
　第７節　　第29次……48

第Ⅳ章　出土した遺物
　第１節　土器類……51
　第２節　木製品類 ……108
　第３節　金属製品 ……112
　　（１）鉄製品 ……112
　　（２）銅製品 ……112
　　（３）銭貨 ……112
　第４節　石製品類 ……118
　　（１）石製品 ……118
　　（２）石造物 ……118
　第５節　出土遺物補遺 ……134

第Ⅴ章　まとめ
　第１節　KB３区……135
　第２節　KB６区……135
　第３節　KB９区……135
　第４節　他調査区 ……135
　第５節　遺構の変遷 ……137

引用参考文献／図版／報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置（騎西地域）……1
第２図　周辺の微地形分類と縄文･古墳時代遺跡 …3
第３図　周辺の微地形分類と城館跡……3
第４図　騎西城を取り巻く勢力図……6
第５図　各調査区の位置……8
第６図　KB６・９区周辺の調査 ……10
第７図　KB３区周辺の調査 ……11
第８図　KB３　遺構位置図 ……15
第９図　KB３遺構１ ……17
第10図　KB３遺構２（14号溝遺物出土） ……18
第11図　KB３遺構３ ……19
第12図　KB３遺構４ ……20
第13図　KB３遺構５ ……21
第14図　KB３遺構６ ……22
第15図　KB３遺構７ ……23
第16図　KB６　遺構位置図 ……27
第17図　KB６遺構 ……28
第18図　KB９　遺構位置図 ……31
第19図　KB９遺構１ ……33
第20図　KB９遺構２ ……34
第21図　KB９遺構３ ……35
第22図　KB９遺構４ ……36
第23図　KB９遺構５ ……37
第24図　第19次　遺構位置図……41
第25図　第20次　遺構位置図……43
第26図　第20次　遺構……44
第27図　第21次　遺構位置図……46
第28図　第21次　遺構……47
第29図　第29次　遺構位置図……49
第30図　第29次　遺構……50
第31図　土器類１……62
第32図　土器類２……63

第33図　土器類３……64
第34図　土器類４……65
第35図　土器類５……66
第36図　土器類６……67
第37図　土器類７……68
第38図　土器類８……69
第39図　土器類９……70
第40図　土器類10……71
第41図　土器類11……72
第42図　土器類12……73
第43図　土器類13……74
第44図　土器類14……75
第45図　土器類15……76
第46図　土器類16……77
第47図　土器類17……78
第48図　土器類18……79
第49図　土器類19……80
第50図　土器類20……81
第51図　土器類21……82
第52図　土器類22……83
第53図　土器類23……84
第54図　土器類24……85
第55図　土器類25……86
第56図　土器類26……87
第57図　土器類27……88
第58図　土器類28……89
第59図　土器類29……90
第60図　土器類30……91
第61図　土器類31……92
第62図　土器類32……93
第63図　土器類33……94
第64図　土器類34……95
第65図　土器類35……96
第66図　土器類36（土製品）……97
第67図　木製品１……110
第68図　木製品２……111
第69図　金属製品１（鉄１）……113
第70図　金属製品２（銅１）……114
第71図　金属製品３（銅２）……115
第72図　金属製品４（銭貨１）……116
第73図　石製品類１（石臼１）……119
第74図　石製品類２（石臼２ほか）……120
第75図　石製品類３（砥石１）……121
第76図　石製品類４（磨石１）……122
第77図　石製品類５（磨石２）……123
第78図　石製品類６（磨石３ほか）……124
第79図　石製品類７（板碑１）……125
第80図　石製品類８（板碑２）……126
第81図　石製品類９（板碑３）……127
第82図　石製品類10（板碑４）……128
第83図　石製品類11（板碑５ほか）……129
第84図　出土遺物補遺……134
第85図　『絵図』との対照図……136
第86図　遺跡の変遷１……138
第87図　遺跡の変遷２……139

表目次

第１表　KB３遺構一覧表１……24
第２表　KB３遺構一覧表２……25
第３表　KB３遺構一覧表３……26
第４表　KB６遺構一覧表……28
第５表　KB９遺構一覧表１……38
第６表　KB９遺構一覧表２……39
第７表　第19次遺構一覧表……41
第８表　第20次遺構一覧表……43
第９表　第21次遺構一覧表……47
第10表　第29次遺構一覧表……50
第11表　土器類一覧表１……98
第12表　土器類一覧表２……99
第13表　土器類一覧表３……100
第14表　土器類一覧表４……101
第15表　土器類一覧表５……102
第16表　土器類一覧表６……103
第17表　土器類一覧表７……104
第18表　土器類一覧表８……105
第19表　土器類一覧表９……106
第20表　土器類一覧表10……107

第21表　木製品一覧表 ……109
第22表　金属製品一覧表 ……117
第23表　石製品類一覧表１ ……130
第24表　石製品類一覧表２ ……131
第25表　石製品類一覧表３ ……132
第26表　石製品類一覧表４ ……133
第27表　出土遺物補遺一覧表 ……134

図版目次

図版１　遺構１　KB３－１
図版２　遺構２　KB３－２
図版３　遺構３　KB３－３
図版４　遺構４　KB３－４
図版５　遺構５　KB３－５
図版６　遺構６　KB３－６
図版７　遺構７　KB３－７
図版８　遺構８　KB３－８
図版９　遺構９　KB３－９
図版10　遺構10　KB３－10
図版11　遺構11　KB３－11
図版12　遺構12　KB３－12
図版13　遺構13　KB３－13
図版14　遺構14　KB３－14
図版15　遺構15　KB３－15
図版16　遺構16　KB３－16
図版17　遺構17　KB６－１
図版18　遺構18　KB６－２
図版19　遺構19　KB９－１
図版20　遺構20　KB９－２
図版21　遺構21　KB９－３
図版22　遺構22　KB９－４
図版23　遺構23　KB９－５
図版24　遺構24　KB９－６
図版25　遺構25　KB９－７
図版26　遺構26　KB９－８
図版27　遺構27　KB９－９
図版28　遺構28　第19次
図版29　遺構29　第20次
図版30　遺構30　第21次
図版31　遺構31　第29次
図版32　土器類１
図版33　土器類２
図版34　土器類３
図版35　土器類４
図版36　木製品
図版37　金属製品
図版38　石製品類１
図版39　石製品類２
図版40　石製品類３
図版41　石製品類４
図版42　動物遺存体

第Ⅰ章　遺跡の立地・環境

第１節　遺跡の位置（第１図－遺跡の位置）

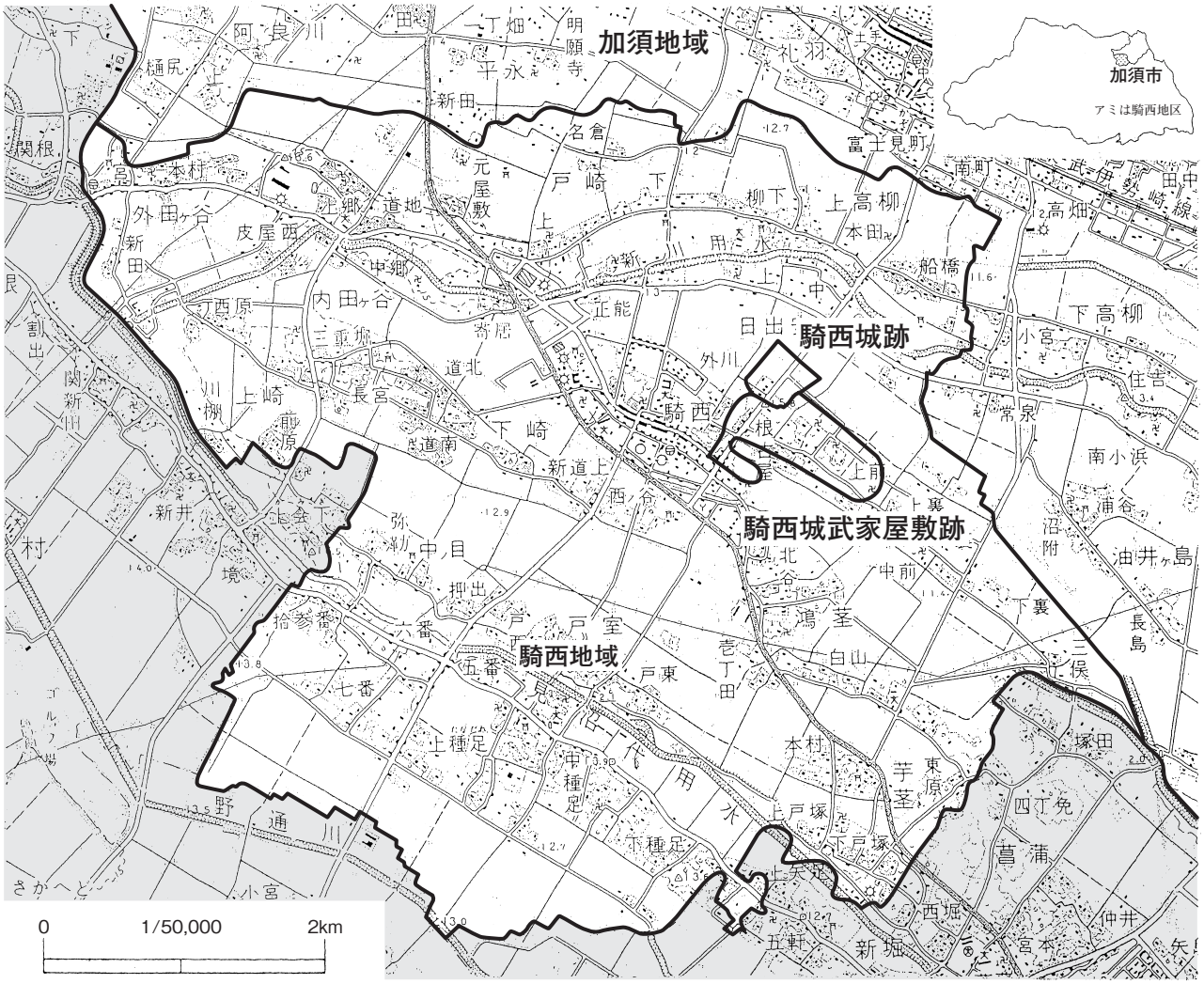
加須市騎西地域は埼玉県北東部に位置し騎西城武家屋敷跡は町のほぼ中央にある。行政上では加須市根古屋字道上・中宿・前・道下、牛重上前・中前・上裏その他に所在する。戦国から江戸時代の城跡で、昭和56年度実施の騎西町遺跡詳細分布調査や明治９年の「地引番号全図根古屋」、江戸時代に描かれた「武州騎西之絵図」などにより城の形状や武家屋敷の範囲が明らかである。遺跡の範囲は騎西生涯学習センターから南東へ1.2km、南西へ約0.5kmである。

第２節　遺跡の地理的環境

（第２図）

大宮台地の北東から南東方向には肥沃な水田地帯である加須低地・中川低地が広がっている。加須低地には、騎西島状台地群をはじめとして笠原支台より断続的に続く埋没ローム台地がいくつか存在し、造盆地運動によって台地や低地が沈降した。その上に利根川などの氾濫による河成堆積物が堆積し、自然堤防・埋没ローム台地・後背湿地・沼沢地が形成されたものである。

現在騎西地域内で確認されている原始から近世までの遺跡は埋没ローム台地と自然堤防上に立地していると言われてきた。しかし発掘調査では、旧石器時代から奈良・平安時代の遺跡は自然堤防とされている見沼代用水両岸に位置しいずれもローム台地上に展開している。



第１図　遺跡の位置（騎西地域）

第３節　遺跡の歴史的環境

（第２図及び第３図）

※（遺跡名）は騎西町史考古資料編１に準じたものである。城館跡名では不適切となるため小字による遺跡名を付け直したものである。

１　旧石器時代

約２万年前以降、ナイフ形石器や尖頭器が盛行した頃、萩原遺跡をはじめ（前）・（中宿）遺跡で該期の遺物が出土している。（前）遺跡では尖頭器及び剥片の集中箇所が２カ所確認されている。

細石刃石器群が出現した約１万５千年前以降では下崎中郷遺跡で北方系の削片、（道上）遺跡では同系の荒屋型彫刻器が出土している。

２　縄文時代

草創期に（中宿）遺跡で有舌尖頭器が見られるのみで土器は発見されていない。早期は修理山・小沼耕地・（前）・（道上）遺跡で撚糸文系土器、（前）遺跡では集石遺構が、（道上）遺跡で沈線文系土器、条痕文系は修理山・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で土器が出土しており、特に修理山・（中宿）遺跡では炉穴が確認された。

前期では前半花積下層・関山・黒浜式土器が小沼耕地・（前）・（道上）で出土している。後半諸磯から十三菩提式期までは前半に加え萩原遺跡で諸磯式土器が、小沼耕地遺跡では県内では希少な花積下層式期の住居跡状落ち込みが検出されている。

中期前半に（道上）・萩原遺跡で五領ヶ台式・勝坂式が確認されている。後半は加曽利Ｅ式期その後半に（中宿）遺跡で柄鏡形住居・（道上）遺跡で竪穴住居が、萩原・修理山遺跡では集落が展開した。修理山遺跡では10軒の竪穴住居、萩原遺跡では数軒の住居跡と墓壙などが見つかっている。

両遺跡は後期前半堀の内期までは集落を継続し少数ながら住居跡や貯蔵穴が検出された。後半になると再び遺物のみの出土となるが萩原・中郷・（前）・（中宿）・（道上）遺跡で加曽利Ｂ～後期安行式が出土している。晩期では安行３a～３d式が修理山・町並・（道上）・（前）・（中宿）遺跡で出土している。

３　弥生時代

騎西地域内ではこのころの遺跡は少なく、中期では小沼耕地（※町史では上種足三番）遺跡で磨製石鏃が、（道上）遺跡では後期の壺や器台の破片が出土しており、中種足五番遺跡の絵画土器や小沼耕地遺跡の土器片は弥生時代終末期から古墳時代初頭のものである。

４　古墳時代

古墳跡は小沼耕地遺跡※で６～７世紀の前方後円墳１基・円墳５基が確認されている。また、（内田ヶ谷中郷）遺跡で勾玉や埴輪片、（前）遺跡の埴輪片や隣接する（中宿）遺跡の切子玉・さらにその周辺で出土したと伝えられる石棺部材（町内の玉敷神社所在）等からこれらの地域にも古墳が所在していたものと考えられる。また、集落は前期の住居跡が小沼耕地遺跡・（中宿）遺跡、中期の住居跡が萩原遺跡、後期の住居跡は萩原遺跡・（道上）遺跡・（中宿）遺跡で確認されており、なかでも萩原遺跡は地域内屈指の集落遺跡である。そのほかにも古墳時代の土師器が中種足五番遺跡・観音堂遺跡から出土し集落の所在を予想させる。他に古墳時代前期の方形周溝墓が修理山遺跡・小沼耕地遺跡で確認されている。

以上のように現在遺跡が確認されている台地には古墳及び集落がそれぞれ所在するものと考えられる。

※町史の上種足三番遺跡を含む

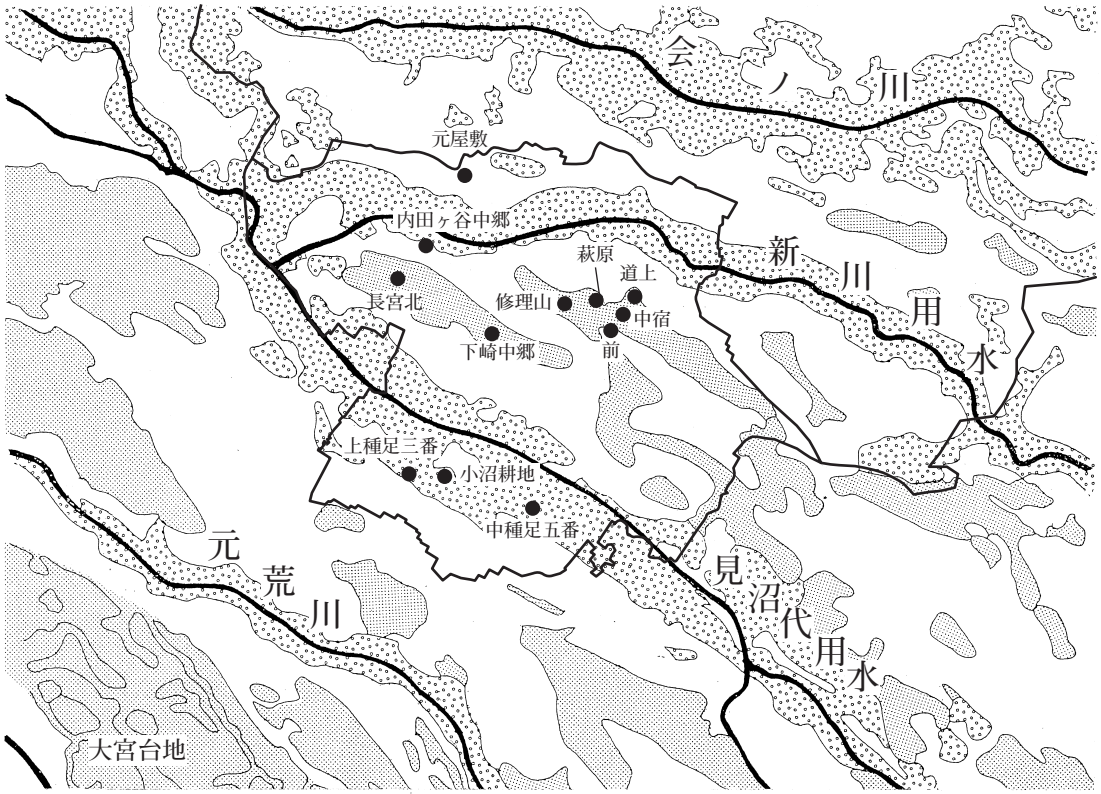
５　奈良・平安時代

住居跡が確認されているのは（道上）遺跡・上種足三番遺跡で８世紀代のものである。下崎中郷遺跡では湖西産とみられる須恵器が、観音堂・中種足五番遺跡で須恵器や土師器が、（中宿）遺跡では小金銅仏が出土している。元屋敷遺跡では墨書土器や瓦が出土している。

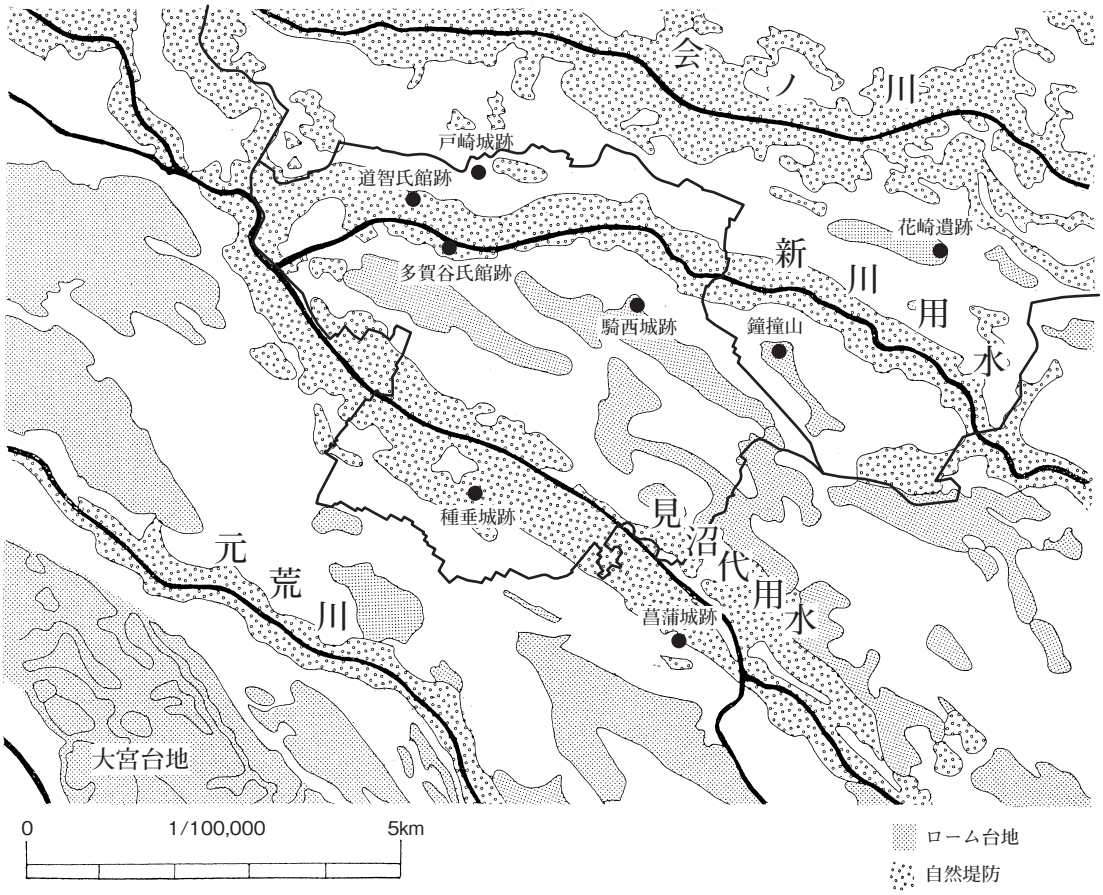
６　中近世

騎西地域内には平安末から鎌倉時代にかけて武蔵武士野与党の道智氏・多賀谷氏が館を構えたといわれる。

多賀谷氏館は内田ヶ谷の大福寺を中心にあったものと思われ、建久元年（1190）多加谷小三郎が源頼朝の上洛の随兵を、建長３年（1251）多賀谷弥五郎



第２図　周辺の微地形分類と縄文・古墳時代遺跡



第３図　周辺の微地形分類と城館跡

重茂が鎌倉由比ヶ浜での御弓始の射手を務めている『吾妻鏡』。永享年間（1429－41）初め頃に結城に移ったといわれる多賀谷光義は敬神の念厚く郭内に稲荷明神を勧請した『多賀谷旧記』。発掘調査では館跡の東端で、溝から12～14世紀の同安龍泉窯系青磁碗・常滑広口壺が出土しており、ほぼ中央大福寺の北で、土壙から12～13世紀の同安龍泉窯系青磁とともに刀身先端や鉄鏃が出土している。

道智氏館は、道地の成就院周辺で建久元年（1190）道智次郎が源頼朝の上洛の随兵を、承久３年（1221）の宇治橋の合戦では道智三郎太郎が討ち死にしている『吾妻鏡』。発掘調査では館跡のほぼ中央で13～14世紀の龍泉窯系青磁が、西端で12～13世紀の龍泉窯系青磁などが出土している

種垂城跡は、上種足種垂城址公園から東へ広がり百石・シロンチ（城の内？）等の地名が残る。雲祥寺縁起には騎西城主小田顕家が養子の助三郎（忍城主成田親泰の子）に家督を譲り種垂村に隠居したとある。発掘調査では、溝・井戸・土壙・火葬跡を検出し、漆椀・小柄や13～17世紀の陶磁器類が出土している。

隣接する**旧三番遺跡**（現小沼耕地遺跡）では、溝・土壙・井戸・集石墓が検出されており、12世紀の白磁水注・13世紀の龍泉窯系青磁・常滑甕・在地の蔵骨器・篭状木製品が出土している。

小沼耕地遺跡では県埋蔵文化財調査事業団の調査で、掘立柱建物跡・基壇状遺構・溝・井戸などが検出され、12～13世紀を主体とする陶磁器類が出土している。種足は、中世前半の弘安10年頃（1287）伊賀光清が所領としており、また応永24年（1417）に日英上人が種垂の講演御堂（布教道場）等の講演職を弟子に任せている。三番・小沼耕地遺跡の成果はそれらに関わるものとも思われる。

南方の**中種足五番遺跡**では12～13世紀の龍泉窯系の青磁や15～16世紀の染付、13～17世紀の古瀬戸・常滑・在地の陶磁器類が出土している。

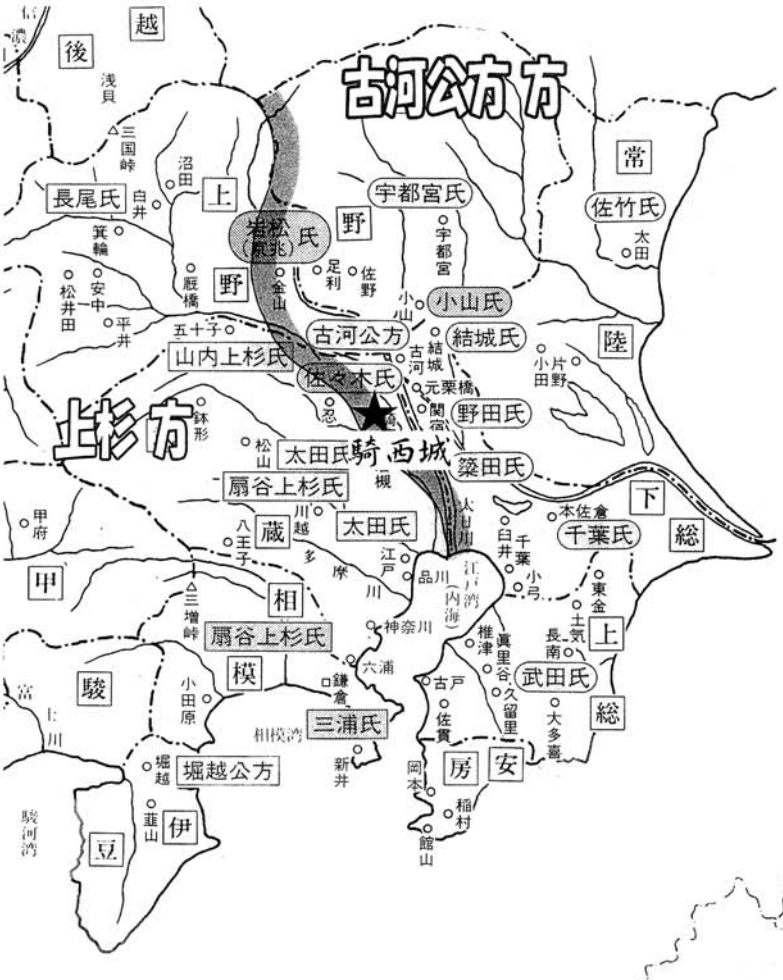
戸崎城跡は『新編武蔵風土記稿』に戸崎右馬允居跡なりとある。また、『吾妻鏡』に戸崎右馬允国延が寿永３年（1184）源頼朝の御前の射手となるとある。発掘調査では土塁跡や13世紀の鉢や17・18世紀の陶磁器類が出土している。

騎西城（騎西城周辺年表参照）は文献や江戸初期の『武州騎西之絵図』など城の絵図が遺る。遺構は現在土塁跡が僅かに残るだけであるが、昭和55年から80次を超えて発掘調査されており、主に土地区画整理に伴い城郭部や武家屋敷跡西部の成果が顕著である。これまでに溝400条・土壙1600基・井戸状遺構200基・障子堀５ヶ所・橋跡４ヶ所が確認されている。遺物は戦場及び生活の場として武器武具・生活・生業・信仰・流通に関する多様なものが出土している。特に水位が高いことから木製品の遺存がよい。武器武具では、兜・前立・刀装品・鉄鏃・火縄挟み・弾丸・馬甲・轡・四方手・野沓・腰刀・薙鎌など、生活品では、下駄・鏡・竪杵・鉄鍋・桶・漆椀・杓子・折敷・火打金・天目茶碗・湯釜・将棋の駒など、生業では、砥石・紡錘車・鋏・溶解炉・鋳型・坩堝・金粒付着土器など、信仰では護符・呪符・舟形・位牌・銅鋺・数珠など、流通では金・袋入り銭貨・荷札などがある。年代を比定できる陶磁器は12世紀から19世紀にかけてのもので、主体は16～17世紀前半である。瀬戸美濃をはじめ中国染付・唐津・志戸呂・初山・在地産かわらけ・ほうろく・擂鉢などがある。

このほかに、日出安の保寧寺中世墓址では、大量の川原石や板碑、12～14世紀の常滑の甕・壺、13世紀の布目瓦が出土している。墓域の成立は中世前半に遡るものか。また、下崎の道南遺跡で工事の際1978枚の北宋銭が出土している。

騎西城周辺年表

康正元年（1455）	足利成氏、崎西郡（騎西城）に集結する上杉勢（上杉・庁鼻和など）を攻略する
文正元年（1466）	足利成氏、南多賀谷（田ヶ谷）と北根原（鴻巣市）で上杉勢と合戦に及ぶ
応仁元年（1467）	★応仁の乱
文明３年（1471）	上杉方に対峙する足利成氏の戦略配置に私市（騎西）の佐々木氏あり
文亀２年（1502）	騎西城主小田顕家、上会下（鴻巣市）・雲祥寺を復興。忍城（行田市）主成田親泰の子助三郎家時を娘婿とし騎西城を譲り、自らは種足村に隠居する
天文８年（1539）	騎西城主小田顕家没、雲祥寺に葬られる
天文12年（1543）	★鉄砲伝来
永禄３年（1560）	長尾景虎（上杉謙信）関東の北条方諸城を攻略。騎西城主小田助三郎、兄の忍城主成田長泰と共に景虎の小田原攻めに参加する
永禄４年（1561）	長泰、鶴岡八幡宮で上杉政虎（謙信）に辱めを受け、北条方となる。助三郎も同様
永禄６年（1563）	北条氏康・武田信玄連合軍が松山城（吉見町）を攻略。報復に上杉輝虎（謙信）、騎西城を攻略
永禄12年（1569）	上杉と北条の講和成立（越相同盟）。上杉方は武蔵北部を支配
天正２年（1574）	上杉謙信、羽生・関宿城を救援。騎西・古河・栗橋・館林・菖蒲・岩槻城を焼き払う
天正３年（1575）	小田大炊頭、古河公方への年頭の挨拶を行う
天正４年（1576）	騎西城主成田泰喬、家臣に知行を行う
天正６年（1578）	小田大炊頭、足利義氏に年頭の挨拶。謙信没
天正18年（1590）	★徳川家康、関東へ入国。松平康重に騎西城２万石を与える
天正19年（1591）	松平康重大英寺を開基、日出安・保寧寺に田畑１町歩を寄進する
慶長元年（1596）	康重、朝鮮出兵のため騎西領民を召し連れる。根古屋・金剛院、日出安から移転する
慶長４年（1599）	松平康重の奥方、城内にて死去、大英寺に葬る
慶長５年（1600）	★関ヶ原の戦い
慶長７年（1602）	大久保忠常、騎西城２万石を拝領する
慶長８年（1603）	★徳川家康、江戸に幕府を開く
慶長11年（1606）	騎西藩の家臣、領内（正能村）を検地する
慶長16年（1611）	忠常病死。子の忠職、父の遺領騎西城２万石を拝領する
慶長19年（1614）	大久保忠隣改易となり小田原・羽生城を没収、騎西城主忠職は閉門に処せられる
寛永４年（1627）	大久保忠職、久伊豆大明神に社領を寄進する
寛永９年（1632）	騎西城廃され、代官所置かれる



享徳の乱初期の関東
（1454 ～）

氏康 × 謙信の頃の関東
（永禄・天正年間）

『古河公方展』古河歴史博物館
『中世・下町再発見』葛飾郷土と天文の博物館
掲載の図を改変

第４図　騎西城を取り巻く勢力図

騎西城跡周辺の歴史的経過（年表・第４図参照）

当遺跡では濃密ではないが中世を通して遺物が出土している。また12世紀代の常滑甕、舶載白磁、渥美製品、古瀬戸陶器等が見られる。騎西城以前にも集落・館等が存在していたようである。

【享徳の乱】

文献では騎西城は、康正元年（1455）に初出し寛永９年（1632）年廃城となり姿を消す。享徳の乱では、関東公方足利成氏が古河に移り、関東管領上杉氏と対峙する。その争いの中に騎西郡を舞台として争う場面がある。これが騎西城とされる。残念ながら現在のところ当該期に相当する遺構は確認されていない。だがこの時期に騎西城の前線基地としての重要性は格段に高まり、戦闘の拠点としての城の整備がされたものと思われる。関東管領家臣の太田道灌が岩付城・河越城・江戸城の防衛ラインを張ったとき騎西城はすでに古河方の足場として機能していたのではないだろうか。

【永禄・天正期の軍事的緊張】

また、永禄から天正年間にかけての後北条氏対上杉謙信の覇権争いにおいても境の城であった。騎西城は何度となく厳しい立場に追い込まれている。特に謙信が関東の足掛かりとした羽生城を間近にしており、２度の戦火を被っている。

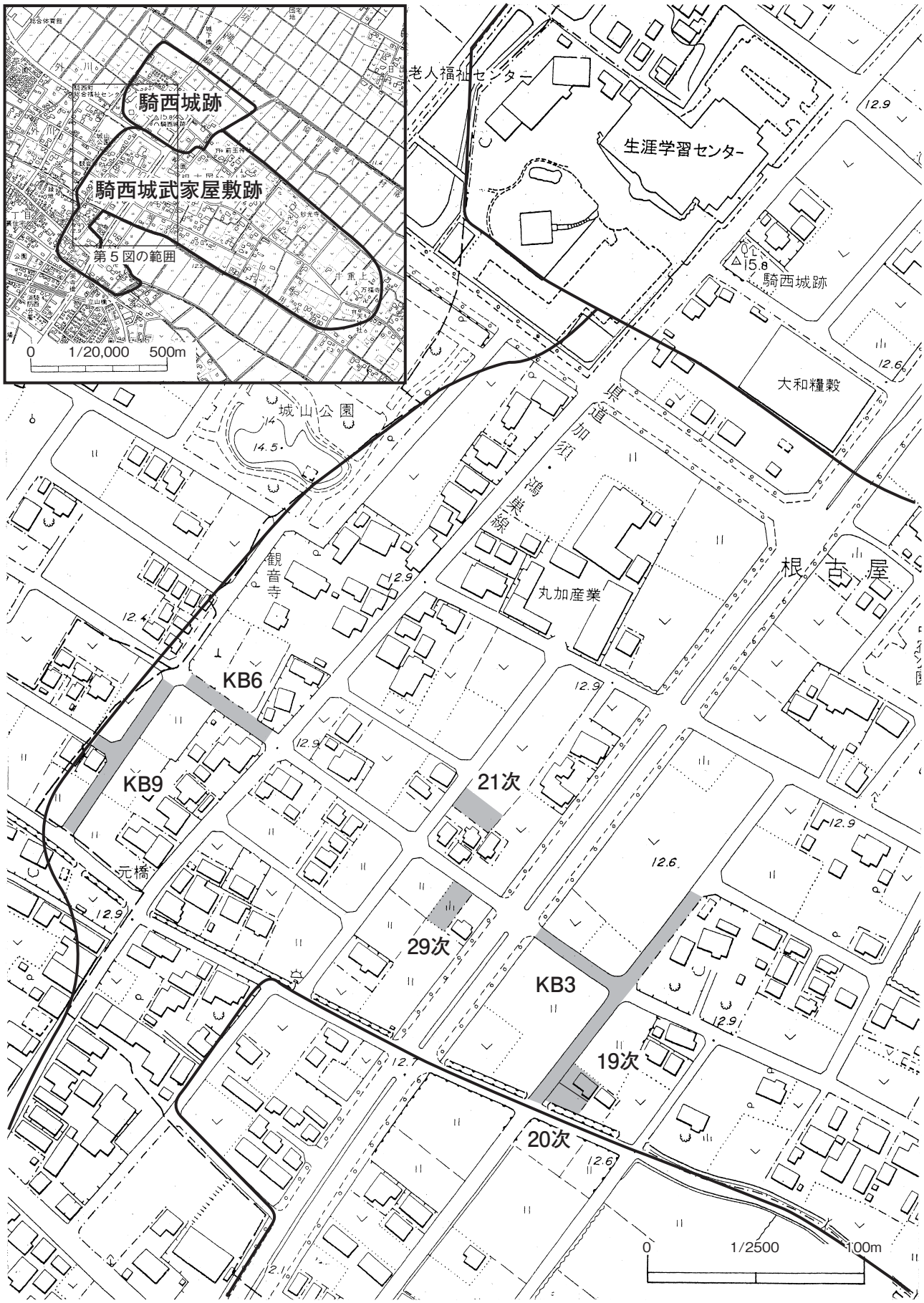
文献では、永禄６年、北条氏康・武田信玄が松山城を包囲したが、その救援に間に合わなかった謙信は攻める方向を転じ騎西城を陥落したとされる。その後、謙信は武田信玄との敵対関係から後北条氏との和睦（越相同盟）を成し、しばし平安であった。しかし北条氏康没後、甲相同盟の復活により再び北条・上杉の合戦が再開された。天正２年には謙信が羽生・関宿城援護のため出陣し、古河・栗橋・菖蒲・岩槻城とともに騎西城を焼き討ちにしている。

当該期の遺物・遺構は豊富で、城郭部周辺の障子堀（KB15区・私13次）から炭化物・遺物が多量に出土している。これらはこの頃の戦火に伴う戦後処理のものと思われる。

【秀吉の小田原攻めと家康の関東入封】

豊臣秀吉が小田原城を攻めたとき、忍城も石田三成に水攻めを受けている。騎西城も備えとして城の拡張・改良を行なったものと思われる。特に城郭部を巡る障子堀を二重にしたり、堀幅を広くしたのはこの時期の可能性がある。

その後家康が関東に入り、騎西城には松平康重、大久保忠常・忠職が藩主となっている。その際に城郭部の縮小や城下の再編成を行なったものと思われる。実際『武州騎西之絵図』に載る御蔵屋舗には外側に障子堀を備え、戦乱時は城郭部であったことを物語っている。


騎西城跡
騎西城武家屋敷跡
第５図の範囲
0
1/20,000
500m
老人福祉センター
生涯学習センター
騎西城跡
大和糧穀
城山公園
県道
加須・鴻巣線
観音寺
丸加産業
根古屋
KB6
KB9
21次
元橋
29次
KB3
19次
20次
0
1/2500
100m

第５図　各調査区の位置

第Ⅱ章　調査に至る経過

旧騎西町は首都圏50km圏内に位置し、急激な人口の増加に伴う開発が見込まれていた。それに対し計画的な都市整備の一環として大字根古屋及び外川において土地区画整理事業が計画されていた。

町教育委員会では昭和56年度に実施した町内遺跡群分布調査によって町内に15ヶ所の遺跡が所在することを確認しており、とくに区画整理対象区域に所在する騎西城については小田原市に所蔵されていた『武州騎西之絵図』と対照すると南側に江戸初期に武家屋敷が広がっていたことが明らかとなっている。さらに昭和54年に実施した騎西城跡の城郭部の発掘調査では、和鏡や武具など城の存在を実証しその内容を具体的に明らかにしたものであった。僅かに残る土塁や水田と畑地に見られる郭の形など遺存状態は良く、地下に埋蔵される遺構は特に期待されるものであった。

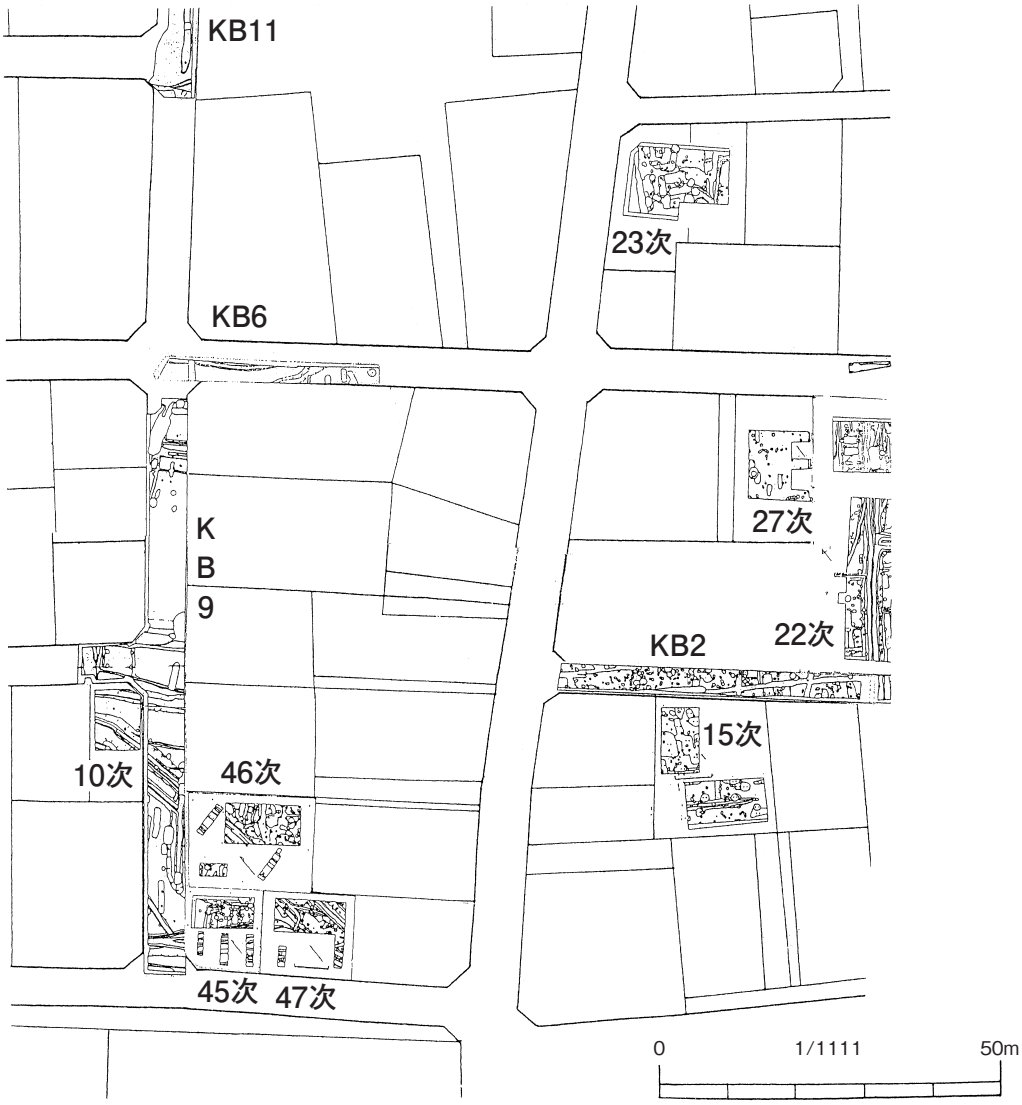
しかしながら、長年の懸案であった根古屋・外川地区土地区画整理事業は町の重要施策で計画の中止及び変更は困難な状況であった。

そこで町教育委員会では町部局と協議を重ねた結果、区画整理施工に先立ち破壊される道路分について順次発掘調査を実施することとした。また、区画整理により発生する保留地についても町が原因者として発掘調査をすることとした。

文化財保護法に基づき騎西町から埋蔵文化財発掘通知、騎西町教育委員会から埋蔵文化財発掘調査通知を文化庁長官に提出した。下表参照

調査は昭和58年２月９日（私２次）から開始し、平成７年（私武48次）までの13年に亘るものであった。今回の報告は、調査実施区域の南側を主とするもので調査名ではKB３・６・９区、私武19・20・21・29次である。

調査名	所在地（大字根古屋）	文化庁通知番号	
KB３区	字前76.78.109他	S60.5.24　60委保記第２－761号	道路
KB６区	字前66他	同　　上	道路
KB９区	字前62－2.63－１他	同　　上	道路
私武19次	仮換地48街区10－１画地	H2.10.22　２委保記第５－3478号	保留地（住宅）
私武20次	仮換地48街区10－２画地	H2.10.22　２委保記第５－3477号	保留地（住宅）
私武21次	仮換地35街区８画地	H3.　4.3　２委保記第５－394号	保留地（住宅）
私武29次	仮換地38街区３－２画地	H4.　4.8　４委保記第５－849号	保留地（住宅）



第６図　KB６・９区周辺の調査

KB９区　調査風景

第７図　KB３区周辺の調査

KB３　２号溝　調査風景

第Ⅲ章　調査概要と検出された遺構

第１節　KB３区

（１）　調査概要

調査担当　　島村範久　嶋村英之

調査期間　　昭和59年12月３日～
　　昭和60年３月８日

調査面積　　840㎡

調査の経過

KB１区の東に位置する調査区をKB３区とした。区画整理道路名の「６－43・６－44・６－40号線」を用い細分区名とした。６－○○は幅６ｍの道路を意味する。掘り下げは、確認面まで浅いが迅速化のため、重機により行った。遺構確認面はローム層とした。調査は６－43・６－44・６－40区の順に一部並行して進めた。６－40区の溝密集区はベルトを設定し土層堆積・重複関係を慎重に確認しながら進めた。方位北に合わせ10m方眼にグリット設定の杭を打ち測量の基準とした。遺構検出及び掘り下げの際湧水が支障となるため、必要に応じ側溝を掘り下げポンプにより排水した。遺構の図化は調査区全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文時代遺構検出のため精査を行った。

その際、黒曜石の尖頭器等の製品・フレイク・チップの分布が確認された。グリット杭設置及び基準杭の標高は測量業者に委託した。

周辺の調査（第７図）

東方に第６・19・20・37次、北方にKB７区、西方にKB１・５区、北西に第39次が隣接する。

連続する遺構は１・２号溝はそれぞれKB１区の９a号溝・10a号溝に連続する。３号溝は第20次の１・２号溝に、12号溝が39次第２トレンチの１号溝に対応するか。

ほかにKB１区では作業場的な竪穴・墓壙、39次では円形土壙群、第19・20次では黒曜石の製品等の集中出土、第37次では鋳物関連遺物が確認されている。

（２）遺構と遺物

【溝】

溝は23まで振ったがab分割や欠番などにより実数は27条を数える。大規模なものは６－43区全面で東西に、６－40区で特に南側重複して縦横に確認されている。小規模なものは６－44区にみられる。

１号溝　６－43線区にあり、東西方向にやや湾曲して走りa·bに分割する。いずれも幅１ｍ弱で深さ１a溝は44cm、１b溝は88cmである。１b溝はKB１区の９a溝とつながる。１b溝が１a溝より古い。井戸より古い。

出土遺物は常滑の片口鉢やかわらけ、ほうろく（土－１～６）がある。

２号溝　１号溝の北に並行して走りab分割する。幅は２a溝276cm・２b溝は160cm（残存）で、深さは順に120cm（残存）と76cm（残存）である。４号溝につながる。出土遺物は多く多様で年代の幅がある。２a溝は１a・２b・５溝より新しい。

出土遺物は、土器類は多量で（土－７～98)、瀬戸美濃の天目茶碗・菊花皿（35）・擂鉢・双耳壺、唐津皿（59)、志戸呂擂鉢、肥前磁器碗である。ほうろく（土－200）は流れ込み。菊皿は正位で出土。馬の歯４本まとまる。木製品では曲物（木－９）は出土時良好な遺存状態であった（口絵１)。桶の側板・漆椀（皮膜のみ）・桶のタガ？・鞴の羽口（土－643）がある。金属製品では、当遺跡では類例を見ない曲物状銅製品（金－10）・煙管雁首（金－16）・銭貨（金－45）がある。他に搗臼片（石－１）・砥石・磨石・火打石がある。

３号溝　６－44区南端にあり東西方向に走りab分割する。幅は３a溝が150cm・３b溝は100cm(残存)である。３b溝は３a溝より古い。

４号溝　６－40区南端にありabc分割する。現道により未調査区であった区域をローム面まで掘り下げ、２溝とつながることを確認した。（６－40区南端)。南北方向に走行し５ｍほどで東に屈曲する。北へ延びる４溝は４c溝とする。幅は４a溝は235cm４b溝は136cm（残存）である。

出土遺物は土器類は常滑甕や初山天目、在地片口鉢がある。（土－99～114)

６号溝　６－40区南端にあり４溝と並行する。12溝より北は行方不明。12溝より古い。幅は140cm。
漳州皿、焙烙（土－115～117）出土。

12号溝　６－40区南にあり東西方向に弧状に走行する。幅は274cmで４溝と直行する。４・６・16b溝より新しい。西の走行先は不明である。

出土遺物は瀬美丸皿、かわらけ（土－122～132）や鞴の羽口（土－644）、銅製品では小柄が３点（金－29～32）ある。

14号溝　６－40区北にあり、幅160cmである。箱堀。北側で一段浅くなる。確認面で板碑９点（石－83～92）がほぼ平坦に出土した（第11図参照）。石－85は完形で上面を向き、他は下向きで石－86は２分断している。石－83・83はほぼ完形である。

出土遺物は瓶子？や常滑片口鉢、かわらけ、土鍋などの土器類片（138～155）や五輪等（石－110）がある。比較的古めの15世紀代以前のものである。（第10図参照）

16号溝　６－40区南にあり南北方向に走行する。ab分割する。16a溝は幅120cm（残存）・深さ85cm。箱堀。14溝とは延長線上にあり、あるいは関連するものか。16b溝は幅104cm（残存）・深さ50cm。浅く15溝と同様である。箱堀。16b溝は16aより古い。

出土遺物は16a溝では古瀬戸の卸皿・縁釉皿、かわらけ、土鍋（土－160～163）が出土している。

17号溝　６－40区南にあり東西方向に走行する。斜方向でやや異質。ab分割する。幅は17a溝は幅55cm（残存）、17b溝は幅60cm（残存）。18溝と並行し、18溝より新しく19溝より古い。

18号溝　６－40区南にあり、17溝に並行する。幅140cm（残存）。17a溝より古い。

19号溝　６－40区北にあり南北方向に走行。幅60cmで深さ122cmを計る。

出土遺物は瀬戸美濃の鉄絵皿（土－165）17世紀、土鍋（土－170～172）がある。

20号溝　銭貨（金－46～48）が出土している。

21号溝　６－40区北にあり東西方向に走行する。幅268cm・深さ100cmである。

14・16溝は同一のものか。

【井戸状遺構】

総数20基を数える。各区に万遍なく分布する。全て素堀で８・10号井戸は径170cmを超える大きなものである。

３号井戸　６－40区東にあり、１b溝より新しい。直径96cm・深さ132cmを計る。

４号井戸　６－43区西にあり、直径70cm・深さ245cmを計る。寛永通宝（古）（金－49）が出土。

７号井戸　６－44区南にあり、直径82cm・深さ105cmを計る。ほうろく（土－177・178）・全面煤付着板碑（石－95）が出土。

８号井戸　６－44区南にあり、直径178cm・深さ225cmと大規模である。磨石片（石－53）・礫が出土。

10号井戸　６－40区南にあり、直径170cm・深さ180cmと大規模である。桶の底板（木－７）が出土。

11号井戸　６－44区北にあり、直径110cm・深さ156cmを計る。鉄製の蓋（金－１）が出土。

【土壙】

48まで振ったがab分割や欠番などにより総数47基を数える。

10号土壙　６－43区東に位置し、２号溝と縦位に重複する。平面長方形で430×120cm・深さ64cmであり底面の標高は10.40mで深い。

13号土壙　６－44区北側に位置し、平面円形で72×70cmで深さ84cmと深い。

19号土壙　煙硝鉢（土－189）が出土。

20a号土壙　鋳型（土－646）が出土。

22号土壙　６－44区北端にあり、１溝より新しい。平面隅丸長方形で128×80cm・深さ56cmと深い。覆土下層に焼土・カーボン粒子を含む。六器と見られる銅鋺（金－28）や骨が出土している。

33号土壙　６－44区北端にあり、平面不整長方形で98×62cm・深さ48cmである。歯・寛永通宝４点（金－50～53）やかわらけ（土－193。他に行方不明のものあり＝立ち上がり浅い）・碁石（石－14）が出土し、江戸初期の墓壙である。

37号土壙　６－44区北側にあり、平面不整円形で200×128cm・深さ112cmである。断面がオーバーハングするものである。

38号土壙　６－44区南にあり、平面長方形で276×

90cm・深さ56cm である。この土壙周辺は遺構が密集し28・39・40壙、９・10・13溝・14井が重複する

46号土壙　６－40区南にあり、平面長方形で　350×264cm（残存）・深さ124cm である。

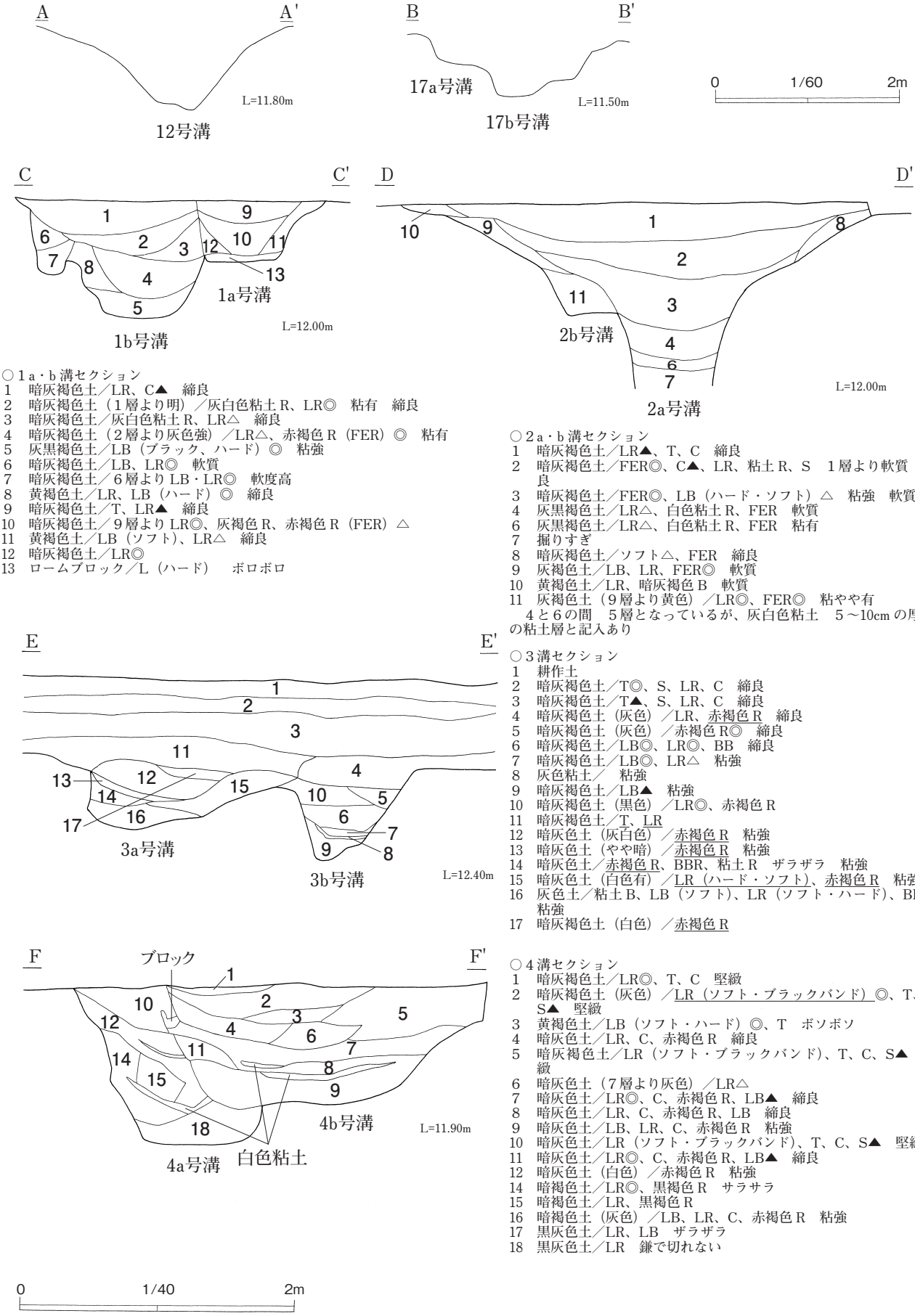
かわらけ・下駄（木－２）・桶側板・底板（木－３・６）巻貝・板碑片（石－97）が出土している。

遺構外出土遺物

スラグは１・２・10溝の他に６－43区で49g、６－44区で157g、６－43区で400g 出土している。

KB３　６－40区　調査風景

第８図　KB３　遺構位置図



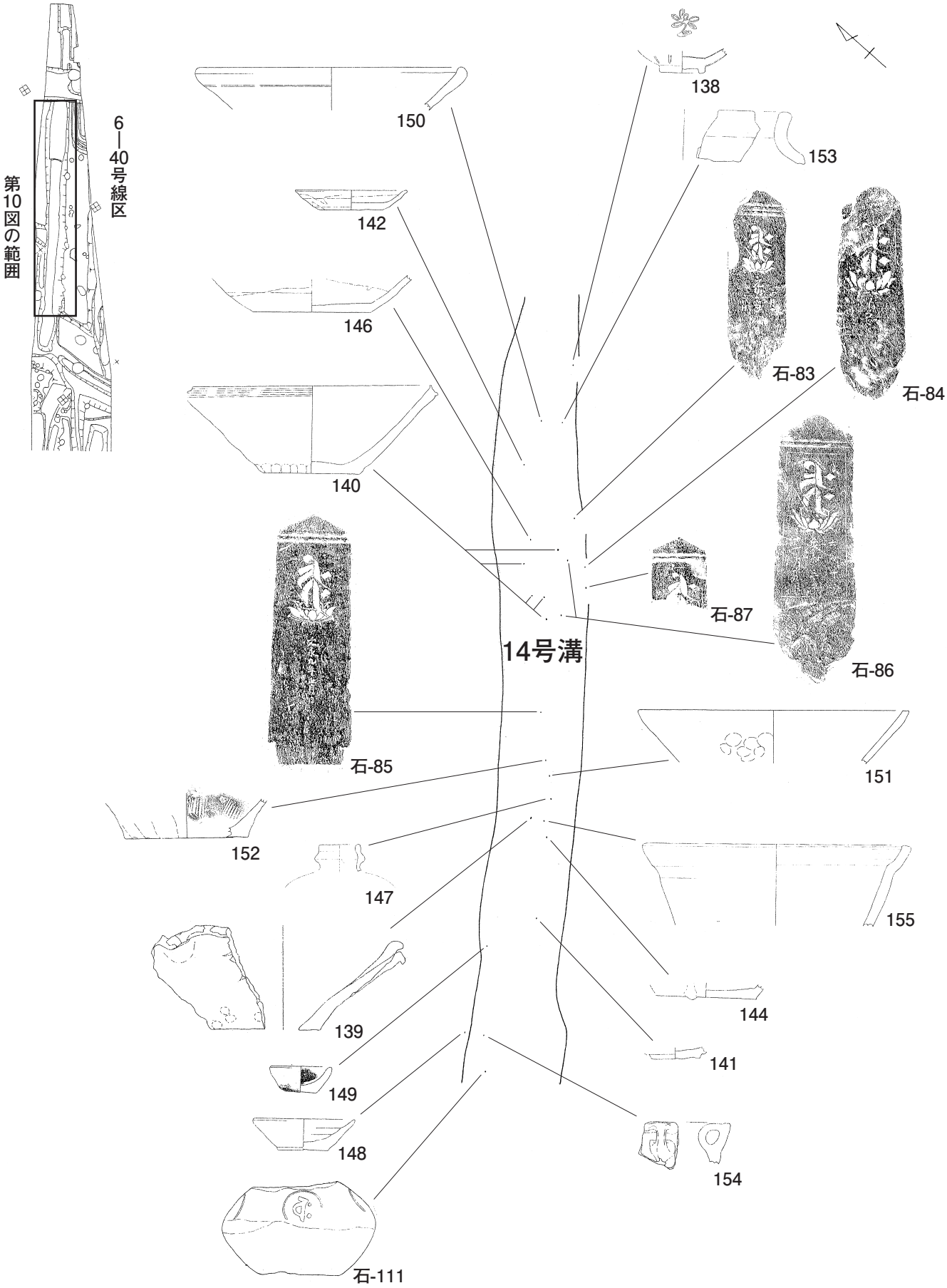
○１a・b 溝セクション
1　暗灰褐色土／LR、C▲　締良
2　暗灰褐色土（１層より明）／灰白色粘土 R、LR◎　粘有　締良
3　暗灰褐色土／灰白色粘土 R、LR△　締良
4　暗灰褐色土（２層より灰色強）／LR△、赤褐色 R（FER）◎　粘有
5　灰黒褐色土／LB（ブラック、ハード）◎　粘強
6　暗灰褐色土／LB、LR◎　軟質
7　暗灰褐色土／６層より LB・LR◎　軟度高
8　黄褐色土／LR、LB（ハード）◎　締良
9　暗灰褐色土／T、LR▲　締良
10　暗灰褐色土／９層より LR◎、灰褐色 R、赤褐色 R（FER）△
11　黄褐色土／LB（ソフト）、LR△　締良
12　暗灰褐色土／LR◎
13　ロームブロック／L（ハード）　ボロボロ

○２a・b 溝セクション
1　暗灰褐色土／LR▲、T、C　締良
2　暗灰褐色土／FER◎、C▲、LR、粘土 R、S　１層より軟質　締良
3　暗灰褐色土／FER◎、LB（ハード・ソフト）△　粘強　軟質
4　灰黒褐色土／LR△、白色粘土 R、FER　軟質
6　灰黒褐色土／LR△、白色粘土 R、FER　粘有
7　掘りすぎ
8　暗灰褐色土／ソフト△、FER　締良
9　灰褐色土／LB、LR、FER◎　軟質
10　黄褐色土／LR、暗灰褐色 B　軟質
11　灰褐色土（９層より黄色）／LR◎、FER◎　粘やや有
　４と６の間　５層となっているが、灰白色粘土　５～10cm の厚さの粘土層と記入あり

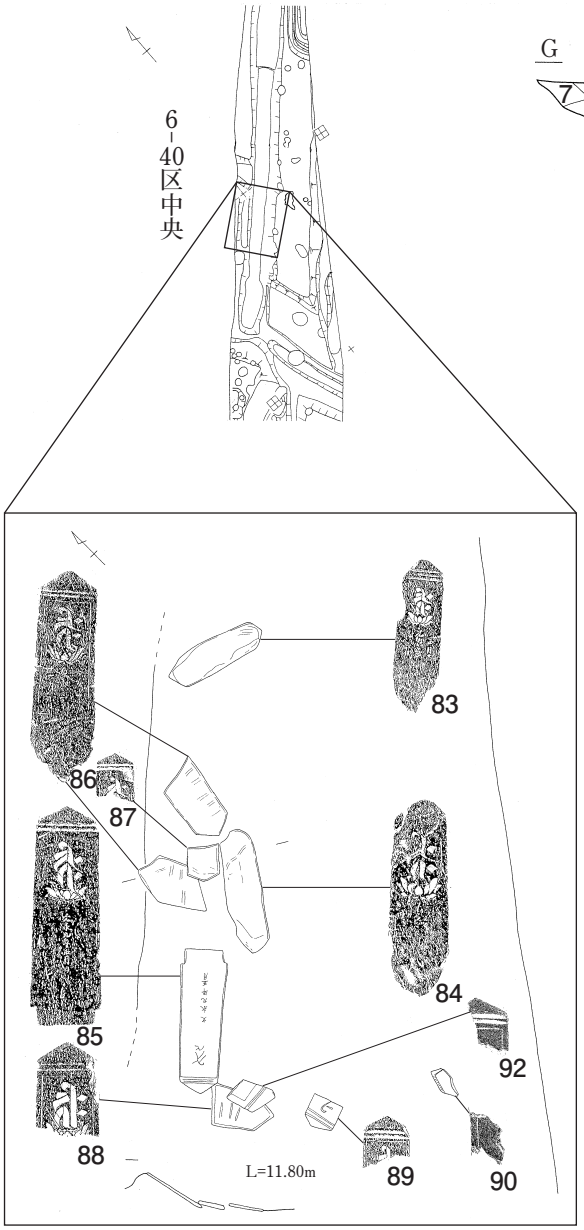
○３溝セクション
1　耕作土
2　暗灰褐色土／T◎、S、LR、C　締良
3　暗灰褐色土／T▲、S、LR、C　締良
4　暗灰褐色土（灰色）／LR、赤褐色 R　締良
5　暗灰褐色土（灰色）／赤褐色 R◎　締良
6　暗灰褐色土／LB◎、LR◎、BB　締良
7　暗灰褐色土／LB◎、LR△　粘強
8　灰色粘土／　粘強
9　暗灰褐色土／LB▲　粘強
10　暗灰褐色土（黒色）／LR◎、赤褐色 R
11　暗灰褐色土／T、LR
12　暗灰色土（灰白色）／赤褐色 R　粘強
13　暗灰色土（やや暗）／赤褐色 R　粘強
14　暗灰色土／赤褐色 R、BBR、粘土 R　ザラザラ　粘強
15　暗灰色土（白色有）／LR（ハード・ソフト）、赤褐色 R　粘強
16　灰色土／粘土 B、LB（ソフト）、LR（ソフト・ハード）、BR　粘強
17　暗灰褐色土（白色）／赤褐色 R

○４溝セクション
1　暗灰褐色土／LR◎、T、C　堅緻
2　暗灰褐色土（灰色）／LR（ソフト・ブラックバンド）◎、T、C、S▲　堅緻
3　黄褐色土／LB（ソフト・ハード）◎、T　ボソボソ
4　暗灰色土／LR、C、赤褐色 R　締良
5　暗灰褐色土／LR（ソフト・ブラックバンド）、T、C、S▲　堅緻
6　暗灰色土（７層より灰色）／LR△
7　暗灰色土／LR◎、C、赤褐色 R、LB▲　締良
8　暗灰色土／LR、C、赤褐色 R、LB　締良
9　暗灰色土／LB、LR、C、赤褐色 R　粘強
10　暗灰色土／LR（ソフト・ブラックバンド）、T、C、S▲　堅緻
11　暗灰色土／LR◎、C、赤褐色 R、LB▲　締良
12　暗灰色土（白色）／赤褐色 R　粘強
14　暗褐色土／LR◎、黒褐色 R　サラサラ
15　暗褐色土／LR、黒褐色 R
16　暗褐色土（灰色）／LB、LR、C、赤褐色 R　粘強
17　黒灰色土／LR、LB　ザラザラ
18　黒灰色土／LR　鎌で切れない

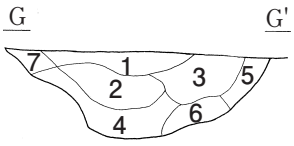
第９図　KB３遺構１



第10図　KB３遺構２（14号溝遺物出土）

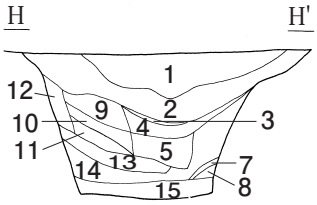


14号溝　板碑出土状況



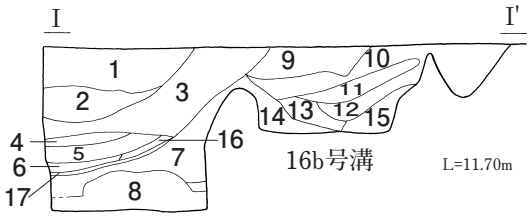
6号溝　L=11.90m

○６溝セクション
1　暗灰褐色土／LR（ソフト・ブラックバンド）、T
2　暗灰褐色土（灰色）／LR（ブラックバンド）、LR
3　暗灰褐色土／LR（ブラックバンド）、LR◎
4　暗灰褐色土（黄色）／LR
5　ローム（ソフト）の２次堆積
6　暗灰褐色土（やや暗）／LB（ソフト）、LR
7　暗灰褐色土／LR◎



14号溝　L=11.70m

○14溝セクション
1　暗灰褐色土／LR（ソフト・ブラックバンド）、赤褐色Ｒ　締良
2　暗灰褐色土／LR（ソフト◎、ブラックバンド）、赤褐色Ｒ　粘弱
3　灰白色粘土
4　暗灰褐色土（灰色）／LR、LB　粘強
5　暗灰色土／LB（ハード）、赤褐色Ｂ（酸化分）　粘強
6　暗灰褐色土／LR（ソフト◎、ハード◎、ブラックバンド）　粘弱
7　ローム（ソフト）の２次堆積
8　暗灰褐色土（暗灰色に近い）／LR
9　暗灰褐色土（やや茶色）／LB（ハード）、LR（ブラックバンド）
10　暗灰褐色土（黒色）／LB（ハード）、LR（ブラックバンド）
11　暗灰褐色土（灰色）／LR（ハード）、BBR
12　暗灰褐色土／LR（ソフト・ハード）◎、LR（ブラック）　粘弱
13　暗灰褐色土／LR、LB（ソフト・ハード）◎
14　暗灰色土／LB、LR（ハード）、BBR◎　粘強
15　掘りすぎ



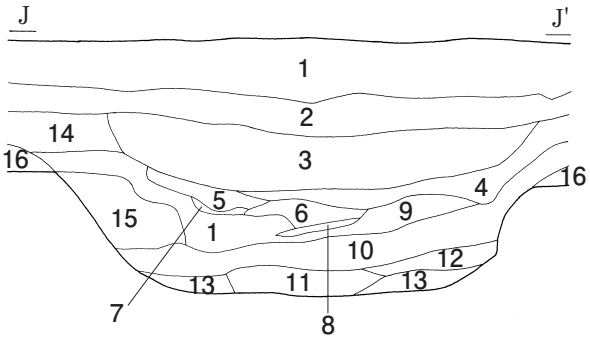
16b号溝　L=11.70m

16a号溝

○16溝セクション
1　暗灰褐色土／LR（ハード、ブラックバンド）、C▲　締良
2　暗灰褐色土／LR（ハード）、赤褐色◎　締良
3　暗灰褐色土／LR（ソフト・ハード）、C▲、赤褐色Ｒ　締良
4　灰色土／C▲、SR▲、赤褐色Ｒ▲　粘強
5　暗灰色土／C、SR▲、赤褐色Ｒ◎　ボソボソ
6　灰色粘土／白色粘土、白色Ｓ
7　暗灰色土／LR（ソフト・ハード）　締良
8　ロームブロック（ブラックバンド）
9　暗灰褐色土／LR（ソフト・ハード、LB）◎、LB（ソフト・ハード、LB）◎、CR▲、赤褐色Ｒ、SR　締良
10　暗灰褐色土／LR（ソフト・ハード、ブラックバンド）▲、赤褐色Ｒ　締良
11　ローム（ソフト）の２次堆積
12　暗灰褐色土（黒色）／LR（ソフト、ブラックバンド）、BR　締良
13　暗灰褐色土（灰色）／LR（ソフト、ブラックバンド）、LB（ブラックバンド）　締良
14　暗褐色土／LR（ソフト・ハード、ブラックバンド）、BBR、C　締良
15　暗灰褐色土／LR（ソフト・ハード、ブラックバンド）、BBR、C　締良
16　暗灰褐色土／LR　締良
17　木片、ヨシ等の茎の堆積

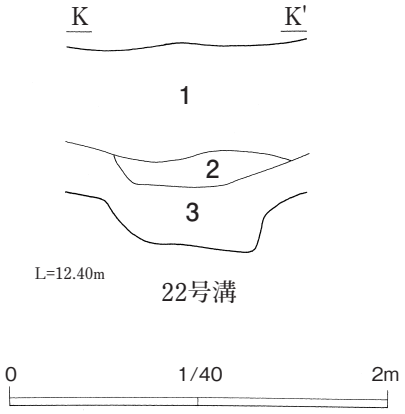
0　1/40　2m

第11図　KB３遺構３



21号溝　L=12.30m

○21溝セクション
1　表土
2　暗灰褐色土／LR（ハード）、T◎、S、CR　締良
3　暗灰褐色土（黄色）／LB（ハード）、LR（ハード）◎、BBR、C　締良
4　灰褐色土／LB（ハード、ブラックバンド）△、LR（ハード、ブラックバンド）、赤褐色R　締良
5　暗灰色土／LB（ハード）、LR（ハード）◎、赤褐色R◎　粘弱
6　暗灰色土／LB（ハード）、LR（ハード）、赤褐色R◎　粘弱
7　暗灰色土／LR（ハード）、赤褐色R▲　粘強
8　灰色粘質土／粘強
9　灰色粘質土／LR（ハード）、赤褐色R　粘強
10　暗灰色土／赤褐色B・R、LR（ハード）▲　粘強
11　暗灰色土（黒色）／LB・LR（ハード、ブラックバンド）、赤褐色B　粘強
12　暗灰色土（やや暗）／LB（ハード、ブラックバンド）、LR（ハード）、赤褐色R
13　褐色粘質土／粘強
14　暗灰褐色土／LR（ハード）、BBR、S、CR　締良
15　暗灰褐色土（灰色強）／LR（ハード、ブラックバンド◎）、赤褐色R　粘弱
16　黒褐色土／LR（ブラックバンド）　締良



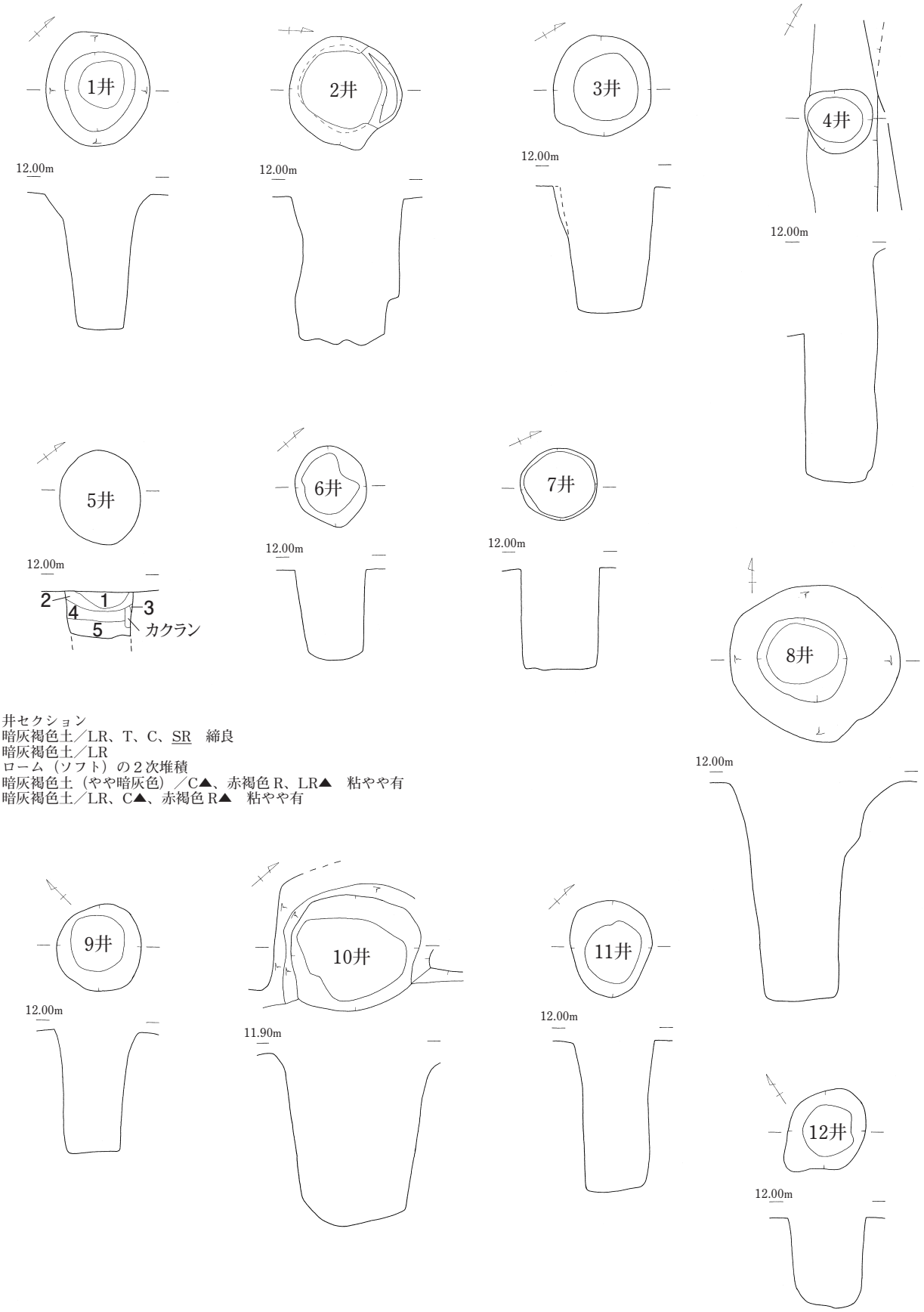
22号溝

○22溝セクション
1　表土
2　灰褐色土／LB（ブラックバンド、ハード）、LR（ハード、ブラックバンド）、SR▲　締良
3　暗灰色土／LR（ソフト・ハード、ブラックバンド）、BBR、赤褐色R　締良

土層説明凡例	非常に多い＝☆
土層名／含有物	多量＝◎
テフラ＝T	少量＝△
ローム＝L	微量＝▲
炭化物＝C	万遍なく＝アンダーライン
焼土＝S	明るい＝明
酸化鉄＝FE	暗い＝暗
黒褐色＝BB	やや暗い＝やや暗
黒色＝B	非常にやわらかい＝軟度高
褐色＝Br	やわらかい＝軟質
粒子＝R	かたい＝堅緻
ブロック＝B	締まり良し＝締良
	粘性強し＝粘強
	粘性弱し＝粘弱
	粘性有り＝粘有

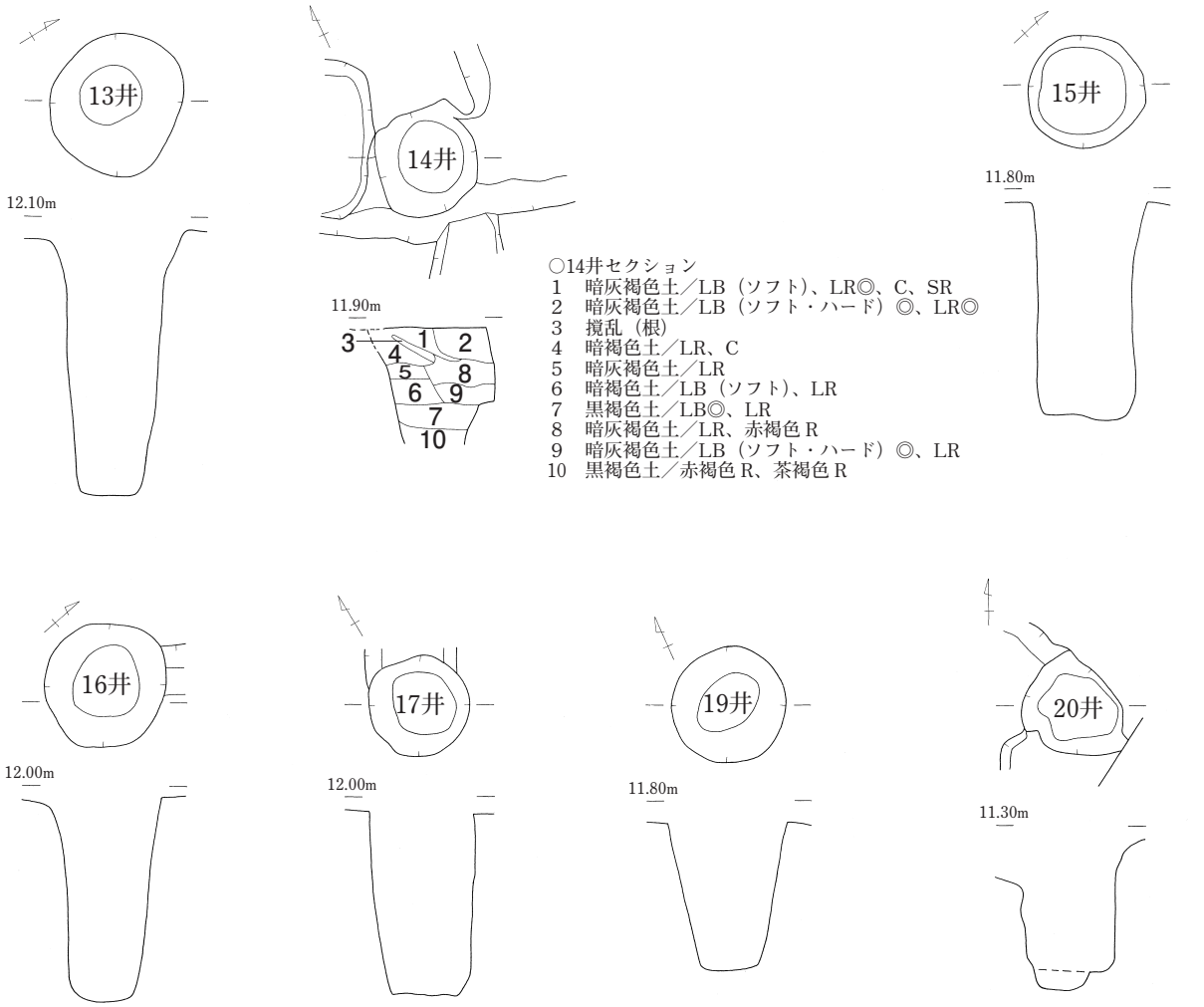
第12図　KB３遺構４

KB３　14溝　五輪塔（石－111）出土



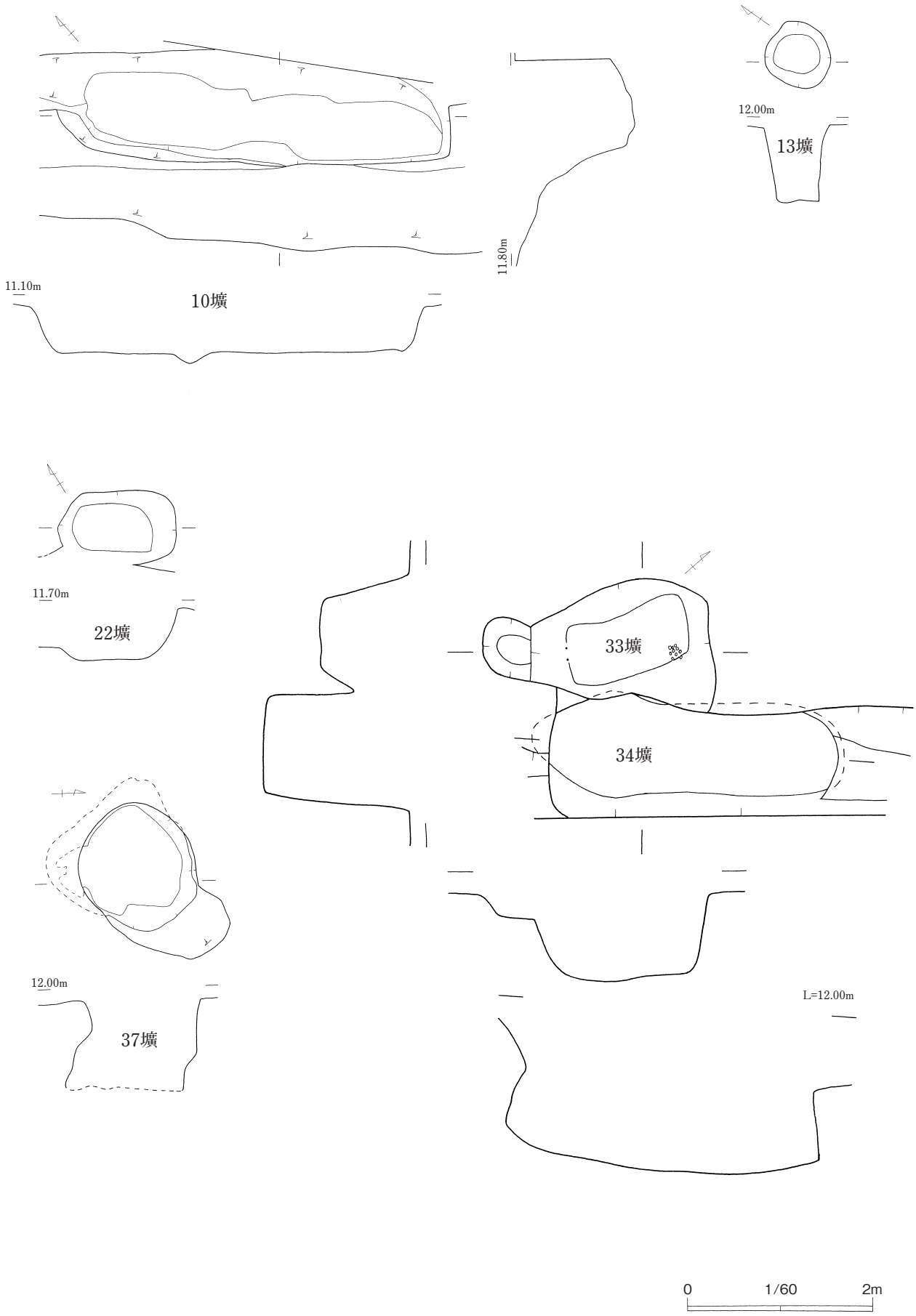
○５井セクション
1　暗灰褐色土／LR、T、C、SR　締良
2　暗灰褐色土／LR
3　ローム（ソフト）の２次堆積
4　暗灰褐色土（やや暗灰色）／C▲、赤褐色 R、LR▲　粘やや有
5　暗灰褐色土／LR、C▲、赤褐色 R▲　粘やや有

第13図　KB３遺構５



○14井セクション
1　暗灰褐色土／LB（ソフト）、LR◎、C、SR
2　暗灰褐色土／LB（ソフト・ハード）◎、LR◎
3　撹乱（根）
4　暗褐色土／LR、C
5　暗灰褐色土／LR
6　暗褐色土／LB（ソフト）、LR
7　黒褐色土／LB◎、LR
8　暗灰褐色土／LR、赤褐色R
9　暗灰褐色土／LB（ソフト・ハード）◎、LR
10　黒褐色土／赤褐色R、茶褐色R

第14図　KB３遺構６


11.10m
10壙
11.80m
12.00m
13壙
11.70m
22壙
33壙
34壙
12.00m
37壙
L=12.00m
0
1/60
2m

第15図　KB３遺構７

（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	6-43	○→1・2・3・6井					−	瀬美(縁釉小皿・天目)/京信(灯明)/肥前磁器(碗)/常滑(甕・片口鉢)/在地(片口鉢＝14c前)・かわらけ・焙烙＝18c～/スラグ20g	−	
1a号溝	6-43	1b溝→○→22壙、2a・5溝/？4井	ほぼ直線	箱薬研	幅☆96	☆44	暗灰褐色/含T・LR		～18c末	=KB1 9a溝
1b号溝	6-43	○→1a溝/？4井	ほぼ直線	毛抜き	幅☆(94)	☆88	暗灰褐色/含LR		～18c末	=KB1 9a溝
2号溝	6-43	6・10壙					−	同安青磁碗/中国(染付碗・皿)/瀬美(平碗・天目＝16c末～前・縁釉小皿・灰釉皿＝17c前～中・鉄絵皿・織部皿・輪禿皿・志野丸皿・丸皿＝17c後～18c・反り皿＝17c後～18c・菊皿＝17c中・菊皿＝17c後～末・花瓶・志野小杯・擂鉢・直縁大皿・鉄絵鉢＝17c後・徳利＝16c・双耳壺＝17c後・向付)/肥前唐津(皿)/志戸呂(擂鉢＝16c中～17c)/常滑(甕＝1500～1550)/初山(天目)/備前(鉢＝16c後)/丹波(擂鉢＝17c前)/肥前磁器(染付碗＝17c前～18c・天目形碗＝1630～50・徳利＝17c後)/かわらけ＝17c～/焙烙/在地(土鍋＝15c後・片口鉢＝13c後～14c後)/風炉/曲物状容器/煙管/銭貨/漆椀/桶(側、底板)/曲物(側、底板)/板材/搗臼/砥石/火打石/板碑/馬の歯/鞴の羽口/スラグ310g	−	
2a号溝	6-43 6-40	1a・2b・5溝・壙b→○	東端で屈曲	箱薬研	幅☆276	☆(120)	暗灰褐色/含T・C		～18c末	=KB1 10a、12溝
2b号溝	6-43	○→2a溝	東端で屈曲	不明	幅☆(160)	☆(76)	暗褐色/含LR・LB	瀬美(擂鉢)/志戸呂(擂鉢)/砥石	16c～	=KB1 11溝
3号溝	6-44南	なし					−	常滑(片口鉢)/かわらけ	15c後～(1点)	
3a号溝	6-44南	3b溝→○	直線	ほぼ直上	幅☆150	☆56	暗灰褐色/含T・LR◎		～18c末	
3b号溝	6-44南	○→3a溝	直線	ほぼ直上	幅☆(100)	☆66	暗灰褐色(灰味)/含LR			
4号溝	6-40南	15溝→○	直線	箱薬研	幅☆230	☆120	暗灰褐色(灰味)/T・LR　1溝に似る	中国(口禿皿＝13c～14c)/常滑(片口鉢＝13c後～16c・甕1500～1550)/瀬美(天目＝16c前～中・内禿皿・耳付水注)/肥前磁器/初山天目/在地(片口鉢＝13c後～14c前・擂鉢)/かわらけ/焙烙/粉挽臼(上臼)/砥石	16c中～	
4a号溝	6-40南	4b・15溝→○→12溝	直線	ほぼ直上	幅☆235	☆94	暗灰褐色/T・LR◎		～18c末	
4b号溝	6-40南	○→4a溝	直線	箱薬研	幅☆(136)	☆113	暗灰色/T・LR		～18c末	
5号溝	6-44北	1a溝→○→2a溝	直線	ゆるやか	幅90	26	不明	瀬美(天目・擂鉢)/肥前磁器(碗＝19c)		
6号溝	6-40南	○→12溝、10井	直線 南で屈曲	ゆるやか	幅☆140	☆42	暗灰褐色/LR◎・C・T	ショウ州(染付皿＝17c初)/片口鉢/土鍋/焙烙/かわらけ	17c初～18c末	
7号溝	6-44南	29～31壙	直線	ゆるやか	幅26	12	暗灰褐色/含T・LR	常滑(片口鉢)/肥前唐津(大皿)	17c～18c末	
8号溝	6-44北	1溝	直線	不明	幅40	22	不明	唐津(大皿)/片口鉢/かわらけ	17c～	
9号溝	6-44南	14井→○/28・40壙、14井	やや曲がる	ほぼ直上	幅28	24	不明	かわらけ		
10号溝	6-44南	39壙	直線	薬研	幅40	52	不明	スラグ7g		
11号溝	欠番									
12号溝	6-40南	ab? 4溝・6・16b溝→○	やや曲がる	薬研	幅274	90	暗灰褐色/含T・LR	常滑(甕＝1500～1550)/瀬美(徳利・丸皿＝16c前～中・志野丸皿)/初山天目/肥前磁器(染付碗)/在地(甕・土釜)/かわらけ/焙烙/小柄/粉挽臼(上臼)/板碑	18c末	
13号溝	6-44南	40壙→○	屈曲	ほぼ直上	幅60	44	上層暗灰褐色/含LR◎・T・LB		～18c末	
14号溝	6-40北	47壙→○→21溝	直線	箱堀	幅☆160	☆80	暗灰褐色/含T	龍泉(青磁蓮弁文碗)/常滑(片口鉢・甕＝1500～1550)/瀬美(平碗・縁釉小皿・稜皿・せんじ・志野丸皿・筒形容器・擂鉢・卸目付大皿・梅瓶ヵ瓶子)/在地(片口鉢＝13c後・擂鉢・甕＝14c・土鍋＝14c後～15c前)/粉挽臼(上臼)/五輪塔/板碑/桶(底板)	～18c末	
15号溝	6-40南	○→4a溝	直線	箱薬研	幅☆(106)	☆60	暗灰色			
16号溝	6-40南	12溝					−	中国(白磁八角杯＝15c)/瀬美(平碗)/在地(土鍋＝15c前)	15c～	
16a号溝	6-40南	16b溝→○	直線	箱堀	幅☆(120)	☆85	暗灰褐色	常滑(甕)/瀬美(卸皿・縁釉小皿)/在地(擂鉢・土鍋)/かわらけ/焙烙		
16b号溝	6-40南	○→16a溝	直線	箱堀	幅☆(104)	☆50	暗灰褐色	在地(擂鉢)		

第1表　KB3遺構一覧表1

（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
17a 号溝	6−40南	18溝→○→17b 溝、19溝	直線	ゆるやか	幅(55)	☆76	下層　暗灰色			
17b 号溝	6−40南	17a 溝→○→19溝、46壙	直線	ゆるやか	幅(60)	☆74	暗灰褐色	常滑(甕)/板材		
18号溝	6−40南	○→17a 溝	直線	ゆるやか	幅(140)	☆60	暗灰褐色			
19号溝	6−40南北	17ab 溝→○	直線	ほぼ直上	幅60	☆122	暗灰褐色	瀬美(鉄絵碗・擂鉢)/在地(擂鉢＝15後〜16c・土鍋＝15c後〜16c前ヵ)/かわらけ/板碑/板材)		
20号溝	6−40北？	不明	不明	不明	不明	不明	不明	常滑(甕)/在地(甕)/銭貨/板材		
21号溝	6−40北	14・22溝→○	直線	ゆるやか	幅☆268	☆100	暗灰褐色	釘		
22号溝	6−40北	○→21溝	直線	ほぼ直上	幅70	☆30	灰褐色	常滑(片口鉢＝15c後)/瀬美(深皿)/土鍋	15c〜	
23号溝	6−40北	欠番	直線		幅96					
1号井戸	6−43東		円形	ロート形	120	142	暗灰褐色/含T	在地(擂鉢)/かわらけ/焙烙	〜18c末	
2号井戸	6−43東	1溝→○	円形	ほぼ直上	120	154	不明	瀬美(輪禿皿)/土鍋/かわらけ/板碑	17c後〜	2つの井戸の重複か
3号井戸	6−40東	セクション1溝→○	円形	直上	96	132	暗灰褐色	瀬美(擂鉢・輪禿皿・反り皿)/かわらけ/焙烙		
4号井戸	6−43西	○→1溝	円形	直上	70	245	不明	銭貨(寛永通宝　古)	17c〜	
5号井戸	6−43東	なし	円形	直上	☆70	165	暗灰褐色	かわらけ/焙烙/板碑		
6号井戸	6−43西	1溝	円形	直上	84	94	暗灰褐色/含T	かわらけ/焙烙	〜18c末	
7号井戸	6−44南	なし	円形	直上	82	105	灰褐色/含LR・C	かわらけ/焙烙/漆椀/板碑		
8号井戸	6−44南	36壙→○	円形	ロート状	178×162	225	暗灰褐色/含T	磨石片／礫	〜18c末	
9号井戸	6−44北	20壙→○	円形	ほぼ直上	90	127	暗灰褐色/含T	粉挽臼(上臼)/石造物ヵ	〜18c末	
10号井戸	6−40南	6溝→○	円形	ほぼ直上	170×131	180	不明	中国(白磁端反皿＝15c中〜16c)/常滑(甕)/瀬美(天目)/桶(底板)/柄	16c〜	
11号井戸	6−44北	5溝	円形	直上	100×86	156	暗灰褐色/含T	蓋/かわらけ	〜18c末	
12号井戸	6−44南	なし	円形	直上	102×82	94	暗灰褐色			
13号井戸	6−44北	なし	円形	ほぼ直上	114×106	210	不明	かわらけ		
14号井戸	6−44南	○→9溝	円形	ほぼ直上	90	113	上層　暗灰褐色/含LB	かわらけ・焙烙		
15号井戸	6−40南	17溝→○	円形	直上	92	170	暗灰褐色/含T	瀬美(志野丸皿)/かわらけ/焙烙/板碑	17c〜18c末	
16号井戸	6−44北	5溝	円形	ほぼ直上	98	160	暗灰褐色	瀬美(灯明・丸碗・腰折皿)/桶(側板)		
17号井戸	6−44北	32壙	円形	直上	80	146	不明	中国(染付皿＝16末〜17c)/かわらけ/焙烙	16末〜17〜	
18号井戸	6−40南	不明	不明	不明			不明			
19号井戸	6−40南	溝→○	円形	ほぼ直上	92	115	暗灰褐色	常滑(片口鉢＝1400〜1450)/かわらけ	15c中〜	
20号井戸	6−40北	21溝	円形？	直上	80	104				
1号土壙	6−43西	2壙	長方形	ほぼ直上	175×70	26	暗灰褐色/含LB・黒褐色B			
2号土壙	6−43西	1壙	長方形	ほぼ直上	(270)×94	26	不明	瀬美(鉄絵皿)		
3号土壙	6−43西	1溝	円形	ゆるやか	112×100	48	不明	瀬美(志野丸皿・香炉?)/かわらけ＝17c後	17c後〜	
4号土壙	6−43西	なし	楕円形	ゆるやか	100×64	6	不明			
5号土壙	6−43西	1溝	不整形	ゆるやか	174×74	14	不明			
6号土壙	6−43西	2溝	隅丸長方形	ほぼ直上	132×100	12	不明	常滑(甕)/瀬美(鉄絵鉢)/在地(擂鉢)	17c〜	
7号土壙	6−43東	1溝	長方形	ほぼ直上	184×72	13	不明	在地(擂鉢)/かわらけ		
8号土壙	6−43西	−	楕円形	ゆるやか	80×(68)	5	不明			位置不明(6井付近)
9号土壙	6−43西	−	円形	ゆるやか	50	4	不明	肥前磁器(染付碗＝17c後)	17c後〜	位置不明(2つある)
10号土壙	6−43東	2溝	長方形	直上	430×120	64	不明			
11号土壙	6−44南	なし	楕円形	ゆるやか	136×88	20	灰褐色/含LR			
12号土壙	6−44南	なし	楕円形	ゆるやか	136×94	10	灰褐色/含LR・C・Sしまり良			
13号土壙	6−44北	なし	円形	ほぼ直上	72×70	84	暗灰褐色/含T	焙烙	〜18c末	
14号土壙	6−44南	なし	円形	ほぼ直上	90×84	28	灰褐色/含T・C・LR	焙烙		
15号土壙	6−44南	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	250×80	23	暗灰褐色/含T・C・LR	瀬美(丸皿・つぶて)/かわらけ/焙烙		
16号土壙	6−44南	26・31壙	長方形	ほぼ直上	240×64	14	灰褐色/含LR・C・S	かわらけ/焙烙		
17号土壙	6−44南	なし	円形	ゆるやか	128×126	20	暗灰褐色/含LR・C			

第2表　KB3遺構一覧表2

（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
18a 号土壙	6−44北	○→18b 壙	長方形	ほぼ直上	452×74	16	暗灰褐色/含 LR◎・LB△・S◎・C	かわらけ/焙烙		
18b 号土壙	6−44北	18a 壙→○	長方形	ゆるやか	588×70	6	暗灰褐色/含 C・S◎・LR・T▲			
19号土壙	6−44北	なし	長方形	ゆるやか	388×80	12	暗灰褐色/含上層 T・LR・C	瀬美(煙硝擂・天目)/焙烙		
20a 号土壙	6−44北	20b 壙	長方形	不明			暗灰褐色	常滑(甕)/かわらけ/焙烙/鋳型		
20b 号土壙	6−44北	○→９井								
21号土壙	6−44南	なし	円形	ゆるやか	102×100	22	暗灰褐色/含 LR・C			
22号土壙	6−44北	１a 溝→○	隅丸長方形	ゆるやか	128×80	56	暗灰色／含 S・CR	焙烙/銅鋺/骨		
23号土壙	?		長方形	ほぼ直上	(230)×94	16	不明			位置不明
24号土壙	6−44北	27壙	長方形	ほぼ直上	147×54	8	暗灰褐色/含 LR			
25号土壙	6−44北	なし	隅丸長方形	ほぼ直上	774×(154)	30	暗灰色/含 LR・LB△・S▲・C	常滑(甕)/瀬美(小杯)/かわらけ/焙烙	16c～	
26号土壙	6−44南	16壙	長方形	ゆるやか	316×78	10	不明	在地(擂鉢)/焙烙		
27号土壙	6−44北	24壙、１・５溝	長方形？	ほぼ直上	(305)×55	20	暗灰褐色/含 LB◎			
28号土壙	6−44南	９・10溝	長方形	ほぼ直上	126×70	50	暗灰褐色/含 LB◎・LR◎			
29号土壙	6−44南	７溝、30壙	長方形？	ゆるやか	270×(146)	24	不明			
30号土壙	6−44南	７溝・29壙	長方形	ほぼ直上	(140)×116	20	不明			
31号土壙	6−44南	７溝・16壙	長方形	ほぼ直上	258×116	20	不明			
32号土壙	6−44北	17井	長方形	ほぼ直上	(330)×60	24	不明	瀬美(白天目)/肥前磁器(碗)/かわらけ＝17c~	17c～	
33号土壙	6−44北	34壙	不整長方形	ほぼ直上	98×62	48	暗灰褐色	土鍋/かわらけ/焙烙/銭貨(寛永通宝古)/歯/碁石/火打石	17c～	
34号土壙	6−44北	５溝・34壙	隅丸長方形	ほぼ直上	(170)×(64)	80	暗灰褐色			
35号土壙	6−44北	なし	長方形	不明				瀬美(擂鉢)		
36号土壙	6−44南	○→８井	長方形	ほぼ直上	354×70	10	不明	かわらけ		
37号土壙	6−44北	なし	不整円形	オーバーハング	200×128	112	不明			
38号土壙	6−44南	13溝	長方形	ゆるやか	276×90	56	不明	かわらけ/焙烙		
39号土壙	6−44南	10溝	楕円形	ほぼ直上	76×(56)	56	不明			
40号土壙	6−44南	○→13溝	楕円形	ほぼ直上	(218)×74	40	暗灰褐色/含 LB・LR			
41号土壙	6−40南	16b 溝→○	長方形	ゆるやか	384×88	8	不明			
42号土壙	6−40南	なし	円形	ほぼ直上	110×(70)	26	不明			
43号土壙	欠番	−								
44号土壙	欠番	−								
45号土壙	欠番	−								
46号土壙	6−40南	14溝→○	長方形	ほぼ直上	☆(350)×(264)	☆124	暗灰褐色/含 T	常滑(片口鉢・甕)/在地(擂鉢)/環付製品/板碑/桶(側・底板)/下駄/巻貝	～18c 末	
47号土壙	6−40北	○→14溝	長方形	不明			不明			
48号土壙	6−40南	−	不明	不明			不明			

第３表　KB３遺構一覧表３

KB３　板碑（石84～87）出土

第２節　KB６区

（１）調査概要

調査担当　　嶋村英之

調査期間　　昭和60年12月２日～
　　昭和61年１月21日

調査面積　　110㎡

調査の経過

幅６ｍの道路建設予定地であるが現道及び用水があるため調査区は実質幅2.5m前後となった。掘り下げは、確認面まで浅く遺物が表土直下より出土するため、人力により行った。遺構確認面は約70cm下のローム層とした。調査区が33m×2.5mと幅狭ため任意の杭を打ち測量の基準とした。用水に隣接し湧水が顕著であるため、北側に側溝を掘り下げポンプにより排水した。

遺構の図化は調査区全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文時代遺構の精査を行った。基準杭の標高は５区より測量した。

周辺の調査（第６図）

東方に第23次、西方にKB９区がある。連続する遺構は確認できない。KB９区では多数の溝や井戸、縄文時代の集石遺構、近代の製糸関連遺物が確認されている。23次では多数の土壙や井戸・溝が確認されている。

（２）　遺構と遺物

【溝状遺構】

３条を数え１・２溝は東西方向に３溝は南北方向に走る。

１号溝　調査幅に対し規模が大きく全容は不明。幅262cm（残存）・深さ36cmである。覆土にロームブロック・粒子が混入する。遺物は覆土上層に多い。

出土遺物は常滑甕や瀬戸美濃天目、志戸呂徳利、肥前磁器、かわらけ、在地擂鉢（土－284～317）煙管雁首（金－17）がある。年代は17世紀以降。

２号溝　１号溝底面にあり幅67cm・深さ24cmの小規模なもの。１溝より古い。

【井戸状遺構】

１号井戸　調査区東端に位置し，直径126cm・深さは108cmと浅い。

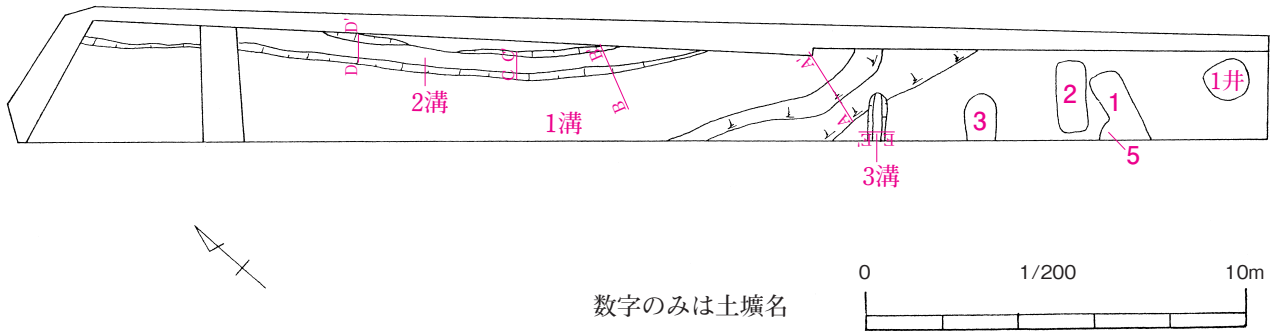
【土壙】

５番まで振ったが１基は欠番。東端に分布し、平面は長方形・円形を呈す。特筆するもの無し。

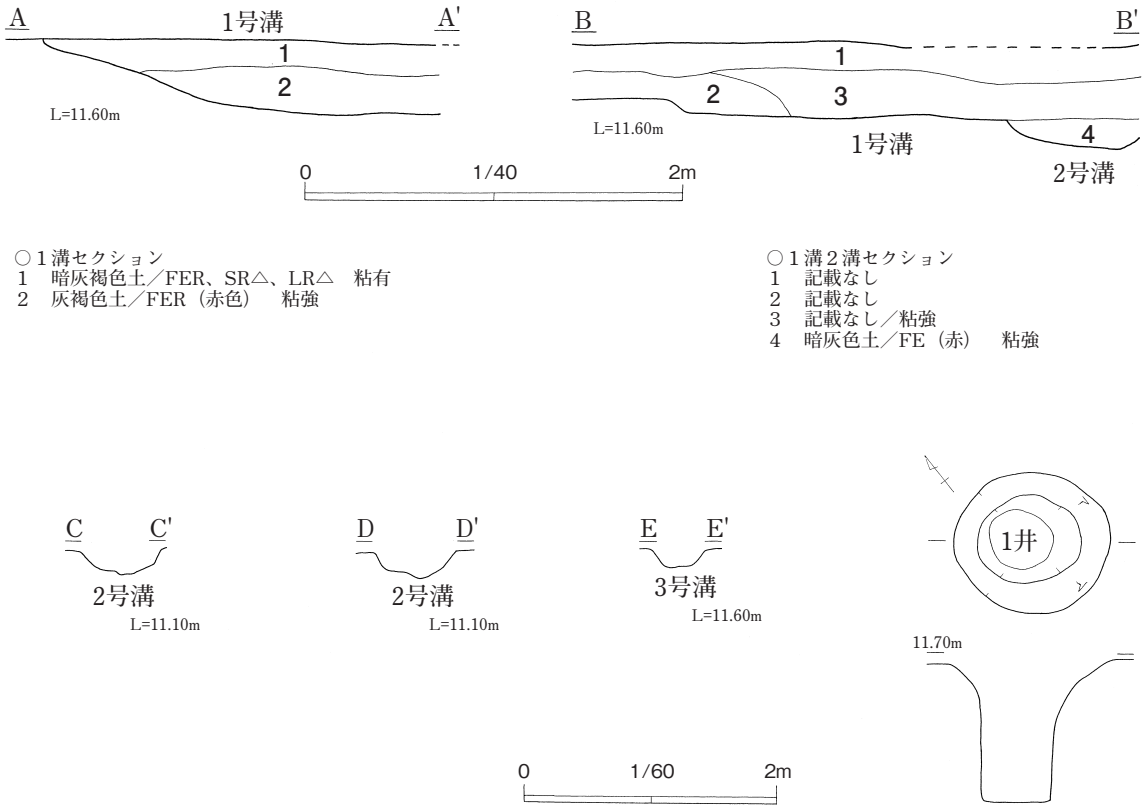
遺構外出土遺物

スラグは330g出土している。

現地形は西側が低い。



第16図　KB６　遺構位置図



第17図　KB６遺構

（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	２溝→○	端部屈曲	ゆるやか	幅(262)	☆36	暗灰褐色/含LB・LR	常滑(甕)/瀬美(天目＝17c前中・折縁皿＝17c前・志野丸皿・鉄絵皿)/肥前唐津(大皿＝17c前)・肥前陶器(鉢＝17c18c)/志戸呂(蓋＝17c・徳利＝16c後～)備前(平鉢＝17c前)/肥前磁器(碗・香炉＝17c・小杯＝17c)/在地(土鍋＝15c前・擂鉢16c～・香炉)/かわらけ/焙烙＝16c/煙管/粉挽臼(上臼)/砥石/火打石/板碑	17c前～	
２号溝	○→１溝	直線	ゆるやか	幅67	24	灰褐色			
３号溝	１溝	直線	ゆるやか	幅44	15	不明	肥前陶器(京焼風丸碗)/かわらけ	17c後～	
１号井戸	なし	円形	ロート形	126×110	108	暗灰褐色			
１号土壙	５壙	長方形	ゆるやか	(190)×80	4	不明			
２号土壙	なし	長方形	ゆるやか	192×84	10	不明			
３号土壙	なし	楕円形	ゆるやか	(120)×94	6	不明			
４号土壙	欠番								３溝にふりかえ
５号土壙	１壙	円形	やや直上する	90×(68)	16	不明			

第４表　KB６遺構一覧表

第３節　KB９区

（１）調査概要

調査担当　　島村範久　嶋村英之

調査期間　　昭和61年６月27日～11月17日

調査面積　　586㎡

調査の経過

武家屋敷西端の低地への落ち際近くに建設される道路予定地で６m×85m で調査区をＴ字形に設定した。

掘り下げは、確認面まで浅く、遺物が表土直下より出土するため、人力により行った。その後の調査により当所は昭和初期に製糸工場が所在したことが判明し、当該期の陶磁器類を多数採集した。遺構確認面はローム層とした。遺構検出及び掘り下げの際湧水が支障となるため、側溝を掘り下げポンプにより排水した。遺構の図化は調査区全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。最後に縄文時代遺構の精査を行った。基準杭の標高は測量業者に委託した。

周辺の調査（第６図）

北側東にKB６区が、南側東に第45～47次が、中央西に10次調査区が位置する。KB６区とは遺構は連続しない。第45～47次では溝・土壙が濃密に分布し、溝が連続する。第47次で馬の頭骨４体分出土。第10次とは南北方向の溝が連続する。

（２）遺構と遺物

【溝】26まで命名したが ab 分割し、実数36条を数える。調査区のほぼ全域に分布する。走行方向は調査区に対し直行・並行・斜行し、２・５・18、17、20号溝は同一方向で重複する。南側では隣接する調査区の溝との連続が確認できた。６号溝のみ平面コの字状に巡る。大規模なものは２・19・21溝で幅294～236cm である。５・18b 溝も大きいが、全体に小規模なものが多い。断面形箱薬研は少なくしっかりしたものは５溝のみである。

２号溝　南に位置し、東西に走行する。幅236cm・深さ98cm である。

＝45次１溝。

出土遺物はかわらけ（土－364）・板碑（石－107）がある。

５号溝　南に位置し、２溝と並行し東西に走行する。幅140cm（残存）・深さ91cm である。＝45次２溝

６号溝　北に位置し、平面コの字形である。幅59cm 深さ16cm と浅い。

13号溝　煙管雁首（金－18）が出土している。

16号溝　a～c に３分割し16b 溝は16壙に振り替え。

17号溝　中央に位置する。南北方向で、調査区とは斜方向に走行する。a～c に３分割する。幅は17a が77cm・17b が62cm（残存）・17c は90cm（残存）で、深さは順に60・42・50cm である。

＝10次３溝＝46次２溝。

18号溝　南に位置し、２・５溝と並行し東西に走行する。ab 分割する。幅は18a が64cm（残存）・18b が80cm（残存）で、深さは順に44･54cm（残存）ある。18a 溝＝45次６溝、18b 溝＝45次７溝。

19号溝　南に位置し、南北に走行する。南端は止まる。幅は294cm（残存）深さ60cm である。

出土遺物は瀬戸美濃天目・皿、肥前磁器、かわらけ（土－377～388）、銭貨（金－77・78）がある。

20号溝　中央に位置、17溝と並行し南北方向で、調査区と斜方向に走行する。a～f に７分割する。幅　は20a が104cm・20b が114cm・20c が54cm・20d が74cm・20e が68cm・20f が62cm（以上全て残存）で深さは順に52・50・20（残存）・20・30・26cm である。

＝10次２溝＝46次１溝＝47次１・９溝。

21号溝　中央に位置し、東西方向に走行する。幅240cm（残存）深さ50cm である。遺物は覆土上中層に多い。

＝10次１溝に連結するか。

出土遺物は瀬戸美濃の丸碗・天目・煙硝鉢、肥前の唐津鉢・磁器染付碗など（土－392～417）、煙管雁首・吸口（金－20・26）・硯（石－16）・骨がある。

26号溝　在地火鉢（土－420）、硯（石－17）が出土

している。

【井戸状遺構】２基あり北側で隣接する。全て素堀である。

１号井戸　北側に位置し、直径132cm・深さ170cmである。壁面下位に段を有する。志野丸皿・かわらけ（土－421・422）が出土する。

２号井戸　北側に位置し、直径80cm深さ140cmである。やや上位に井戸側が遺存するが、上部は腐食している。側板は21枚あり残存長40cm強である。井戸側は騎西城唯一の例である。

出土遺物は肥前磁器小杯・鉢（423・424）、内外赤色漆で浅い漆椀（木－10）がある。

【建物跡】１軒検出される。

１号建物跡　中央に位置し調査区と方位軸は同一である。４基のピットが356×202cmの規模で方形に並ぶ。ピットの掘り込みは30～40cmと浅い。柱穴の数・間隔に問題があるが調査時の所見を尊重し建物跡としておく。

【土壙】土壙は21まで命名したが欠番等により実数18基である。南側中央・中央・北側に分布するが散漫である。特に北に位置する16号土壙は大規模で出土遺物が多数ある。

14号土壙　中央に位置し、平面円形で規模は直径60cm深さ50cmである。

16号土壙　北に位置し、平面長方形で規模は600×227cm・深さ92cmで大規模である。壙底面やや南寄りに杭列が確認された（写真参照－図面無し）。杭は中心にやや太いもの他は細いものが揃い、隙間を以て打ち込まれている。またムシロ状の有機物が検出されたことが調査時の記録に残る。

出土遺物は大量のものがある（図－23）。土器類では、瀬戸美濃天目、肥前陶器の京焼風碗・鉢、志戸呂鉢、磁器碗、かわらけ（土－429～453）・瓦である。木製品では櫛（木－１）・桶側板・底板（木－４・５）・樽蓋板（木－８）・漆椀（木－11）・他に板材片・竹・ひょうたんがある。木－８には出土時穿孔を有する板材が伴っていた。漆椀は皮膜のみのものが他に４点あった。いずれも表赤色漆。金属製品では煙管雁首（金－19）・小柄（金－32）・錘？（金－43）・銭貨（金－79）がある。

17号土壙　北に位置し、平面長方形で規模は230（残存）×100cmで深さ80cmと深い。

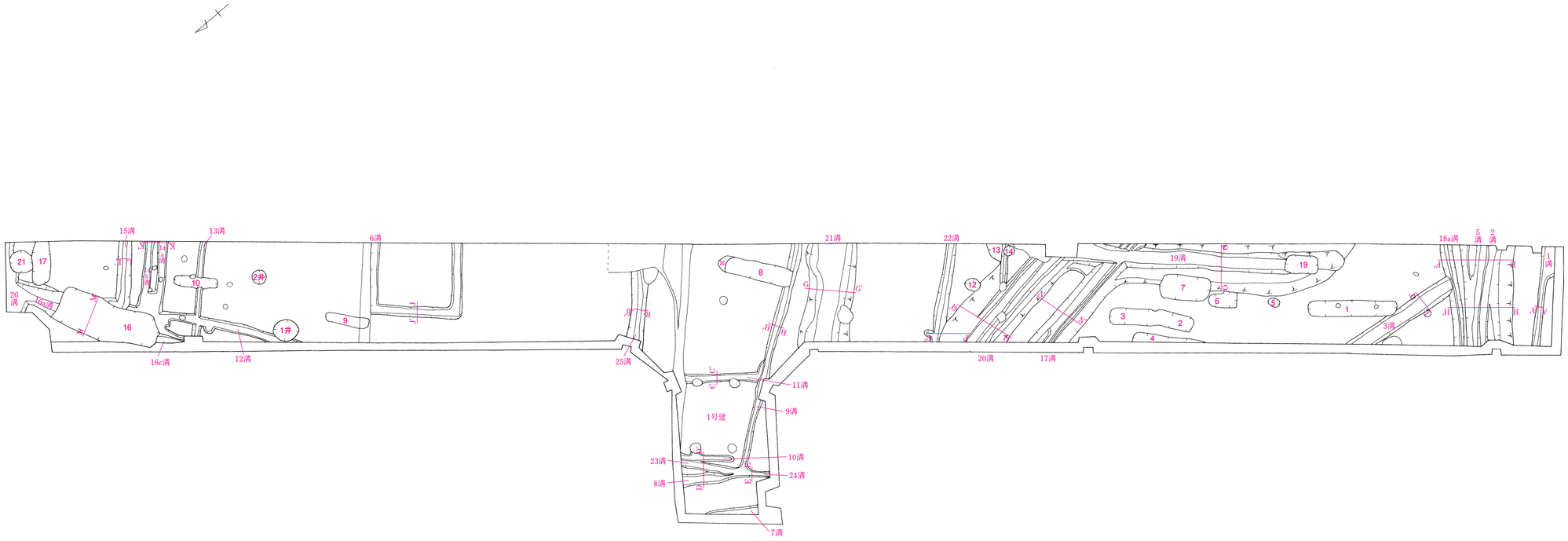
19号土壙　南に位置し、平面長方形で規模は184×100cmで深さ42cmである。覆土中位で板材などの木材が出土している。

21号土壙　北に位置し、平面円形で規模は直径137cm深さ26cmである。

遺構外出土遺物

スラグは191g出土している。

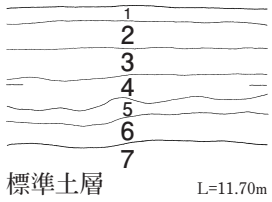
KB９　16壙　瓦（未図化）出土



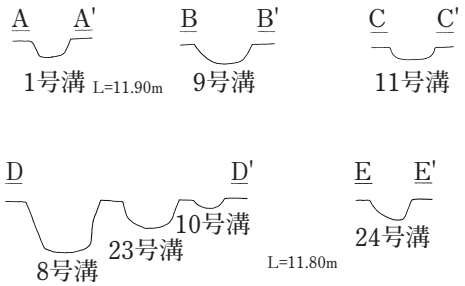
数字のみは土壙名

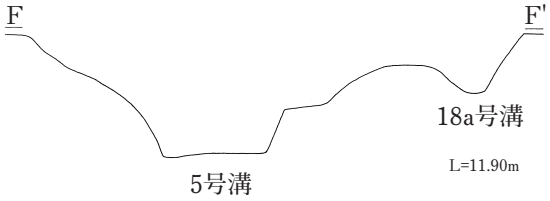
0　1/200　10m

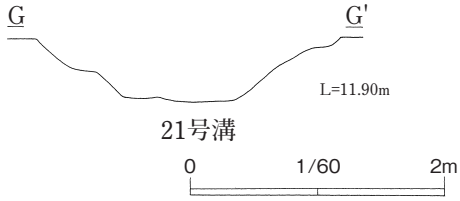
第18図　KB 9　遺構位置図

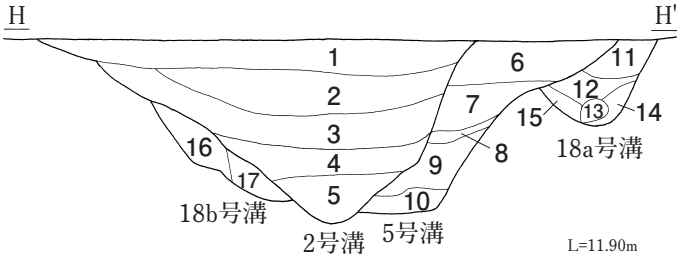


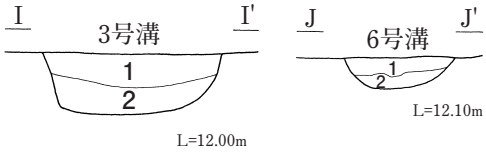
○標準土層セクション
1　耕作土
2　暗灰褐色土／T◎、C△　堅緻
3　暗灰褐色土／LR、T▲、FE△　締良
4　暗灰褐色土／FE◎、LR△、LB▲　軟度低
5　黄褐色土／LB△　軟質
6　黄褐色土（ソフトローム）／LB△　締良
7　ハードローム









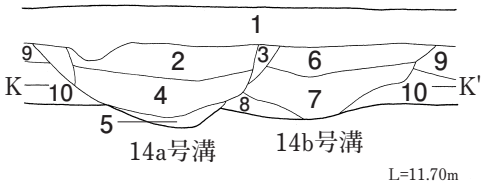


○２溝５溝18溝セクション
1　暗灰褐色土／FE△、T、LR▲　堅緻
2　暗灰褐色土／FE◎、LR▲　締良
3　暗灰褐色土（２層より灰色強）／FE◎、C、LR▲　軟質
4　暗灰褐色土（３層より灰色強）／FE◎、S、C▲　軟質
5　灰褐色粘質土／FE△　軟度高
6　暗灰褐色土（１層より明）／T▲、LR▲、FE△　締良
7　暗灰褐色土／FE◎、灰褐色粘土B△　軟度低
8　灰白色粘質土／FE◎、LR△　軟質
9　暗灰褐色土／FE◎、LR・LB△　締悪
10　ロームブロック／LB・LR　ボロボロ　締悪
11　暗灰褐色土／T、LR、BB△　締良
12　暗灰褐色土（11層より暗）／FE、LR、BB△　締良
13　ロームブロック
14　暗灰褐色土（12層より暗）／FE◎、暗色B△　締良
15　暗灰褐色土（12層より暗）／FE◎、暗色B△　締良
16　暗灰褐色土／FE◎、LR◎、LB△　軟質
17　暗灰褐色土（４層より暗）／FE◎、LR△　軟度高

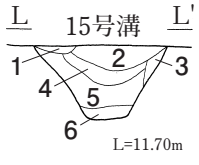
2溝
5溝
18a 溝

○３溝セクション
1　暗灰褐色土／BB、LR△、FE△　締良
2　暗灰褐色土／灰褐色R◎、FE◎、BB△　１層より軟質　締良

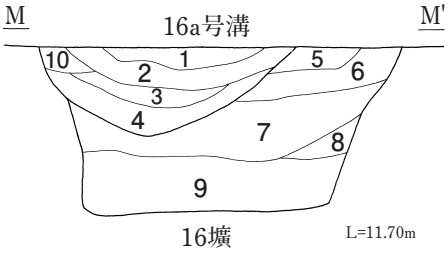
○６溝セクション
1　暗灰褐色土／T◎　堅緻
2　灰褐色土／T、C△、FE△　堅緻



○14a・b溝セクション
1　暗灰褐色土／T◎、C△　堅緻
2　暗灰褐色土／LR、FE△、T▲　締良
3　暗灰褐色土／LR△　締良
4　暗灰褐色土（３層より灰色強）／FE◎
5　暗灰褐色土／LB◎　軟質
6　暗灰褐色土／LR△、T、C▲　締良
7　暗灰褐色土／FE◎、LR▲　締良
8　暗灰褐色土／LB◎、FE、C△　軟質
9　暗灰褐色土／LR、FE△　締良
10　暗灰褐色土／FE◎、BBR◎　締良



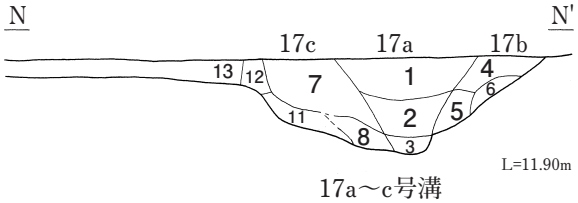
○15溝セクション
1　灰褐色土／FE△
2　暗灰褐色土／FE△、SR▲　締良
3　暗灰褐色土／FE△、LB▲　締良
4　暗灰褐色土／FE、LR◎、C▲　締良
5　暗灰褐色土／FE、LR△　軟質
6　暗灰褐色土／LB、LR△　軟質



○16溝セクション
1　暗灰褐色土／FE、LB△　締悪
2　暗灰褐色土（灰色強）／FE◎、LR△　締悪
3　暗灰褐色土（灰色強）／FE、LR、LB◎　軟質
4　暗灰褐色土（灰色強）／FE◎、LB△　軟質
5　暗灰褐色土／FE、LR△　締良
6　暗灰褐色土／FE、LR◎、砂△　締良
7　暗灰褐色土／FE、LB、LR◎　粘やや有　締良
8　暗灰褐色土（７層より暗）／FE△　締良
9　暗灰褐色粘質土（８層より暗）／FE△　軟度高
10　暗灰褐色土／BB△　締良

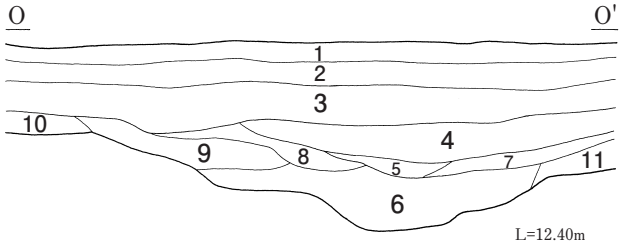
0　1/40　2m

第19図　KB９遺構１



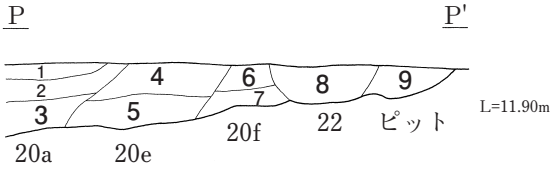
17a～c号溝

○17a･b 溝セクション
1　暗灰褐色土／FE◎、BB、LB△　締良
2　暗灰褐色土（1層よりやや暗）／LB、BB△　軟質
3　暗灰褐色土／LB、LR△　軟質
4　暗灰褐色土／FE、LR▲　締良
5　暗灰褐色土（灰色強）／FE、LR△　軟質
6　暗灰褐色土／BB、LB△　軟質
7　暗灰褐色土／BB、LR△　堅緻
8　暗灰褐色土（7層より灰色強）／LR、FE△　軟質
11　暗灰褐色土／LR△　軟質
12　暗灰褐色土／FER、C▲　締良
13　暗灰褐色土／FE◎、LB▲　締良



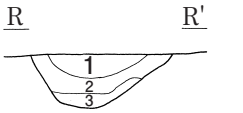
19号溝

○19溝セクション
1　耕作土
2　黒灰褐色土／FE◎、T△、C▲　締良
3　黒灰褐色土／FE、C△、SR▲　締良
4　黒灰褐色土／BB･R△　締良
5　黒灰褐色土（4層よりやや灰色強）／FE△、LB△　締良
6　灰褐色土／FE◎、LB△、C▲　軟度低
7　黒灰褐色土／FE◎、LR△、C▲　軟度低
8　黒灰褐色土／FE◎、LR△、C▲　軟度低
9　黒灰褐色土／FE◎、BB△、LR、C▲　軟度低
10　黒灰褐色土／BB△、FE▲　締良
11　褐色土／LR、LB△　軟質



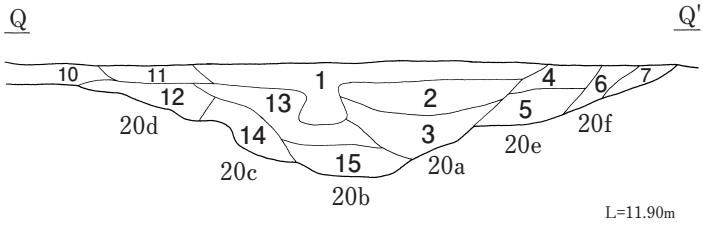
20a･e･f, 22号溝

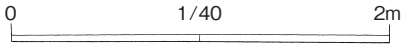
○20a･e･f 溝22溝セクション
1　暗灰褐色土／BB、FE◎、LR、SR▲　締良
2　暗灰褐色土／FE◎、BB▲　締良　} 20a 溝
3　灰褐色土（2層より灰色強）／FE◎　軟度低
4　暗灰褐色土／FE◎、BB△　締良
5　灰褐色土／FE、LB◎　締良　} 20e 溝
6　暗灰褐色土（4層より灰色強）／FE◎
7　灰褐色土／FE△　軟質　} 20f 溝
8　暗灰褐色土／FE△、LB、SR▲　締良　→　22溝
9　暗灰褐色土／FE◎、LR△　軟度低　→　ピット



25号溝

○25溝セクション
1　暗灰褐色土／FE◎　堅緻
2　暗灰褐色土（1層より暗）／FE◎　締良
3　暗灰褐色土／LB◎、FE△　軟質

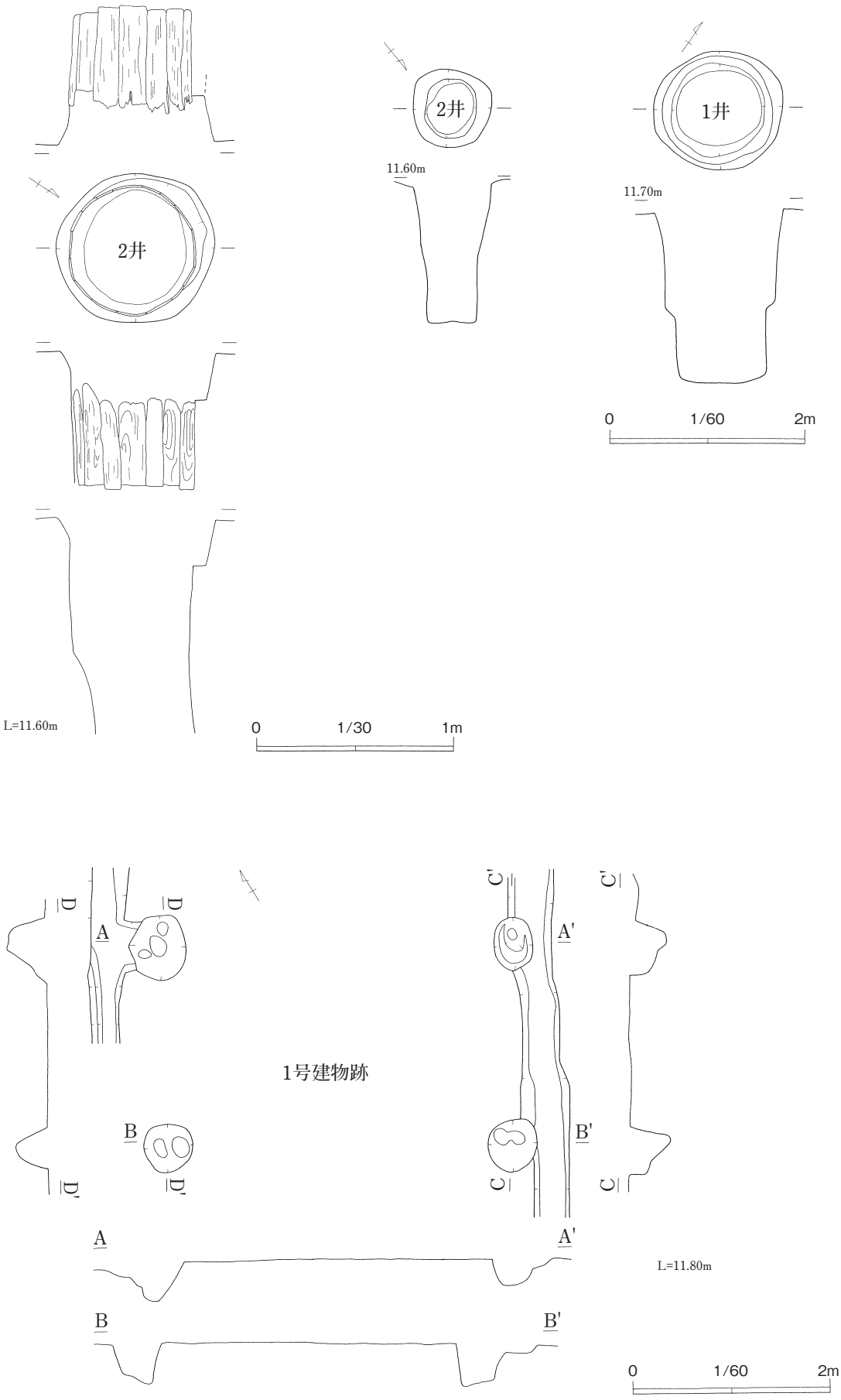




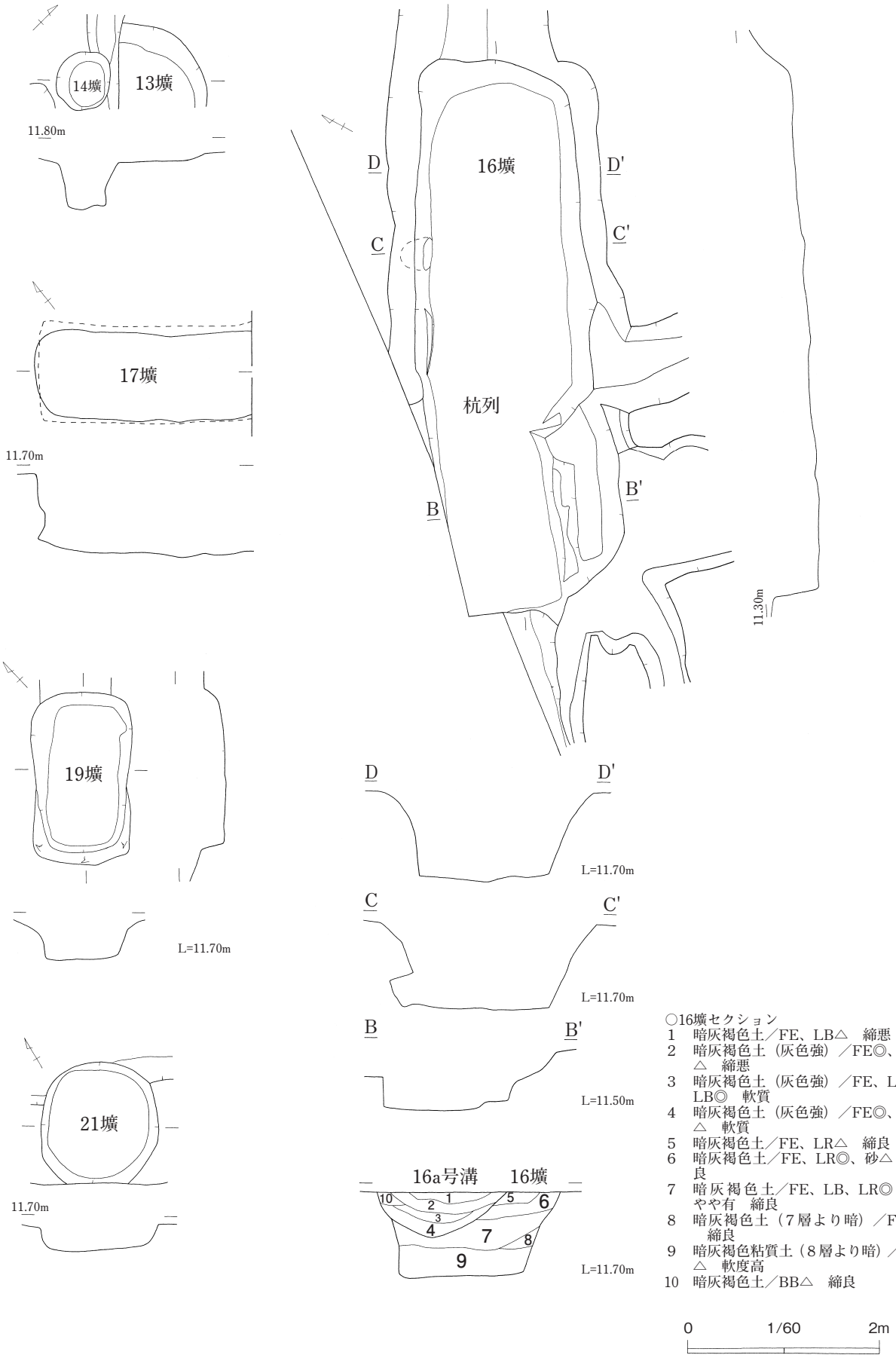
20a～f号溝

○20a～f 溝セクション
1　暗灰褐色土／BB、FE◎、LR、SR▲　締良
2　暗灰褐色土／FE◎、BB▲　締良　} 20a 溝
3　灰褐色土（2層より灰色強）／FE◎　軟度低
4　暗灰褐色土／FE◎、BB△　締良
5　灰褐色土／FE、LB◎　締良　} 20e 溝
6　暗灰褐色土（4層より灰色強）／FE◎
7　灰褐色土／FE△　軟質　} 20f 溝
10　暗灰褐色土／FE◎　堅緻
11　暗灰褐色土／FE◎、BB、C△　堅緻　締良
12　灰褐色土／FE◎、LR▲　軟度低　→　20d 溝
13　灰褐色土／FE◎、LR･C◎　軟質　→　20b 溝
14　灰褐色土（13層より暗）／FE◎、LR▲　軟質　→　20c 溝
15　灰褐色土／FE、LB△　軟質　→　20b 溝

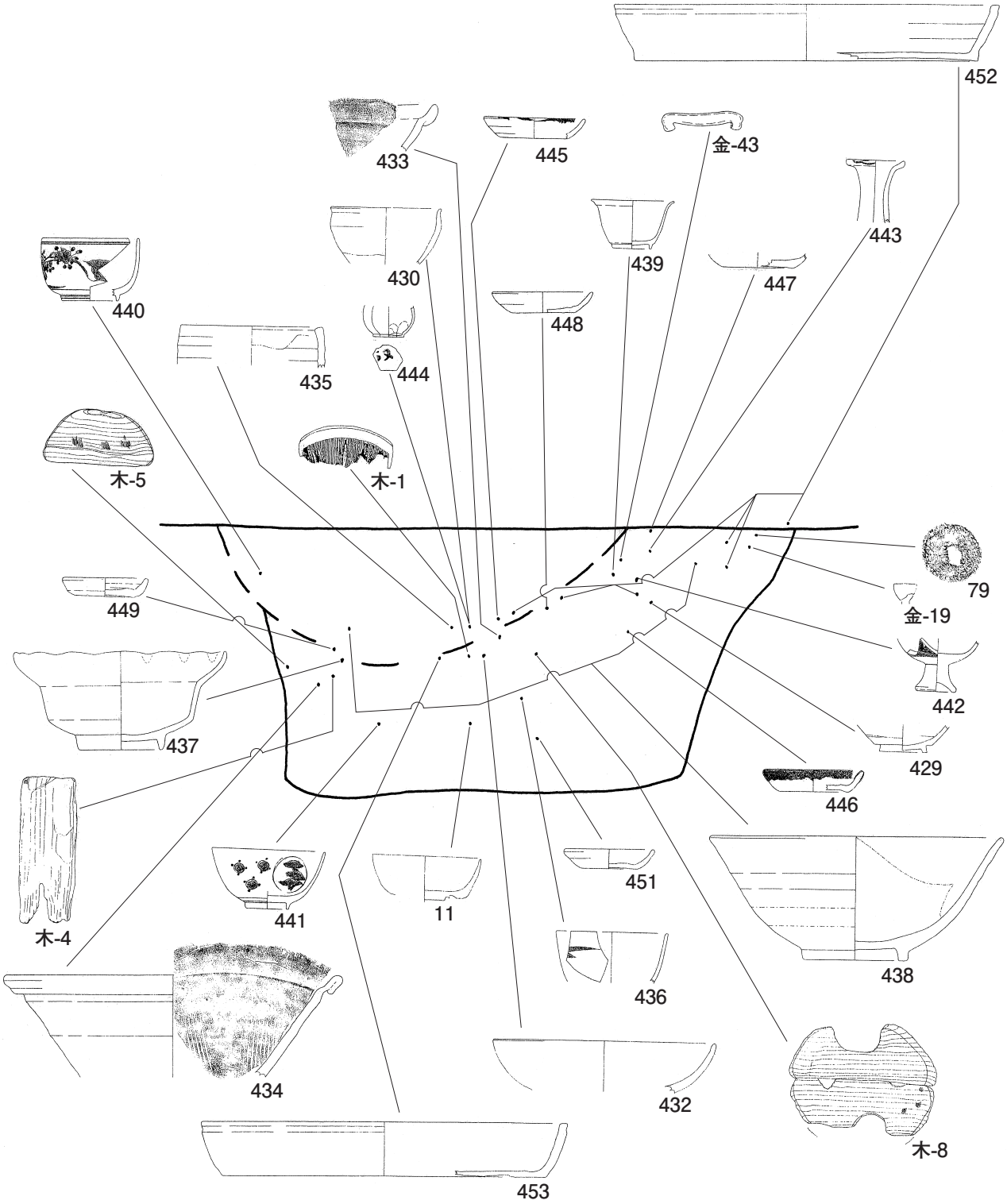
第20図　KB９遺構２


2井
2井
1井
11.60m
11.70m
L=11.60m
0
1/30
1m
0
1/60
2m
1号建物跡
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
L=11.80m
0
1/60
2m

第21図　KB９遺構３


14壙
13壙
11.80m
17壙
11.70m
19壙
L=11.70m
21壙
11.70m
16壙
D
D'
C
C'
B
B'
杭列
11.30m
D
D'
L=11.70m
C
C'
L=11.70m
B
B'
L=11.50m
16a号溝
16壙
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
L=11.70m
○16壙セクション
1 暗灰褐色土／FE、LB△ 締悪
2 暗灰褐色土（灰色強）／FE◎、LR△ 締悪
3 暗灰褐色土（灰色強）／FE、LR、LB◎ 軟質
4 暗灰褐色土（灰色強）／FE◎、LB△ 軟質
5 暗灰褐色土／FE、LR△ 締良
6 暗灰褐色土／FE、LR◎、砂△ 締良
7 暗灰褐色土／FE、LB、LR◎ 粘やや有 締良
8 暗灰褐色土（7層より暗）／FE△ 締良
9 暗灰褐色粘質土（8層より暗）／FE△ 軟度高
10 暗灰褐色土／BB△ 締良
0
1/60
2m

第22図　KB９遺構４



16号土壙遺物垂直分布図1/20

第23図　KB９遺構５

（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	南	なし	直線	ほぼ直上	幅30	14		瀬美(擂鉢・灯明皿)/かわらけ/板碑	～18c 末	
2号溝	南	5・18b 溝→○	直線	薬研	幅☆236	☆98	暗灰褐色/含上層　T	在地(擂鉢・土鍋＝15c 前)/かわらけ/焙烙/銭貨/板碑		
3号溝	南	1壙	直線	ほぼ直上	幅☆97	32	暗灰褐色	かわらけ/焙烙		
4号溝		欠番								
5号溝	南	18a 溝→○→2溝	直線	箱薬研	幅☆(140)	☆91	暗灰褐色/含上層 T△	かわらけ/銭貨	～18c 末	
6号溝	北	なし	コの字	ゆるやか	幅☆59	☆16	暗灰褐色/含T◎	常滑(甕)瀬美(端反皿又は丸皿・灰釉皿)		
7号溝	中	なし	不明	不明	不明	12	不明			
8号溝	中	23・24溝	直線	ほぼ直上(箱堀)	幅59	40	不明			
9号溝	中	23・24溝	直線	ゆるやか	幅45	16	不明	瀬美(丸皿)/肥前唐津(鉄絵皿＝16末17c 前)/かわらけ/焙烙＝17c	17c～	
10号溝	中	なし	直線	ゆるやか	幅25	8	不明			
11号溝	中	9溝	直線	ほぼ直上	幅35	10	不明			
12号溝	北	13溝、1井	直線		幅54		不明	瀬美(天目)/在地(擂鉢)/焙烙		
13号溝	北	12溝	直線		幅34		不明	瀬美(天目)/かわらけ/焙烙/煙管		
14a 号溝	北	14b 溝→○	直線	ゆるやか	幅☆140	☆42	暗灰褐色/含T△	瀬美(縁釉皿)/肥前磁器(染付碗＝17c 末18c)/かわらけ(ab 溝)	17c 末 18c 末	
14b 号溝	北	○→14a 溝	直線	ゆるやか	幅☆(110)	☆40	暗灰褐色/含T△		～18c 末	
15号溝	北	15壙	直線	ほぼ直上(箱薬研)	幅☆70	☆38	灰褐色/含Fe△	瀬美(縁釉皿)/在地(擂鉢)/かわらけ/焙烙		
16a 号溝	北	16b 溝→○	直線	ゆるやか	幅☆138	☆50	暗灰褐色	初山(徳利)/かわらけ/焙烙	16c～	
16b 号溝										16壙に振り替え
16c 号溝	北	16壙					不明	肥前磁器(染付碗＝18c)/かわらけ＝17c 後18c	18c～	
17a 号溝	中	17b・c 溝→○	直線	薬研	幅☆77	☆60	暗灰褐色/含Fe◎	常滑(甕)/碁石/かわらけ/焙烙(ab 溝)		
17b 号溝	中	○→17a 溝	直線	ゆるやか	幅☆(62)	☆42	暗灰褐色			
17c 号溝	中	○→17a 溝	直線	ゆるやか	幅☆(90)	☆50	暗灰褐色			
18a 号溝	南	○→5溝	直線	ほぼ直上	幅☆(64)	☆44	暗灰褐色/含上層　T		～18c 末	
18b 号溝	南	○→2溝	直線	ゆるやか	幅☆(80)	☆(54)	暗灰褐色			
19号溝	南	○→7壙	直線	ゆるやか	幅☆(294)	☆60	黒灰褐色/含BBR△	中国(染付皿＝16c)/瀬美(鉄絵皿・志野皿・甕・天目・縁釉小皿)/志戸呂(擂鉢)/肥前唐津(皿)/肥前磁器染付小瓶＝17c 後/土鍋/かわらけ/焙烙/銭貨/火打石	17C～	
20a 号溝	中	? 20b・20e 溝→○	直線	ゆるやか	幅☆(104)	☆52	暗灰褐色/含Fe◎	瀬美(丸皿)/肥前磁器(染付碗天目形＝17c 中)(20溝)/火打石		
20b 号溝	中	20f・20c 溝→○→20a 溝	直線	ゆるやか	幅☆(114)	☆50	灰褐色/含Fe◎			
20c 号溝	中	○→20b 溝	直線	ゆるやか	幅☆(54)	☆(20)	灰褐色/含Fe◎			
20d 号溝	中	20c 溝	直線	ゆるやか	幅☆(74)	☆20	灰褐色/含Fe◎			
20e 号溝	中	20f 溝→○→20e 溝	直線	ほぼ直上	幅☆(68)	☆30	暗灰褐色/含Fe◎			
20f 号溝	中	○→20e 溝	直線	ゆるやか	幅☆(62)	☆26	灰褐色/含Fe◎			
21号溝	中	なし	直線	ゆるやか	幅(240)	50	不明	瀬美(丸碗＝18c・天目・丸皿・擂鉢・煙硝鉢)/肥前唐津(鉢＝17c 後・火入＝17c 後)/肥前陶器(京焼風鉢＝17c)/志戸呂(擂鉢)/丹波(擂鉢＝17c 末)/堺ヵ(擂鉢)/肥前磁器(青磁鉢＝17c 後・染付碗＝17c 後18c)・在地(火鉢)/かわらけ/焙烙＝17c18c/釘/煙管/粉挽臼(上臼)/硯/板碑/骨	18c～	
22号溝	中	20f 溝→○	直線	毛抜き	幅☆60	☆20	暗灰褐色			
23号溝	中	9・10・24溝	直線	毛抜き	幅44	22	不明			
24号溝	中	9・23溝	直線	ほぼ直上	幅35	16	不明			
25号溝	中	なし	直線	ゆるやか	幅☆75	☆28	暗灰/含Fe◎	瀬美(天目)/かわらけ/焙烙		
26号溝	北	16a 溝、21壙	直線		幅68			瀬美(丸皿)/在地(火鉢)/硯		
1号井戸	北	12溝	円形	直上 下位に段	132×122	170	暗灰褐色/含LB◎	瀬美(大皿・碗・向付・志野丸皿)/かわらけ		
2号井戸	北	なし	円形	直上・側板	80	140	暗灰褐色/含Fe△・S▲	肥前磁器(染付鉢＝17c 後・白磁小杯)/漆椀	17c 後～	
1号建物	中	11溝	方形		356×202					
1号土壙	南	35溝	長方形	ほぼ直上	490×88	☆20	暗灰褐色/含T△	常滑(甕)/かわらけ/焙烙		
2号土壙	南	3壙	長方形	ほぼ直上	236×90	☆24	暗灰褐色			
3号土壙	南	2壙	長方形	ほぼ直上	(250)×96	20	不明			

第5表　KB9遺構一覧表1

（　　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	位置	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ	覆土	出土遺物	年代	備考
４号土壙	南	なし	長方形	ほぼ直上	(414)×(60)	20	不明			
５号土壙	南	欠番					不明			
６号土壙	南	なし	長方形	ほぼ直上	152×74	11	暗灰褐色			
７号土壙	南	○→19溝	長方形	ほぼ直上	280×130	40	暗灰褐色	龍泉(青磁碗＝13c)	13c～	
８号土壙	中	20壙・９溝	長方形	ほぼ直上	400×100	30	不明	かわらけ		
９号土壙	北	なし	長方形	ほぼ直上	240×60	10	不明	瀬美(天目)		
10号土壙	北	13溝	長方形	ほぼ直上	240×70	10	暗灰褐色			
11号土壙		欠番								
12号土壙	中	20溝	楕円形	ほぼ直上	190×124	12	不明			
13号土壙	中	14壙	円形？	ゆるやか	(94)	10	不明			
14号土壙	中	13壙	円形	ほぼ直上	60	50	不明			
15号土壙	中	16壙			117×67			瀬美(織部向付・織部徳利)	17c～	遺物のみ
16号土壙	北	○→16a 溝/？14a・b・15・16c 溝	長方形	ほぼ直上	600×227	92	暗灰褐色/含 Fe ◎・LR△	常滑(甕)/瀬美(天目・稜皿・大皿・擂鉢＝18c・筒形香炉＝17c～18c)/肥前陶器(京焼風丸碗・鉢＝18c～19C)/志戸呂(鉢＝17c～)/肥前唐津(大皿)/肥前磁器(白磁小杯＝17c 末・染付碗＝17c 後～18c・仏飯器＝18c・染付瓶＝17c 後・白磁六角小瓶)/かわらけ＝18c/焙烙＝17c～18c/瓦/煙管/小柄/錘/銭貨/櫛/桶(側、底板)/樽(蓋板ヵ)漆椀/板材/竹/ひょうたん/スラグ75g	18c～	
17号土壙	北	21壙	長方形	直上する(オーバーハング)	(230)×100	80	暗灰褐色	常滑(甕)/瀬美(天目)/肥前陶器(京焼風皿＝18c 末19c 中)/肥前磁器(小碗)	18c 末～	
18号土壙	北	欠番								
19号土壙	南	19溝	長方形	ほぼ直上	184×100	42		焙烙＝16c/火打石／板材	16c～	
20号土壙	中	８壙	不明	ゆるやか	80×(46)	8				
21号土壙	北	26溝、17壙	円形	直上する	137×125	26		志野(丸皿＝17c 前)/かわらけ	17c～	

第６表　KB９遺構一覧表２

KB９　21溝　硯（石－16）出土

第４節　第19次

（１）調査概要

調査担当　　坂本征男　嶋村英之

調査期間　　平成２年７月５日～９月10日

調査面積　　60㎡

調査の経過

建築予定地に９m×6.5mの調査区を設定し、表土を人力により掘り下げた。確認面はローム層である。排水のため北及び東端に側溝を設けた。中近世以降の遺構では土壙が２基が確認されたのみである。調査の際黒曜石の剥片等が出土したため、ローム層掘り下げにあたり土層観察用のベルトを設けて調査を進めた。剥片・チップほぼ調査区全域に分布していた。その図化は調査区全体は平板測量により、土層等は水糸を基準としてメジャーにより実測した。基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

周辺の調査（第７図）

KB３区が西接、第20次が南接、第６次が東接する。KB３区（本報告）では溝・井戸・土壙が検出されるが当調査区周辺は散漫である。第20次では溝が縦横に走行している。本区同様黒曜石剥片が集中する。第６次では土壙が確認された。いずれも、遺構は少なく、確認面は黒色土で、地山は低くなり南に傾斜している。

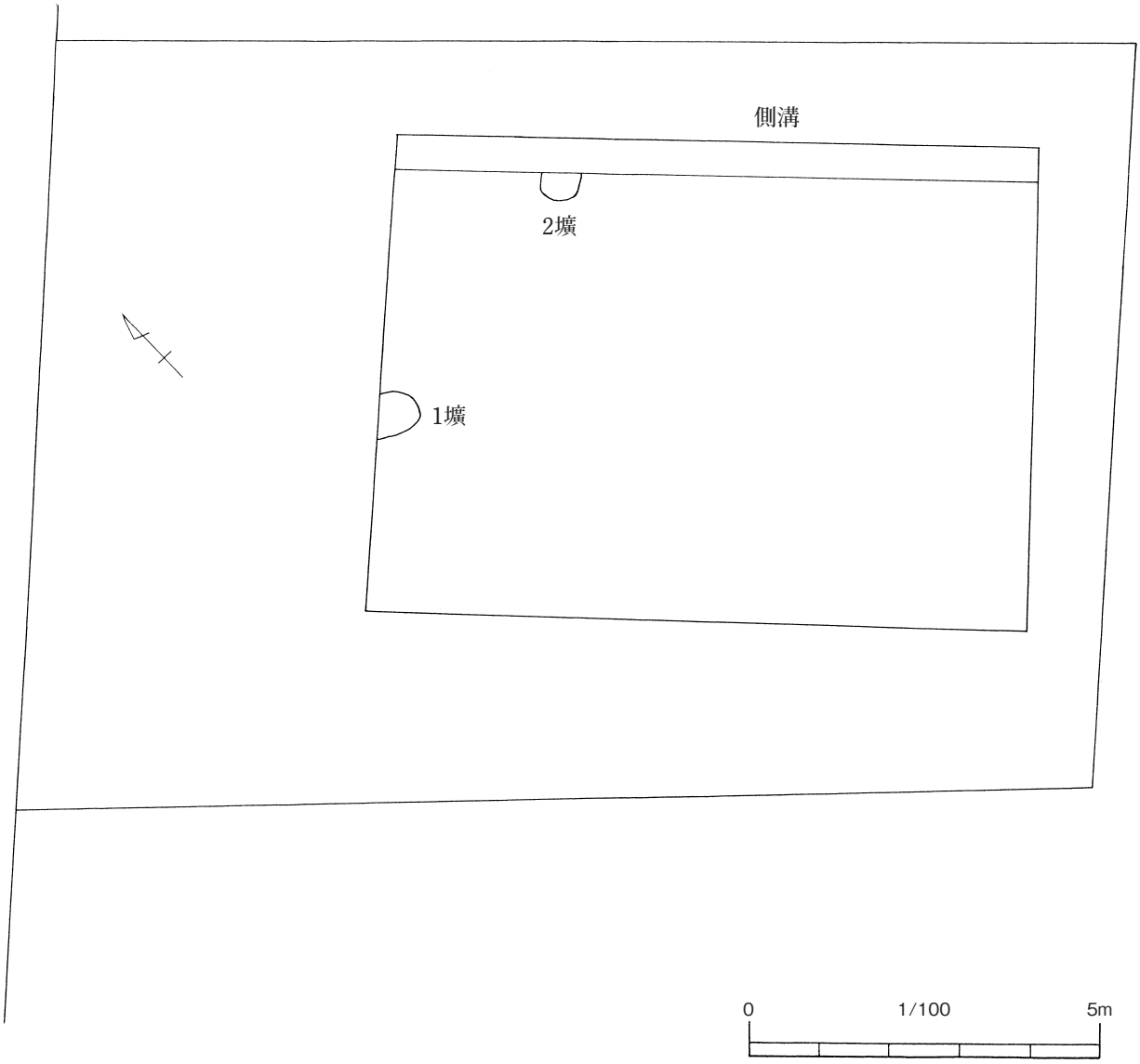
（２）遺構と遺物

【土壙】２基検出された。

１号土壙　東端にあり、一部調査区外。平面円形で、直径76cm（残存）・深さ10cmである。

２号土壙　北端にあり、一部調査区外。平面円形で、直径60cm・深さ12cmである。

遺構外出土遺物　少量で瀬戸美濃稜皿、肥前唐津鉢・磁器碗、山茶碗などがある。（土－563～569）。スラグ105g。



第24図　第19次　遺構位置図

（　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号土壙	なし	隅丸長方形か	ほぼ直上	(76)×70	10	不明	―		
２号土壙	なし	不整円形か	ゆるやか	60×(50)	12	不明	―		

第７表　第19次遺構一覧表

第５節　第20次

（１）調査概要

調査担当　　教育総務課　坂本征男　嶋村英之

調査期間　　平成２年９月18日～11月22日

調査面積　　56㎡

調査の経過

建築予定地に8.5m×７ｍの調査区を設定し、表土を人力により掘り下げた。ローム層を遺構確認面とし溝・土壙の調査を実施した。その際、慎重に遺構を確認するためトレンチを等間隔に設定し掘り下げた。遺構検出および掘り下げの際、湧水が支障となるため必要に応じて排水のため北・東・南端に側溝を設けた。本調査区及び隣接区の調査の際黒曜石の剥片等が出土したため、北側に拡張しソフトローム以下を調査した。その際土層観察用のベルトを設けて調査を進めた。剥片・チップほぼ調査区全域に分布していた。その図化は調査区全体は平板測量により、土層等は水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

周辺の調査（第７図）

KB３区が西接、第20次が南接、第６次が東接する。KB３区では溝・井戸・土壙が検出されるが当調査区周辺は散漫である。19次では土壙を２基検出した。本区同様黒曜石剥片が集中する。６次では土壙が確認された。いずれも、遺構は少なく、確認面は黒色土で、地山は低くなり南に傾斜している。

（２）遺構と遺物

【溝】調査区縦横に溝が走行し６条を数える。大規模なものは少なく５・６号溝が幅100cmを超える。

１号溝　南に位置し東西方向に走行する。幅80cm・深さ60cmである。３号溝より古い。

２号溝　１号溝に並行する。幅58cm（残存）・深さ44cm（残存）である。

３号溝　南端に位置し１号溝と切り合う。２号溝とつながるか。幅60cm（残存）・深さ50cm（残存）である。

４号溝　調査区中央を南北に走行する。幅96cm・深さ35cmである。

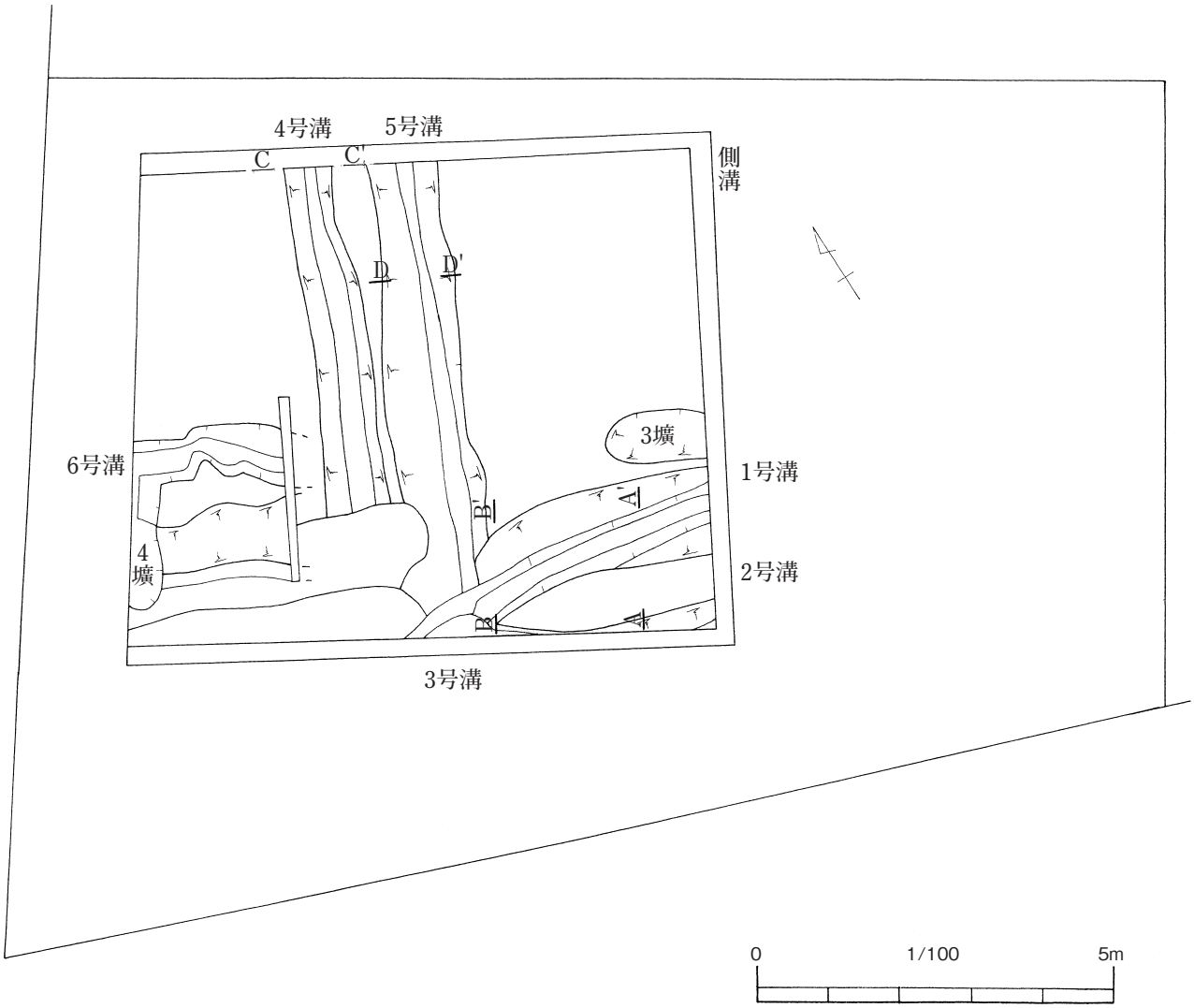
５号溝　４号溝の東側に並行する。幅175cm・深さ110cmである。断面薬研堀。

６号溝　西側で東西方向に走行し途中不明となる。幅110cn（残存）・深さ45cmである。

【土壙】４号まで命名したがいずれも明確に遺構と認定できない。

遺構外出土遺物　龍泉窯系青磁、常滑甕、瀬戸美濃志野皿、丹波鉢（土－571～578）がある。ほかに煙管吸口（金－26・27）・砥石がある。スラグ15g。

第20次　調査風景

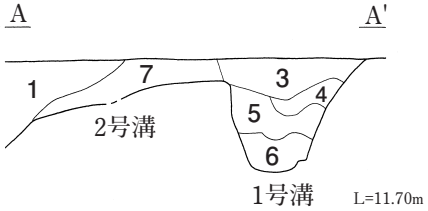


第25図　第20次　遺構位置図

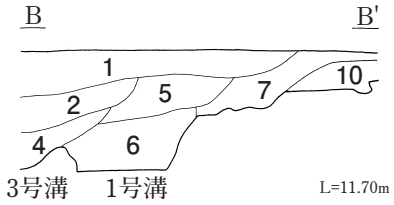
（　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
1号溝	○→3溝	やや弧状	箱堀	幅☆80	☆60	暗灰褐色			
2号溝	3溝	直線？	ゆるやか	幅☆(58)	☆(44)	暗灰褐色			
3号溝	1溝→○	不明	ゆるやか	幅☆(60)	☆(50)	暗灰褐色			
4号溝	なし	直線	毛抜	幅☆96	☆35	暗灰褐色	磁器/甕/火鉢/在地擂鉢		
5号溝	1溝	直線	薬研	幅☆175	☆110	暗灰褐色/含T		～18c末	
6号溝	なし	直線？	不明	幅☆(110)	☆45	不明	陶器/かわらけ		
1号土壙	―	長方形？	ゆるやか	(192)×86	☆16	暗灰褐色/T◎			位置不明
2号土壙	―	長方形？	ほぼ直上	(192)×72	16	暗灰褐色/含T	磁器		位置不明
3号土壙	なし	楕円形	ゆるやか	(144)×76	21	不明			
4号土壙	なし	―	―	―	―	不明			1/20図無

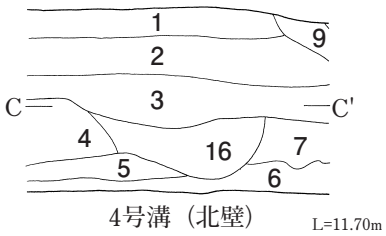
第８表　第20次遺構一覧表



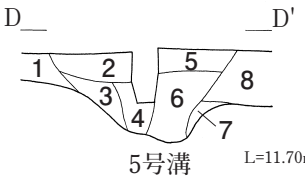
○１溝２溝セクション
1　暗灰褐色土（灰色）／LR、C▲　締良　→　２溝
3　暗灰褐色土（黄色）／LR、LB◎、C、赤色R▲　締良
4　褐色土（黄色）／C▲　粘強　締悪
5　暗灰褐色土（黄色）／LR、LB◎、C、赤色R▲　やや締悪　　１溝
6　暗褐色土（黄色）／LR、LB◎、FE◎　締悪
7　暗灰褐色土（やや暗）／LR、赤色R、C▲　やや締悪



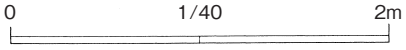
○１溝３溝セクション
1　暗灰褐色土／T、黄色R◎、C、LB、LR▲　締良
2　暗灰褐色土／LRのブロック、C、LB▲　やや締悪
4　暗灰褐色土／LR、LB、C▲　締悪　　３溝
5　暗灰褐色土／LR、LB、C▲　やや締悪
6　暗灰褐色土／LRのブロック、C、LR▲、LB▲、黒色土◎　締良　→　１溝
7　暗灰褐色土／LR、LB、C、黒色土▲　締良
10　暗灰褐色土／粘性の白色土◎、黒色土◎、LR、LB▲　締良



○４溝（北壁）セクション
1　表土
2　暗灰褐色土／T◎、赤色R、CR、LR·LB▲　締良
3　暗灰褐色土／T△、赤色R、CR、LR、LB▲　締良
4　暗灰褐色土／黒色土▲、赤色R、CR、黄色R、LR、LB▲、FE◎　やや締悪
5　茶褐色土／LR、FE◎　締良
6　ローム（ハード）
7　暗灰褐色土／LR、黄色R◎、CR▲、LB▲　やや締悪
9　暗灰褐色土／T◎（２層より△）、赤色R、CR、LR、LB▲　締良
16　暗灰褐色土／LR、黄色R◎、CR▲　締悪　→　４溝



○５溝セクション
1　暗灰褐色土／LR、LB▲、黄色R▲　締良
2　暗灰褐色土／LR、LB▲、黄色R▲　締良
3　暗灰褐色土／LR△、LB▲　締良
4　暗灰褐色土／LR、LB、黄色R▲　締悪　　５溝
5　暗灰褐色土／LR、LB▲、黄色R▲　締良
6　暗灰褐色土／LR、LB、黄色R、C、褐色粘質土▲
7　暗灰褐色土（褐色）／L
8　暗灰褐色土／LR、LB、黄色R、C、褐色粘質土▲　締良



土層説明凡例
土層名／含有物
テフラ＝T
ローム＝L
炭化物＝C
焼土＝S
酸化鉄＝FE
黒褐色＝BB
黒色＝B
褐色＝Br

粒子＝R
ブロック＝B

多量＝◎
少量＝△
微量＝▲
やや暗い＝やや暗
締まり良し＝締良
締まり悪し＝締悪
粘性強し＝粘強

第26図　第20次　遺構

第６節　第21次

（１）調査概要

調査担当　　教育総務課　坂本征男　主査島村範久

調査期間　　平成３年１月10日～２月８日

調査面積　　66㎡

調査の経過

排土置場となる庭予定地で先行してトレンチ調査を行った。その後住宅建設予定地に10.5m×5.5mの調査区を設定し掘り下げた。ローム層を遺構確認面とし溝・土壙の調査を実施した。隣接するKB２区で検出された溝の走行を確認するため、調査区両端を南側にトレンチ状に延長し調査した。遺構の図化は調査区全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は大英寺に所在する基準点から計測し使用した。

周辺の調査（第７図）

KB２区が西接、第７次が南接する。いずれも既報告である。KB２区は６－31区で、溝・土壙が確認された。隣接する溝はいずれも東西方向に走行する。第７次では溝・井戸・建物跡・土壙が濃密に分布している。

（２）遺構と遺物

【溝】　調査区の北と南の端に１条ずつ計２条確認され、東西方向に走行する。

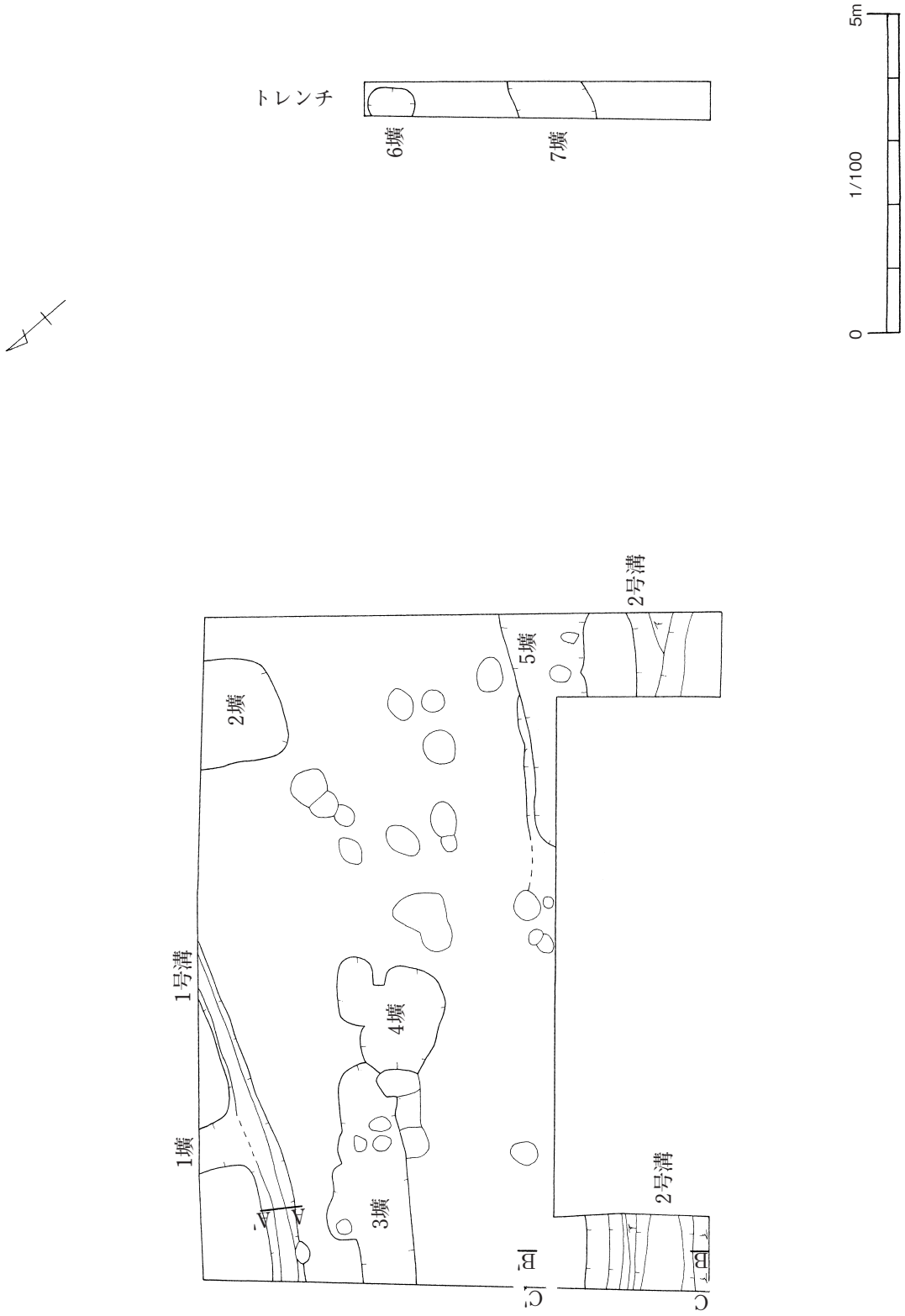
１号溝　幅50cm・深さ26cmの小規模なものである。

２号溝　南側の東西両端に入れたトレンチで確認したもので全形は不明である。幅239cm（残存）・深さ94cmである。KB３区22号溝とつながる。断面箱薬研状である。

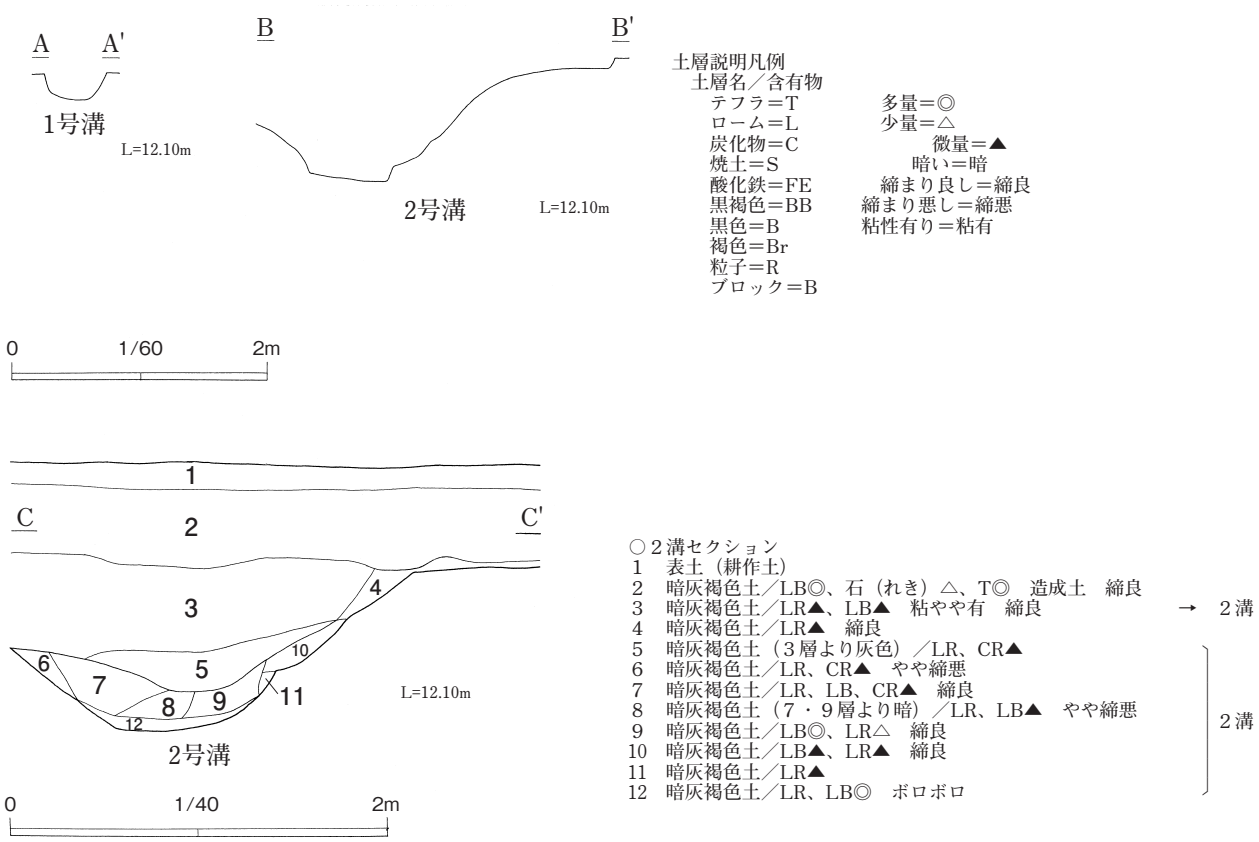
【土壙】総数７基で、調査区に５基トレンチで２基確認した。調査区全域に散漫に分布する。

遺構外出土遺物　常滑甕、瀬戸美濃縁釉皿、備前鉢、肥前磁器碗・鉢、かわらけ（土－579～585）や弾丸（金－39）がある。

第21次　調査前風景



第27図　第21次　遺構位置図



第28図　第21次　遺構

（　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	１壙→○	直線	ほぼ直上	幅50	☆26	暗灰褐色			
２号溝	なし	直線？	箱薬研状	幅☆(239)	☆94	暗灰褐色			
１号土壙	○→１溝	長方形？		68	☆34	暗灰褐色			
２号土壙	落ち込み	長方形？	ほぼ直上	175×(124)	20	暗灰褐色			
３号土壙	４壙→○	隅丸長方形	ほぼ直上	(350)×84	☆38	暗灰褐色			
４号土壙	ピット/落ち込み	楕円形	ゆるやか	(180)×106	☆40	暗灰褐色			
５号土壙	３つの遺構の重複	不整形	ゆるやか	(370)×144	20	不明			
６号土壙	なし	楕円形	断面不明	80×(50)	27	不明			1T1壙
７号土壙	なし	長方形？	ゆるやか	120×(60)	☆22	暗灰褐色			1T2壙

第９表　第21次遺構一覧表

第21次　調査風景

第７節　第29次

（１）調査概要

調査担当　社会教育課　主事坂本征男　主任島村範久

調査期間　平成４年２月17日～３月19日

調査面積　117㎡

調査の経過

排土置場となる駐車場予定地を先行してトレンチ調査を行った。その後建物建設予定地に9.5m×6.5mの調査区を設定し掘り下げた。ローム層を遺構確認面とし溝・土壙の調査を実施した。検出された１溝の走行を確認するため調査区の南側及び西側をトレンチ状に延長し調査した。遺構の図化は調査区全体は平板測量により、各遺構は任意に設定した水糸を基準としてメジャーにより実測した。

基準杭の標高は第27次に所在する基準点から計測し使用した。

周辺の調査（第７図）

KB２区の６－32号線東区が北接、第11次が東接、第44次が南接する。KB２区では多数の溝・井戸・土壙が確認されたが隣接地では浅い長方形の土壙が多い。11次では隣接側に井戸・土壙が分布する。44次では、溝・井戸・土壙が濃密に分布する。

（２）遺構と遺物

【溝】　南端に１条確認され、東西方向に走行する。また、第２トレンチでも１条東西方向に走行する。

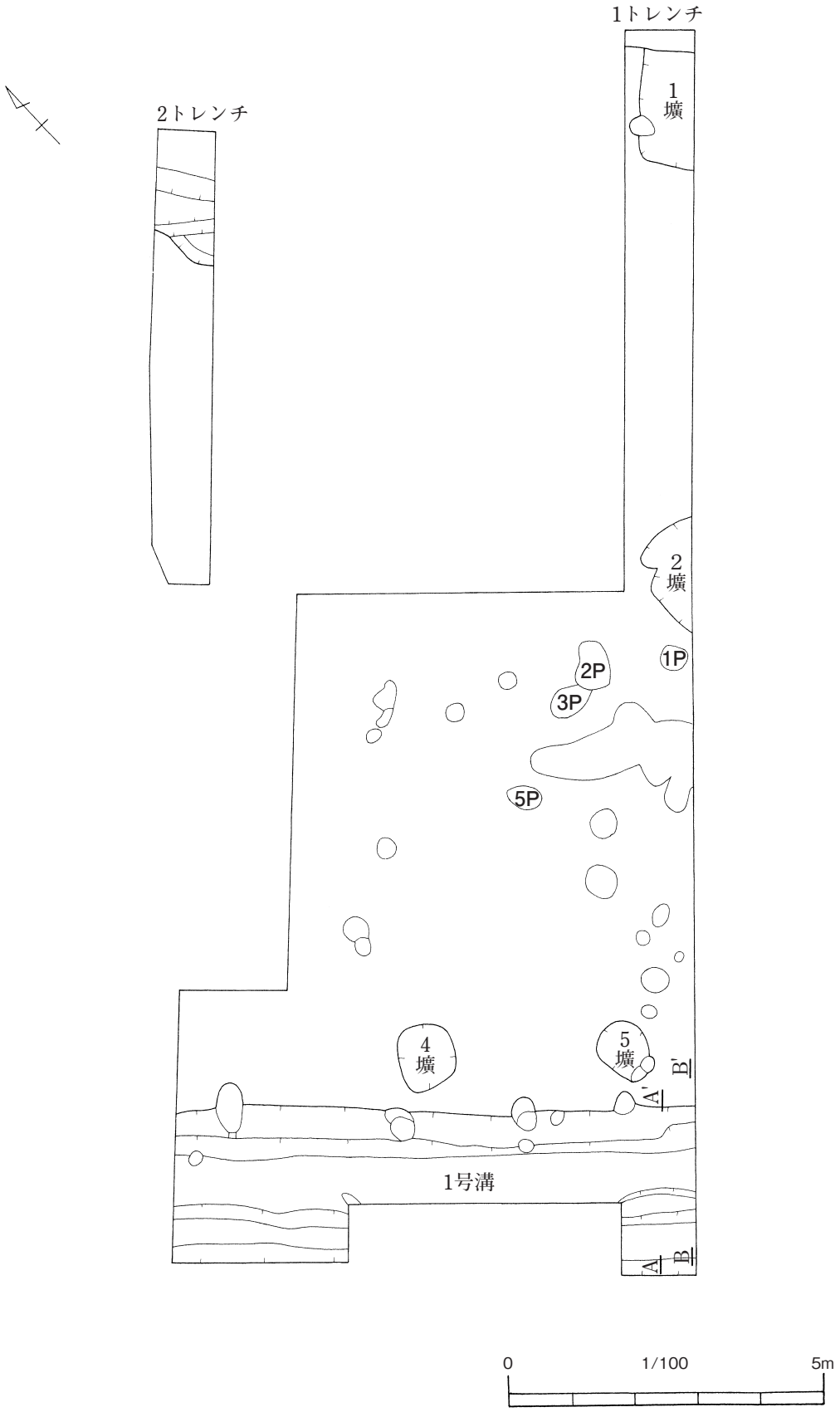
１号溝　東西両端にトレンチを設定し規模を確認したが、南側は調査区外のため全容は不明である。幅294cm（残存）・深さ170cmと大規模なもので断面箱堀である。テラス部分は重複する溝であろうか。

出土遺物は中国染付、常滑甕、瀬戸美濃折縁深皿・志野菊皿・擂鉢・香炉・有耳壺・梅瓶・丹波擂鉢・肥前磁器皿、土鍋（土－586～611）である。

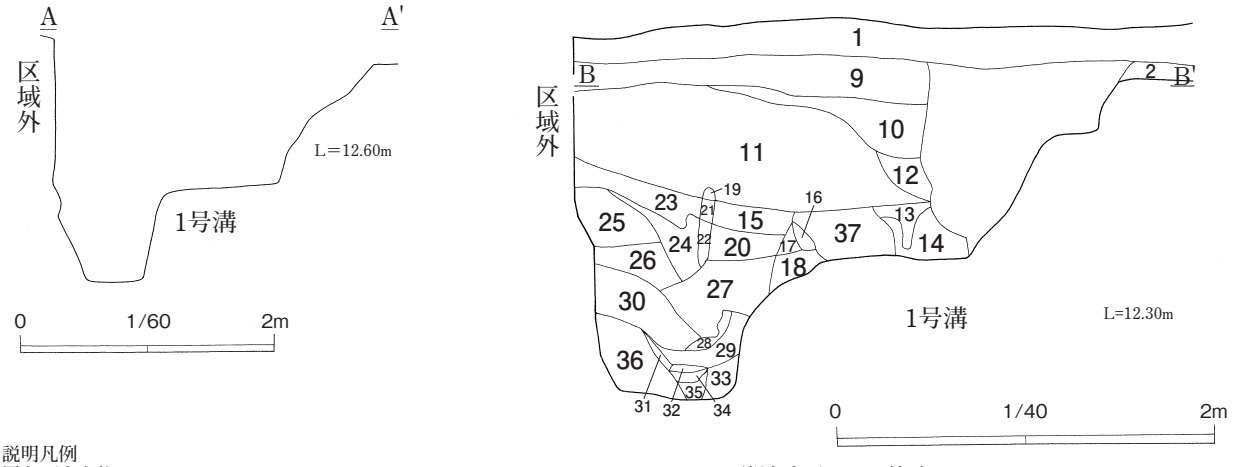
【土壙】　５号まで命名したが、欠番により総数４基である。

遺構外出土遺物　弾丸（金－40）・碁石（石－15）砥石・五輪塔地輪（石－113）がある。スラグ62g。

第29次　調査前風景



第29図　第29次　遺構位置図



土層説明凡例
土層名／含有物
テフラ＝T
ローム＝L
炭化物＝C
焼土＝S
酸化鉄＝FE
黒褐色＝BB
黒色＝B
褐色＝Br
粒子＝R
ブロック＝B

多量＝◎
少量＝△
微量＝▲
締まり良し＝締良
締まり悪し＝締悪
粘性有り＝粘有

○１溝セクション
1　表土
2　暗灰褐色土（やや黄色）／LR◎、T◎　締良
9　暗灰褐色土／T◎、LR、LB、C▲　締良
10　暗灰褐色土／T△、LB、C▲、LR△　締良
11　暗灰褐色土／LR、LB、赤色R、C▲　締良
12　暗灰褐色土／T△、LR、LB▲、赤色R▲　締良
13　灰色土／LR、LB、FE▲　締良
14　灰色土／LR、LB、FE▲　締良
15　灰褐色土／LR、LB、C▲　やや締悪
16　灰色土／LR、LB▲　締悪
17　灰色土／LR、LB、C▲、FE▲　締悪
18　灰色土／LR、LB、FE▲　やや締悪
19　暗灰褐色土／LR▲　ボロボロ
20　灰褐色土／LR、LB▲、FE△　やや締悪
21　暗灰褐色土／LR▲　ボロボロ
22　灰褐色土／LR▲　締悪
23　灰褐色土／LR、LB、C▲　締良
24　灰褐色土／LR、LB▲、FE△　締良
25　暗灰褐色土（やや茶黒褐色）／LR◎、LB▲、FE▲　締良
26　暗灰褐色土（やや茶黒褐色）／LR、LB◎、FE▲　やや締悪
27　灰褐色土／LR、LB▲、FE◎　締悪
28　黄色土／LR、LB　やや締悪
29　黒色土（淡）／LR、LB▲　締悪
30　暗灰褐色土（やや灰褐色）／LR、LB◎、FE▲　やや締悪
31　灰色土（白）／LR▲　粘有　締悪
32　灰色土（白）／LR▲　粘有　締悪
33　黒色土／木の葉◎　締悪
34　黒色土／LR、LB▲
35　黒色土／記載なし
36　黄褐色土／LR◎、LB▲　締悪
37　灰褐色土／FE△、LR、LB▲　締良

第30図　第29次　遺構

（　）は残存値、☆はセクション図計測値　○は当該遺構　覆土（T＝テフラ、L＝ローム、S＝焼土、C＝炭化物、Fe＝酸化物／B＝ブロック、R＝粒子）

遺構名	重複	平面形	断面形	規模(cm)	深さ(cm)	覆土	出土遺物	年代	備考
１号溝	なし	直線	箱堀ほぼ直上	幅☆(294)	☆170	暗灰褐色	中国(染付皿＝16c末17c前)/常滑(甕)/瀬美(天目＝17c前中・折縁深皿＝15c前・端反皿・志野菊皿・擂鉢・片口鉢＝17c～・香炉＝18c・有耳壺＝17c～・梅瓶又は瓶子・徳利形瓶・梅瓶・蓋＝17c～/丹波(擂鉢＝17c後)/肥前磁器(染付皿＝18c末19c中)/在地(土鍋＝～16c・片口鉢＝13c後)/かわらけ/焙烙＝16c/粉挽臼(上臼)/茶臼(下臼)/砥石/板碑	18c～	
１号土壙	なし	長方形	ゆるやか	(180)×(72)	☆30	暗灰褐色			
２号土壙	なし	不整円形	ゆるやか	180×(62)	16	暗灰褐色			
３号土壙	欠番								
４号土壙	なし	円形	ゆるやか	116×100	16	暗灰褐色			
５号土壙	なし	不整円形	ほぼ直上	86	40	不明			

第10表　第29次遺構一覧表

第29次　調査風景

第Ⅳ章　出土した遺物

第１節　土器類

今回報告のKB３・６・９調査区、及び第19・20・21・29次調査区から出土した陶磁器類には、国産陶磁器と輸入陶磁器がある。国産の陶磁器類には瀬戸美濃、肥前、常滑、志戸呂、初山、丹波、堺、備前、在地などがあり、また、輸入陶磁器には同安窯系・龍泉窯系青磁、白磁、染付、褐釉などがある。

なお、かわらけの編年は、騎西城武家屋敷跡KB大英寺・１・２区調査報告書による編年を用いている。（注１）

KB３区出土陶磁器（第31～48図）

１～６は１溝出土遺物である。１は常滑の山茶碗系の片口鉢（Ⅰ類）で、体部外面下方のヘラ削りは１段である。２は瀬戸美濃の縁釉小皿で口縁部外面から内面にかけて灰釉が施されている。３～６は在地産である。３は騎西城Ⅳ期のかわらけで、ロクロ左回転である。４・５はほうろくで、４の内耳は口縁部から底部にかけて付けられている。５は体部内面の中央に稜がめぐるものである。22壙出土のものと接合した。６は片口鉢で口唇部の平坦部に凹線がめぐり、口唇部内側が上方に尖る。

７～96は２溝出土遺物で７～９は輸入陶磁器である。７は内面に櫛目の文様が施される同安窯系青磁碗で、８は外面に草花文が描かれている染付碗。９は削り込み高台の染付皿で、見込みに芭蕉葉文が描かれている。

10～58は瀬戸美濃である。10は平碗で内外面に灰釉が施されている。11～22は天目茶碗である。11～14、16～22はいずれも内外面に鉄釉が施され、22は鉄釉を施したあと内外面に灰釉を流し掛けする。15は内外面に長石釉を施す白天目である。23～36は皿類で23・24は縁釉小皿である。23は口縁部が外反するもので、口縁部内外面に灰釉が施されている。24は口縁部を欠くが見込みに鉄釉が溶着したトチンの痕が残る。25は内外面に灰釉を施したあと内面に銅緑釉を流し掛けする皿で、見込みと高台内には円錐ピンの痕が残る。26の見込みには鉄で菊花文が描かれ、円形に重ね焼きの痕が残る。高台は貼り付け高台で、高台周辺を除き長石釉が施されている。27は青織部皿で口縁部内外面に銅緑釉が施され、見込みには長石釉が施されている。口縁部内面には波文が線刻され、口縁部の一部をつまんで輪花風にしている。28は輪禿皿で見込みにドーナツ状の凸部を持ち、中央に印花文が押印されている。高台周辺と凸部周辺を除き長石釉が施されている。２井・３井出土のものと接合した。29・30は志野丸皿である。29は内外面に長石釉が施され、高台内には円錐ピンの痕が残る。30は内外面に灰色が強い長石釉が施されている。31・32は内外面に灰釉が施される丸皿である。33は丸皿で薄い灰釉が内外面に施されている。34は反り皿で口縁部が外反し、内外面に薄い灰釉が施されている。３井出土のものと接合した。35・36は菊皿である。型打ち整形のあと高台を貼り付け、高台周辺を除き灰釉が施されている。37は花瓶の頸部で内外面に灰釉が施されている。38は志野小坏で体部は削り込みの高台より内湾して立ち上がり、内外面に長石釉が施されている。39～54は鉢類である。このうち39～51は擂鉢で、いずれも内外面にサビ釉が施されている。43・44は口縁部が外折れし端部が上下方向に突出する。46～48は口縁部に縁帯を形成するものである。52は折縁深皿または直縁大皿で、内面下方及び高台周辺を除き灰釉が施され、内面下方には灰釉がハケ塗りされている。53・54は鉄絵鉢で内面に鉄で草文が描かれ、53は高台周辺を除き長石釉が施されている。55は徳利で高台周辺を除き鉄釉が施され、内面及び高台周辺にはサビ釉が施されている。７溝出土のものと接合した。56・57は双耳壺で耳部を欠く。口縁部内面から外面にかけて鉄釉が施され、57の外面には灰釉を流し掛けする。58は内外面に鉄釉が施される向付である。

59は肥前系陶器の唐津皿または向付と思われ、底部を除き内外面に灰釉が施されている。

60・61は内外面にサビ釉が施される志戸呂の擂鉢で、60の残存の櫛目は11本である。61は口縁部に縁帯を形成するものである。

62は初山の天目茶碗で内面に鉄釉が施されている。

63は備前の平鉢で口縁部が外側に折り返され、断面は丸くなる。内外面のロクロ痕が顕著である。

64・65は丹波の擂鉢で口縁部の断面は方形に近く、64には注ぎ口が付けられている。64・65ともに櫛目は５本である。

66～72は肥前系磁器である。66～70は染付碗で外面には草花文が描かれている。内外面に透明釉が施され、66・69の高台端部には砂が溶着している。なお、68はKB１の12号溝出土のものと接合した。71は天目形碗で口縁部内面から外面にかけて青磁釉、内面には透明釉が施されている。72は染付徳利で外面に圏線や草などの文様が描かれ、外面及び口縁部内面には透明釉が施されている。

73～96は在地産である。73～83はかわらけで73・74・80・82が騎西城Ⅲ期、76・81はⅣ期、他は不明である。ロクロ回転方向は73～78・80・81・83が左回転、82が右回転、79は不明である。81・82の底部中央には焼成後に孔が開けられ、82の口唇部には油煙の痕が残る。84は口縁部が長い土鍋で、口縁部内面に稜がめぐり口唇部は外側が尖る。内耳は口唇部から体部にかけて付けられいる。85～93はほうろくである。内耳が口唇部から体部下半に付くもの（85・86・89・90・93）と口唇部直下から体部に付くもの（88）がある。なお、88は５井出土のものと接合した。94・95は片口鉢である。94は口縁端部が膨らみ内側が上方へ突出する。内面が粗れており胎土に小石を含む。95は口縁部外面が丸みを帯び口唇部が若干尖る。96は口縁部が直立する奈良風炉の口縁部と思われる。器面全体に丁寧なヘラナデ整形が施され、特に口唇部から外面にかけては光沢がある。また、外面に黒漆が一部残っていることから、外面には黒漆が施されていたものと考えられる。

97・98は２b溝出土遺物である。97は口縁部に縁帯を形成する瀬戸美濃の擂鉢で、口縁端部が膨らみ内外面にサビ釉が施されている。98は志戸呂の擂鉢で体部外面にはヘラ削りはない。底部周辺を除きサビ釉が施され、現存の櫛目は16本である。

99～114は４溝出土遺物である。99は輸入陶磁器の白磁口禿皿で口唇部を除き内外面に釉が施されている。100～103は常滑である。100は甕系の片口鉢（Ⅱ類）で内面がよく磨れている。101～103は甕で、101は口縁部が外側に折り返され体部に密着し縁帯を形成する。14溝出土のものと接合した。102は口縁部が屈曲して外反し、口縁端部は上方にのびて受け口状になり受け口の下端がわずかに下がる。103は甕の底部で外面には縦方向の工具痕が残り、内面には自然釉がかかる。

104～106は瀬戸美濃である。104は天目茶碗で高台周辺を除き鉄釉が施され、高台周辺にはサビ釉が施されている。105は内禿皿で体部は削り込み高台より立ち上がる。見込みを除き鉄釉が施され、見込みと高台内に輪トチンのあとが残る。106は耳付水注で内外面に鉄釉が施されている。なお、注ぎ口の孔は溶けた鉄釉により塞がれている。

107は初山の天目茶碗で高台周辺を除き鉄釉が施されている。

108～114は在地産である。108～110はかわらけで109が騎西城Ⅰ期、110がⅡ期、108は不明である。ロクロ回転方向は108が右回転、109が左回転、110は不明である。なお、109の口唇部には油煙の痕が残る。111はほうろくで体部内面中央に稜がめぐる。内耳は口唇部から体部下半に付けられている。112・113は片口鉢である。112は口縁部は半月状で口縁部内面が若干くぼみ、須恵質で叩くと金属音がする。113は口縁部外面がくぼみ口唇部が上方に尖るもので、内面下方がよく磨れている。114は素焼擂鉢の底部で、内面には５本の櫛目が交差して施されている。16溝・16A溝・46壙出土のものと接合した。

115～117は６溝出土遺物である。115は輸入陶磁器の漳州窯系染付皿で、体部外面の口縁部と腰部には圏線、口縁部内面には四方襷文や圏線が描かれる。胎土は黄白色で陶器に近く高台周辺を除き透明釉が施されている。116・117は在地産である。116は騎西城Ⅲ期のかわらけでロクロ回転方向は不明。117はほうろくで体部内面中央に稜がめぐる。内耳は口唇部から体部下半に付けられ内耳の内側が磨れている。12溝出土のものと接合した。

118は７溝出土の肥前系陶器の唐津大皿である。底部周辺除き内外面に灰釉が施されている。

119～121は８溝出土の在地産のかわらけである。

119が騎西城Ⅱ期、120の小型のものは不明、121はⅢ期である。ロクロ回転方向は全て左回転である。

122～137は12溝出土遺物である。122は常滑甕で口縁部が外側に折り返され体部に密着し、縁帯を形成する。２溝出土のものと接合した。

123・124は瀬戸美濃である。123は丸皿で内外面に灰釉が施され、貼り付けの高台内には輪トチンの痕が残る。124は志野丸皿で内外面に灰色が強い長石釉が施されている。

125～137は在地産である。125～136はかわらけで132・134・136が騎西城Ⅱ期、他はⅢ期である。ロクロ回転方向は左回転が126～129・133、右回転が132、他は不明である。132・133の見込みには指頭によるナデが施されている。

137は土釜の底部で外面は丁寧に磨かれているが、内面は粗れている。

138～144・146～155は14溝出土遺物である。138は輸入陶磁器の青磁蓮弁文碗で見込みには花文が彫られ、高台内及び高台端部を除き淡青緑色の青磁釉が施されている。

139・140は常滑の甕系の片口鉢（Ⅱ類）である。139の口唇部は平坦で端部は外側に張り出し、注ぎ口が１箇所残る。内面はよく磨れている。140は体部が直線的に開く片口鉢で口唇部に二条の沈線がめぐり、端部は内外に張り出す。

141～147は瀬戸美濃である。141は平碗で高台の削り込みは浅く内面に灰釉が施されている。142は縁釉小皿で口縁部内外面に灰釉が施されている。143は口縁部が外反する稜皿で、内外面に鉄釉が施されている。144は筒形容器の底部である。146は卸目付大皿で底部及び見込み周辺を除き灰釉が施されている。147は瓶子又は梅瓶の口縁部で口縁部中央が外側に張り出し、口縁部内面から外面にかけて灰釉が施されている。

148～155は在地産である。148・149は騎西城Ⅰ期のかわらけで、共にロクロ回転方向は右回転で見込みには指頭のナデが施されている。150は口縁部が肥厚する片口鉢で口縁部内面がくぼむ。151・152は素焼擂鉢である。151は口唇部中央がくぼみ、端部内側が若干突出する。152の体部内面上方は櫛目が見られないほどよく磨れている。見込みの櫛目は７本である。16A 溝出土のものと接合した。153は口縁部がほぼ直立する甕で、内外面共に粗れている。154・155は土鍋である。154は内耳の部分で内耳の断面は円形に近い。155は口縁部内面に稜がめぐるもので外面にはススが付着している。

145は遺構外の擂鉢で内面全体に現存14本の櫛目が施され、底部周辺を除き鉄釉が施されている。

156～158は16溝出土遺物である。156は輸入陶磁器の白磁八角坏で、体部外面は面取りされ内外面に釉が施されている。157は瀬戸美濃の平碗で口縁部外面がくびれ、内外面に灰釉が施されている。158は在地産の土鍋である。口縁部内側に稜がめぐり口縁端部は内側に突出する。外面にはススが付着する。

159～163は16A 溝出土遺物である。159は常滑甕の肩部で外面には格子状の叩き目が施されている。160・161は瀬戸美濃である。160は卸皿で見込みにヘラによる卸目が施され、内外面共に無釉である。161は縁釉小皿で見込みがよく磨れている。底部と見込みには団子トチのあとが残る。162・163は在地産である。162は騎西城Ⅰ期のかわらけで、口縁部外面に稜がめぐりロクロ回転方向は右回転。見込みには指頭によるナデが施され、底部には板目状の圧痕が残る。口唇部に油煙が付着する。163は土鍋で口縁部内面に稜がめぐり口縁部が外反し、外面にはススが付着する。

164は17B 溝出土の常滑甕で体部外面には格子状の叩き目が施されている。

165～172は19溝出土遺物である。165・166は瀬戸美濃で、165は内面に鉄で同心円の文様が描かれる碗で、高台周辺を除き長石釉が施されている。166は擂鉢で口縁部が外側に折れ縁帯を形成する。縁帯の上面にはくぼみがめぐり内側端部が尖る。現存の櫛目は11本で内外面にサビ釉が施されている。167～172は在地産である。167・168はかわらけで167は騎西城Ⅲ期で168はⅡ期で共にロクロ回転方向は不明である。169は素焼擂鉢で口縁部の器肉が厚く、口唇部には二条のくぼみがめぐる。現存の櫛目は11本。170～172は土鍋で170・171は口縁部が長いものである。172は体部より口縁部の器肉が厚く口縁部

は171と比較するとやや短い。171・172の口縁部内面には稜がめぐる。いずれも外面にはススが付着する。

173は20溝出土の常滑甕で外面には叩き目が施され、また、割れ口を磨っている。

174・175は22溝出土遺物である。174は瀬戸美濃の折縁深皿で口縁部が外折れし、端部が上方に突出する。内外面に灰釉が施されているが二次的な火を受けたため器面が粗れている。175は22溝出土の常滑の甕系の片口鉢（Ⅱ類）で直線的な口縁部は端部が内外面に突出する。口唇部の平坦面中央には沈線がめぐり、内面は非常によく磨れている。

176は３井出土の瀬戸美濃の擂鉢で、口縁部の縁帯下方は若干外側に引き出されている。口縁部は上方がすり減り内外面にサビ釉が施されている。

177・178は７井出土の在地産のほうろくである。共に体部内面に稜がめぐり内耳は口唇部から体部下半に付けられている。体部外面にはススが付着する。

179は10井出土の輸入陶磁器の白磁端反皿で、高台端部には砂が溶着し灰白色の釉が施されている。

180は15井出土の瀬戸美濃の志野丸皿である。高台内を除き灰色がかった長石釉が施されている。

181は16井出土の口縁部が大きく外反する瀬戸美濃の腰折皿で、内外面に灰釉が施されているが、二次的な火を受けたためか器面が粗れている。

182・183は17井出土遺物である。182は輸入陶磁器の染付皿で体部内外面と見込みに草花文が施されている。183はかわらけで時期不明。底部中央には焼成後に孔が開けられている。ロクロ回転方向は左回転で見込みに指頭のナデはない。

184は19井出土の常滑甕系の片口鉢（Ⅱ類）で、直線的な口縁部は端部が外側に突出する。

185は３壙出土の在地産かわらけである。口唇部が磨れており、ロクロ回転方向は不明である。

186・187は６壙出土遺物である。186は常滑の小型の甕で折り返された口縁部は縁帯を形成し、端部は体部に付く。187は瀬戸美濃の鉄絵鉢で見込みには鉄で草花文が施され、高台周辺を除き薄い長石釉が施されている。

188は９壙出土の肥前系磁器の染付碗で体部外面に草花文と松文が描かれ、内外面には透明釉が施されている。

189は19壙出土の瀬戸美濃の煙硝擂で、口縁部は内側に折り返され丸くなる。外面には高台周辺を除き鉄釉が、内面は折り返された口縁部のみに鉄釉が施されている。

190・191は25壙出土遺物である。190は瀬戸美濃の小坏で、体部は貼り付けの高台より立ち上がる。高台周辺を除き内外面に鉄釉が施されている。191は在地産のほうろくで、体部内面の中央に稜がめぐり、外面にはススが付着している。

192は32壙出土の騎西城Ⅳ期かわらけで、193は33壙出土の騎西城Ⅲ期のかわらけである。共にロクロ回転方向不明。

194は35壙出土の瀬戸美濃の擂鉢で、口縁部に縁帯を形成し縁帯の下端が垂れ下がる。内外面にサビ釉が施されている。

195・196は４・８号ピット出土のかわらけで、共に騎西城Ⅳ期。ロクロ回転方向も共に左回転である。

197は15号ピット出土の瀬戸美濃の志野丸皿で、体部は削り出しの低い高台より内湾して立ち上がる。内外面に長石釉が施されるが、鉄分を多く含む胎土のため、赤く発色している。

以下は遺構外出土遺物である。198～207は輸入陶磁器で198～201は龍泉窯系青磁である。198は内面に沈線で区画された中に飛雲文を施す碗で、199は内面にヘラと櫛で花文を施し、口縁部を輪花風にする碗である。200は外面に片切彫りの蓮弁を施す碗。201は皿の口縁部で内面の下方に沈線がめぐる。202・203は白磁で202は口縁部が大きく外反する端反皿、203は四耳壺の高台部である。204～206は染付碗・皿で204口縁部外面には圏線の中に花文が描かれている。205は内外面に花文、206の内面には団龍文が描かれている。207は褐釉壺の肩部破片で外面の肩部下方には稜がめぐる。

208～211は常滑である。208～209は甕系の片口鉢（Ⅱ類）である。208は口縁端部が内外面に突出し、209は口縁部断面が切り出し状になっている。210は山茶碗系の片口鉢（Ⅰ類）で体部は断面が三角形の貼り付け高台より立ち上がり口縁部で外反する。高

台上部のヘラ削りは１段である。内面はよく磨れている。いずれの片口鉢も色調は赤褐色である。211は甕の肩部で外面には叩き目が施され自然釉がかかる。

212～238は瀬戸美濃である。212から214は平碗で内外面に灰釉が施されている。なお、213の内面には重ね焼きの際の目あとが残っている。215・216は天目茶碗で高台周辺を除き内外面に鉄釉が施されるが、高台周辺は無釉である。217～229は皿類で217・218は縁釉小皿である。217の口縁部内外面には鉄釉が施され、218には灰釉が施されている。騎西城出土の縁釉小皿は灰釉が施されたものが多く、鉄釉が施されたものは少ない。219は腰折皿で高台周辺を除き内外面に灰釉が施されている220・221は丸皿で内外面には灰釉が施されている。222・223は志野丸皿で内外面に長石釉が施され222には厚く施されている。224は青織部皿で内面に銅緑釉が施され、外面には長石釉が施されている。225・226は反り皿で口縁部外面から内面にかけて灰釉が施されている。227は鉄絵皿で見込みに鉄で文様が描かれ、内面にのみ釉が施されている。228は内面の桟が低い灯明皿（受皿）で、口縁部外面から内面に鉄釉が施され底部の釉は拭い取られている。229は折縁深皿の口縁部で口縁部が外折れし、口縁部に小突起が形成される。内外面に灰釉が施されている。230～236は擂鉢である。いずれも内外面にはサビ釉が施されている。なお、230～232の口唇部はよく磨れている。237は茶入で外面に灰釉が施されるが、二次的な火を受けたためか器面の釉が粗れている。238は小坏で高台周辺を除き鉄釉が施されている。

239は志戸呂の灯明皿（油皿）で内外面に鉄釉が施され、見込みには重ね焼きの痕が残る。

240～250は肥前系磁器で240～247は染付碗である。240は外面に細線で花文が描かれ、口縁部内面には雷文が描かれている。241～243・245・246は外面に草花文が描かれ、244は外面にコンニャク判で桐文が描かれている。247は筒形碗で外面には蛸唐草文が、口縁部内面には四方襷文が描かれている。248は口縁部が外反する小坏、249は仏飯器で体部外面に草花文が描かれ、高台内の刳り込みは浅く無釉である。250は火入れと思われ、平らな口唇部から口縁部内面にかけて波文が描かれている。

251～283は在地産である。251～260はかわらけで、255～257が騎西城Ⅱ期、251～254・258・259がⅢ期、260は18C である。ロクロ回転方向は251～253が左回転、254が右回転で他は不明である。なお、253・256・257の見込みには指頭のナデが施されている。

261～269、271・272はほうろくである。261～264は体部内面中央より上方に稜がめぐる。内耳は口唇部から体部下半に付くもの（265・268・269・272）、口唇部直下から体部下半に付くもの（266・267）、口唇部から底部に付くもの（271）がある。

270・273～278は土鍋である。270は口縁部内面がくぼみ、内耳は断面が円形に近い。273・277は外面底部と体部の境にヘラ削りが施されている。275・276は口縁部が長いものである。

279・280は片口鉢で279の口縁部は断面が半月状で口縁部内面にくぼみがめぐり、280は口唇部内側が突出するものである。281は器形が常滑の片口鉢に類似する素焼擂鉢で、口縁部の器肉が厚く口唇部には二条のくぼみがめぐる。現存の櫛目は11本である。

282・283は甕で282の胎土に多量の金雲母が含まれている。色調は赤褐色である。283は口縁部が短く立ち上がる甕で胎土に小石を含む。色調は淡褐色で内面が粗れている。

KB６区出土陶磁器（第49～52図）

284～317は１溝出土遺物である。284・285は常滑で、284は甕の肩部、285は胴部破片。286～294は瀬戸美濃で286～291は天目茶碗。286は見込みと高台周辺を除いて鉄釉が施され、見込みには飴釉が施されている。287は削り込み高台の破片、他は体部の破片で体部内外面に鉄釉が施され、287・290の高台周辺にはサビ釉が施されている。292は折縁の青織部皿で、口縁部内面に櫛状の工具による沈線がめぐり、口唇部から口縁部内面に銅緑釉が施されている。293は内外面に長石釉が施される志野丸皿で、294は口縁部内面に鉄で圏線が描かれる鉄絵皿である。

295・296は肥前系陶器の大皿・鉢である。295は

唐津大皿の口縁部で内外面には灰釉が施されている。296は黄白色できめの細かい胎土の鉢で、高台内は蛇の目釉ハギされ内外面に透明釉が施されている。

297～299は志戸呂である。297は蓋で口唇部から上面にかけて鉄釉が施されている。298・299は徳利の肩部・胴部破片で298の外面には灰釉が、299の外面には鉄釉が施されている。300は備前平鉢の口縁部破片である。

301・302は肥前磁器で、301は青磁香炉の体部に貼り付けた装飾と思われる。人面の頭部に青磁釉が施され、額の部分は無釉である。302は染付小坏で高台端部を除いて内外面に透明釉が施され、外面に文様が描かれている。

303～317は在地産で303～309はかわらけである。303・309は騎西城Ⅰ期、304～306・308はⅢ期、307がⅣ期に相当する。303・304がロクロ左回転、305が右回転である。なお、305は底部に板目状の圧痕が残り、304の体部内面にはススが付着している。310～312はほうろくで、310は体部内側の稜が中央より上部にめぐる。311の体部内側の稜ははっきりしない。312は内耳部分の破片で、内耳は口唇部から体部下半に付けられている。313は土鍋で口縁部が外折れし口唇部が尖る。314～316は素焼擂鉢で314の口縁部は断面が方形に近く若干外折れする。317は素焼香炉である。

318・319は３溝出土遺物である。318は肥前系陶器の京焼風陶器で外面に山水文と思われる文様が描かれている。319は在地産のかわらけで騎西城Ⅳ期、口縁部内面に油煙が付着している。

320～361は遺構外の出土遺物である。320～322は輸入陶磁器で染付皿である。320は漳州窯系の染付皿で見込みは無釉である。320・321共に体部外面に呉須で文様が描かれ、322の口縁部内外面には圏線がめぐる。

323～332は瀬戸美濃である。323は外面から口縁部内面にかけて鉄釉を施し、内面に長石釉を施す天目茶碗である。324～326は内外面に鉄釉を施す皿類で、324・325は丸皿、326は灯明皿（油皿）、327は高台周辺を除き薄い灰釉を施す皿である。328～330は徳利で、328は内外面に鉄釉を施したあと外面に灰釉を流し掛けする。329は胴部外面下半に稜をもち、体部の一部がくぼむ備前写しの徳利で外面と内面の一部に鉄釉が施されている。330は尾呂徳利の頸部で外面には飴釉に灰釉が流し掛けられ、内面は頸部上方に灰釉が施されている。331は削り込み高台の水盤と思われる。内面に鉄釉が施され外面には鉄釉ハケ塗りされる。332は耳付鍋の口縁部で内外面に鉄釉が施されている。

333～336は肥前系陶器である。333・334は京焼風陶器碗で333の外面には花文が描かれる。335は見込み蛇の目釉ハギの皿、336は小鉢である。いずれも高台周辺を除き、内外面に灰釉が施されている。337は初山の小坏で内面から口縁部外面にかけて鉄釉が施されている。

338は備前の瓢型徳利の肩部破片で、外面に自然釉がかかる。339は丹波の擂鉢の口縁部で口縁部が膨らみ外反する。

340～348は肥前系磁器である。340～344は染付碗で340の外面にはコンニャク判で桐文、341の外面には草文、342の外面には花文が描かれている。343は外面に月に雲が描かれ、口唇部には鉄釉が施されている。344は筒形碗で外面に菊文が施されている。345は青磁香炉の三足と思われ、端部を除き青磁釉が施されている。346は小坏で口縁部外面に二重の圏線がめぐる。347は瓶で外面に文様が描かれる。348は猪口で外面に直線で文様が描かれ高台端部を除き透明釉が施されている。

349は瀬戸美濃磁器の染付碗である。外面に縦方向の条線が描かれ、高台端部を除き透明釉が施されている。

350～361は在地産である。350～356はかわらけで、350・352が騎西城Ⅰ期、353～354がⅡ期、351がⅢ期、355・356は不明である。352の内面にはススが付着している。357・358はほうろくで357の体部内面の稜は体部中央にめぐる。358の口縁部には補修孔が開けられている。359はひょうそく。360は火鉢、あるいは土風炉と思われる。器面は粗れているが口縁部の一部と体部外面の一部に丁寧に磨かれた部分が残る。361は火鉢と思われ口縁部が斜め上方にのびて尖る。

KB９区出土陶磁器（第53～62図）

362は１溝出土の口縁部が外反する瀬戸美濃の擂鉢で、内外面に鉄釉が施されている。

363は２・５号溝合流地点出土の在地産の土鍋で、口縁部が外反し端部内側が突出する。

364は２溝出土の騎西城Ⅳ期のかわらけで、２・５号溝合流地点出土のものと接合した。ロクロは左回転である。

365は６溝出土の瀬戸美濃の端反皿または丸皿で、見込みには菊花文が押印されている。

366～368は９溝出土遺物である。366は瀬戸美濃の丸皿で高台周辺を除き灰釉が施され、見込みには他の皿の高台端部の重ね焼き痕が円形に残る。367は肥前系陶器の唐津皿で高台周辺を除き灰釉が施され、見込みには鉄で文様が描かれている。368はほうろくで体部は丸みを帯びた底部より斜め上方に開き、内耳の平面形態は円形で色調は赤褐色である。他のほうろくとは形態が異なる。なお、21溝出土のものと接合した。

369は13溝出土の瀬戸美濃の天目茶碗で、高台周辺を除き鉄釉が施されている。高台端部には団子トチが付着し灰釉が溶着している。

370は14a 溝出土の肥前系磁器の染付碗で、体部外面には草花文が描かれ高台端部には砂が溶着している。16壙出土のものと接合した。

371・372は16a 溝出土遺物で、371は初山徳利の肩部付近の破片である。内外面に薄い鉄釉が施されている。372は騎西城Ⅳ期のかわらけで、ロクロ右回転である。

373～376は16c 溝出土遺物である。373は肥前系磁器の染付碗で、体部外面には矢羽文が描かれている。高台端部には砂が溶着している。374～376はかわらけである374は時期不明。375・376は器肉が薄い作りの、いわゆる江戸かわらけである。いずれもロクロ回転方向は不明である。

377～388は19溝出土遺物である。377は輸入陶磁器の削り込み高台の染付皿で、見込みに草花文が描かれている。378～381は瀬戸美濃で378・379は天目茶碗である。いずれも高台周辺を除き鉄釉が施されている。380は縁釉小皿で口唇部から口縁部内面にかけて灰釉が施されている。381は鉄絵皿で見込みに鉄で文様が描かれ、高台端部を除き長石釉が施されている。382は志戸呂の擂鉢で現存の櫛目は12本、内外面にサビ釉が施され内面に１箇所釉ハギの部分がある。383は肥前系磁器の染付小瓶で外面は八角形に面取りされ、黄・緑・赤・黒色の上絵付けで草花文が描かれる。384～388はかわらけである。384・385が騎西城Ⅳ期、386がⅢ期、387・388がⅡ期である。384・385はロクロ左回転、他は不明である。

389～391は20溝出土遺物で389・390は瀬戸美濃、389は端反皿または丸皿で内外面に灰釉が施されている。390は丸皿で内外面にサビ釉を施したのち灰釉を施す。391は肥前系磁器の天目形の染付碗である。体部は削り出しの高台より直線的に開き、高台端部を除き透明釉が施され高台端部には砂が溶着している。

392～417は21溝出土遺物で392～401は瀬戸美濃である。392は丸碗で高台周辺を除き鉄釉を施したのち、体部内外面に灰釉を流し掛けする。393～397は天目茶碗で、高台周辺を除き鉄釉が施されている。なお、いずれも高台周辺にサビ釉はない。398は小ぶりの丸皿で全面に灰釉が施され、高台内には輪トチンの痕が残る。399・400は擂鉢で内外面にサビ釉が施されている。401は煙硝擂で、鉄釉は内側に折り返された口縁部から体部外面中央付近まで施されている。402～404は肥前系陶器である。402は唐津の鉢で見込み及び高台から体部外面にかけて鉄釉がハケ塗りされる。また、見込みには胎土目積痕が残る。403は京焼風陶器の鉢で高台周辺を除き透明釉が施されている。高台内には刻印が押印され、また、墨書が見られる。404は火入の口縁部で内外面に鉄釉が施されている。405は志戸呂の擂鉢で内外面に鉄釉が施され、現存の櫛目は９本である。406は丹波の擂鉢で茶褐色の釉が施され現存の櫛目は７本である。407は堺の擂鉢と思われ、現存６本の櫛目が密に施されている。408～412は肥前系磁器で408は青磁鉢である。高台内を蛇の目釉ハギし全面に青磁釉が施され、見込みにはヘラで草花文が描かれている。409～412は染付碗で409の体部外面には鳥、410

には松、411・412には草花文が描かれる。411の高台端部には砂が溶着している。413～417は在地産で413～415はかわらけである。413が騎西城Ⅳ期、414がⅢ期、415は時期不明である。416はほうろくで内耳は体部上方から底部にかけて付けられている。417は火鉢で体部外面に輪積み痕を残し、下方には指頭痕が残る。420と同種類と思われる。

418は25溝出土のかわらけであるが時期不明。

419・420は26溝出土遺物で419は瀬戸美濃の丸皿、内外面に灰釉が施されている。420は在地産の火鉢で417と同種類と思われる。

421・422は１井出土遺物で421は志野丸皿、内外面に灰色の長石釉が施されている。422は騎西城Ⅳ期のかわらけでロクロ右回転、口唇部には油煙が付着している。

423・424は２井出土の肥前系磁器である。423は白磁小坏で高台周辺を除き透明釉が施されている。424は染付鉢で見込みに草花文が描かれ、高台端部を除き透明釉が施されている。

425は７壙出土の龍泉窯系青磁碗で、外面に蓮花文が片切彫りされている。

426は９壙出土の瀬戸美濃の白天目で内外面に長石釉が施されている。

427・428は15壙出土の瀬戸美濃である。427は織部向付で底部に環足が１箇所残り、内面には鉄で蔦文などが描かれている。428は青織部の徳利で肩部に銅緑釉が施され、胴部には柳が鉄で描かれている。

429～453は16壙出土遺物で、429～435は瀬戸美濃である。429・430は天目茶碗で高台周辺を除き鉄釉が施され、高台周辺にサビ釉はない。431は稜皿で内外面に鉄釉が施されている。432は内外面に灰釉を施す大皿である。433・434は口縁部を外側に折り返す擂鉢で内外面に鉄釉が施されている。434の現存の櫛目は10本である。435は筒形香炉で口縁部内面と体部外面に鉄釉が施され、口唇部の釉は拭い取られている。436・437は肥前系陶器である。436は京焼風陶器碗で外面に呉須で文様が描かれる。437は口縁部が外反し口縁端部を輪花風にする鉢で、高台端部を除き透明釉が施されている。438は志戸呂の鉢である。内面に灰釉と鉄釉を掛け分け、体部外面上方に鉄釉が施されている。高台端部を除き高台周辺から腰部にかけてはサビ釉がハケ塗りされている。439～444は肥前系磁器である。439は白磁小坏で器肉が薄く高台端部を除き透明釉が施され、高台には砂が溶着している。440は腰の張る染付碗で外面に草花文が描かれ、441の染付碗には三つの丸の中に松文が描かれている。442は仏飯器で器部の外面に文様が描かれ、脚部の端部を除き透明釉が施され裾端部には砂が溶着している。443・444は瓶類で443の口縁部には文様が描かれている。444は型打ち整形の白磁六角小瓶で、体部を型打ち整形したあと底部を貼り付けている。底部及び内面を除き透明釉が施されている。なお、底部には墨書がある。445～453は在地産である。445～451はかわらけで446・448・449が騎西城Ⅳ期、447・451が18C、他は不明である。446～448がロクロ右回転、449～451は左回転である。なお、見込みに指頭のナデはなく、445・446の口縁部には油煙が付着している。452・453は内耳を欠くほうろくで体部内面の稜は見られない。体部外面にススが付着している。

454は17壙出土の肥前系陶器の京焼風陶器の皿で、高台端部を除き透明釉が施されている。

455は19壙出土のほうろくの内耳部分である。内耳は口唇部から体部下半にかけて付けられている。

456から561は遺構外出土遺物である。456から460は輸入陶磁器で、456～458は龍泉窯系青磁碗。456は体部内面に草花文を片切彫りし、457・458は外面に蓮弁を片切彫りする。459は白磁八角坏、460は染付皿で見込みに草花文が描かれる。

461～538は国産の陶磁器で461～499は瀬戸美濃である。461～468は天目茶碗で高台周辺を除き鉄釉が施され、464の内面にはさらに灰釉を流し掛けする。なお、463の高台周辺にはサビ釉が施されている。469は総織部碗で高台周辺を除き暗緑色の釉が施されている。470は卸皿と思われる皿で、口縁部にのみ灰釉が施され口唇部の外側に沈線がめぐる。471は縁釉小皿で口縁部の内外面に灰釉が施されている。472は無釉の小皿である。473・474は端反皿または丸皿で473の見込みには印花文が押印され、内外面に灰釉が施されている。475・476は丸皿で476の体

部内面には丸ノミによるソギが入り菊花風になり、内外面に灰釉が施されている。477は織部皿で内外面に鉄で草花文が描かれる。478は総織部皿で口縁部内面に波文が線刻され、内外面に銅緑釉が施されている。479は鉄絵皿で見込みには鉄で圏線および蘭竹文が描かれ、高台端部を除き薄い長石釉が施されている。480・481は反り皿で480は高台端部を除き灰釉が、481は高台周辺を除き灰釉が施されている。482～485は灯明皿で482・483は受皿である。内外面に鉄釉を施したあと底部周辺の釉を拭い取っている。484・485は油皿で484の口唇部には、つまみが付けられている。底部周辺を除き484には灰釉、485には鉄釉が施されている。486～491は擂鉢で内外面にサビ釉が施されている。492は折縁深皿で外折れした口縁部上面に小突起が形成される。内外面に灰釉が施されている。493は鉄絵鉢で見込みには鉄で草花文を描いたあと、銅緑釉を流し掛けする。高台端部を除き長石釉が施されている。494は口唇部が膨らむ片口で内外面に灰釉が施されている。495は石皿で高台周辺を除き薄い灰釉が施され、口縁部外面にはうのふ釉が流し掛けされる。496は織部向付で内外面に鉄で草花文が描かれ長石釉が施されている。497は双耳壺で肩部に二箇所耳が付けられている。口縁部内面から外面にかけて鉄釉が施されるが口唇部は無釉である。498・499は徳利である。498は織部徳利で沈線がめぐる肩部に銅緑釉が、下方には長石釉が施されている。内面は無釉である。499は外面にアメ釉が施され、内面は無釉である。

500～505は肥前系陶器である。500・501は丸碗で501の高台端部を除き内外面に透明釉が施されている。502は唐津の小坏で外面に鉄で文様が描かれ、内外面に灰釉が施されている。503は京焼風陶器の香炉で外面には山水が描かれ、口唇部から体部外面に掛けて透明釉が施されている。504は唐津の大皿で口縁部が若干外反する。内外面には灰釉が施されている。505は唐津の壺で口縁部から外面には土灰釉、口唇部上端には鉄釉が施されるが内面は無釉である。

506・507は志戸呂の擂鉢である。共に口縁部の縁帯の下端は垂れ下がり、内外面にサビ釉が施されている。

508は備前の茶入で肩部には細い筋がめぐる。509は丹波の擂鉢で、口縁部には縁帯が形成され二条の沈線がめぐる。残存の櫛目は９本である。

510は堺の擂鉢で、櫛目は８本、内面はよく磨れている。

511～538は肥前系磁器である。511は器肉が薄い白磁碗。512～531は染付碗で、外面には矢羽文・草花文・紅葉文・松文・網目文などが描かれている。529は上絵付けの碗で、外面は青で波文、緑で千鳥、赤で圏線が描かれ、口縁部内面には赤で圏線が描かれる。531は筒形碗で外面には二条の縦方向の線で区分されその中に菱形文が描かれ、また、口縁部内面には四方襷文が描かれている。なお、517・520・527・528・531の高台端部には砂が溶着している。532～534は口縁部が外反する染付小坏である。外面には草文が描かれ、534の高台端部には砂が溶着している。535は猪口で外面に花文、口縁部内面には四方襷文が描かれる。536・537は染付皿で536の見込みは蛇の目釉ハギされている。537は高台の低い皿で見込みには草花文が描かれている。538は染付香炉で三足が付くものと思われる。外面に草文（？）が描かれ底部及び内面は無釉である。

539～561は在地産で539～554はかわらけである。539・540・543・544・546・549～551・553・554が騎西城Ⅳ期、541がⅡ期、542・552がⅢ期で他は不明である。540がロクロ右回転、542・543・548・549・554が左回転である。なお、548の内面にはススが付着している。555・556はほうろくで555の体部内面の稜は見られず、内耳は口唇部から底部に付けられている。556は体部内面の稜が中央よりやや上方にめぐり、内耳は口唇部から体部下半に付けられている。557～559は素焼擂鉢の口縁部破片で器面が粗れている。560は口縁端部が膨らむ片口鉢の口縁部である。561は比較的丁寧な作りの素焼香炉で、体部は直線的で口唇部が斜め上方に延び、内面にはロクロ痕を残す。

第19次調査区出土陶磁器（第63図№562～№569）

第19次の出土遺物は遺構外出土遺物のみである。

562は常滑山茶碗系の片口鉢（Ⅰ類）の腰部破片で内面がよく磨れている。

563～565は瀬戸美濃である。563・564は内外面に鉄釉が施される稜皿である。565は合子で体部外面には沈線を施したあと、丸ノミによる縦方向のソギが入る。外面から底部にかけて灰釉が施されている。

566は肥前系陶器の唐津鉢で、口縁部外面から内面にかけて灰釉が施されている。567は肥前系磁器の染付碗で外面に圏線・草文が描かれ、高台端部には砂が溶着している。

568は山茶碗である。569は手づくね整形のかわらけで、体部は厚めの底部より立ち上がり口唇部が尖る。焼成は良好で硬い。

第20次調査区出土陶磁器（第63図№570～№578）

570は４溝出土遺物で在地産の素焼き擂鉢である。体部は直線的で口唇部に二条の沈線がめぐる。

以下は遺構外出土遺物である。571・572は龍泉窯系青磁で571は蓮弁文碗である。外面の蓮弁の幅が狭く釉層が厚い。572は杯で体部は直線的で口縁部を外反させ平坦な面を形成する。

573・574は常滑である。573は山茶碗系の片口鉢（Ⅰ類）で体部外面下方はヘラ削り整形されている。574は甕で口縁部が外側に折り返され縁帯を形成し、縁帯は頸部に密着する。縁帯の頂部は折り返しの頂部よりやや低い。なお、頂部は磨れている。

575・576は瀬戸美濃である。575は志野丸皿で内外面に長石釉が施されている。576は擂鉢で口縁部が内側に折り返され小突起を形成し、内外面にサビ釉が施されている。577は丹波の擂鉢で内面がよく磨れている。

578は在地産のかわらけで騎西城Ⅰ期である。

第21次調査区出土陶磁器（第63図№579～№585）

第21次の出土遺物は遺構外出土遺物のみである。

579は常滑甕の頸部で内面には輪積み痕が明瞭に残る。外面には自然釉がかかる。580は瀬戸美濃の縁釉小皿で口縁部内外面に灰釉が施されている。

581は備前の平鉢で口縁部内側に沈線がめぐる。

582・583は肥前系磁器である。582は染付碗で高台端部には砂が溶着している。583は染付蓋付鉢で外面には草花文が描かれ、重ね焼きのため口唇部と口縁部内面上方、及び高台脇を除き透明釉が施されている。

584・585は在地産のかわらけで、584が騎西城Ⅱ期、585がⅢ期である。ロクロ回転方向は不明。

第29次調査区出土陶磁器（第64～65図）

586～611は１溝出土遺物である。586は輸入陶磁器の染付皿で、見込みに団龍文が描かれている。587・588は常滑の甕である。587は胴部破片、588の口縁部は外側に折り返され縁帯を形成する。縁帯は頸部に密着せず口縁部が上方と下方にのび、断面はＴ字状である。

589～604は瀬戸美濃である。589は天目茶碗で内外面に鉄釉が施されている。590は折縁深皿で三足が付くものと思われ、底部周辺を除き灰釉が施されている。591は端反皿で内外面に灰釉が施されている。592は志野菊皿で内面には丸ノミによるソギが入り、外面にも縦方向のソギが入る。内外面に長石釉が施されている。593・594は擂鉢で593の口縁部は外側に折り返され縁帯を形成する。現存の櫛目は10本で内外面にサビ釉が施されている。594の口縁部は内側に折り返され口縁端部は断面が方形状である。内外面にサビ釉が施されている。595は片口で底部及び内面を除き鉄釉が施されている。596・597は香炉である。596は大型の香炉で体部下方が張り出し、外面には高台周辺を除き鉄釉、内面は薄い鉄釉が施されている。597は三足が付く香炉で体部外面には丸ノミによる円弧文が彫られ、三足及び底部を除き内外面にアメ釉が施されている。598～600は有耳壺で598は鉄釉を全面施釉したあと底部の釉を拭い取っている。599は口縁部内面から外面にかけて鉄釉が施されている。600は外面に鉄釉を施したあと底部の釉を拭い取り、内面にはサビ釉が施されている。601は梅瓶または瓶子で、外面に灰釉が施され内面は無釉である。602は徳利形瓶で肩部には三条の沈線がめぐり、外面に灰釉が施されている。603は梅瓶で器肉が厚く、内面はロクロ痕が顕著で外面に灰釉が施されている。604は蓋でつまみの端

部が上方にのびる。内外面に長石釉が施されている。605は丹波の擂鉢である。

606は肥前系磁器の染付皿で口唇部に鉄釉が施され、体部内面には矢羽文、体部外面には蔦文、見込みには五弁花、高台内には大明年製の文字が染付けされる。なお、高台端部には砂が溶着している。

607～611は在地産である。607は騎西城Ⅰ・Ⅱ期の小型のかわらけである。ロクロ回転は右方向で見込みには指頭のナデが施され、口唇部には油煙が付着する。608はほうろくで、内耳は口唇部直下から体部下半に付けられている。609は器高が低い土鍋で口縁部内面に稜がめぐり、体部外面下方にはヘラ削りが施され、底部は丸底になるものと思われる。610・611は片口鉢である。610は須恵質で口縁部断面は三角形に近く、内面はよく磨れている。611は口縁部が肥厚する片口鉢で胎土に小石を多く含む。内外面共に器面が粗れている。612は肥前系磁器の染付皿で見込みは蛇の目釉ハギされ、体部内面に花文が描かれ見込み中央には五弁花が描かれる。

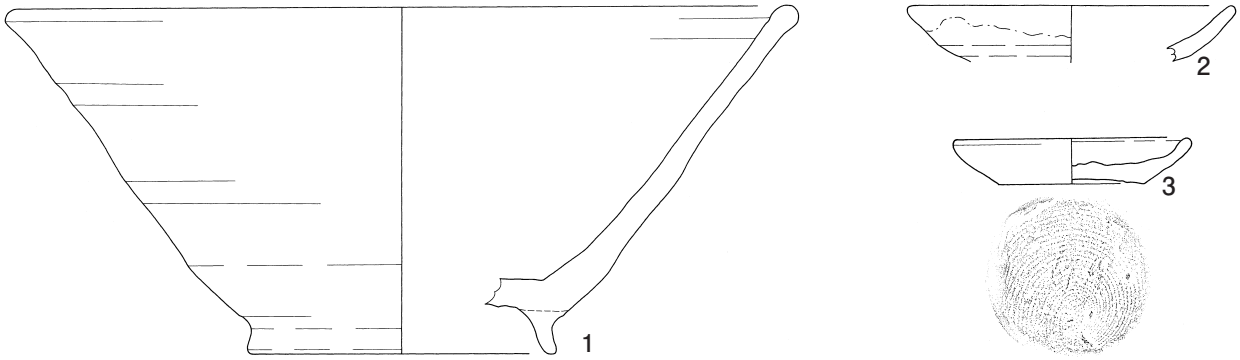
（注１）現在までの調査で騎西城跡で最も古い遺構は騎西城武家屋敷跡第10区１・４溝である。この溝からは瀬戸美濃大窯１の擂鉢が１個体確認されているが、大窯１の特徴的な皿である端反皿は１点も確認されていない。こうした問題点もあるが、この遺構から出土したかわらけ（『騎西町史』考古資料編１p430の騎西城武家屋敷跡第10区１・４溝№40～71）をとりあえずは、騎西城Ⅰ期のかわらけとする。年代的には15C 中～16C 前半としておく。

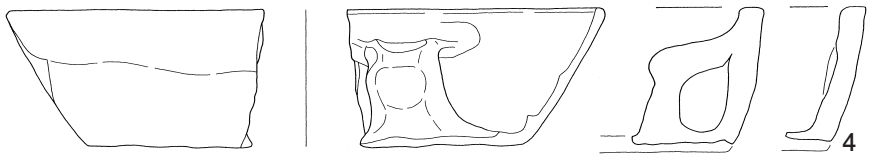
次に、同資料編１p457の騎西城跡第15区の10堀・25堀下層出土かわらけ№64・65・67・70、72～77、79・81～84がある。このうち64・72・82はⅠ期のかわらけである。この10堀・25堀の上層では志野や唐津などの陶器が出土しているが、下層からは出土せず瀬戸美濃大窯３の削りこみ高台の鉄釉皿（同資料編１p452№29・30）と共伴している。また、騎西城跡第19区７堀の中位層から約20個体のかわらけがまとまった形で出土しており（同資料編１p474・475№29～47、写真222）、共伴遺物は口縁部を欠く大窯期の擂鉢のみであるが、中位層以下からは志野や唐津は確認されていない。そのため、このかわらけ群をⅡ期とし年代は16C 中～末とする。

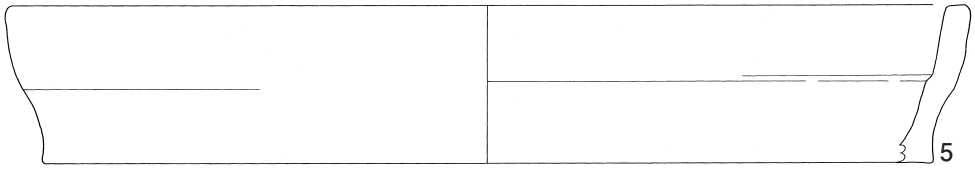
Ⅲ期は騎西城第19区の炭化物層出土かわらけ（同資料編１p490№47～66）がある。この炭化物層は前述の第19区７堀の上層に厚さ約１m で確認され、ここからは瀬戸美濃の連房１や２の志野丸皿、連房１の総織部皿、肥前系陶器の唐津鉄絵皿などが共伴している。また、騎西城武家屋敷跡４区の１壙出土かわらけ（同資料編 p556№28～30、33～36、38～42）がある。この土壙からは瀬戸美濃連房２の志野丸皿・鉄絵皿、17C 前半の志戸呂香炉が共伴している。そのため年代は17世紀前半とする。

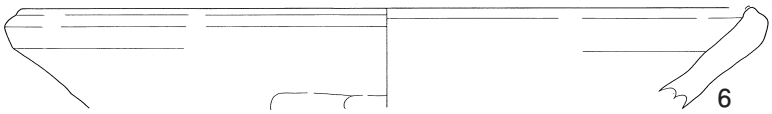
なお、Ⅳ・Ⅴ期は騎西城廃城後であるが、今回報告の KB 大英寺区１溝出土かわらけ（第29図７～25）がⅣ期で17C 後半、Ⅴ期は騎西城武家屋敷跡妙光寺１・２調査で肥前磁器の染付碗（くらわんか碗）と共伴する18C 代のかわらけである。

1溝

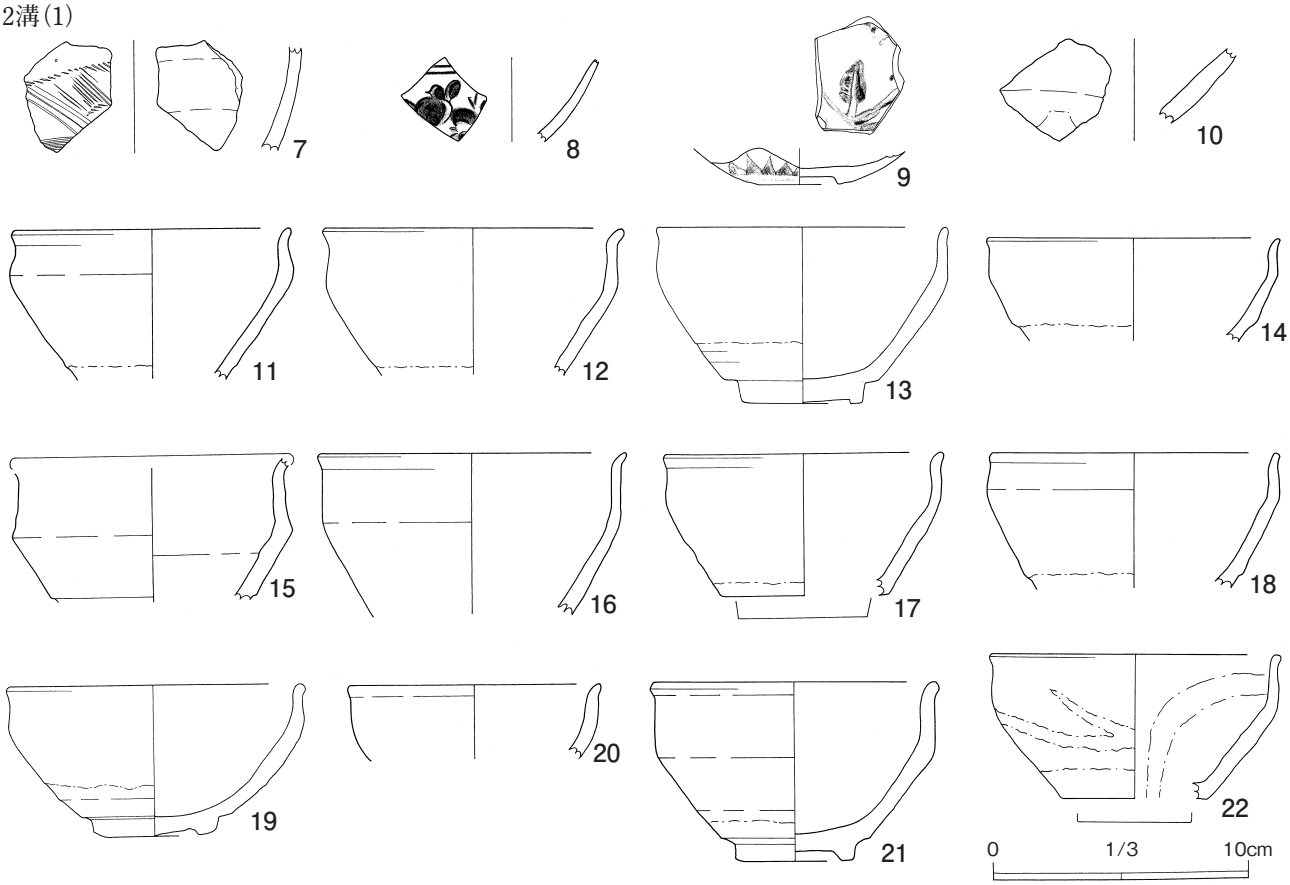






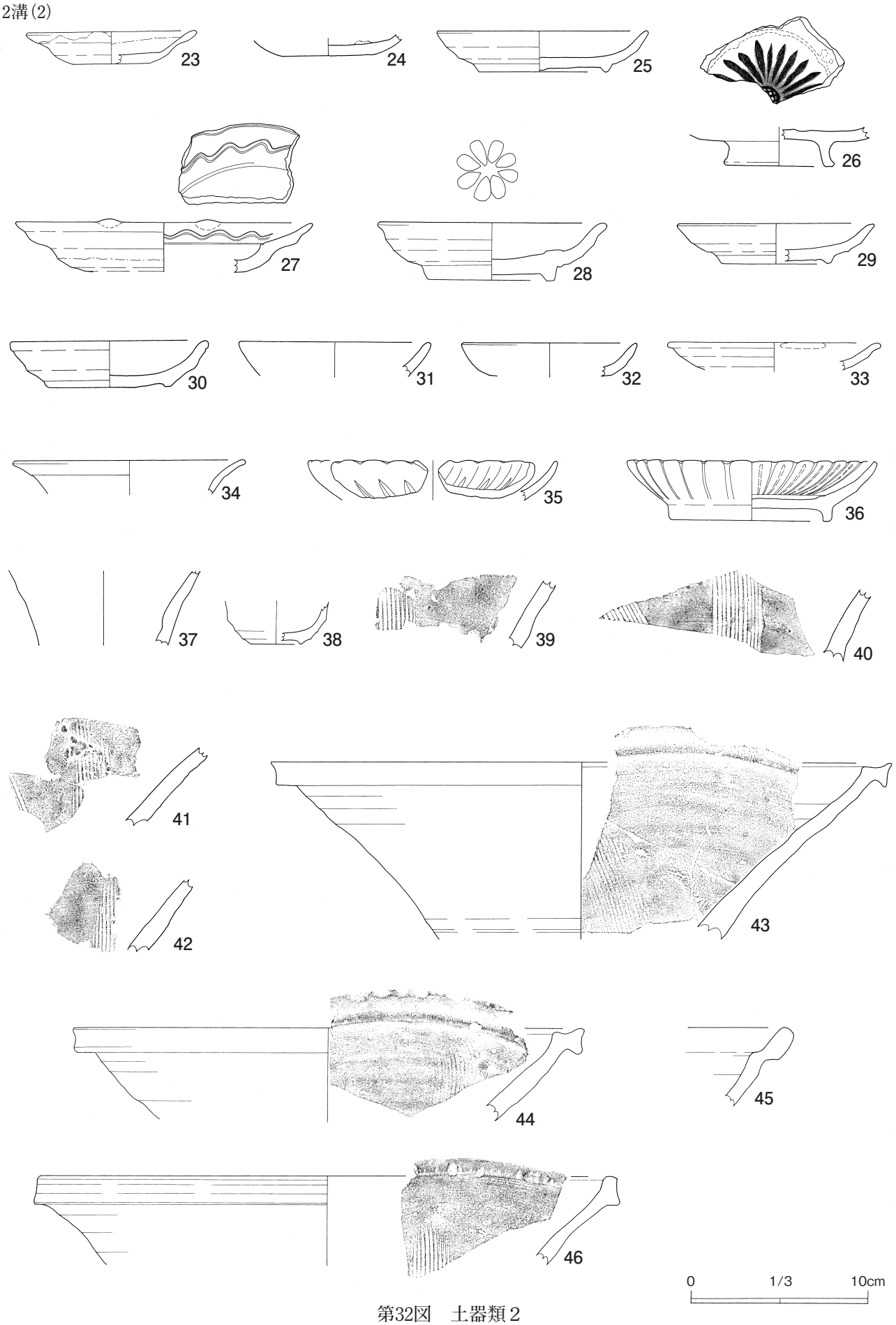


2溝(1)



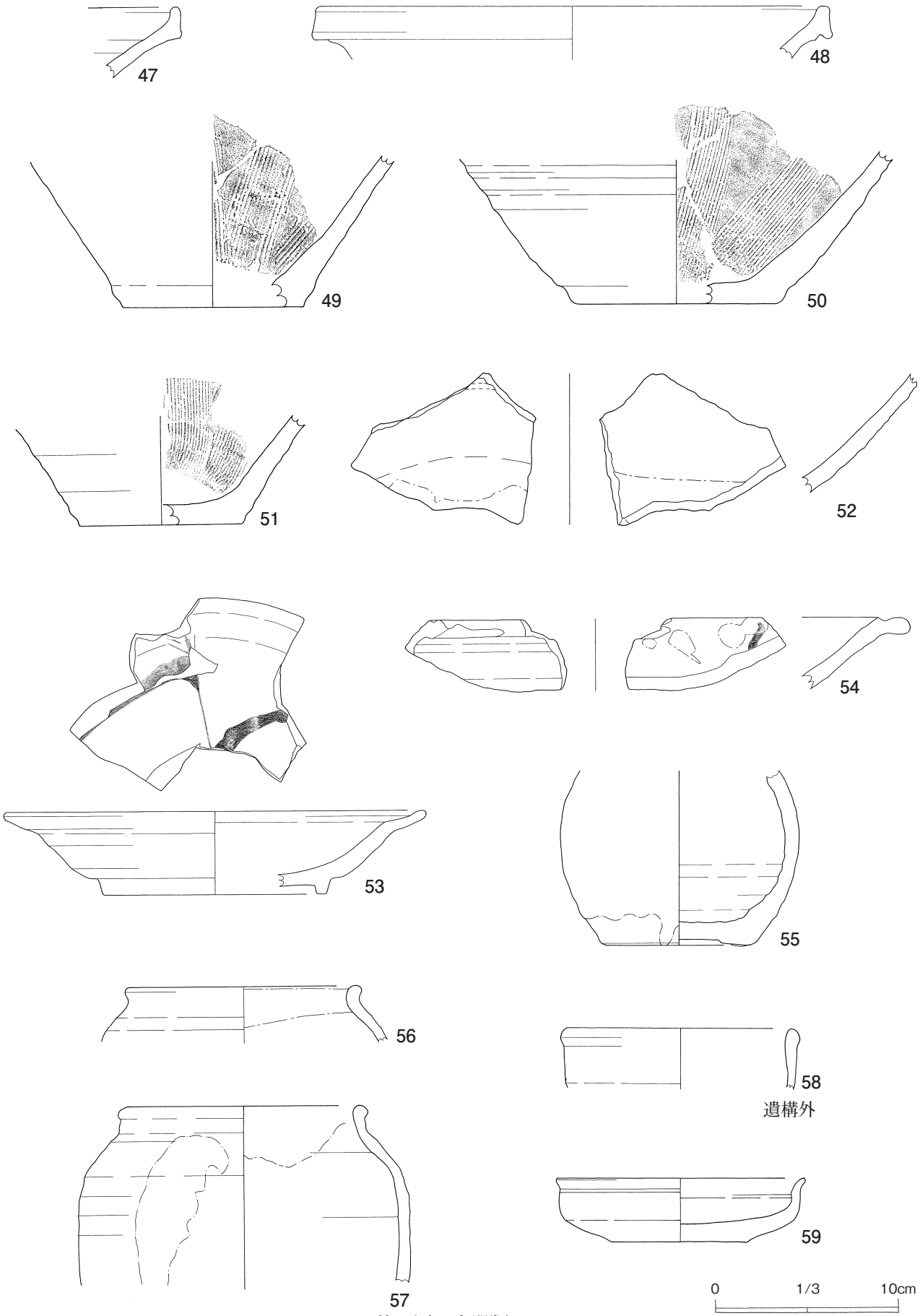
第31図　土器類１

2溝(2)



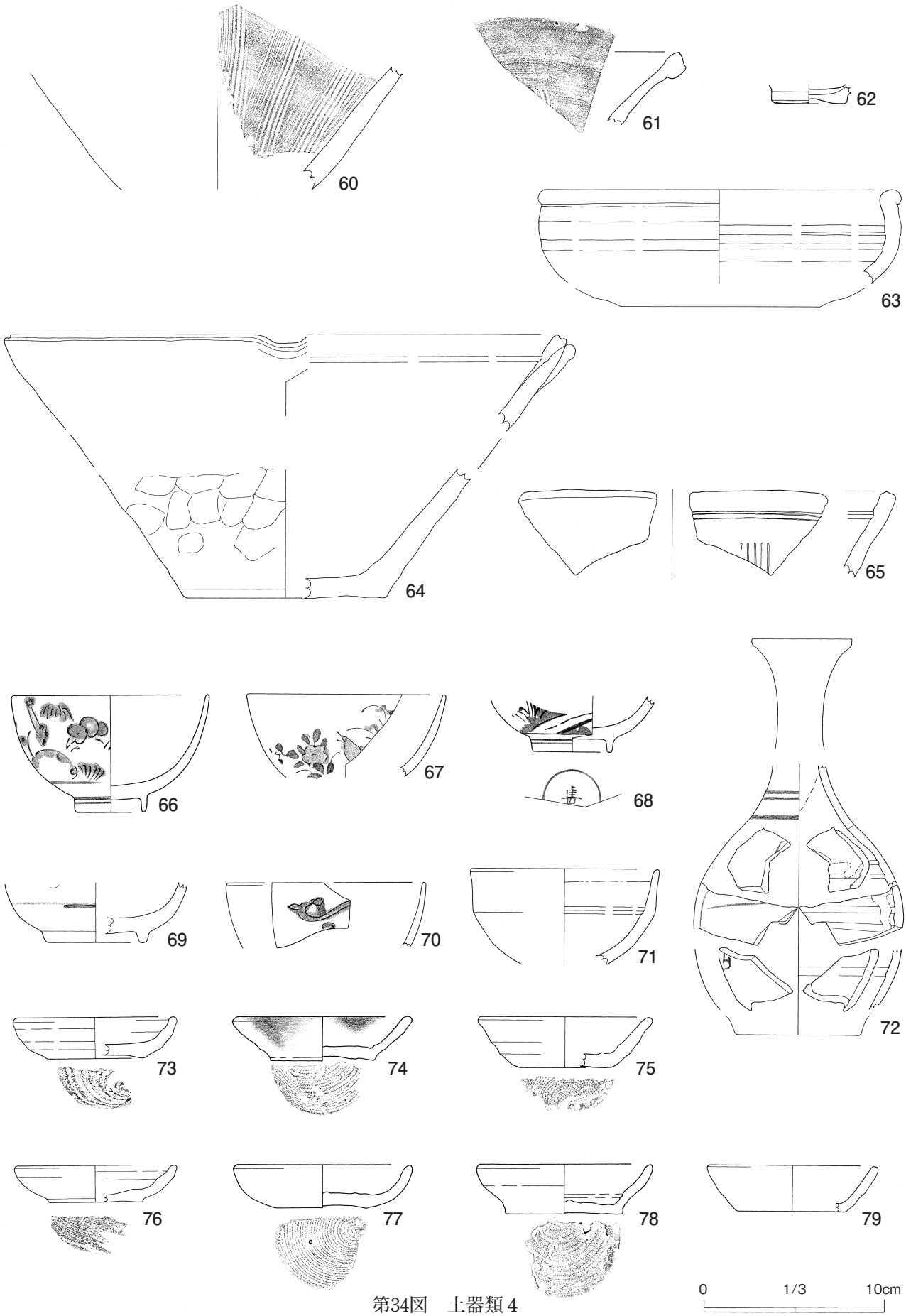
第32図　土器類２

2溝(3)



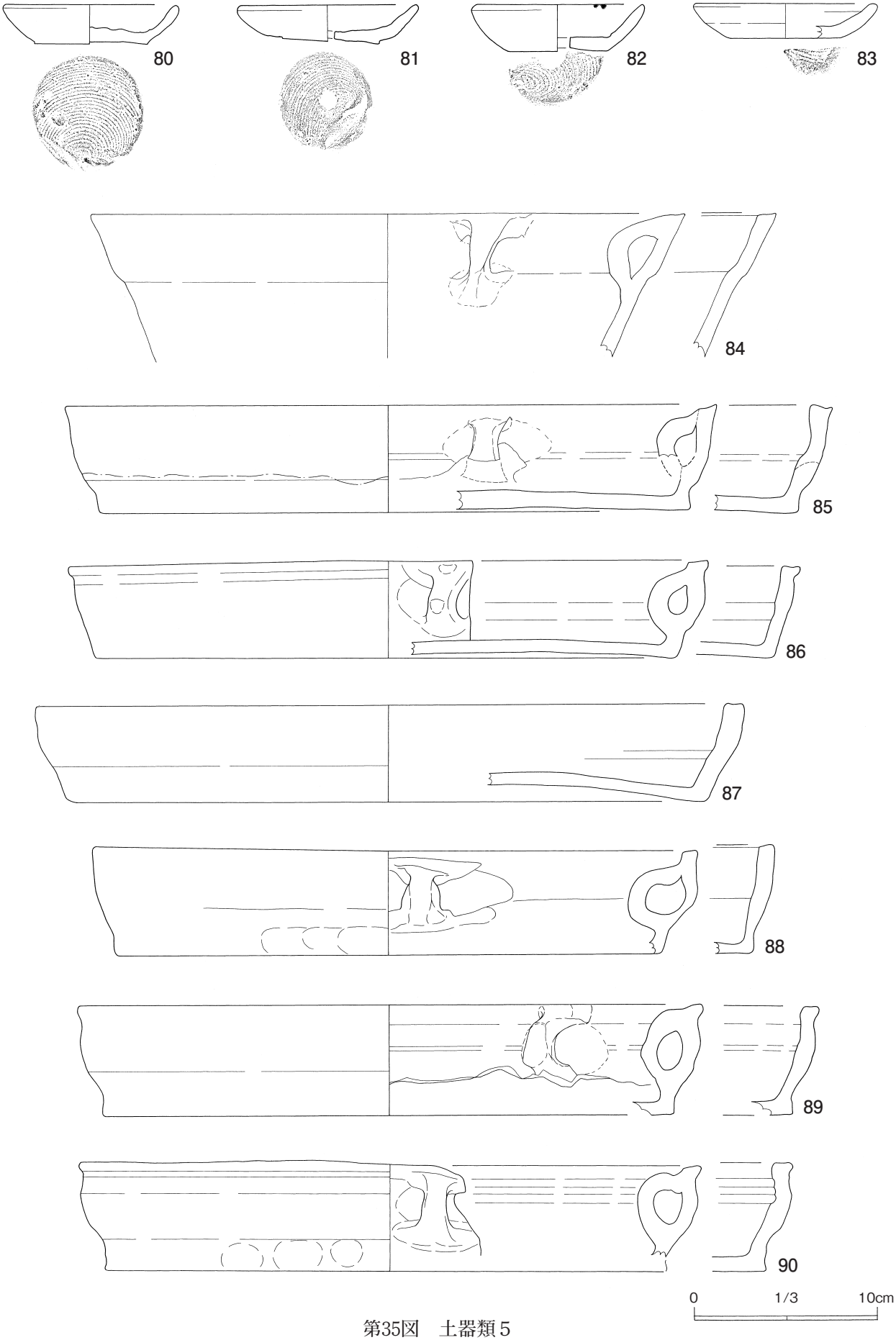
第33図　土器類３

2溝(4)



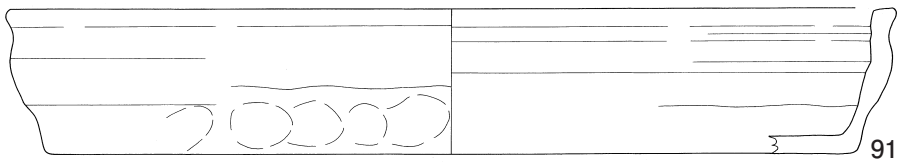
第34図　土器類4

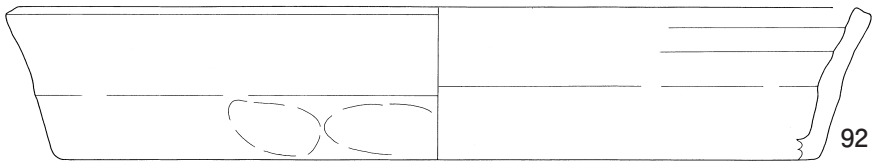
2溝(5)

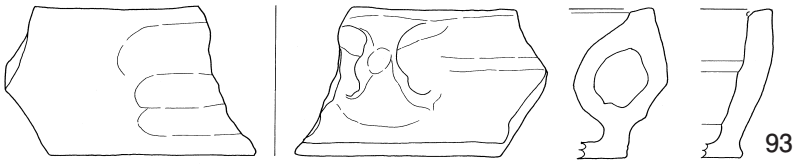


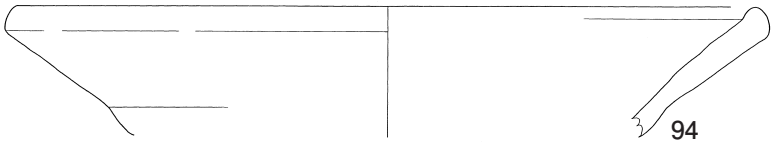
第35図　土器類５

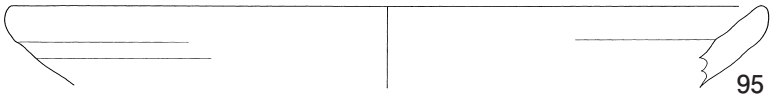
2溝(6)

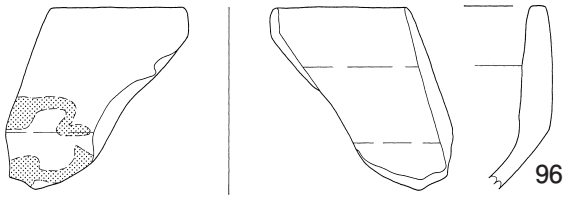




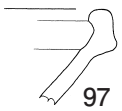


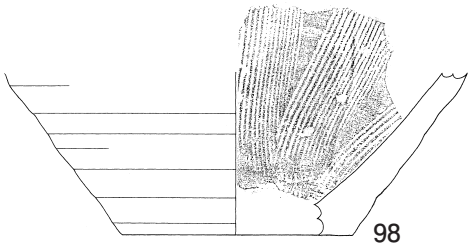




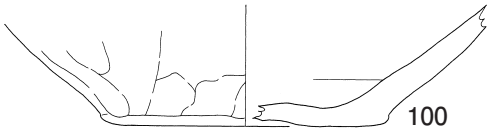


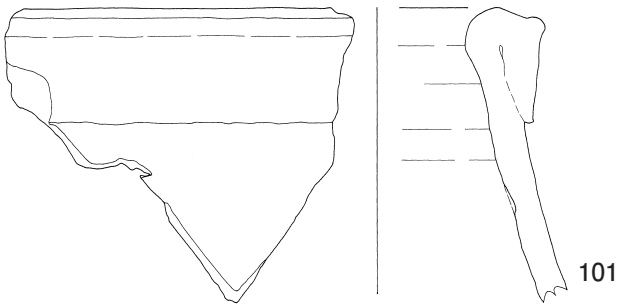
2b溝

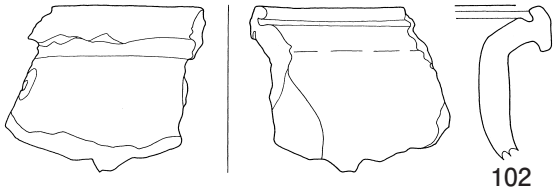


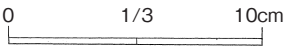


4溝(1)



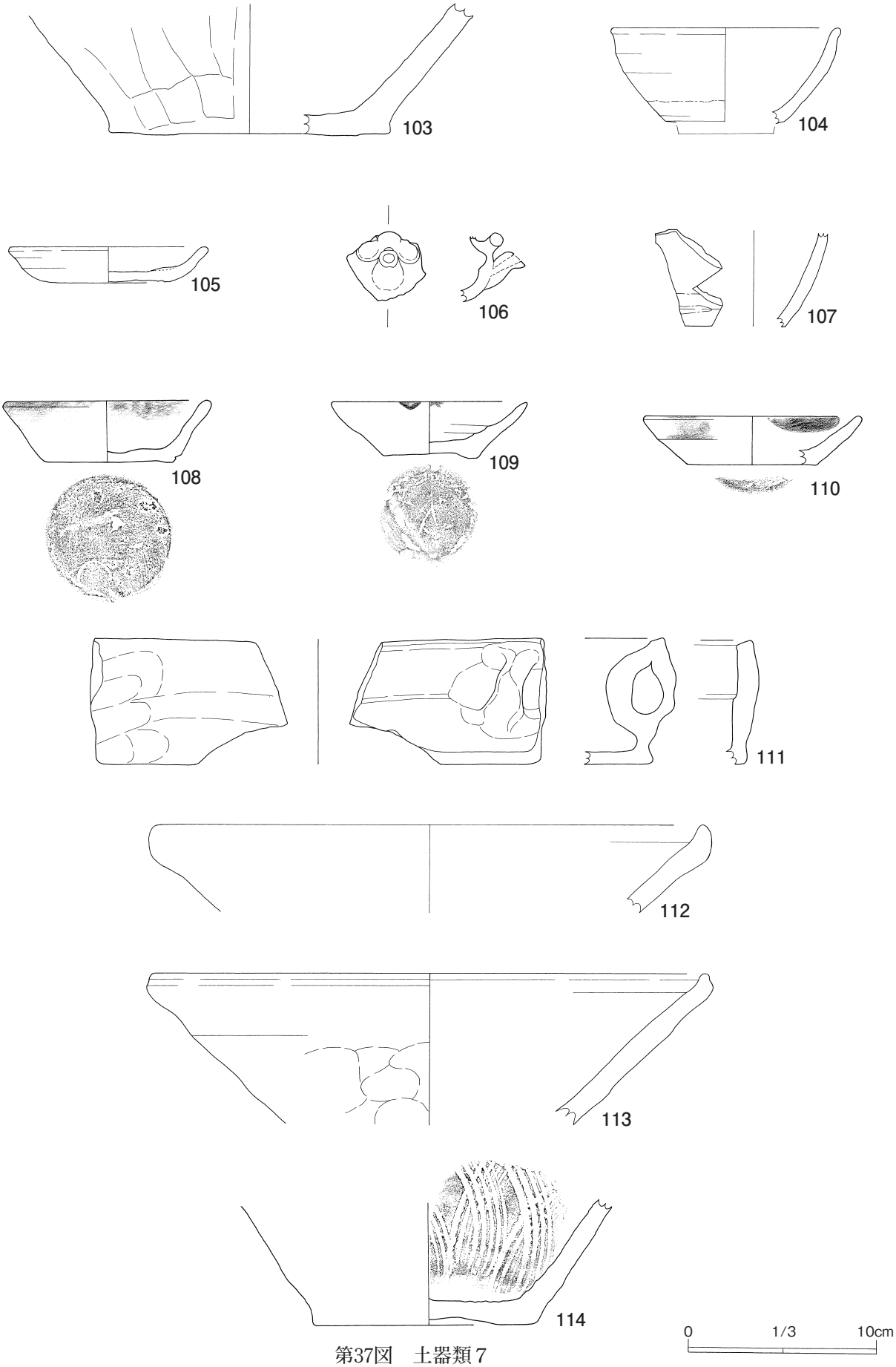






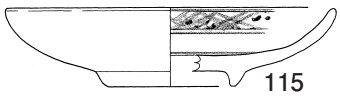
第36図　土器類6

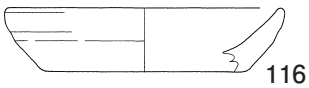
4溝(2)

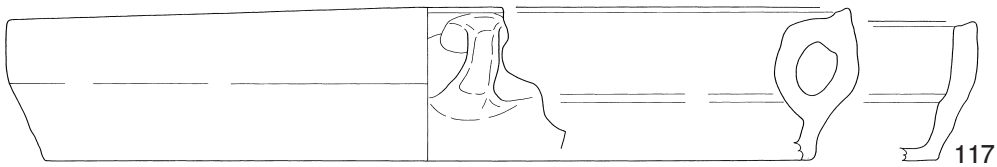


第37図　土器類7

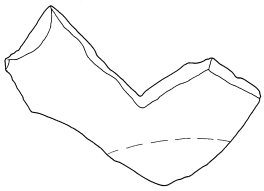
6溝

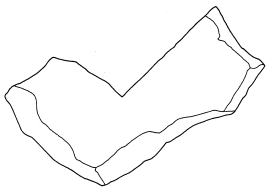


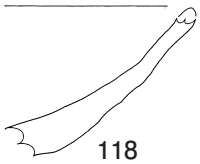




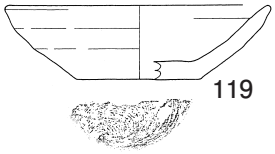
7溝

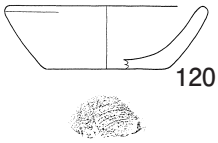


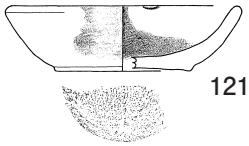




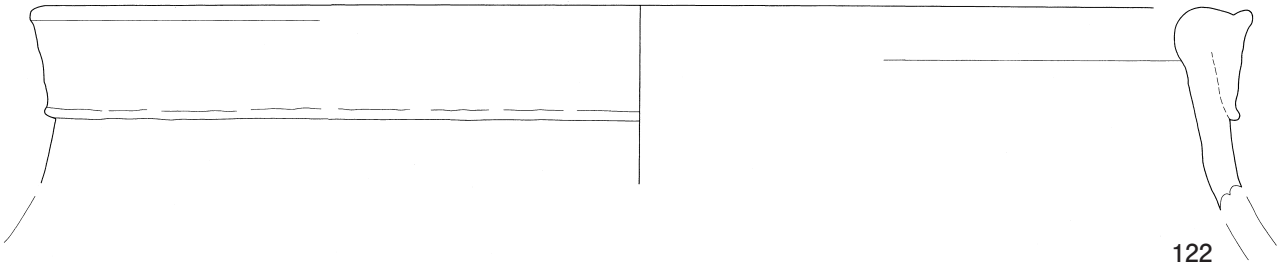
8溝

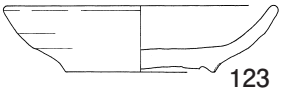


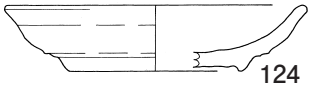


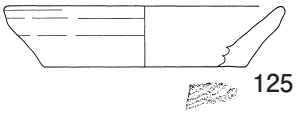


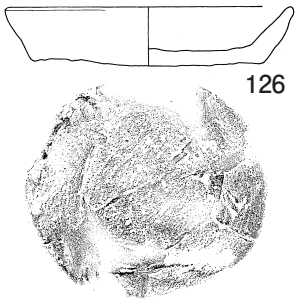
12溝(1)

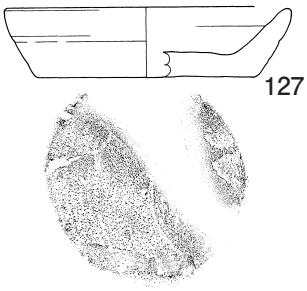


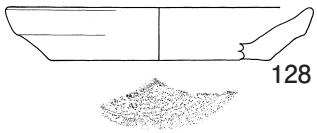


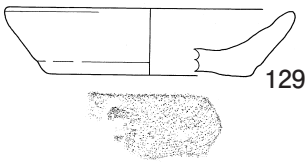


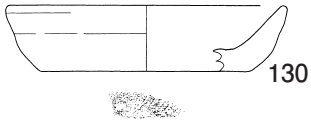


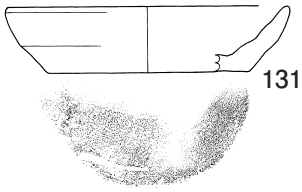


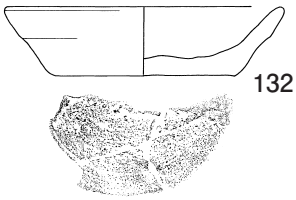








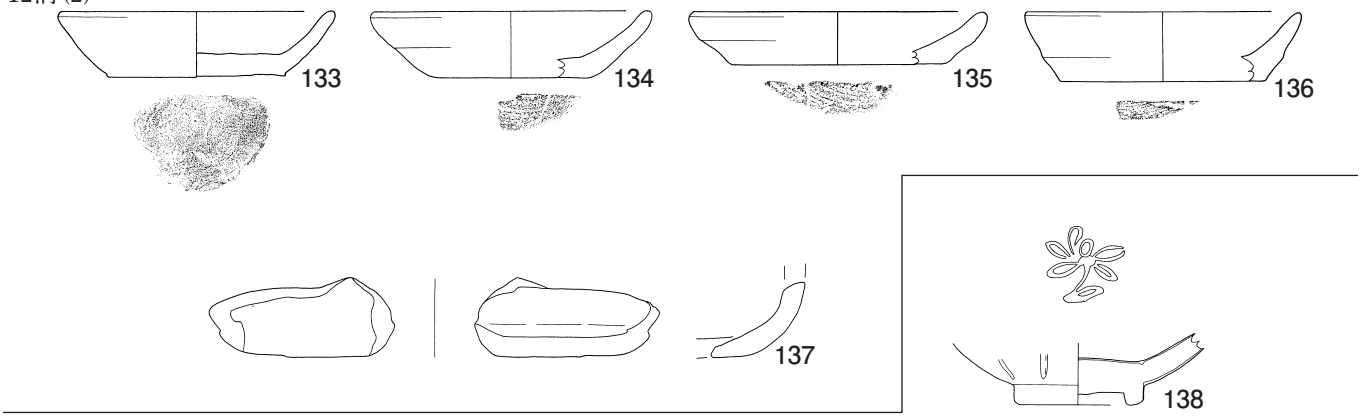




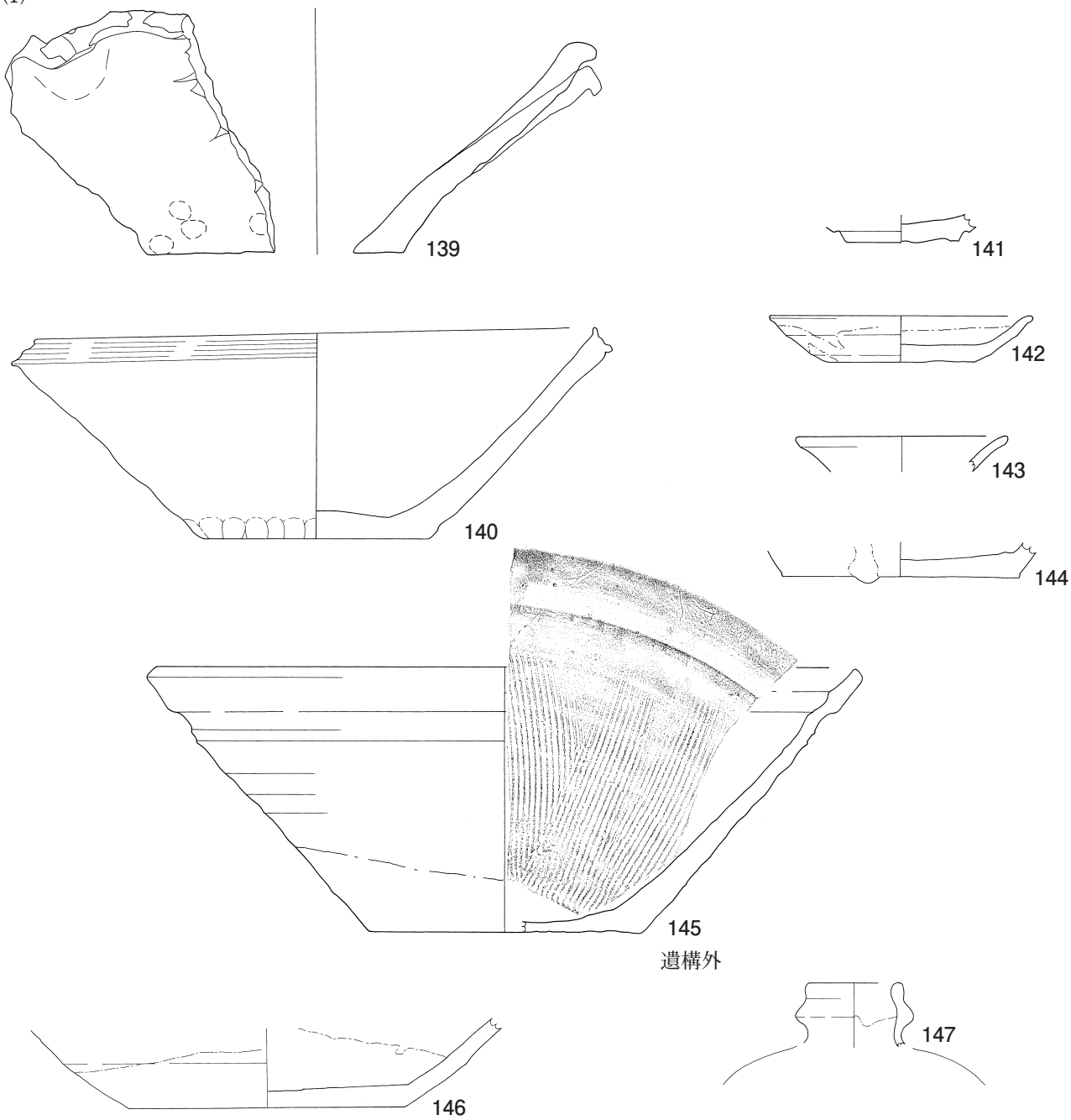
0　1/3　10cm

第38図　土器類８

12溝(2)

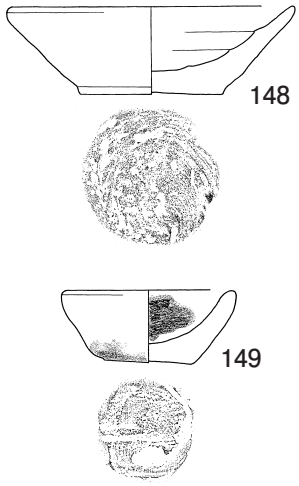


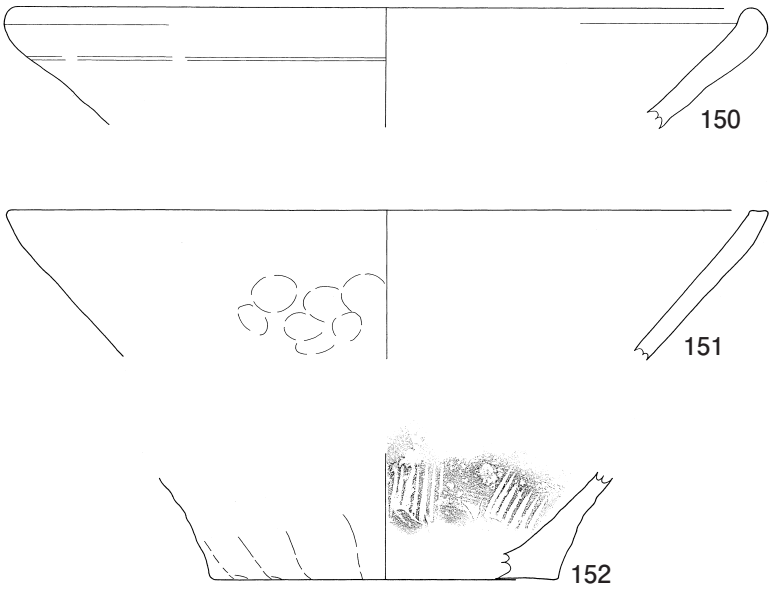
14溝(1)

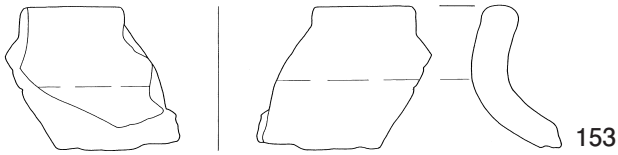


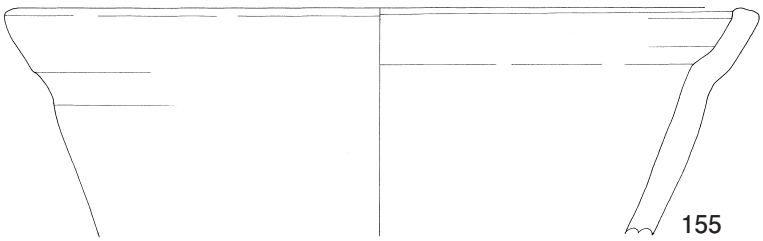
第39図　土器類９

14溝(2)

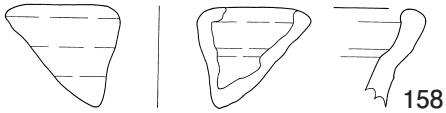




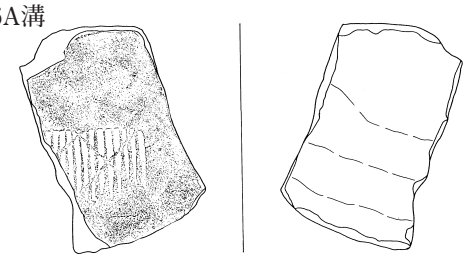


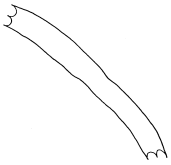


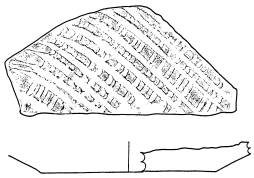
16溝

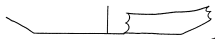


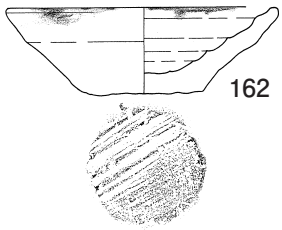
16A溝

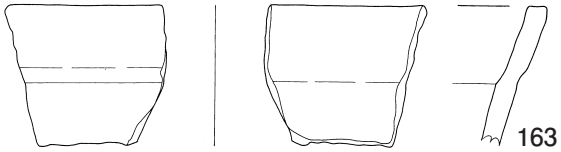








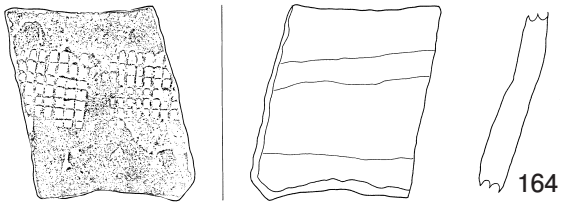


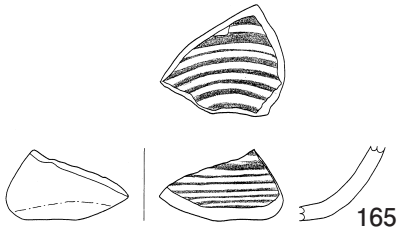


0 1/3 10cm

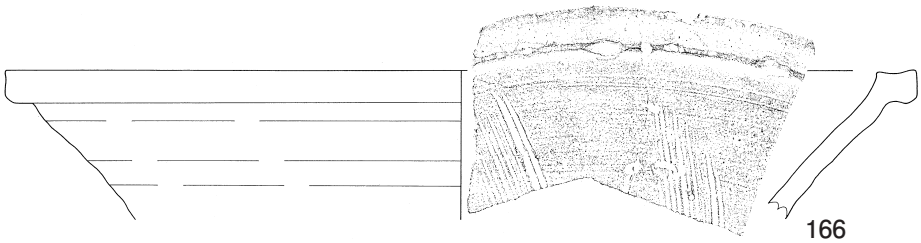
第40図　土器類10

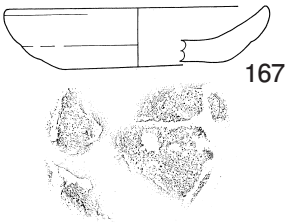
17B溝

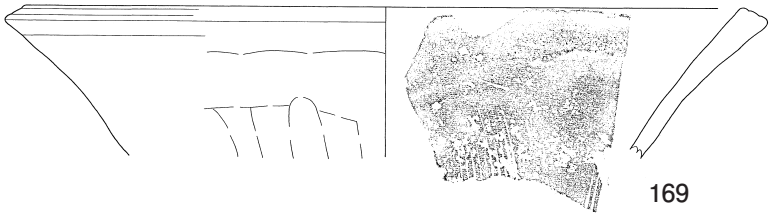


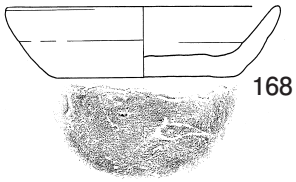


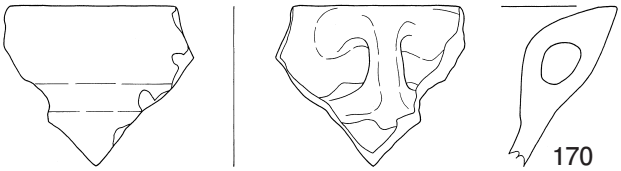
19溝

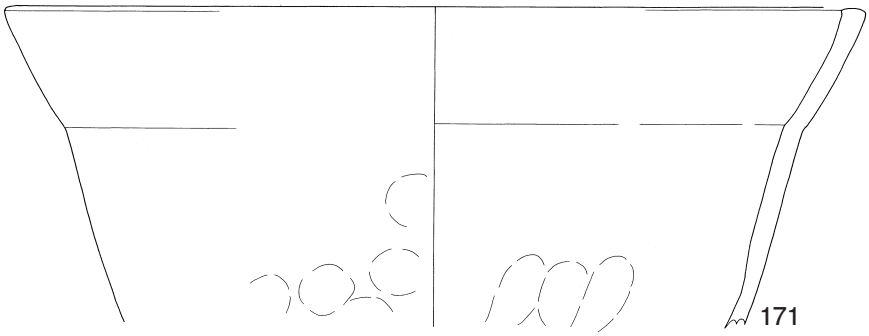


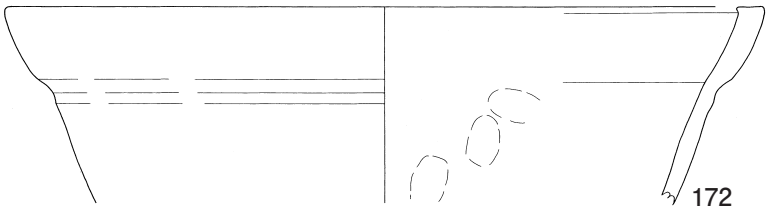






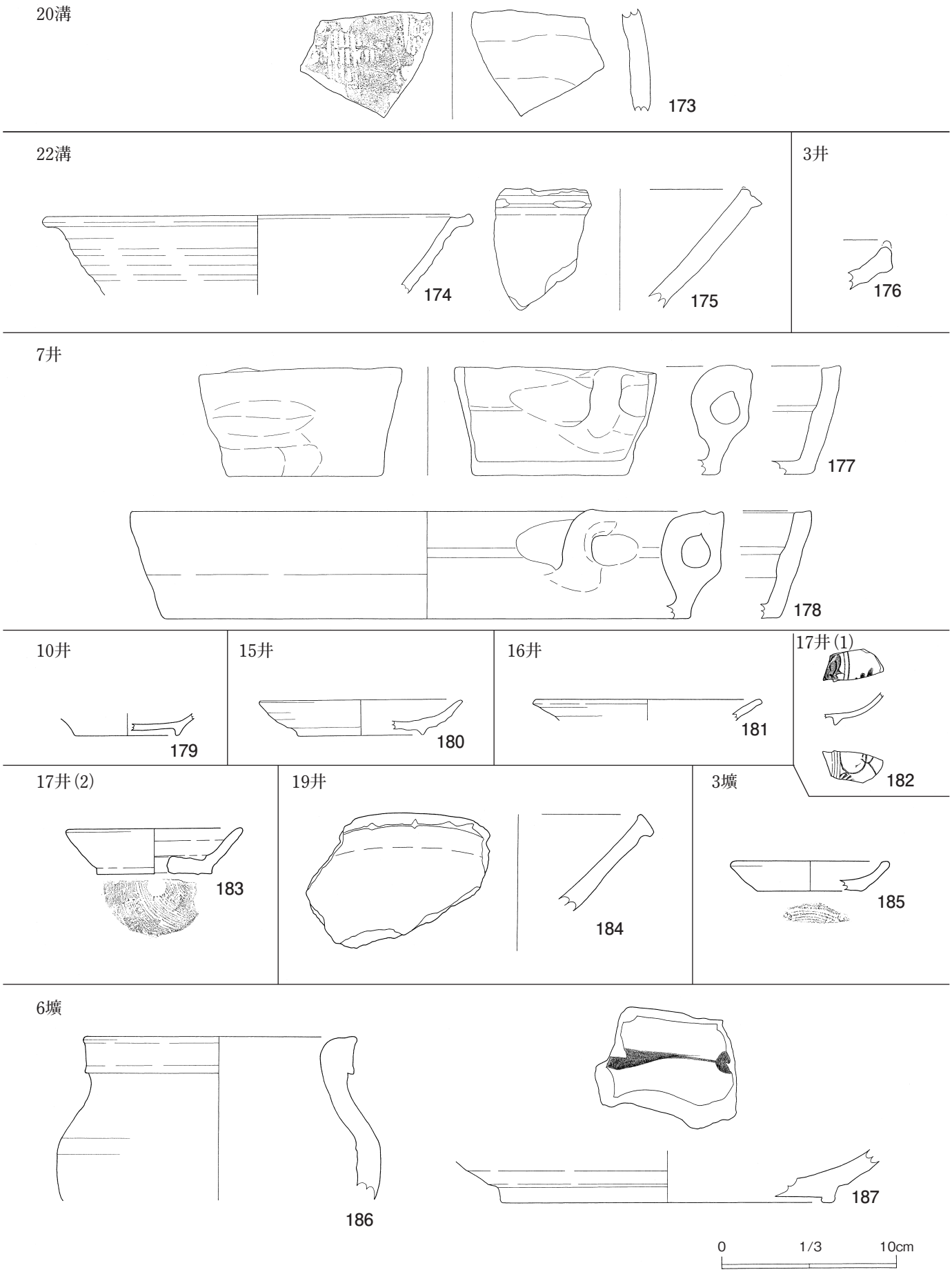




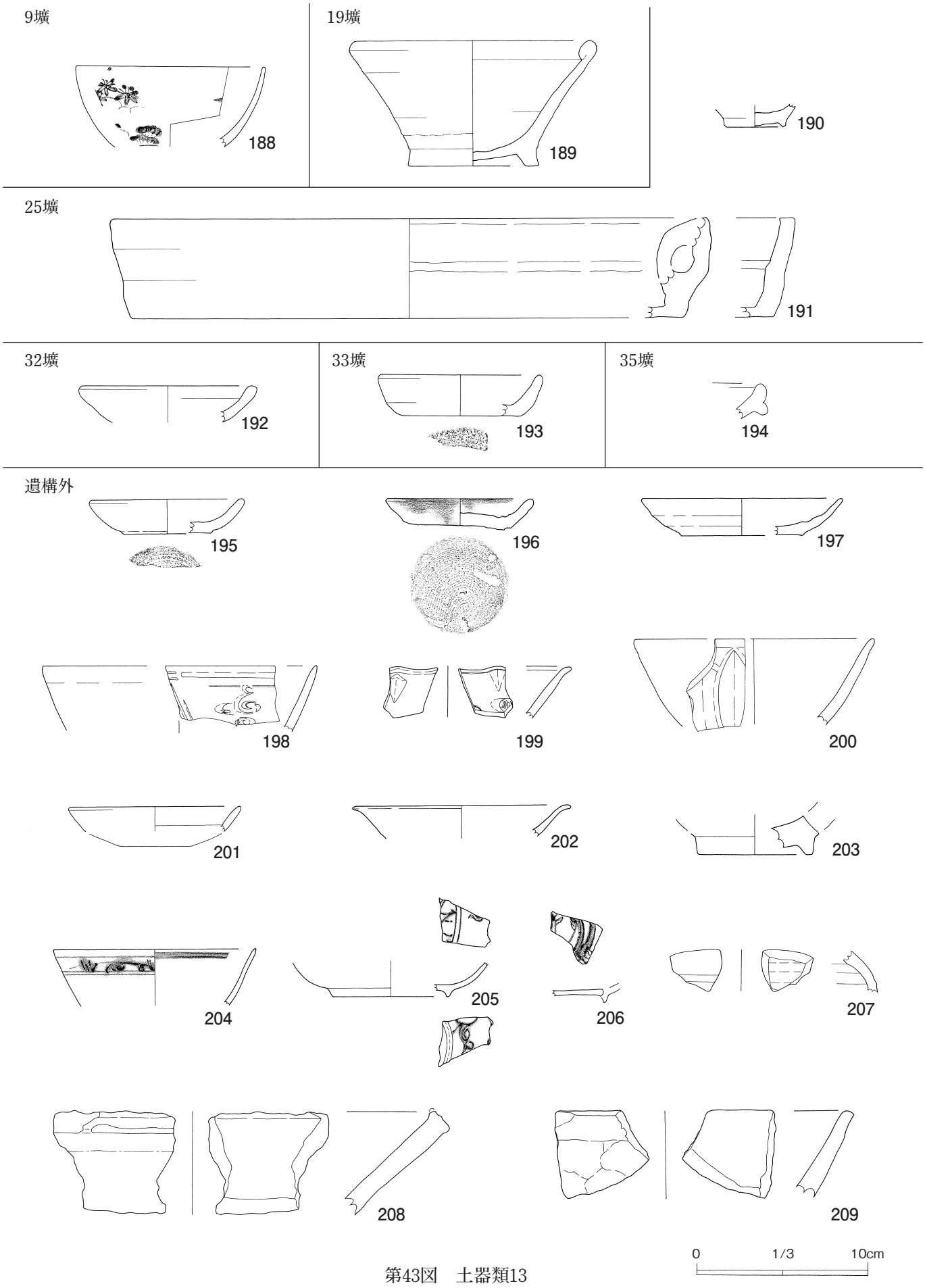


0　1/3　10cm

第41図　土器類11

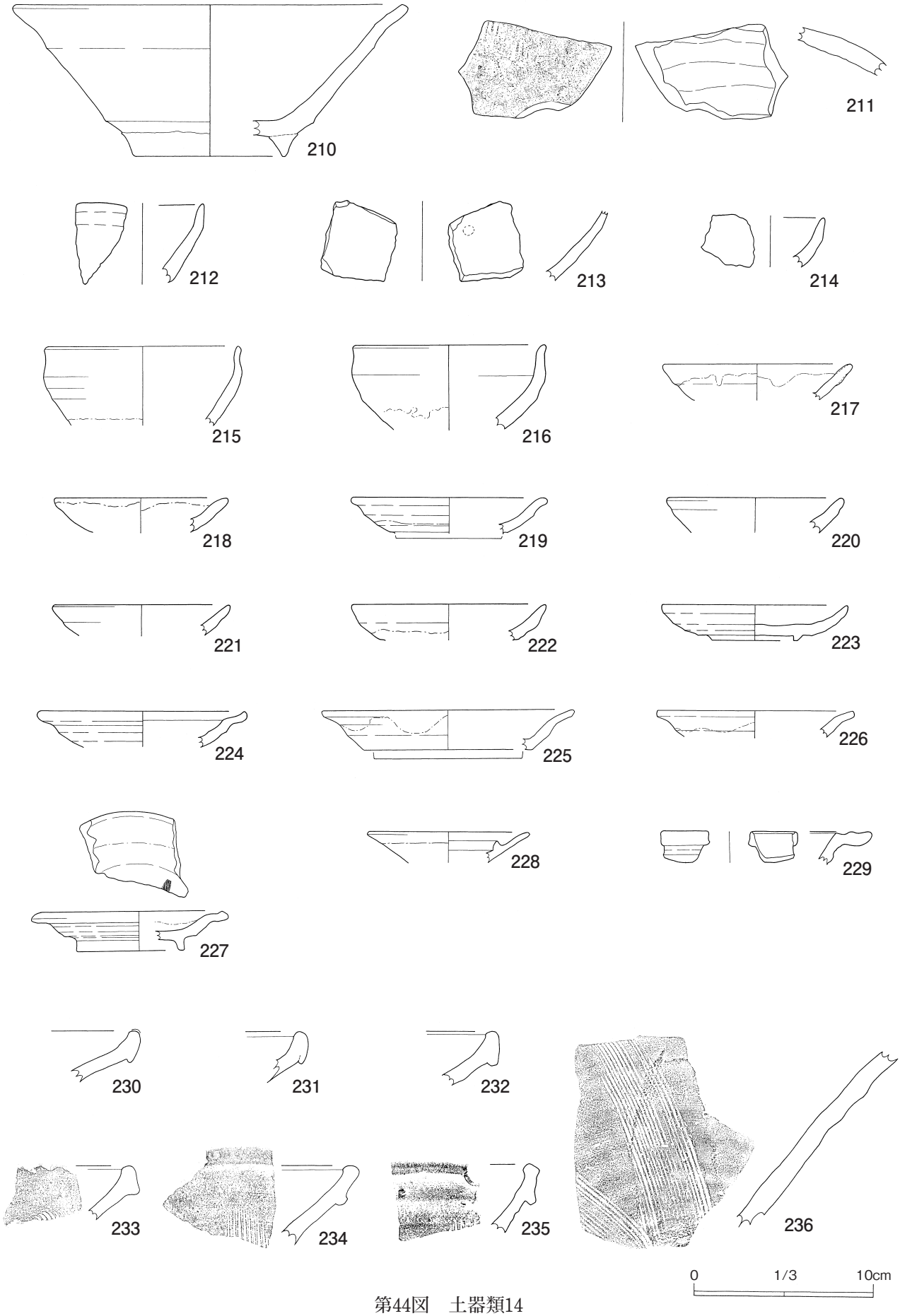

20溝
173
22溝
174
175
3井
176
7井
177
178
10井
179
15井
180
16井
181
17井(1)
182
17井(2)
183
19井
184
3壙
185
6壙
186
187
0
1/3
10cm

第42図　土器類12


9壙
188
19壙
189
190
25壙
191
32壙
192
33壙
193
35壙
194
遺構外
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
0
1/3
10cm

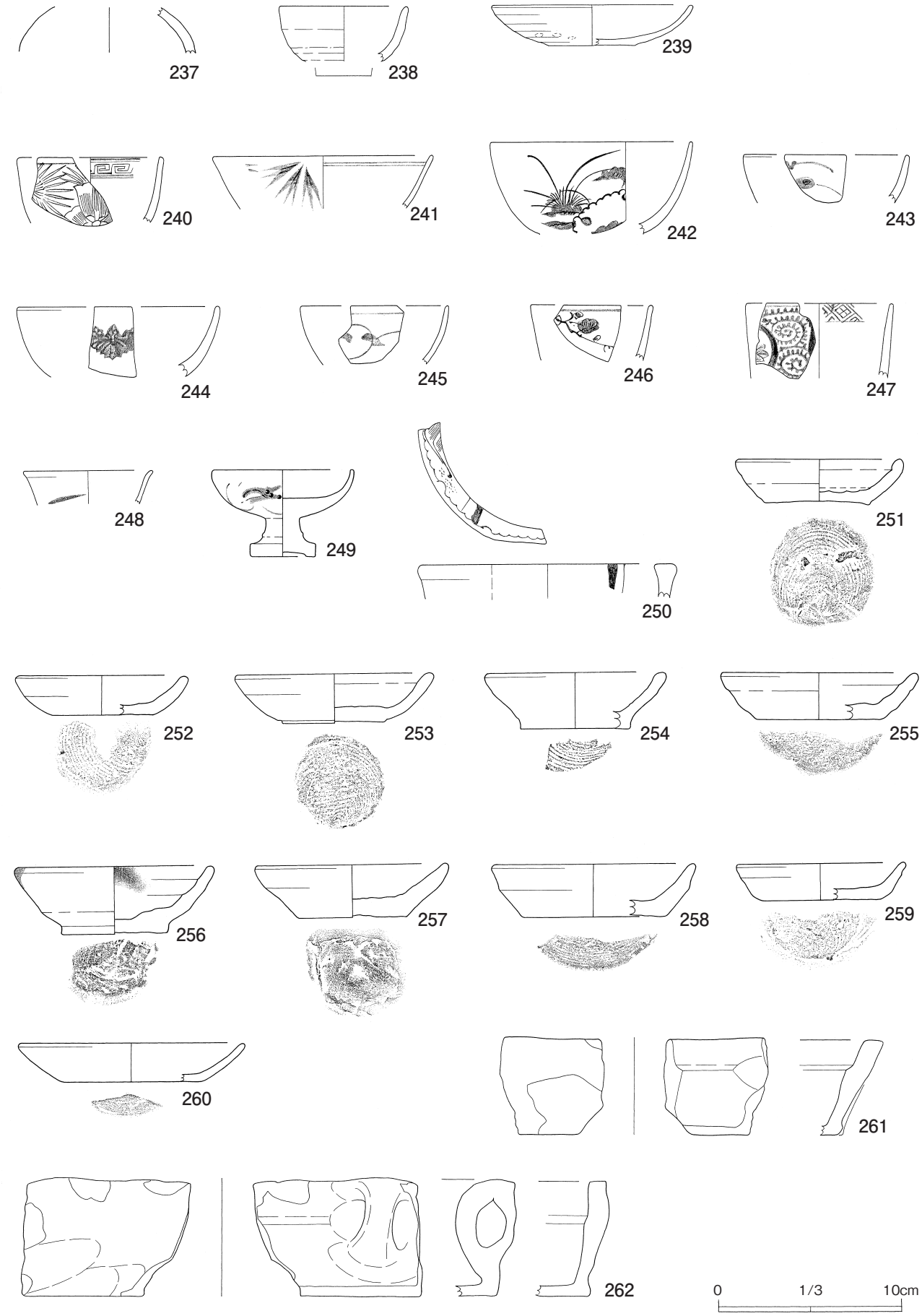
第43図　土器類13

遺構外



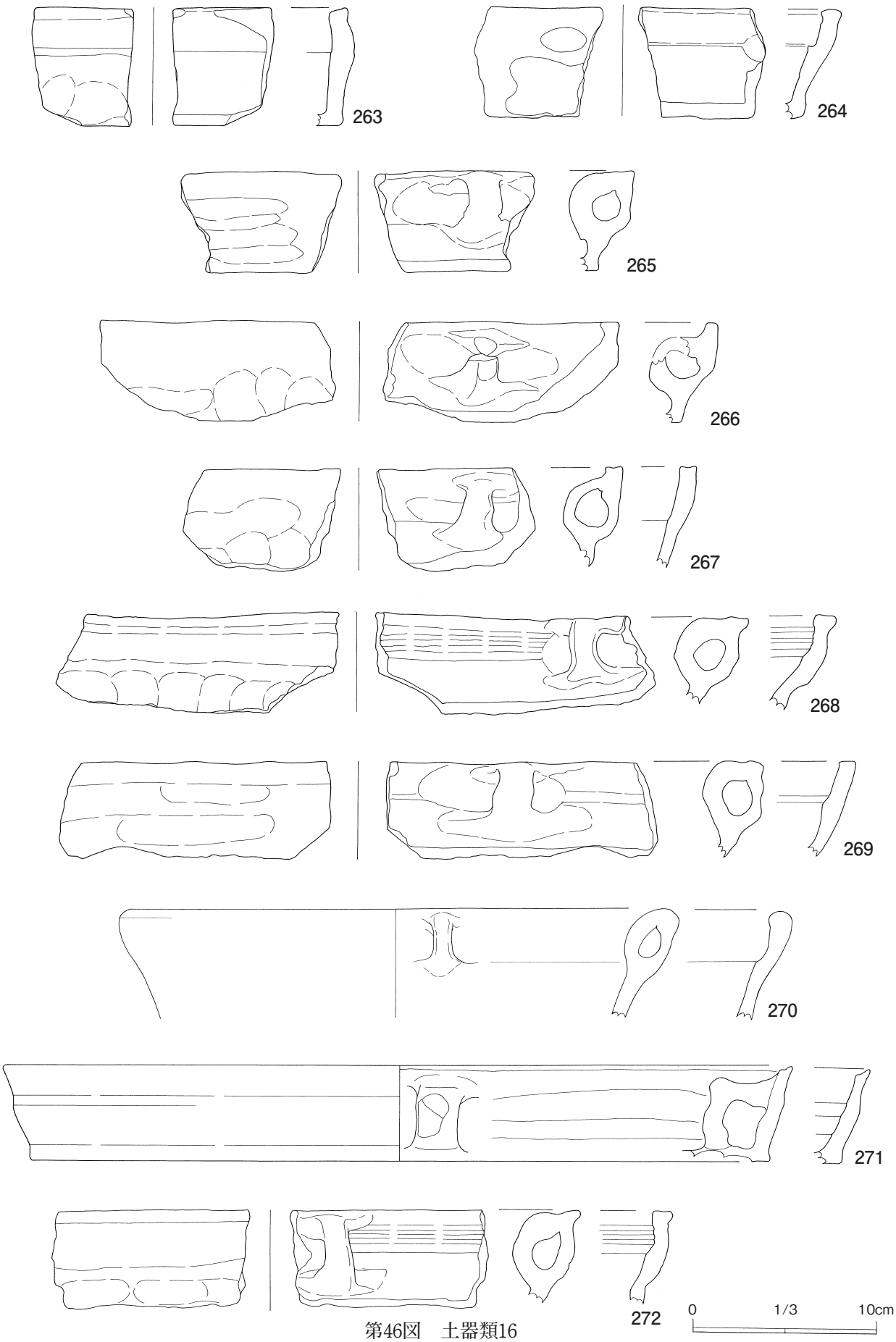
第44図　土器類14

遺構外



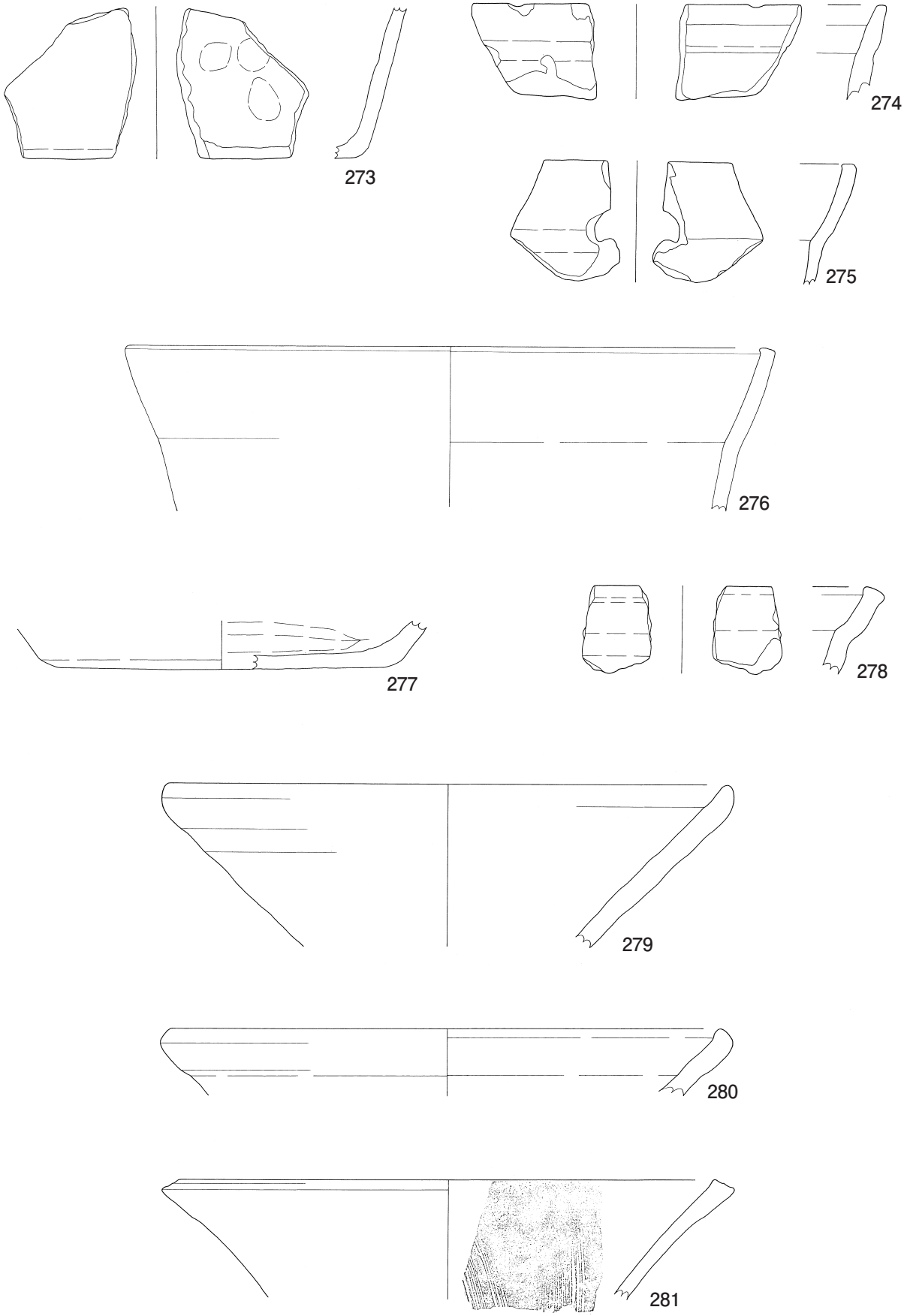
第45図　土器類15

遺構外



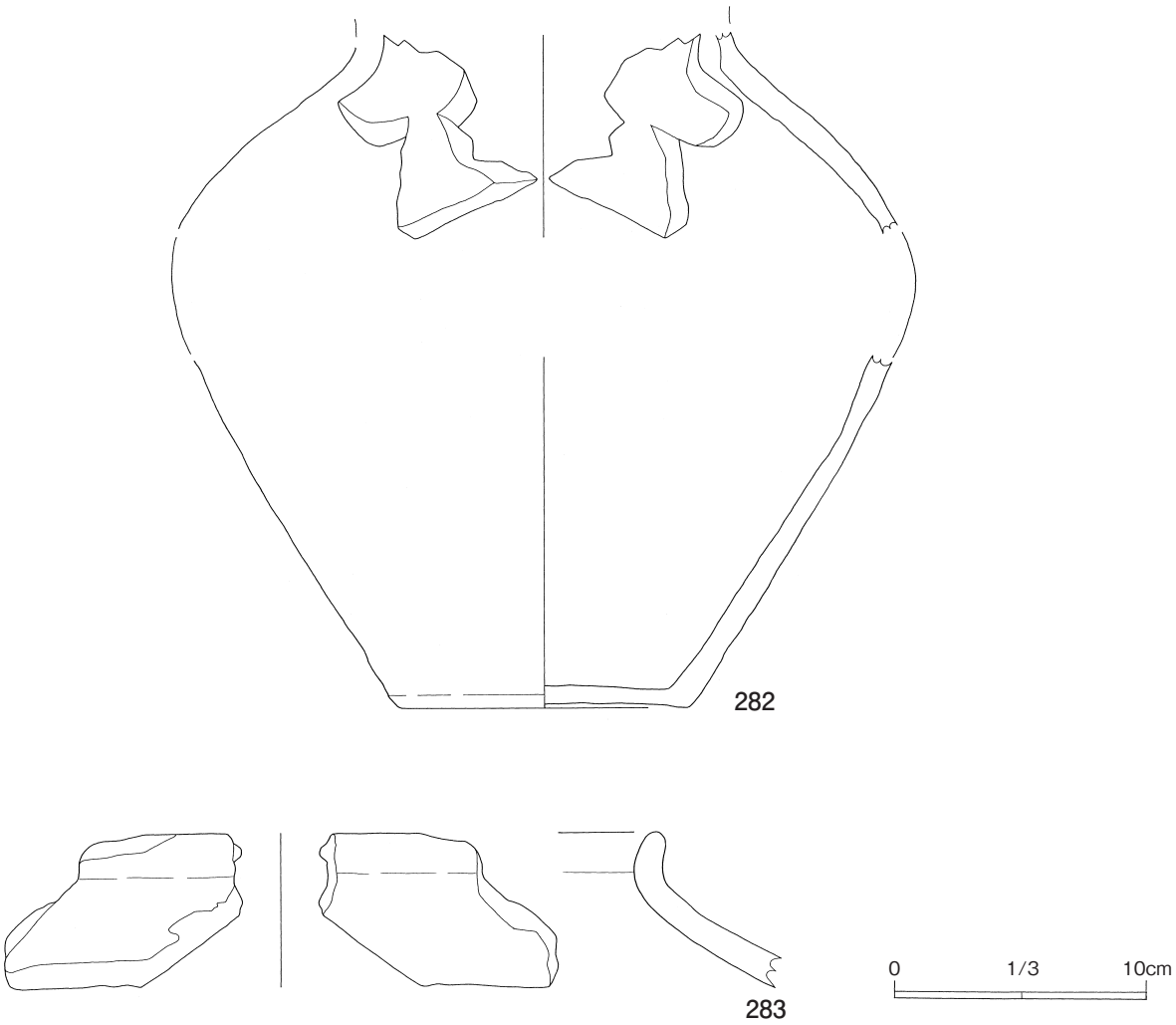
第46図　土器類16

遺構外



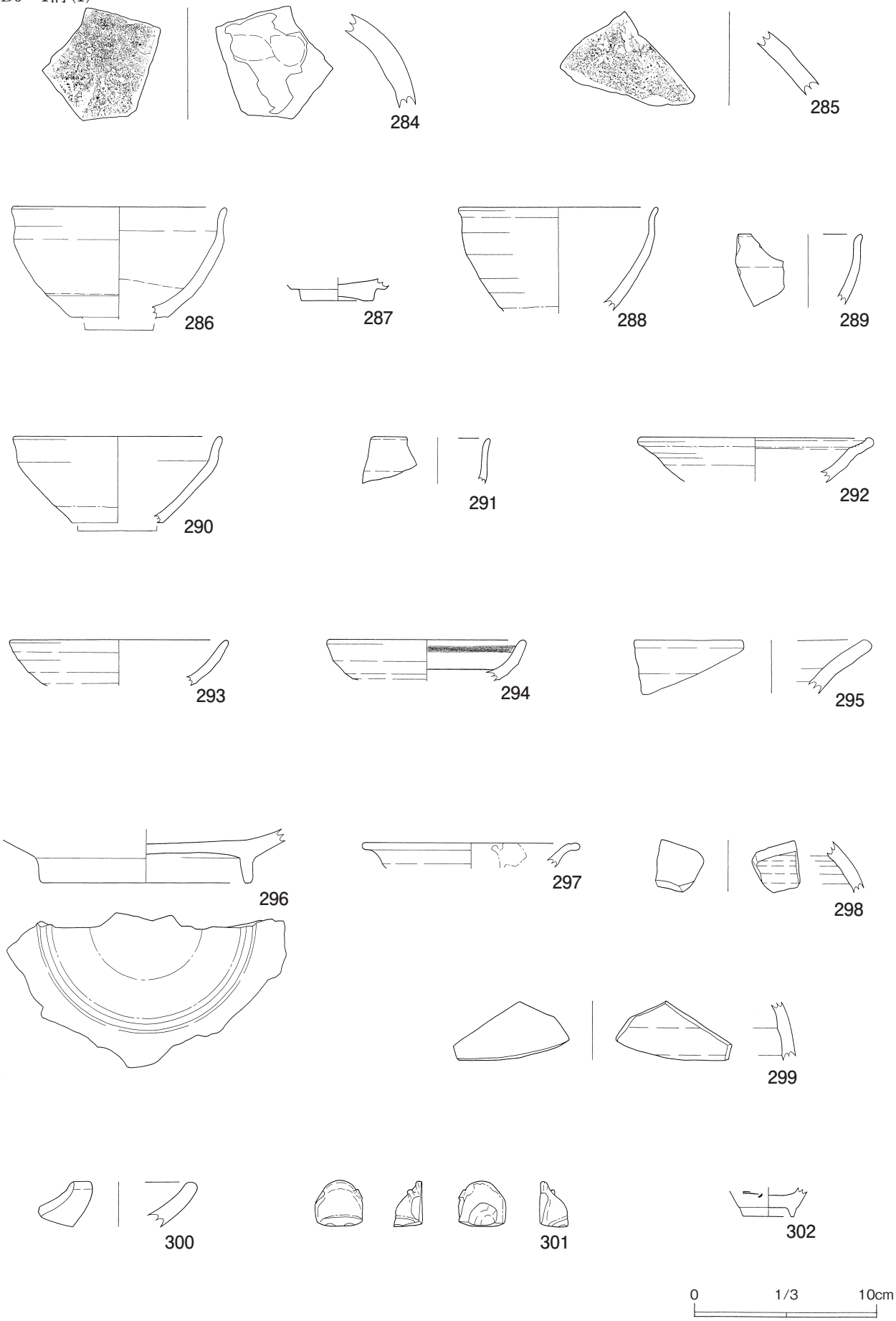
第47図　土器類17

遺構外



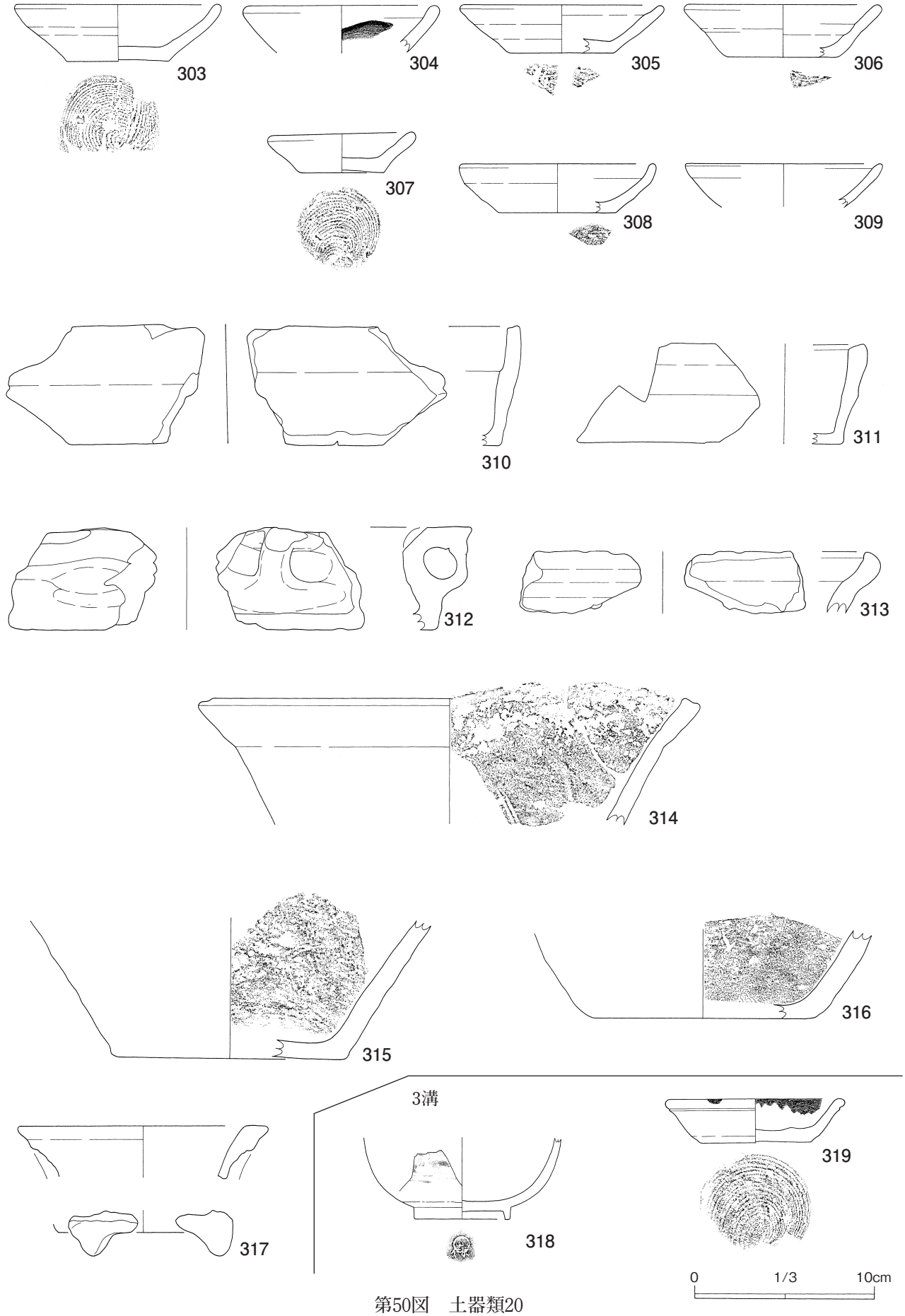
第48図　土器類18

KB6　1溝(1)



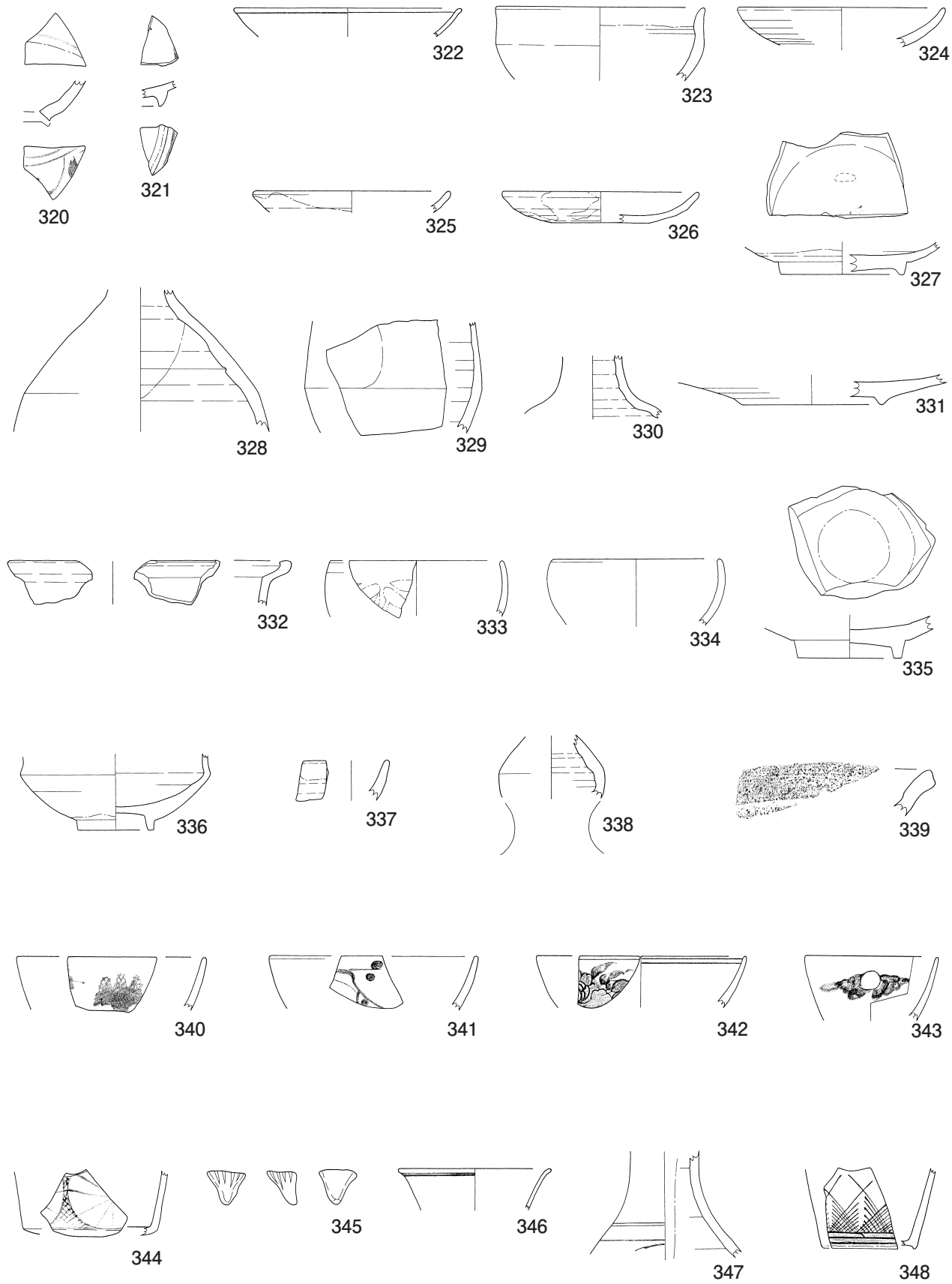
第49図　土器類19

1溝(2)



第50図　土器類20

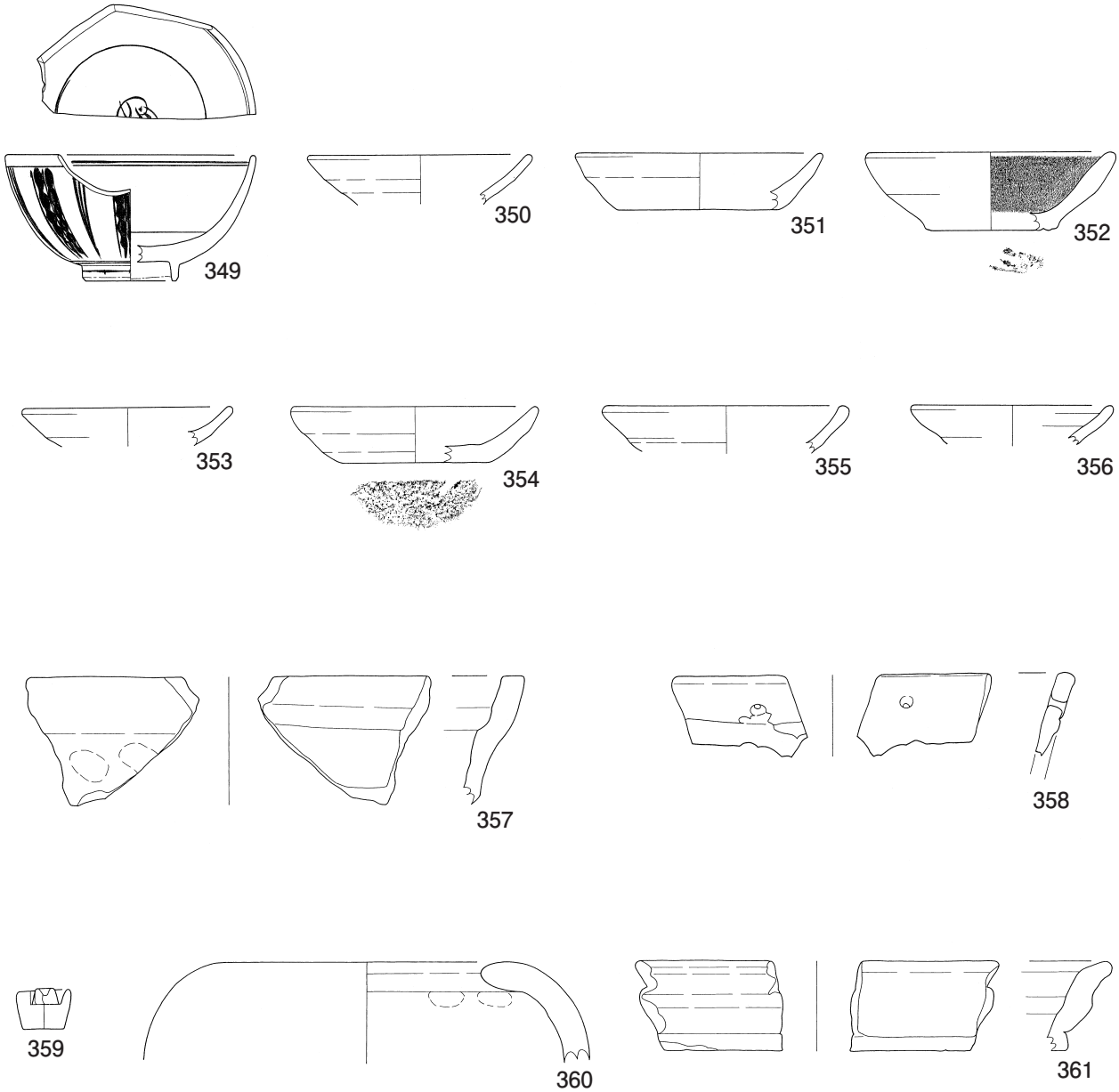
遺構外



0　1/3　10cm

第51図　土器類21

遺構外



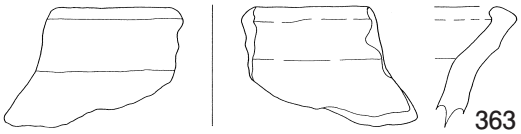
0　1/3　10cm

第52図　土器類22

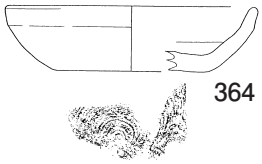
KB9

1溝

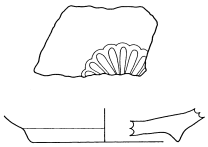
2･5溝合流



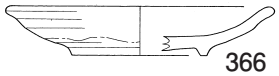
2溝

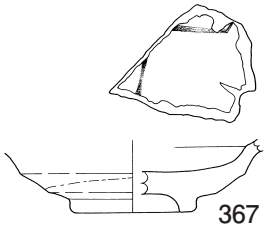


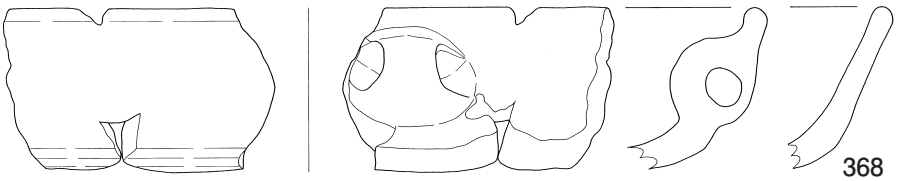
6溝



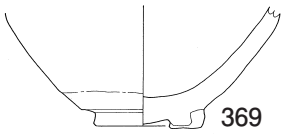
9溝



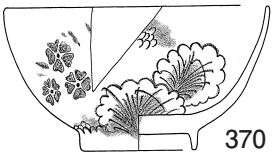




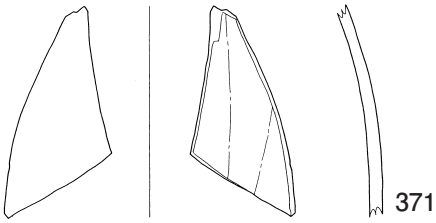
13溝

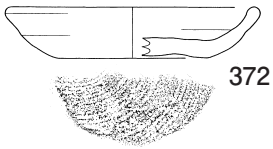


14a溝

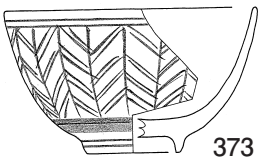


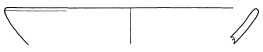
16a溝

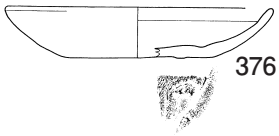




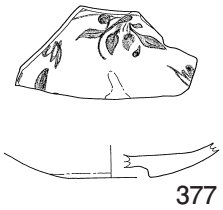
16c溝

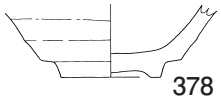


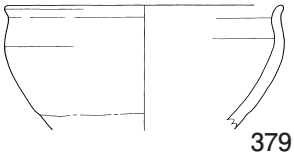




19溝(1)



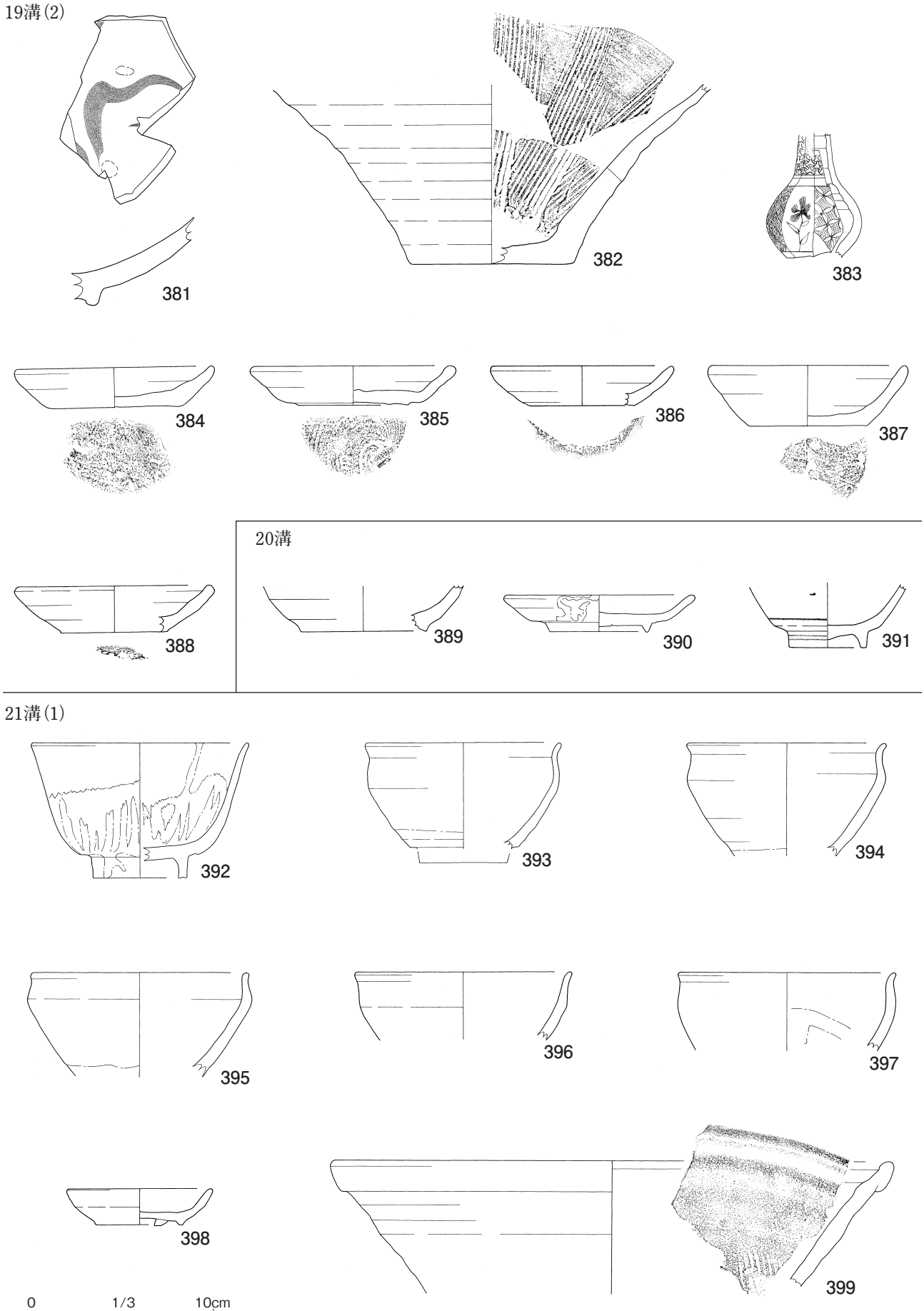




0　1/3　10cm

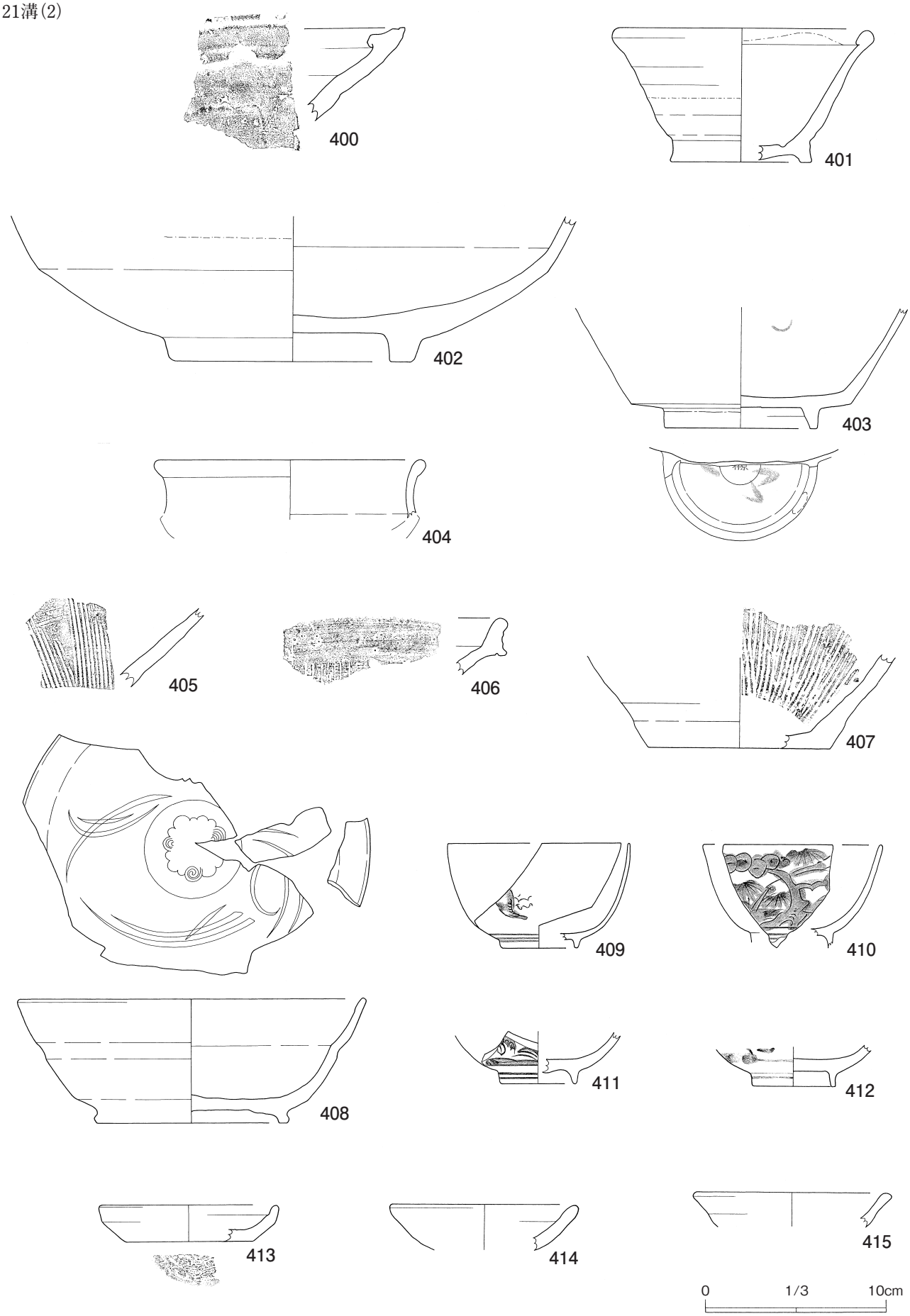
第53図　土器類23

19溝(2)



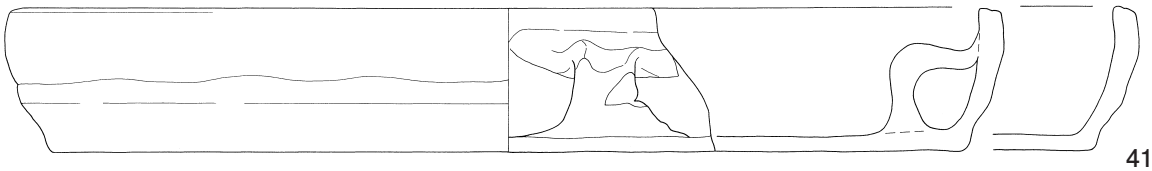
第54図　土器類24

21溝(2)

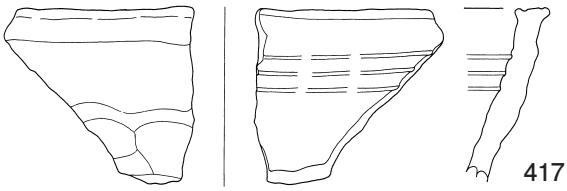


第55図　土器類25

21溝(3)

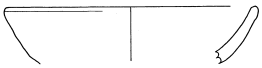


416



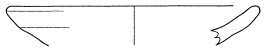
417

25溝



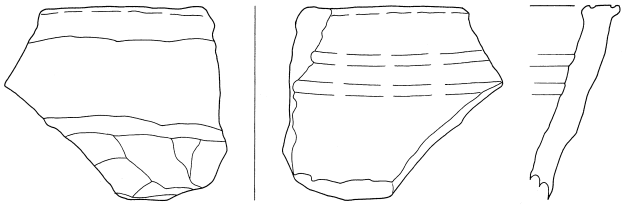
418

26溝(1)



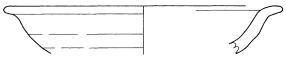
419

26溝(2)

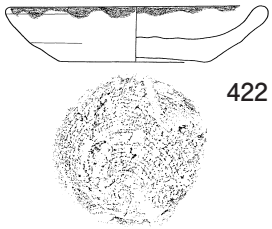


420

1井

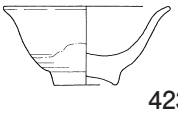


421

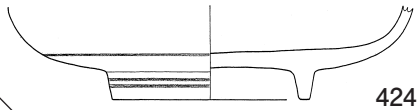


422

2井

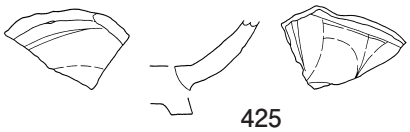


423



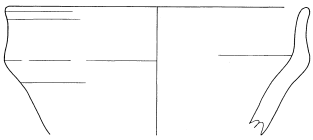
424

7壙



425

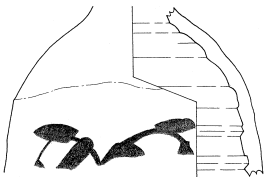
9壙



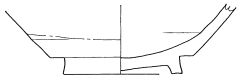
426

15壙

427

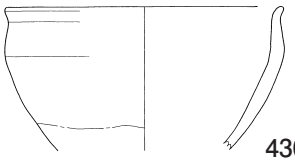


428



429

16壙(1)



430

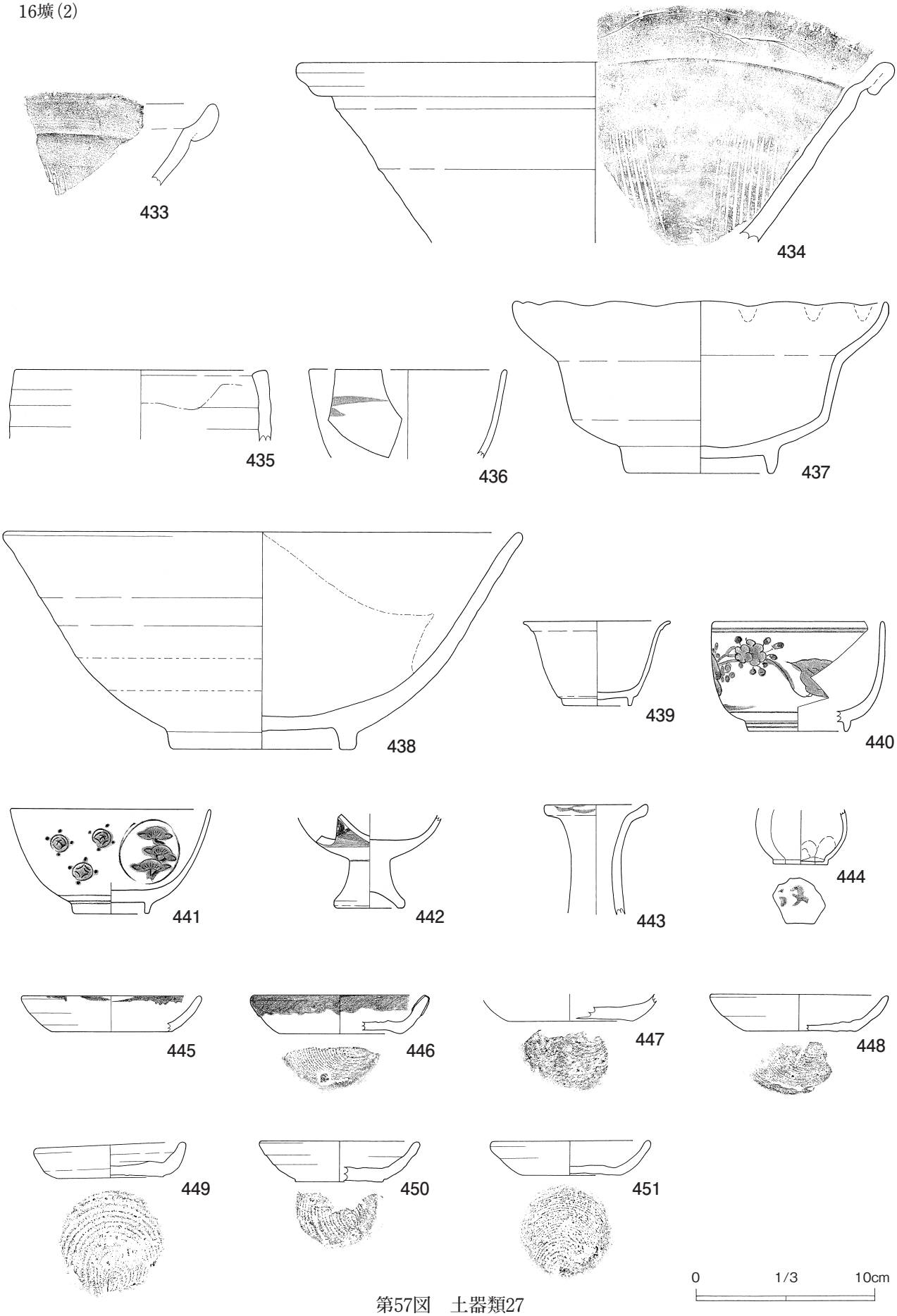
431

432

0　1/3　10cm

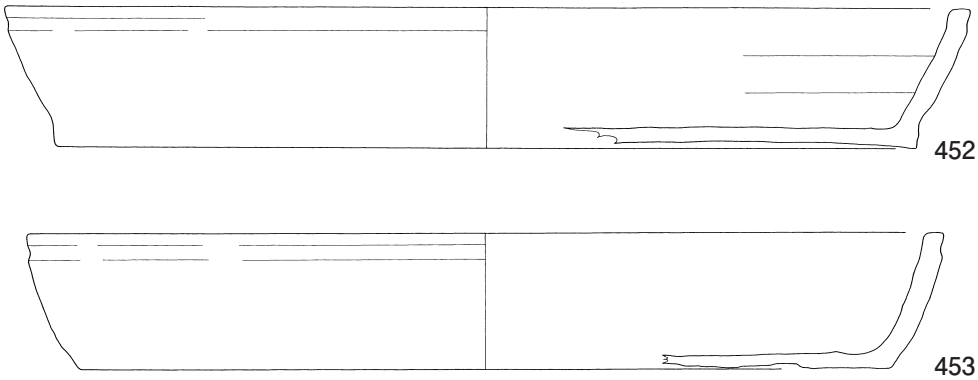
第56図　土器類26

16壙(2)

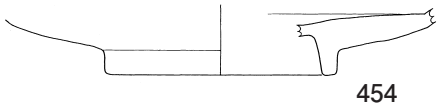


第57図　土器類27

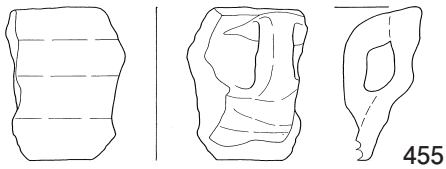
16壙(3)



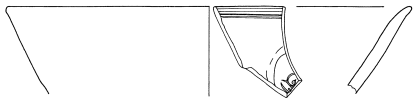
17壙

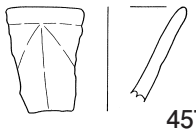


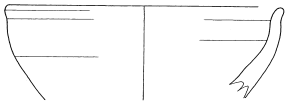
19壙

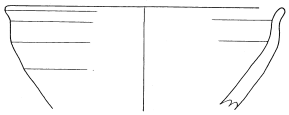


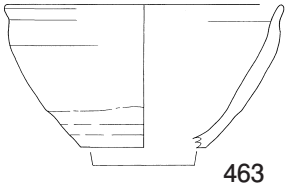
遺構外

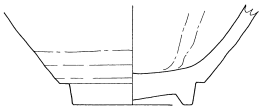


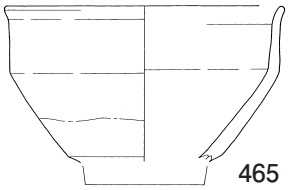


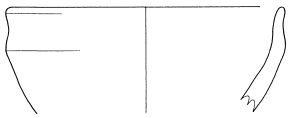


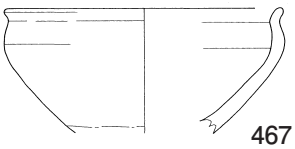


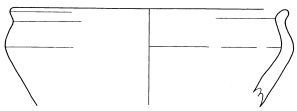


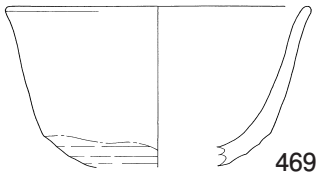


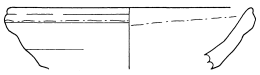


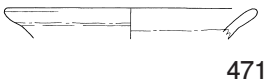








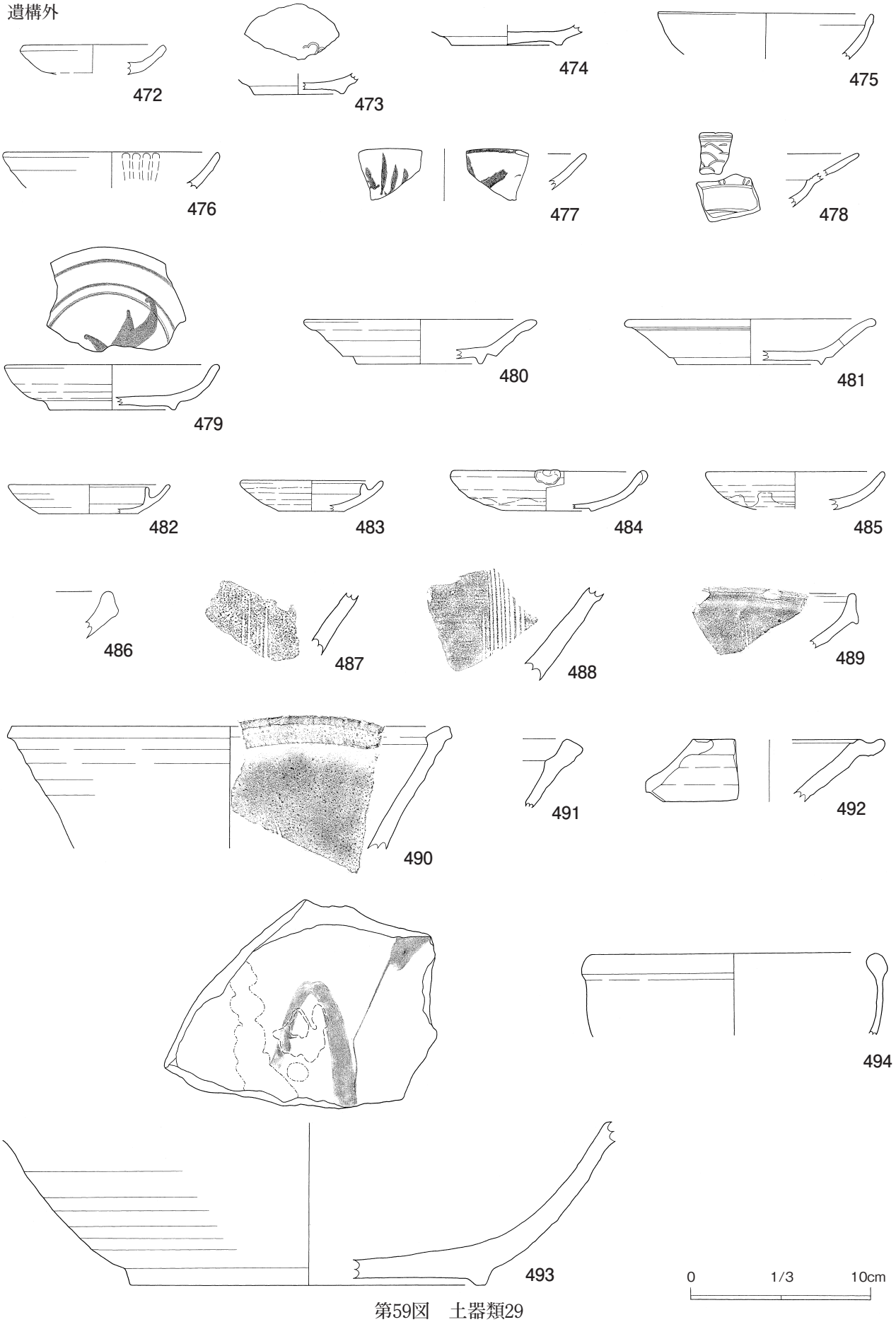




0 1/3 10cm

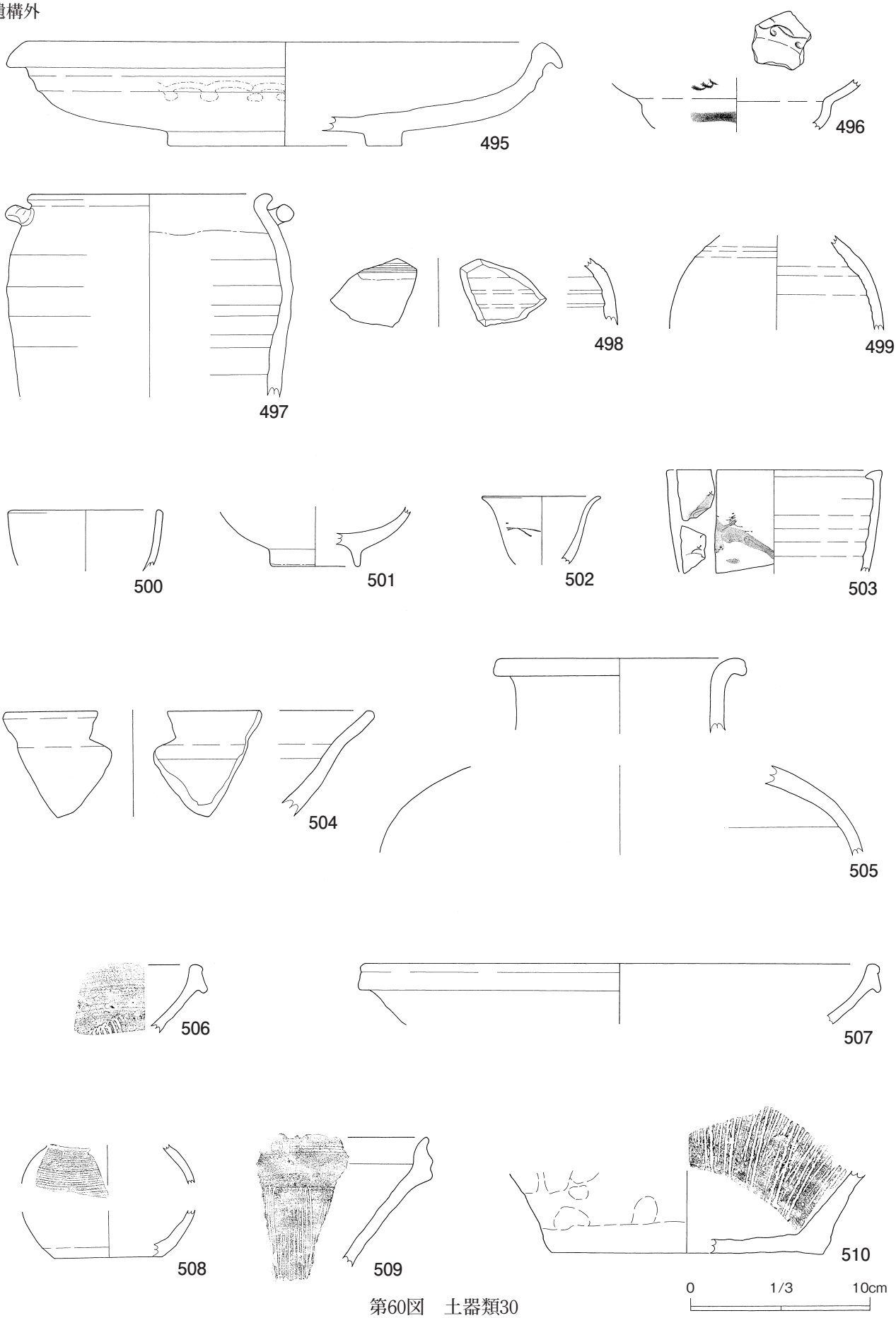
第58図　土器類28

遺構外



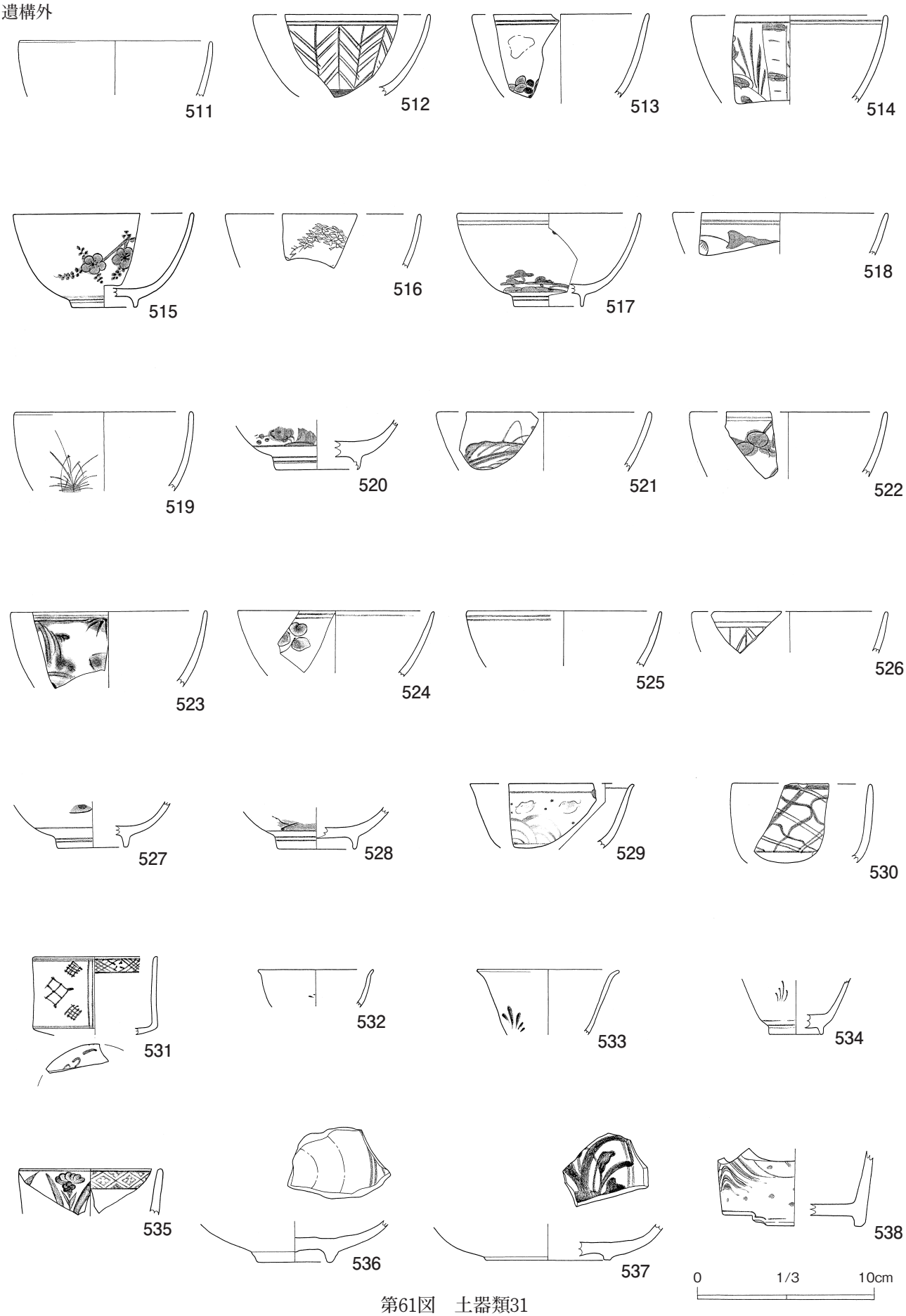
第59図　土器類29

遺構外



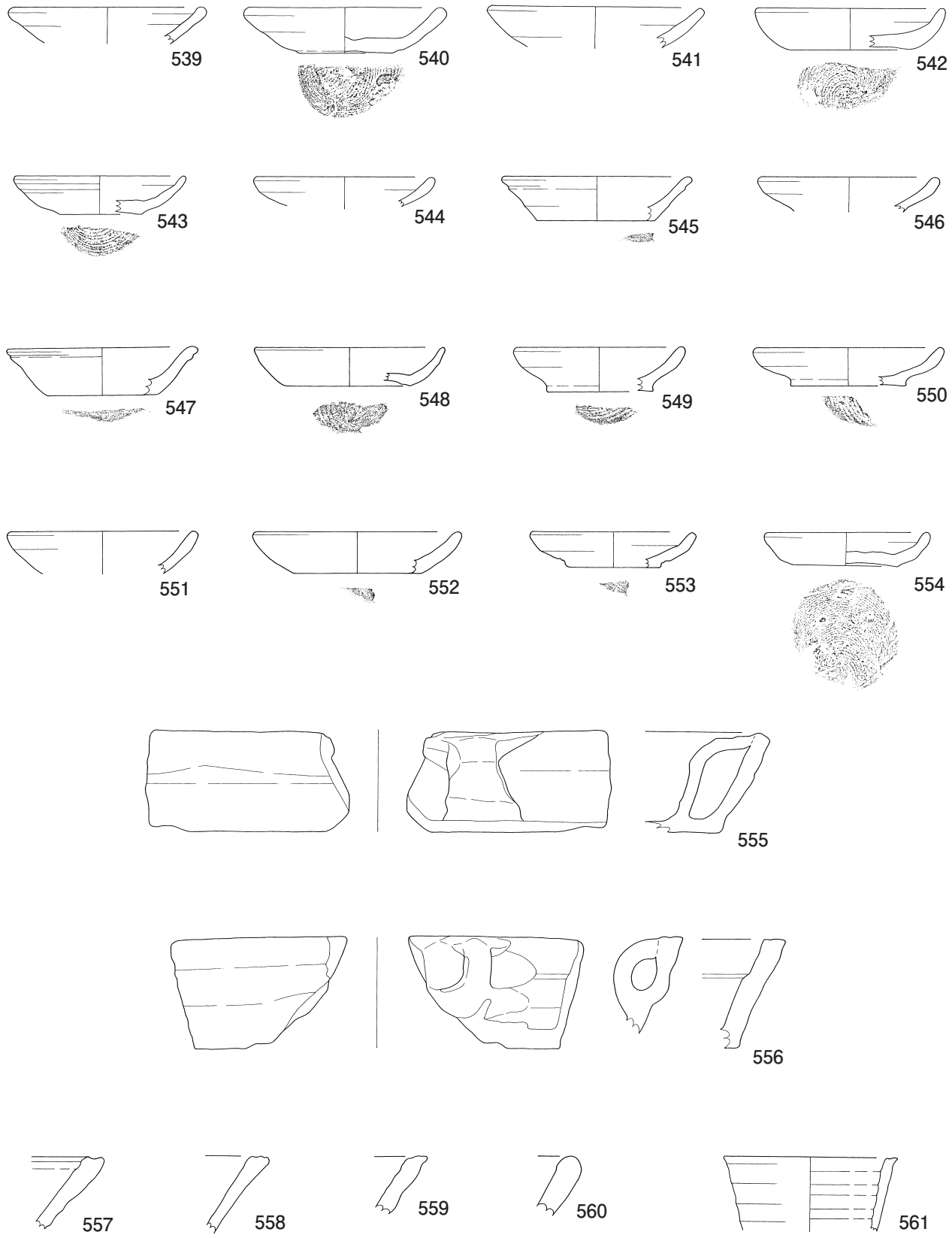
第60図　土器類30

遺構外



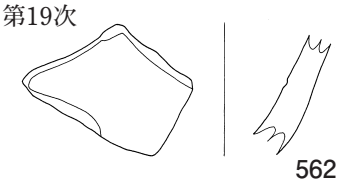
第61図　土器類31

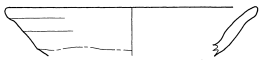
遺構外



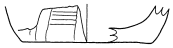
第62図　土器類32

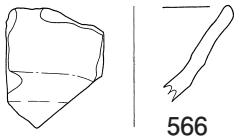
第19次

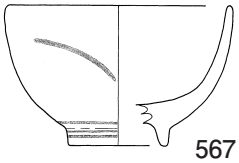

562

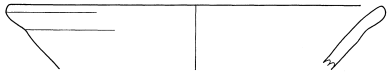

563

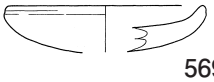
564


565


566

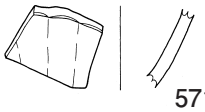

567

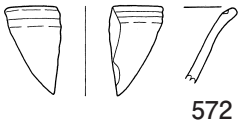

568


569

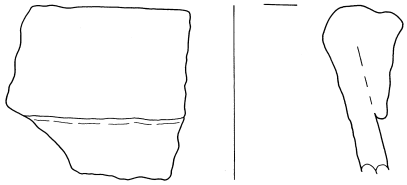
第20次

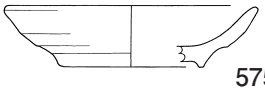
570
4溝

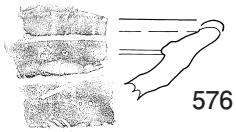

571

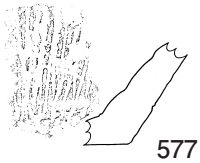

572

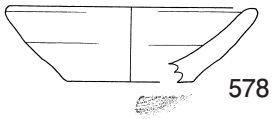
573


574


575


576

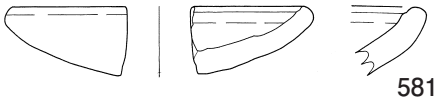

577

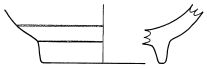

578

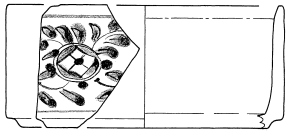
第21次

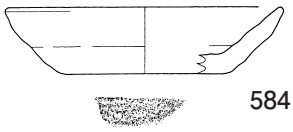
579

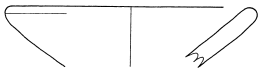
580


581


582


583

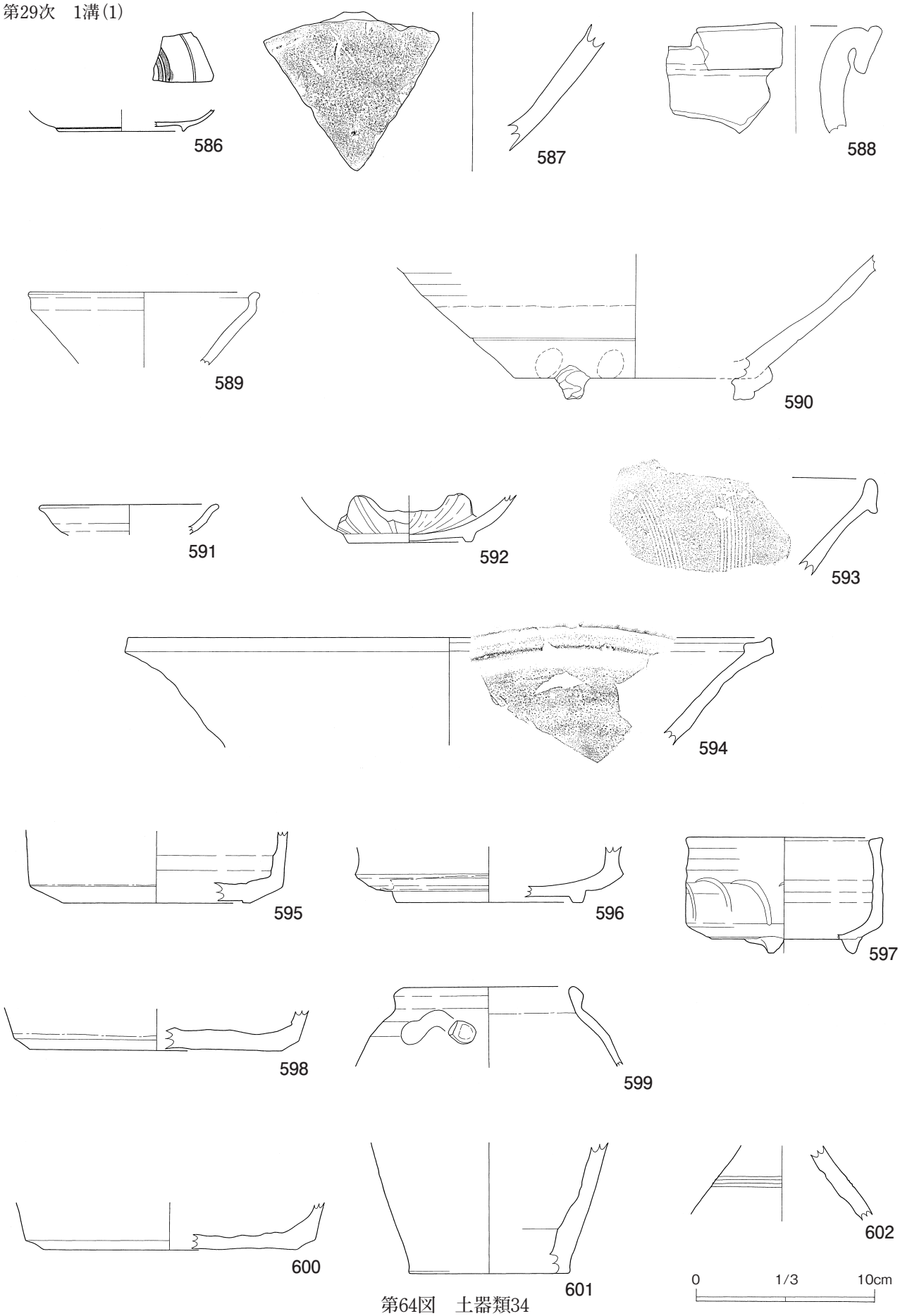

584


585

0　1/3　10cm

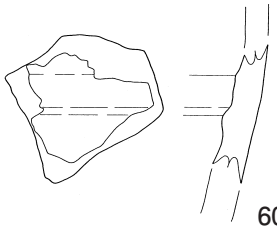
第63図　土器類33

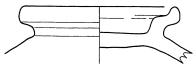
第29次　1溝(1)

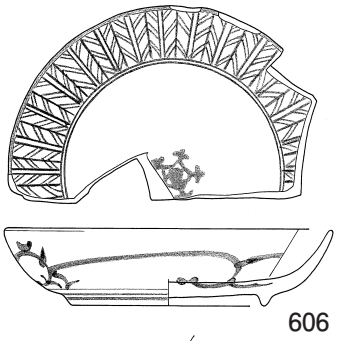


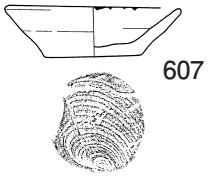
第64図　土器類34

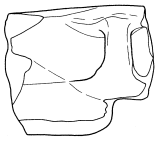
1溝(2)

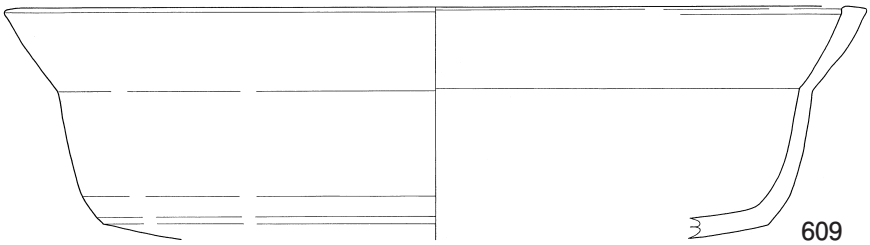


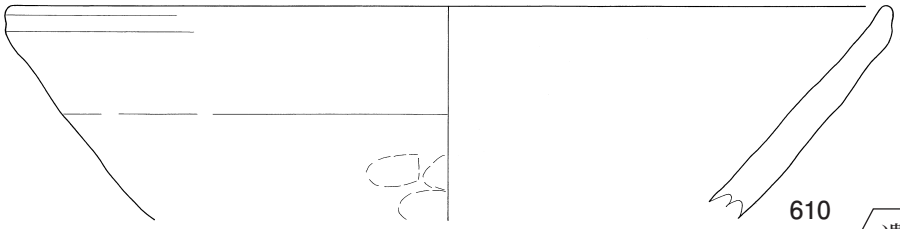


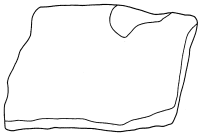


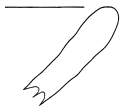




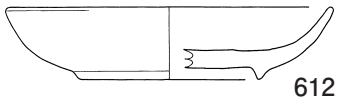






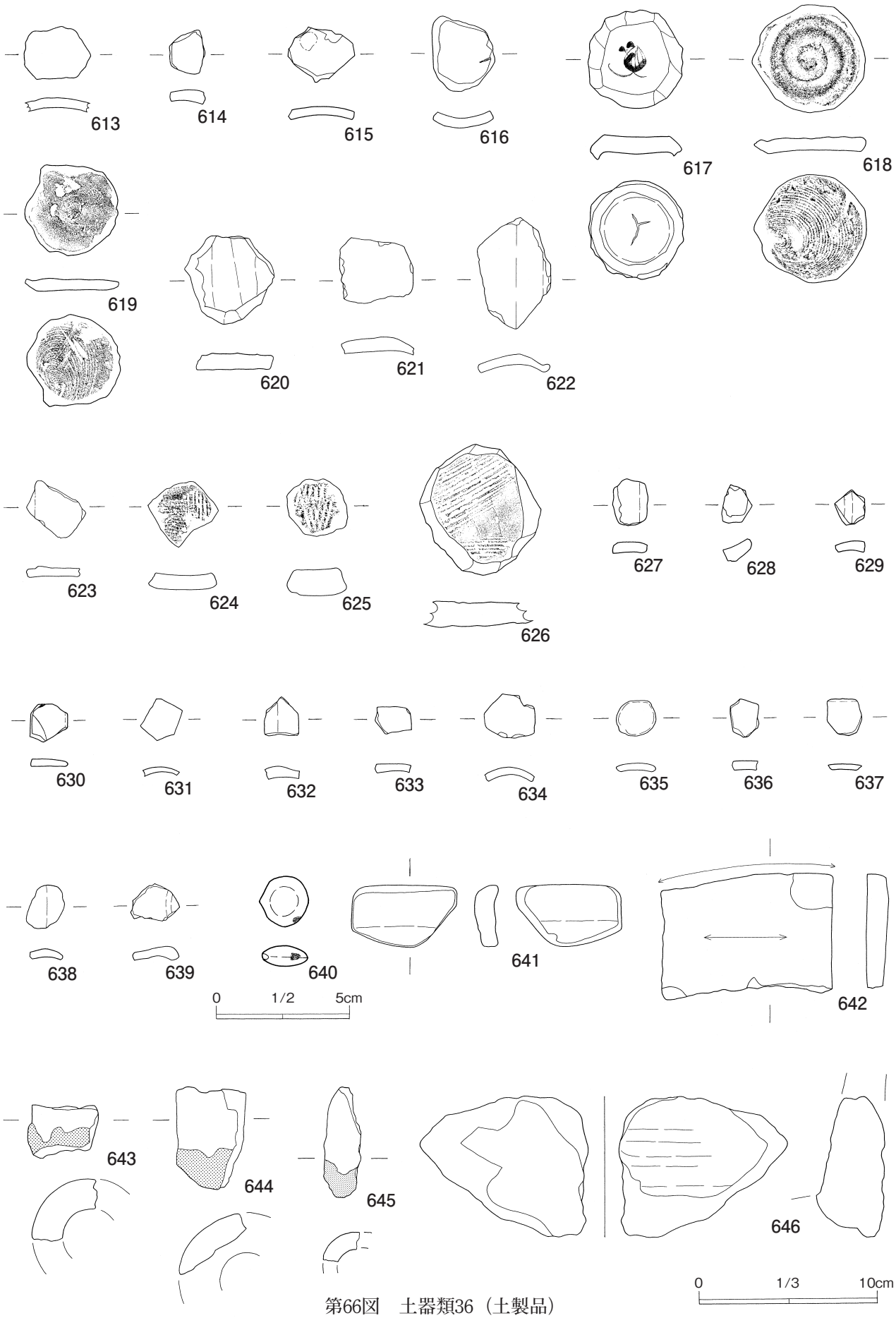


遺構外



0　1/3　10cm

第65図　土器類35



第66図　土器類36（土製品）

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
1	片口鉢	常滑	KB３	１溝、KB１C-19G №49	＊31.3	12.2	13.6	６a、Ⅰ		町鉢61	
2	緑釉小皿	瀬戸美濃	KB３	１溝（６-43区№16）、６-43区	＊13.0	－	－	古後Ⅰ		皿09	
3	かわらけ	在地	KB３	１溝（６-43区№22）	＊9.6	5.8	1.8	騎西城Ⅳ期		K12	
4	ほうろく	在地	KB３	１溝（６-43区№32）	－	－	－		18c～	H11	
5	ほうろく	在地	KB３	１溝（６-44区）、22壙（６-44区№548）、６-44区№528、６-44区	＊38.0	＊35.0	6.2			H14	
6	片口鉢	在地	KB３	１溝（６-43区№２）	＊30.0	－	－		14c 前	鉢28	
7	青磁碗	同安窯系中国	KB３	２溝	－	－	－			青01	
8	染付碗	中国	KB３	２溝	－	－	－			染03	
9	皿	中国	KB３	２溝	－	＊3.0	－	皿Ｃ		町染67	
10	平碗	瀬戸美濃	KB３	２溝	－	－	－	古後		碗01	
11	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区 №133、一 括）、６-43区２Ｔ	＊11.0	－	－	登１		天05	
12	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№257、一括）	＊12.0	－	－	登２		天07	
13	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№276・308・321）	＊11.5	4.8	7.0	登２	17c 初～前	町天19	
14	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№289）	＊11.6	－	－	登１		天03	
15	天目（白天目）	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№341）	－	－	－	登２・３		天09	
16	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№364）	＊12.2	－	－	登２		天08	
17	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№372）	＊11.1	－	－	登２		天06	
18	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№449）	＊11.2	－	－	登１		天02	
19	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区３Ｔ）	11.8	4.8	6.0	大４後	16c 末～17c 初	町天07	
20	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝	＊10.0	－	－	大３		天14	
21	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝、２溝２層、６-43区、６-43区東、	＊11.2	＊4.8	7.1	登２		天01	
22	天目	瀬戸美濃	KB３	２溝、６-43区	＊11.6	－	－	登２		天04	
23	緑釉小皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№437）	＊9.6	4.4	1.8	古後Ⅳ（古）		町皿11	
24	緑釉小皿	瀬戸美濃	KB３	２溝	－	＊5.0	－	古後Ⅲ・Ⅳ（古）		皿11	
25	灰釉皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№234・235・239・237）	11.9	7.2	2.3	登１	17c 前～中	町皿05	
26	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№396）	－	＊6.0	－	登１		皿05	
27	織部皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№409）	＊16.8	－	－	登１		皿06	
28	輪禿皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区 №360、一 括）、２井、３井、６-43区、６-44区	12.9	7.0	3.3	登２		町皿130	
29	志野丸皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№256）、６-43区東	＊11.2	＊6.4	2.3	登３		皿03	
30	志野丸皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№258）	＊11.4	＊7.0	2.6	登３		皿02	
31	丸皿	瀬戸美濃	KB３	２溝	＊11.0	－	－	大３		皿18	
32	丸皿	瀬戸美濃	KB３	２溝	＊10.0	－	－	大３		皿20	
33	丸皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№298、一括）	＊12.0	－	－		17c 後～18c	皿33	
34	反り皿	瀬戸美濃	KB３	２溝、３井２層	＊13.0	－	－		17c 後～18c	皿31	
35	菊皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区）	＊14.0	－	－		17c 中	皿32	
36	菊皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№191）	14.2	9.2	3.4	登３ヵ４	17c 後～末	町皿06	型打皿
37	花瓶	瀬戸美濃	KB３	２溝	－	－	－	古中		他02	
38	志野小坏	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№404）	－	＊3.0	－	登１		他07	
39	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№171）	－	－	－	古後Ⅳ（新）・大１		鉢09	
40	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№221）	－	－	－	古後Ⅳ（新）・大１		鉢08	
41	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№267、一括）	－	－	－	古後Ⅳ（新）・大１		鉢11	
42	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝	－	－	－	古後Ⅳ（新）・大１		鉢10	
43	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№149・153・169・177）	＊35.1	－	－	登２、Ⅱ		町鉢99	
44	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№172）	＊29.0	－	－	登１		町鉢272	
45	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№174）	－	－	－	登６、Ⅰ		町鉢149	
46	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№225）	＊33.1	－	－	大４後、Ⅰ		町鉢205	
47	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№338）	－	－	－	大３前、Ⅰ		町鉢221	
48	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№352）	＊28.5	－	－	大４前、Ⅰ		町鉢208	
49	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№368・371、一括）	－	＊10.0	－	大２～４		鉢16	
50	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝、６-44区№490・513	－	＊11.0	－	大２～４		鉢14	
51	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝、６-44区№511、６-44区	－	＊9.0	－	大２～４		鉢15	
52	折縁深皿又は直縁大皿	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№364）	－	－	－	古後Ⅲ		鉢07	
53	鉄絵鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№84、一括）、６-43区	＊23.0	＊12.0	4.5	登４ヵ	17c 後	鉢29	
54	鉄絵鉢	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№109）	－	－	－	登４ヵ	17c 後	鉢31	
55	徳利	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区 №81）、KB１A-10G №98、KB２　L-11 №61　７溝	－	＊8.4	－	大４	16c	町袋35	
56	双耳壺	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№100）	＊12.8	－	－		17c 後	袋02	
57	双耳壺	瀬戸美濃	KB３	２溝（６-43区№462）	＊13.6	－	－	登３		町袋37	
58	向付	瀬戸美濃	KB３	６-43区	＊13.0	－	－	大４		他05	
59	皿	肥前（唐津）	KB３	２溝（６-43区）、６-44区、６-44区№519、６-43区東	＊13.8	＊7.5	3.5			皿14	
60	擂鉢	志戸呂	KB３	２溝（６-43区№96）	－	－	－			町鉢258	体部のみ
61	擂鉢	志戸呂	KB３	２溝（６-43区№333）	－	－	－		16c 中～17c	町鉢44	
62	天目	初山	KB３	２溝	－	＊4.2	－			天10	
63	鉢	備前	KB３	２溝（６-43区№266・400）	＊20.0	－	－		16c 後	町鉢259	
64	擂鉢	丹波	KB３	２溝（６-43区№95・132・147・381）	＊31.2	＊11.0	－		17c 前	鉢33	
65	擂鉢	丹波	KB３	２溝（６-43区№302）	－	－	－		17c 前	鉢32	
66	染付碗	肥前（磁器）	KB３	２溝（６-43区　№72・73・173・180、一括）	＊11.0	＊4.0	6.6		17c 後	伊01	

第11表　土器類一覧表１

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
67	染付碗	肥前(磁器)	KB３	２溝(６-43区№150)	＊11.0	－	－		17c 後	伊03	
68	染付碗	肥前(磁器)	KB３	２溝(６-43区№181)、KB１　12溝(B-16G)	－	4.4	－		18c	伊15	
69	染付碗	肥前(磁器)	KB３	２溝(６-43区№363)	－	＊5.6	－		17c 前	伊04	
70	染付碗	肥前(磁器)	KB３	２溝	＊11.0	－	－		17c 後	伊13	
71	天目形碗	肥前(磁器)	KB３	２溝(６-43区№296・299、一括)	＊10.4	－	－		1630～1650	伊08	
72	徳利	肥前(磁器)	KB３	２溝(６-43区 №159、一 括)、６-43区、６-44区	－	－	－		17c 後	袋10	
73	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№114)	＊9.0	＊5.0	2.3	騎西城Ⅲ期		K47	
74	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№115・253)	＊10.1	5.7	2.5	騎西城Ⅲ期		K08	
75	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№188)	＊9.6	＊5.0	2.8			K52	
76	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№205)	＊9.0	＊5.2	2.0	騎西城Ⅳ期		K43	
77	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№211)、６-43区	＊10.0	＊5.0	2.4			K10	
78	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№325)	＊9.8	6.5	2.8			K09	
79	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№335)	＊9.4	＊6.0	2.5			K44	
80	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№361)	9.6	6.3	2.2	騎西城Ⅲ期		K04	
81	かわらけ	在地	KB３	２溝(６-43区№408・一括)	9.9	5.3	1.7～2.2	騎西城Ⅳ期		K06	
82	かわらけ	在地	KB３	２溝、２溝２層	＊9.6	5.5	2.6	騎西城Ⅲ期		K07	
83	かわらけ	在地	KB３	２溝	＊10.0	＊6.0	1.9		17c～	K48	
84	土鍋	在地	KB３	２溝(６-43区№331)	＊32.6	－	－		15c 後	町 D40	
85	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区　№138・254・277・284・292・318・319・382・383・386・387・388・389・395・397、一括)	＊35.6	＊32.3	5.9			町 H27	
86	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区 №162・192・183・328・330・332・344・346・356・359・？、一括)	＊35.0	＊32.0	5.0～5.3			H17	
87	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区№200)	＊38.6	＊35.0	5.3			町 H26	
88	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区№241・401)、５井５層	＊33.2	＊30.0	5.6～5.9			H22	
89	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区 №281・393・394・398・399、一括)	34.2	31.3	6.1			町 H28	
90	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区№301)、３Ｔ	＊34.0	＊30.6	5.7～5.9			H13	
91	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区№444)	＊35.0	＊32.0	5.7			H23	
92	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区№446・453)	＊34.0	＊30.0	6.0			H19	
93	ほうろく	在地	KB３	２溝(６-43区№450)	－	－	5.8			H21	
94	片口鉢	在地	KB３	２溝(６-43区№203)	＊30.0	－	－		14c 後	鉢17	
95	片口鉢	在地	KB３	２溝(６-43区№406)	＊30.0	－	－		13c 後	鉢21	
96	風炉	在地	KB３	２溝(６-43区№422)	－	－	－		不明	素他01	
97	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	２b 溝(６-43区№442)	＊28.0	－	－	大４前、Ⅰ		町鉢209	
98	擂鉢	志戸呂	KB３	２b 溝(６-43区№440)	－	＊9.0	－			町鉢257	体部から底部
99	口禿皿	中国	KB３	４溝(６-40区)	＊12.0	－	－	Ⅸ？	13c～14c	白19	
100	片口鉢	常滑	KB３	４溝(６-40区№15)	－	＊11.0	－	Ⅱ	13c 後～16c	鉢24	
101	甕	常滑	KB３	４溝(６-40区　№16・247)、14溝(６-40区№201)	－	－	－	11	1500～1550	町袋96	
102	甕	常滑	KB３	４溝(６-40区№212)	－	－	－	６a		袋01	
103	甕	常滑	KB３	４溝カベギワ、KB１　B-20G №２	－	＊15.5	－			袋09	
104	天目	瀬戸美濃	KB３	４溝(６-40区№２)	＊11.2	－	－	大２	16c 前～中	町天14	
105	内禿皿	瀬戸美濃	KB３	４溝(６-40区№169)	10.6	6.6	1.9	大４前		町皿39	碁笥底内ハゲ
106	耳付水注	瀬戸美濃	KB３	４溝(６-40区№168)	－	－	－	大１～４		他04	
107	天目	初山	KB３	４溝(南)、12溝(６-40区)	－	－	－	大３相当		天12	
108	かわらけ	在地	KB３	４溝(６-40区№132)	11.3	6.8	3.4			K02	
109	かわらけ	在地	KB３	４溝(６-40区№159)	＊10.5	5.1	3.2	騎西城Ⅰ期		K13	
110	かわらけ	在地	KB３	４溝(６-40区テラス)、６-40区	＊11.6	7.0	2.6	騎西城Ⅱ期		K14	
111	ほうろく	在地	KB３	４溝(６-40区№10)	－	－	6.5～6.7			H24	
112	片口鉢	在地	KB３	４溝(６-40区№135)	＊30.0	－	－		13c 後	町鉢283	須恵質
113	片口鉢	在地	KB３	４溝(６-40区№１)	＊30.0	－	－		14c 前	鉢20	
114	擂鉢	在地	KB３	４溝(６-40区　№161)、16溝(６-40区)、16A 溝(６-40区　№230)、46壙(６-40区　№361、６-40区)、６-40区№41・101、６-40区	－	＊12.0	－			鉢02	
115	染付皿	漳州窯系中国	KB３	６溝、６-43区、KB１、KB１表土	＊13.2	＊5.2	3.1	E	17c 初	染01	
116	かわらけ	在地	KB３	６溝(６-40区№29)	＊11.0	＊8.0	2.5	騎西城Ⅲ期		K49	
117	ほうろく	在地	KB３	６溝(６-40区 №172？)、12溝(６-40区№117・124、一括)	＊33.0	＊30.3	5.56.0			H16	
118	大皿	肥前(唐津)	KB３	７溝(６-44区№584)、６-44区	－	－	－			皿15	
119	かわらけ	在地	KB３	８溝(６-44区№614)	＊10.4	＊5.0	2.9	騎西城Ⅱ期		K41	
120	かわらけ	在地	KB３	８溝(６-44区№616)	＊8.0	＊5.0	2.5			K46	
121	かわらけ	在地	KB３	８溝(６-44区№619)	＊9.4	5.4	2.6	騎西城Ⅲ期		K24	
122	甕	常滑	KB３	12溝(６-40区　№115)、２溝(６-43区№470)、KB１　B-14G №39	＊48.0	－	－	11	1500～1550	町袋25	
123	丸皿	瀬戸美濃	KB３	12溝(６-40区№108)	＊10.8	5.8	2.6	大２	16c 前～中	町皿40	

第12表　土器類一覧表２

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
124	志野丸皿	瀬戸美濃	KB３	12溝（６−40区№118）、６−40区№20、６−40区	＊12.0	＊6.8	2.7	登２		皿01	
125	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№238）	＊11.0	＊8.0	2.4	騎西城Ⅲ期		K45	
126	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№242）	＊11.4	9.0	2.2〜2.4	騎西城Ⅲ期		K30・38	
127	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№245）	＊11.4	8.6	2.8	騎西城Ⅲ期		K28	
128	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№255、６−40区）	＊12.2	＊8.8	2.1	騎西城Ⅲ期		K34	
129	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№109、一括）	＊11.6	＊8.0	2.6	騎西城Ⅲ期		K35	
130	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№107）	＊11.0	＊8.0	2.5	騎西城Ⅲ期		K40	
131	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№111，一括）、６−40区、KB２№25	＊11.4	＊8.0	2.6	騎西城Ⅲ期		K29	
132	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区№122）	＊11.1	＊7.1	2.8	騎西城Ⅱ期		K31	
133	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区、一括）	＊11.0	＊7.0	2.6	騎西城Ⅲ期カ		K32	
134	かわらけ	在地	KB３	12溝（６−40区）	＊11.0	＊6.0	2.6	騎西城Ⅱ期		K51	
135	かわらけ	在地	KB３	12溝、６−40区	＊12.0	＊8.6	2.1	騎西城Ⅲ期		K33	
136	かわらけ	在地	KB３	12溝	＊11.0	＊8.0	2.8	騎西城Ⅱ期		K17	
137	土釜	在地	KB３	12溝（６−40区）	−	−	−			素他07	
138	青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	KB３	14溝（６−40区№356）	−	5.1	−	Ⅰ−５−C		町青03	
139	片口鉢	常滑	KB３	14溝（６−40区　№150）、46壙（６−40区№298）	−	−	−	９、Ⅱ		鉢04	
140	片口鉢	常滑	KB３	14溝（６−40区№200・206・283・284・365、一括）、６−40区	26.2	10.7	10.0	10、Ⅱ		町鉢08	
141	平碗	瀬戸美濃	KB３	14溝（６−40区№194）	−	＊5.2	−	古後Ⅲ		碗02	
142	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB３	14溝（６−40区№359）	＊12.4	＊7.0	2.2	古後Ⅲ		皿10	
143	稜皿	瀬戸美濃	KB３	14溝（６−40区）	＊10.0	−	−	大３		皿23	
144	筒形容器	瀬戸美濃	KB３	14溝（６−40区№148）	−	＊11.0	−	古後ヵ		他08	
145	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	６−40区№313・323・324、６−40拡張区北	＊34.2	＊13.0	12.5		19c 初	鉢01	
146	卸目付大皿	瀬戸美濃	KB３	14溝（６−40区№207）	−	＊13.0	−	古後Ⅲ・Ⅳ（古）		町鉢03	
147	梅瓶ヵ瓶子	瀬戸美濃	KB３	14溝（６−40区№156）	＊4.6	−	−	古後Ⅳ（古）		町他13	
148	かわらけ	在地	KB３	14溝（６−40区№188）	＊11.5	5.7	3.5	騎西城Ⅰ期		K15	
149	かわらけ	在地	KB３	14溝（６−40区№340）	7.0	3.5	2.7〜2.9	騎西城Ⅰ期		K23	
150	片口鉢	在地	KB３	14溝（６−40区№302）	＊30.0	−	−		13c 後	鉢18	
151	擂鉢	在地	KB３	14溝（６−40区№157）	＊30.0	−	−			鉢35	
152	擂鉢	在地	KB３	14溝（６−40区　№328）、16A溝（６−40区№234）	−	＊14.0	−			鉢03	
153	甕	在地	KB３	14溝（６−40区№354）	−	−	−		14c	袋03	
154	土鍋	在地	KB３	14溝（６−40区№189）	−	−	−		14c 後〜末ヵ	D07	
155	土鍋	在地	KB３	14溝（６−40区№195）	＊30.0	−	−		15c 前	町 D38	
156	白磁八角杯	中国	KB３	16溝（６−40区）	−	−	−	B	15c	白03	
157	平碗	瀬戸美濃	KB３	16溝（６−40区）	−	−	−	古後Ⅲ		碗06	
158	土鍋	在地	KB３	16溝（６−40区）	−	−	−		15c 前	D08	
159	甕	常滑	KB３	16A 溝（６−40区№233）	−	−	−			袋05	
160	卸皿	瀬戸美濃	KB３	16A 溝（６−40区№235）	−	＊7.0	−	古後		町皿57，皿08	
161	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB３	16A 溝（６−40区№218）	−	＊5.8	−	古後Ⅲ・Ⅳ		皿13	
162	かわらけ	在地	KB３	16A 溝（６−40区№342）	11.1	4.5	3.5	騎西城Ⅰ期		K01	
163	土鍋	在地	KB３	16A 溝（６−40区№225）	−	−	−			D10	
164	甕	常滑	KB３	17B 溝（６−40区№299）	−	−	−			袋08	
165	鉄絵碗	瀬戸美濃	KB３	19溝（６−40区№266）	−	−	−	登１		碗07	
166	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	19溝（６−40区№261・264）	＊36.0	−	−	登２、Ⅱ		町鉢98	
167	かわらけ	在地	KB３	19溝（６−40区№280）	＊10.6	＊9.0	2.3〜2.5	騎西城Ⅲ期		K37	
168	かわらけ	在地	KB３	19溝（６−40区№366）、６−40拡張区	＊11.0	＊7.0	2.8	騎西城Ⅱ期		K19	
169	擂鉢	在地	KB３	19溝（６−40区№349）	＊30.0	−	−		15c 後〜16c	鉢23	
170	土鍋	在地	KB３	19溝（６−40区№263）	−	−	−		16c 前ヵ	D11	
171	土鍋	在地	KB３	19溝（６−40区№279・345）	＊34.0	−	−		15c 後ヵ	D09	
172	土鍋	在地	KB３	19溝（６−40区№347）	＊30.0	−	−		15c 後ヵ	D06	
173	甕	常滑	KB３	20溝（６−40区№289）	−	−	−			袋06	
174	折縁深皿	瀬戸美濃	KB３	22溝（６−40区№371）	−	−	−	古後Ⅳ（古）		町皿166	
175	片口鉢	常滑	KB３	22溝（６−40区№368）				10、Ⅱ	15c 後	鉢26	
176	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	３井、６−43区	−	−	−	大４前		鉢13	
177	ほうろく	在地	KB３	７井（６−44区№472）	−	−	6.1			H10	
178	ほうろく	在地	KB３	７井（６−44区№473・474）	＊33.8	＊30.0	6.1			H18	
179	白磁端反皿	中国	KB３	10井	−	＊6.0	−	C−１	15c 中〜16c	白04	
180	志野丸皿	瀬戸美濃	KB３	15井	＊12.0	＊7.4	2.1	登１・２		皿26	
181	腰折皿	瀬戸美濃	KB３	16井	＊13.0	−	−	古後Ⅳ（新）		皿30	
182	染付皿	中国	KB３	17井	−	−	−		16c 末〜17c	染06	
183	かわらけ	在地	KB３	17井	＊10.0	＊6.6	2.7			K11	
184	片口鉢	常滑	KB３	19井（６−40区）	−	−	−	９、Ⅱ	1400〜1450	鉢05	
185	かわらけ	在地	KB３	３壙（№１）	＊9.0	＊6.0	1.7	騎西城Ⅳ期	17c 後	K42	
186	甕	常滑	KB３	６壙（№１）	＊15.6	−	−	９		町袋99	

第13表　土器類一覧表３

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
187	鉄絵鉢	瀬戸美濃	KB３	６壙(№３)	－	＊19.0	－	登１		鉢30	
188	染付碗	肥前(磁器)	KB３	９壙	＊11.0	－	－		17c 後	伊06	
189	煙硝擂	瀬戸美濃	KB３	19壙(６-44区№494)、KB１　C-13G №11・12	14.4	7.6	7.3	登３		町鉢75	
190	小杯	瀬戸美濃	KB３	25壙	－	＊3.6	－	大２・３		他03	
191	ほうろく	在地	KB３	25壙(６-44区№562)	＊35.0	＊32.0	5.8			H15	
192	かわらけ	在地	KB３	32壙	＊10.3	－	－	騎西城Ⅳ期	17c～	K53	
193	かわらけ	在地	KB３	33壙	＊9.5	＊7.0	2.4	騎西城Ⅲ期		K50	
194	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	35壙	－	－	－	大３後、Ⅰ		町鉢232	
195	かわらけ	在地	KB３	４P	＊9.0	＊5.2	2.0	騎西城Ⅳ期	17c～	K39	
196	かわらけ	在地	KB３	８P	8.8	5.4	1.5~1.8	騎西城Ⅳ期		K05	
197	志野丸皿	瀬戸美濃	KB３	15P(６-40区)、６-43区	＊11.8	＊7.0	2.2	大４後		皿16	
198	青磁碗	龍泉窯系中国	KB３	６-44区№542	＊16.0	－	－	Ⅰ-４	13c～14c	町青08	
199	青磁碗	龍泉窯系中国	KB３	６-44区	－	－	－	博多０類？		町青13	
200	青磁蓮弁文碗	龍泉窯系中国	KB３	６-40区№64	＊14.0	－	－	Ⅰ-５	13c～14c	町青30	
201	青磁皿	龍泉窯系中国	KB３	一括	＊10.0	－	－	Ⅰ		青02	
202	白磁端反皿	中国	KB３	表採	＊13.0	－	－	C-１	15c 後～16c	白02	
203	白磁四耳壺	中国	KB３	６-43区東	－	＊7.0	－			白01	
204	染付碗	中国	KB３	６-44区№485	＊12.0	－	－	E	16c 中～17c 末	染02	
205	染付皿	中国	KB３	６-44区	－	＊6.8	－	E	16c 中～17c 初	染04	
206	染付皿	中国	KB３	６-40区	－	－	－	E	16c 中～17c 初	染05	
207	褐釉壺	中国	KB３	６-43区	－	－	－			袋12	
208	片口鉢	常滑	KB３	６-40区№72	－	－	－	11	16c 前	鉢25	
209	片口鉢	常滑	KB３	２T	－	－	－	６a、Ⅱ		鉢34	
210	片口鉢	常滑	KB３	６-40区	＊22.0	＊8.4	8.4	５ヵ６a、Ⅰ		町鉢09	
211	甕	常滑	KB３	６-40区№49	－	－	－			袋07	
212	平碗	瀬戸美濃	KB３	６-43区	－	－	－	古後Ⅳ(古)		碗03	
213	平碗	瀬戸美濃	KB３	６-40区№69	－	－	－	古後		碗04	
214	平碗	瀬戸美濃	KB３	一括	－	－	－	古後Ⅳ(古)		碗05	
215	天目	瀬戸美濃	KB３	６-40区	＊11.0	－	－	大４		天13	
216	天目	瀬戸美濃	KB３	６-44区	＊11.0	－	－	大４		天11	
217	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB３	６-40区	＊10.6	－	－	古後Ⅲ		町皿54	
218	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB３	６-43区	＊9.8	－	－	古後Ⅳ(古)		皿12	
219	腰折皿	瀬戸美濃	KB３	６-44区	＊11.0	＊6.0	－	古後Ⅳ(新)		皿24	
220	丸皿	瀬戸美濃	KB３	６-40区	＊10.0	－	－	大３		皿19	
221	丸皿	瀬戸美濃	KB３	６-43区	＊10.0	－	－	大４		皿21	
222	志野丸皿	瀬戸美濃	KB３	６-44区	＊11.0	－	－	大４後		皿17	
223	志野丸皿	瀬戸美濃	KB３	３T	＊10.4	＊4.8	2.0	登２		皿04	
224	織部皿	瀬戸美濃	KB３	６-43区	＊11.8	－	－	登１		皿07	
225	反り皿	瀬戸美濃	KB３	６-43区	＊14.0	－	－		17c 後	皿28	
226	反り皿	瀬戸美濃	KB３	６-44区	＊11.0	－	－		17c 後～18c	皿27	
227	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB３	６-44区	＊12.0	＊7.0	－	登２		皿29	
228	灯明皿(受皿)	瀬戸美濃	KB３	６-43区	＊9.0	－	－		18c～19c	皿34	
229	折縁深皿	瀬戸美濃	KB３	４T	－	－	－	古後Ⅲ		皿22	
230	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	６-44区№525	＊29.0	－	－	大３前、Ⅰ		町鉢210	
231	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	４T	＊27.0	－	－	大３後、Ⅰ		町鉢212	
232	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	６-40区	－	－	－	大３後、Ⅰ		町鉢216	
233	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	６-43区東	－	－	－	大４後、Ⅰ		町鉢234	
234	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	３T	－	－	－	大４前、Ⅰ		町鉢237	
235	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	６-44区	－	－	－	大４後		鉢12	
236	擂鉢	瀬戸美濃	KB３	４T	－	－	－	登１・２		鉢06	
237	茶入	瀬戸美濃	KB３	６-43区	－	－	－	古中		他01	
238	小坏	瀬戸美濃	KB３	６-43区	＊7.0	－	－		17c～	他06	
239	灯明皿(油皿)	志戸呂	KB３	６-43区、６-43区東	＊11.0	＊4.8	2.2		18c	皿25	
240	染付碗	肥前(磁器)	KB３	６-40拡張区北	＊8.0	－	－		1820～1860	伊07	
241	染付碗	肥前(磁器)	KB３	６-40拡張区北	＊12.0	－	－		18c	伊18	
242	染付碗	肥前(磁器)	KB３	６-43区№10	＊11.0	－	－		17c 後	伊05	
243	染付碗	肥前(磁器)	KB３	６-43区	＊9.0	－	－		18c	伊10	
244	染付碗	肥前(磁器)	KB３	６-43区	＊11.0	－	－		18c	伊11	
245	染付碗	肥前(磁器)	KB３	６-43区	＊8.0	－	－		18c	伊12	
246	染付碗	肥前(磁器)	KB３	６-43区	＊6.6	－	－		19c	伊14	
247	染付筒形碗	肥前(磁器)	KB３	６-44区	＊8.0	－	－		18c	伊17	
248	染付小坏	肥前(磁器)	KB３	６-40拡張区北	＊7.0	－	－		18c～19c	伊09	
249	仏飯器	肥前(磁器)	KB３	６-40区№303	＊7.8	3.6	4.8		17c 末～	伊02	
250	火入ヵ	肥前(磁器)	KB３	６-43区東	＊14.0	－	－		17c～	伊16	
251	かわらけ	在地	KB３	２T	9.2	5.8	2.4~2.5	騎西城Ⅲ期		K03	
252	かわらけ	在地	KB３	３T	＊9.6	5.6	2.2	騎西城Ⅲ期		K22	
253	かわらけ	在地	KB３	４T	＊11.0	＊5.8	2.7	騎西城Ⅲ期		K21	
254	かわらけ	在地	KB３	６-40区	＊10.0	＊6.1	3.1	騎西城Ⅲ期		K16	
255	かわらけ	在地	KB３	６-40区	＊10.8	＊6.8	2.6	騎西城Ⅱ期		K18	

第14表　土器類一覧表４

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
256	かわらけ	在地	KB３	６-40区№83、６-40区	＊11.0	＊5.8	3.3	騎西城Ⅱ期		K20	
257	かわらけ	在地	KB３	６-44区№498、№？、６-44区	＊10.8	6.0	2.9	騎西城Ⅱ期		K25	
258	かわらけ	在地	KB３	６-44区№523、６-44区	＊11.2	＊7.8	2.9	騎西城Ⅲ期		K26	
259	かわらけ	在地	KB３	表採	＊9.4	＊6.6	2.0	騎西城Ⅲ期		K27	
260	かわらけ	在地	KB３	表採、一括	＊12.6	＊7.6	2.1		18c	K36	
261	ほうろく	在地	KB３	６-44区№476	－	－	5.2			H05	
262	ほうろく	在地	KB３	６-44区№504	－	－	5.2～5.4			H02	
263	ほうろく	在地	KB３	６-44区№510	－	－	5.5			H01	
264	ほうろく	在地	KB３	６-44区№526	－	－	6.0			H06	
265	ほうろく	在地	KB３	６-44区№541	－	－	5.4			H07	
266	ほうろく	在地	KB３	６-44区№545	－	－	－			H09	
267	ほうろく	在地	KB３	３Ｔ	－	－	5.4			H03	
268	ほうろく	在地	KB３	３Ｔ	－	－	－			H08	
269	ほうろく	在地	KB３	６-40区№34	－	－	－			H12	
270	土鍋	在地	KB３	６-40区№48	＊30.0	－	－			町 H57	
271	ほうろく	在地	KB３	６-40区№322・325・337	＊43.0	＊40.0	－			H20	
272	ほうろく	在地	KB３	表採	－	－	0			H04	
273	土鍋	在地	KB３	６-40区	－	－	－			D02	
274	土鍋	在地	KB３	６-40区№68	－	－	－		14c 代ヵ	D03	
275	土鍋	在地	KB３	６-40区№81	－	－	－		15c 後～16c	D04	
276	土鍋	在地	KB３	６-40区№88	＊34.4	－	－			町 D39	
277	土鍋	在地	KB３	６-40区№327	－	＊17.0	－			D05	
278	土鍋	在地	KB３	６-44区	－	－	－		15c 前	D01	
279	片口鉢	在地	KB３	６-44区	＊30.0	－	－		13c 後	鉢19	
280	片口鉢	在地	KB３	４Ｔ	＊30.0	－	－		14c 前	鉢27	
281	擂鉢	在地	KB３	６-40区	＊30.0	－	－		15c 後～16c	鉢22	
282	甕	在地	KB３	６-40区（№37、37-１・２、37-４～13）、６-40区、６-43区	－	＊11.4	－		14c 代ヵ	袋11	
283	甕	在地	KB３	６-40区№75	－	－	－		14c	袋04	
284	甕	常滑	KB６	１溝（№163）	－	－	－			袋06	
285	甕	常滑	KB６	１溝（№261）	－	－	－			袋07	
286	天目	瀬戸美濃	KB６	１溝（№199・202）	＊11.8	－	－	登１	17c 前～中	町天67	
287	天目	瀬戸美濃	KB６	１溝（№200）	－	4.0	－	大３		天02	
288	天目	瀬戸美濃	KB６	１溝（№303）	＊11.0	－	－		17c 前	天06	
289	天目	瀬戸美濃	KB６	１溝（№312）	－	－	－	登２		天04	
290	天目	瀬戸美濃	KB６	１溝（№315）、側溝	＊11.0	－	－	大２		天01	
291	天目	瀬戸美濃	KB６	１溝（№323）	－	－	－	登２		天03	
292	折縁皿	瀬戸美濃	KB６	１溝（№165）	＊13.0	－	－		17c 前	皿06	
293	志野丸皿	瀬戸美濃	KB６	１溝（№172）	＊12.0	－	－	登１		皿08	
294	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB６	１溝（№201）	＊11.0	－	－	登１ヵ		皿03	
295	大皿	肥前（唐津）	KB６	１溝（№206）	－	－	－		17c 前	鉢01	
296	鉢	肥前（陶器）	KB６	１溝（№151）	－	11.5	－		17c～18c	鉢03	
297	蓋	志戸呂	KB６	１溝（№302）	＊12.0	－	－		17c	他01	
298	徳利	志戸呂	KB６	１溝（№207・248）	－	－	－		16c 後～	袋04	
299	徳利	志戸呂	KB６	１溝（№228）	－	－	－		16c 後～	袋05	
300	平鉢	備前	KB６	１溝（№224）、№119	－	－	－		17c 前	鉢04	
301	香炉ヵ	肥前（磁器）	KB６	１溝（№204）	－	－	－		17c～	伊08	
302	小坏	肥前（磁器）	KB６	１溝トレ	－	2.8	－		17c～	伊11	
303	かわらけ	在地	KB６	１溝（№159・160・194・232）、№37、一括	＊11.5	5.8	3.1	騎西城Ⅰ期		K02	
304	かわらけ	在地	KB６	１溝（№175）	＊11.0	－	－	騎西城Ⅲ期		K03	
305	かわらけ	在地	KB６	１溝（№185）、ローム混り	＊11.5	＊5.8	2.7	騎西城Ⅲ期		K10	
306	かわらけ	在地	KB６	１溝（№191）	＊11.0	＊6.0	2.9	騎西城Ⅲ期		K13	
307	かわらけ	在地	KB６	１溝（№203・324・331）	8.2	4.6	2.1～2.3	騎西城Ⅳ期		K06	
308	かわらけ	在地	KB６	１溝（№223）	＊11.0	＊6.5	2.7	騎西城Ⅲ期		K14	
309	かわらけ	在地	KB６	１溝（№265、一括）	＊11.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K09	
310	ほうろく	在地	KB６	１溝（№167・243）	－	－	6.6			H01	
311	ほうろく	在地	KB６	１溝（№189）、ローム混り	－	－	5.6			H03	
312	ほうろく	在地	KB６	１溝（№271）	－	－	5.7		16c	H04	
313	土鍋	在地	KB６	１溝（№267）	－	－	－		15c 前	D01	
314	擂鉢	在地	KB６	１溝（№144）、№20	＊28.0	－	－			鉢06	
315	擂鉢	在地	KB６	１溝（№198・242）	－	＊13.0	－		16c～	鉢08	
316	擂鉢	在地	KB６	１溝（№299）	－	＊12.0	－		16c～	鉢07	
317	香炉	在地	KB６	１溝（№216、一括）	＊14.0	－	－			素他02	
318	京焼風陶器丸碗	肥前（陶器）	KB６	３溝（№147）	－	5.4	－		1660～70	碗01	
319	かわらけ	在地	KB６	３溝（№149）	＊10.0	6.2	3.0	騎西城Ⅳ期		K001	
320	染付皿	漳州窯系中国	KB６	№122	－	－	－		16c 末～17c	染02	
321	染付皿	中国	KB６	ローム混り	－	－	－		16c	染03	
322	染付皿	中国	KB６	ローム混り、一括	＊12.0	－	－	E	16c 末～17c	染01	
323	天目	瀬戸美濃	KB６	№127	＊11.0	－	－	登１		天05	

第15表　土器類一覧表５

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
324	丸皿	瀬戸美濃	KB６	一括	＊11.0	－	－	大３ヵ		皿01	
325	丸皿	瀬戸美濃	KB６	№25	＊10.4	－	－	大４		皿02	
326	灯明皿(油皿)	瀬戸美濃	KB６	№90	＊10.4	－	1.6		18c	皿04	
327	皿	瀬戸美濃	KB６	側溝	－	＊6.5	－		18c	皿05	
328	徳利	瀬戸美濃	KB６	№89	－	－	－	登３・４		袋01	
329	徳利	瀬戸美濃	KB６	一括	－	－	－		19c	袋02	
330	徳利	瀬戸美濃	KB６	№84	－	－	－		18c	袋09	
331	水盤	瀬戸美濃	KB６	№５	－	＊7.4	－		18～19c	他02	
332	耳付鍋	瀬戸美濃	KB６	一括	－	－	－		19c	他04	
333	京焼風陶器色絵碗	肥前(陶器)	KB６	一括	＊9.0	－	－		17c 後	碗02	
334	京焼風陶器丸碗	肥前(陶器)	KB６	側溝	＊8.8	－	－		17c 後	碗03	
335	皿	肥前(唐津)	KB６	一括	－	5.4	－		17c 末～18c	皿07	
336	鉢	肥前(唐津)	KB６	一括	－	＊4.0	－		17c 中	鉢02	
337	小坏	初山	KB６	ローム混り	－	－	－		16c 中	他03	
338	徳利	備前	KB６	№12	－	－	－		16c～17c	袋08	
339	擂鉢	丹波	KB６	№87	－	－	－		17c 中	鉢05	
340	染付碗	肥前(磁器)	KB６	№95	＊10.0	－	－		18c	伊01	
341	染付碗	肥前(磁器)	KB６	№112	＊11.0	－	－		18c	伊02	
342	染付碗	肥前(磁器)	KB６	一括	＊11.0	－	－		18c	伊04	
343	染付碗	肥前(磁器)	KB６	一括	＊7.0	－	－		18c	伊06	
344	筒形碗	肥前(磁器)	KB６	№110	－	－	－		18c 末19c	伊05	
345	青磁香炉	肥前(磁器)	KB６	一括	－	－	－		17c～	伊09	
346	小坏	肥前(磁器)	KB６	№96	＊8.0	－	－		17c～	伊10	
347	瓶	肥前(磁器)	KB６	ローム混り	－	－	－		17c 中	伊07	
348	猪口	肥前(磁器)	KB６	一括	－	＊6.0	－		19c	伊03	
349	染付碗	瀬戸美濃	KB６	№106	＊11.0	4.0	5.6		19c 後	瀬美01	
350	かわらけ	在地	KB６	№57	＊10.0	－	－	騎西城Ⅰ期		K04	
351	かわらけ	在地	KB６	№63	＊11.0	＊7.0	2.5	騎西城Ⅲ期		K05	
352	かわらけ	在地	KB６	№108	＊11.0	＊5.8	3.5	騎西城Ⅰ期		K11	
353	かわらけ	在地	KB６	№118	＊9.4	－	－	騎西城Ⅱ期		K08	
354	かわらけ	在地	KB６	№141	＊11.0	＊6.5	2.5	騎西城Ⅱ期		K15	
355	かわらけ	在地	KB６	一括	＊11.0	－	－		不明	K07	
356	かわらけ	在地	KB６	一括	＊9.0	－	－		不明	K12	
357	ほうろく	在地	KB６	№130	－	－	－		16c	H02	
358	ほうろく	在地	KB６	側溝	－	－	－			H05	
359	ひょうそく	在地	KB６	№28	2.4	1.8	1.8			素他03	
360	火鉢	在地	KB６	ローム混り	＊10.0	－	－			火鉢01	
361	火鉢	在地	KB６	一括	－		4.0			火鉢02	
362	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	１溝	－	－	－	登１		鉢01	
363	土鍋	在地	KB９	２・５溝合流	－	－	－		15c 前	D01	
364	かわらけ	在地	KB９	２溝(№141・143)、２・５溝合流	＊10.0	＊6.0	2.5～3.1	騎西城Ⅳ期		K15	
365	端反皿又は丸皿	瀬戸美濃	KB９	６溝(№４)	－	＊5.8	－	大１・２		皿06	
366	丸皿	瀬戸美濃	KB９	９溝	＊10.6	＊5.4	1.9	登４・５ヵ		皿13	
367	鉄絵皿	肥前(唐津)	KB９	９溝	－	＊5.0	－		16c 末～17c 前	皿27	
368	ほうろく	在地	KB９	９溝、21溝(№218・233・234・235・236・237・238、一括)、一括	－	－	－		17c	H07	
369	天目	瀬戸美濃	KB９	13溝(№669)	－	＊3.8	－	登１		天015	
370	染付碗	肥前(磁器)	KB９	14a 溝(№679)、16壙(№429・601・602・639・一括)	10.5	4.6	5.6		17c 末～18c	伊007	
371	徳利	初山	KB９	16a 溝(№455)	－	－	－	大３後相当		袋04	
372	かわらけ	在地	KB９	16a 溝(№398)	＊10.0	＊6.0	2.0	騎西城Ⅳ期		K05	
373	染付碗	肥前(磁器)	KB９	16c 溝(№393)、16壙(№404)	＊10.0	＊3.8	5.6		18c	伊02	
374	かわらけ	在地	KB９	16c 溝(№388)	＊9.4	－	－		不明	K19	
375	かわらけ	在地	KB９	16c 溝(№389)、16壙、一括	＊10.0	－	－		18c	K02	
376	かわらけ	在地	KB９	16c 溝(№574)、16壙(№409・580・一括)、一括	10.5	6.0	2.0		17c 後～18c	K01	
377	染付皿	中国	KB９	19溝(№150)	－	＊3.0	－	C	16c	染01	
378	天目	瀬戸美濃	KB９	19溝(№159)、一括	－	4.0	－	大３(大４ヵ)		天001	
379	天目	瀬戸美濃	KB９	19溝、№74	＊11.0	－	－	登４ヵ		天13	
380	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB９	19溝	＊10.0	－	－	古後Ⅳ(古)		皿10	
381	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB９	19溝、一括	－	－	－	登１		皿18	
382	擂鉢	志戸呂	KB９	19溝(№151・155)	－	＊9.0	－	大３後大４相当		鉢014	
383	染付小瓶	肥前(磁器)	KB９	19溝、一括	－	－	－		17c 後	町伊15	
384	かわらけ	在地	KB９	19溝(№144)、№79	11.0	7.0	2.2	騎西城Ⅳ期		K06	
385	かわらけ	在地	KB９	19溝(№145)、№87	11.4	6.0	1.6～2.1	騎西城Ⅳ期		K09	
386	かわらけ	在地	KB９	19溝(№154)	＊10.2	＊5.8	2.2	騎西城Ⅲ期		K18	
387	かわらけ	在地	KB９	19溝	＊11.0	＊6.5	3.3	騎西城Ⅱ期		K07	
388	かわらけ	在地	KB９	19溝	＊11.0	＊5.8	2.5	騎西城Ⅱ期		K27	
389	端反皿又は丸皿	瀬戸美濃	KB９	20溝	－	＊6.8	－	大１・２		皿05	
390	丸皿	瀬戸美濃	KB９	20溝	＊10.5	＊5.4	2.0	登４・５ヵ		皿16	

第16表　土器類一覧表６

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
391	染付碗(天目形)	肥前(磁器)	KB９	20溝	－	4.3	－		17c 中	伊11	
392	丸碗	瀬戸美濃	KB９	21溝(№169・254・255)	12.0	5.2	7.4		18c	碗01	
393	天目	瀬戸美濃	KB９	21溝	＊10.8	－	－	大４		天02	
394	天目	瀬戸美濃	KB９	21溝(№182・202・203・208、一括)	＊11.0	－	－	登２		天14	
395	天目	瀬戸美濃	KB９	21溝(№186・192・209)、一括	＊12.0	－	－	登２		天12	
396	天目	瀬戸美濃	KB９	21溝(№217)	＊12.0	－	－	登２		天17	
397	天目	瀬戸美濃	KB９	21溝(№252)	＊12.0	－	－	登２		天16	
398	丸皿	瀬戸美濃	KB９	21溝、一括	＊8.0	＊4.8	2.0	大３		皿01	
399	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	21溝(№173　)	＊31.2	－	－	登６		町鉢102	
400	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	21溝(№201)	－	－	－	大３前ヵ、Ⅱ		鉢06	
401	煙硝擂	瀬戸美濃	KB９	21溝(№168)	＊14.5	＊7.8	7.4	登４・５		鉢13	
402	鉢	肥前(唐津)	KB９	21溝(№166・191・212・213、一括)	－	＊13.0	－		17c 後	鉢10	
403	京焼風陶器鉢	肥前(陶器)	KB９	21溝(№170)	－	8.5	－		17c	鉢18	
404	火入	肥前(唐津)	KB９	21溝(№247)	＊15.0	－	－		17c 後	他03	
405	擂鉢	志戸呂	KB９	21溝(№227)	－	－	－	大３後 大４相当		鉢16	
406	擂鉢	丹波	KB９	21溝(№195)	－	－	－		17c 末	鉢28	
407	擂鉢	堺ヵ	KB９	21溝(№232)	－	＊10.0	－		不明	鉢22	
408	青磁鉢	肥前(磁器)	KB９	21溝(№163・164・165)、一括	＊19.4	＊10.6	6.9		17c 後	伊22	
409	染付碗	肥前(磁器)	KB９	21溝(№184)	＊12.0	＊4.3	5.8		17c 末～18c	伊10	
410	染付碗	肥前(磁器)	KB９	21溝(№194)	＊10.0	－	－		17c 後	伊12	
411	染付碗	肥前(磁器)	KB９	21溝(№224)	－	＊4.2	－		18c	伊43	
412	染付碗	肥前(磁器)	KB９	21溝(№246)	－	＊4.6	－		18c ヵ	伊39	
413	かわらけ	在地	KB９	21溝(№223)	＊10.0	＊7.0	2.0	騎西城Ⅳ期		K36	
414	かわらけ	在地	KB９	21溝(№251、一括)	＊10.5	－	－	騎西城Ⅲ期		K24	
415	かわらけ	在地	KB９	21溝(№253)	＊11.0	－	－		不明	K33	
416	ほうろく	在地	KB９	21溝(№160・178・179・180、一括)	39.0	36.0	5.7		17～18c	H06	
417	火鉢	在地	KB９	21溝(№196)	－	－	－			火鉢02	
418	かわらけ	在地	KB９	25溝	＊10.0	－	－		不明	K21	
419	丸皿	瀬戸美濃	KB９	26溝(№458)	＊10.0	－	－	大２		皿03	
420	火鉢	在地	KB９	26溝(№461)	－	－	－			火鉢01	
421	志野丸皿	瀬戸美濃	KB９	１井	＊11.0	－	－	登１ヵ		皿11	
422	かわらけ	在地	KB９	１井(№260)	10.4	6.0	2.0～2.3	騎西城Ⅳ期		K08	
423	白磁小坏	肥前(磁器)	KB９	２井	6.6	2.6	3.1			町伊09	
424	染付鉢	肥前(磁器)	KB９	２井	－	7.8	－		17c 後	伊01	
425	青磁碗	龍泉窯系中国	KB９	７壙(№157)	－	－	－	Ⅰ－２	13c	青03	
426	天目(白天目)	瀬戸美濃	KB９	９壙(№303)	＊12.0	－	－	登２・３		天06	
427	織部向付	瀬戸美濃	KB９	15壙(№296)	－	＊7.2	－	登１		他02	
428	織部徳利	瀬戸美濃	KB９	15壙(№289・290・291・292・293・294・295・297・298・299)、一括	－	－	－	登１		袋06	
429	天目	瀬戸美濃	KB９	16壙(№618)	－	4.7	－	登１		天07	
430	天目	瀬戸美濃	KB９	16壙(№632)、一括	＊11.0	－	－	登２		天08	
431	稜皿	瀬戸美濃	KB９	16壙(№427)	－	＊5.5	－	大２・３		皿12	
432	大皿	瀬戸美濃	KB９	16壙(№575)	＊22.0	－	－	大４末ヵ		鉢05	
433	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	16壙(№585)	－	－	－	登６、Ⅰ		町鉢151	
434	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	16壙(№610)	＊33.4	－	－		18c	鉢24	
435	筒形香炉	瀬戸美濃	KB９	16壙(№598)	＊14.0	－	－		17c～18c	香01	
436	京焼風陶器丸碗	肥前(陶器)	KB９	16壙(№691)	＊11.0	－	－			碗05	
437	鉢	肥前(陶器)	KB９	16壙(№430)	＊21.0	＊8.2	9.5		18c～19c	鉢11	
438	鉢	志戸呂	KB９	16壙(№410・426)	＊29.0	＊14.0	12.0		17c	鉢07	
439	白磁小杯	肥前(磁器)	KB９	16壙(№571)	8.2	3.8	4.7		17c 末	伊18	
440	染付碗	肥前(磁器)	KB９	16壙(№444・一括)	＊9.6	＊7.5	6.2		17c 後	伊05	
441	染付碗	肥前(磁器)	KB９	16壙(№690)	11.3	4.3	5.8		17c 末～18c	伊08	
442	仏飯器	肥前(磁器)	KB９	16壙(№408)	－	4.0	－		18c	伊17	
443	染付瓶	肥前(磁器)	KB９	16壙(№421)	5.8	－	－		17c 後	伊21	
444	白磁六角小瓶	肥前(磁器)	KB９	16壙(№604)、一括	－	－	－		不明	伊34	
445	かわらけ	在地	KB９	16壙(№401)	＊10.0	＊6.6	2.0		不明	K34	
446	かわらけ	在地	KB９	16壙(№407)	＊10.0	＊6.8	2.1	騎西城Ⅳ期		K16	
447	かわらけ	在地	KB９	16壙(№448)	－	＊7.0	－		18c	K28	
448	かわらけ	在地	KB９	16壙(№423・一括)	＊10.0	＊6.2	2.0	騎西城Ⅳ期		K17	
449	かわらけ	在地	KB９	16壙(№569)	9.0	5.5	1.9	騎西城Ⅳ期		K04	
450	かわらけ	在地	KB９	16壙(№581)	＊9.0	＊5.0	2.3		不明	K38	
451	かわらけ	在地	KB９	16壙(№582)	8.5	6.0	1.7～2.0		18c	K03	
452	ほうろく	在地	KB９	16壙(№420・440・592・597・625・626・642)	＊38.0	＊34.0	5.5		17c～	H02	
453	ほうろく	在地	KB９	16壙(№600、一括)	＊36.0	＊32.0	5.3		17～18c	H01	
454	京焼風陶器皿	肥前(陶器)	KB９	17壙	－	＊9.0	－		18c 末～19c 中	皿26	
455	ほうろく	在地	KB９	19壙	－	－	6.0		16c	H03	
456	青磁碗	龍泉窯系中国	KB９	一括	＊16.0	－	－	Ⅰ？		町青11	
457	青磁碗	龍泉窯系中国	KB９	イ集、一括	－	－	－	Ⅰ－５	13c	青01	

第17表　土器類一覧表７

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種№	備考
458	青磁碗	龍泉窯系中国	KB９	一括	－	－	－	Ⅰ－５	13c	青02	
459	白磁八角杯	中国	KB９	一括	－	－	－		15c 前～中	白01	
460	染付皿	中国	KB９	一括	－	－	－	E－２	16c～17c	染02	
461	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	＊11.0	－	－	大３		天03	
462	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	＊11.0	－	－	大３		天04	
463	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	＊11.0	－	－	大３		天05	
464	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	－	4.8	－	登２		天09	
465	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	＊11.0	－	－	登２		天10	
466	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	＊11.0	－	－	登２		天18	
467	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	＊11.0	－	－	登４ ヵ		天11	
468	天目	瀬戸美濃	KB９	一括	＊11.0	－	－		18c 後	天19	
469	総織部碗	瀬戸美濃	KB９	№107	＊12.0	－	－	登１		碗02	
470	卸皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊10.0	－	－	古中Ⅲ ヵ		皿25	
471	縁釉小皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊10.0	－	－	古後Ⅲ		皿09	
472	小皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊8.0	－	－	古		皿24	
473	端反皿又は丸皿	瀬戸美濃	KB９	№110	－	＊5.0	－	大１・２		皿07	
474	端反皿又は丸皿	瀬戸美濃	KB９	№116	－	＊6.2	－	大１・２		皿04	
475	丸皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊12.0	－	－	大２		皿02	
476	丸皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊12.0	－	－	大２		皿23	
477	織部皿	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	登１		皿08	
478	総織部皿	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	登１		皿20	
479	鉄絵皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊12.0	＊7.0	2.5	登２		皿17	
480	反り皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊13.0	＊7.0	2.5	登３・４		皿14	
481	反り皿	瀬戸美濃	KB９	一括	＊14.0	＊8.0	2.5	登３・４ ヵ		皿15	
482	灯明皿（受皿）	瀬戸美濃	KB９	一括	＊9.0	＊5.5	1.6		18c～19c	皿19	
483	灯明皿（受皿）	瀬戸美濃	KB９	一括	＊8.0	＊3.6	1.7		19c	皿28	
484	灯明皿（油皿）	瀬戸美濃	KB９	一括	＊10.7	＊5.0	2.2		18c 中	皿21	
485	灯明皿（油皿）	瀬戸美濃	KB９	一括	＊10.0	－	－		18c 中	皿22	
486	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	古後Ⅳ（新）、Ⅰ		町鉢238	
487	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	古後Ⅳ（新）大１		鉢02	
488	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	古後Ⅳ（新）大１		鉢03	
489	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	大２、Ⅰ		町鉢220	
490	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	一括	＊24.8	－	－	登１、Ⅱ		町鉢121	
491	擂鉢	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	登１		鉢04	
492	折縁深皿	瀬戸美濃	KB９	№21	－	－	－	古後Ⅳ		鉢17	
493	鉄絵鉢	瀬戸美濃	KB９	一括	－	＊20.0	－		17c 後～18c 前	鉢09	
494	片口	瀬戸美濃	KB９	一括	＊17.0	－	－		18c 後	鉢12	
495	大皿（石皿）	瀬戸美濃	KB９	一括	＊31.0	＊13.0	5.7		19c	鉢08	
496	織部向付	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	登１		他01	
497	双耳壺	瀬戸美濃	KB９	一括	13.5	－	－		17c 後	袋01	
498	織部徳利	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－		17c 前	袋02	
499	徳利	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－		18c	袋03	
500	丸碗	肥前（陶器）	KB９	一括	＊8.6	－	－		18c	碗03	
501	丸碗	肥前（陶器）	KB９	一括	－	＊5.0	－		17c 後	碗04	
502	小杯	肥前（唐津）	KB９	一括	＊6.6	－	－		17c 前	他05	
503	京焼風陶器香炉	肥前（陶器）	KB９	一括	＊12.0	－	－		17c 後	香02	
504	大皿	肥前（唐津）	KB９	一括	－	－	－		16c 末～17c 前	鉢19	
505	壺	肥前（唐津）	KB９	№76・84・132、一括、私武10	＊14.0	－	－		16c 末～17c 前	袋05	
506	擂鉢	志戸呂	KB９	№103	－	－	－	大３後～大４相当		鉢15	
507	擂鉢	志戸呂	KB９	一括	＊29.0	－	－	大３後～大４相当		町鉢43	
508	茶入	備前	KB９	一括	－	＊6.0	－		16c～17c	他04	
509	擂鉢	丹波	KB９	一括	－	－	－		18c	鉢20	
510	擂鉢	堺	KB９	一括	－	＊15.0	－		18c～19c	鉢21	
511	白磁碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊10.8	－	－		18c ヵ	伊30	
512	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊10.0	－	－		18c	伊03	
513	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊10.0	－	－		17c 末～18c	伊04	
514	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊11.0	－	－		17c 末～18c	伊06	
515	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊10.2	＊3.6	5.2		17c 末～18c 中	伊09	
516	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊11.0	－	－		17c 末～18c	伊13	
517	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊10.4	＊4.0	5.2		17c 末～18c	伊15	
518	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊12.0	－	－		18c	伊23	
519	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊10.0	－	－		17c 末～18c	伊24	
520	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	－	＊4.8	－			伊25	
521	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊12.0	－	－		18c	伊27	
522	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊11.0	－	－		18c ヵ	伊28	
523	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊11.0	－	－		18c ヵ	伊36	
524	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊11.0	－	－		17c 後	伊37	
525	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊11.0	－	－		18c ヵ	伊38	
526	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	＊11.0	－	－		18c	伊40	
527	染付碗	肥前（磁器）	KB９	一括	－	＊4.0	－		18c	伊41	

第18表　土器類一覧表８

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図No.	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種No.	備考
528	染付碗	肥前(磁器)	KB９	一括	－	＊4.5	－		18c	伊42	
529	色絵碗	肥前(磁器)	KB９	一括	＊9.2	－	－		18c	伊20	
530	湯飲み	肥前(磁器)	KB９	一括	＊8.0	－	－		18c～19c	伊29	
531	染付碗(筒形碗)	肥前(磁器)	KB９	一括	＊7.0	－	－		18c	伊16	
532	染付小杯	肥前(磁器)	KB９	一括	＊6.5	－	－		19c	伊19	
533	染付小杯	肥前(磁器)	KB９	一括	＊8.0	－	－		18c 前	伊31	
534	染付小杯	肥前(磁器)	KB９	一括	－	＊3.0	－		18c	伊32	
535	猪口	肥前(磁器)	KB９	一括	＊8.0	－	－		19c	伊33	
536	染付皿	肥前(磁器)	KB９	一括	－	＊4.3	－		17c 後～18c 中	伊14	
537	染付皿	肥前(磁器)	KB９	一括	－	＊7.0	－		17c 中	伊35	
538	染付香炉	肥前(磁器)	KB９	一括	－	＊8.0	－		19c	伊26	
539	かわらけ	在地	KB９	No.72、一括	＊10.4	－	－	騎西城Ⅳ期		K29	
540	かわらけ	在地	KB９	No.75・82	＊10.6	＊5.0	2.4	騎西城Ⅳ期		K11	
541	かわらけ	在地	KB９	No.147	＊11.5	－	－	騎西城Ⅱ期		K13	
542	かわらけ	在地	KB９	一括	＊10.0	＊6.5	2.1	騎西城Ⅲ期		K12	
543	かわらけ	在地	KB９	一括	＊9.0	＊4.5	2.0	騎西城Ⅳ期		K14	
544	かわらけ	在地	KB９	一括	＊9.5	－	－	騎西城Ⅳ期		K20	
545	かわらけ	在地	KB９	一括	＊10.0	＊6.0	2.3		不明	K22	
546	かわらけ	在地	KB９	一括	＊9.5	－	－	騎西城Ⅳ期		K23	
547	かわらけ	在地	KB９	一括	＊10.0	＊5.8	2.5		不明	K25	
548	かわらけ	在地	KB９	一括	＊10.0	＊6.8	2.0		18c	K26	
549	かわらけ	在地	KB９	一括	＊9.0	＊5.6	2.3	騎西城Ⅳ期		K30	
550	かわらけ	在地	KB９	一括	＊10.0	＊6.0	2.0	騎西城Ⅳ期		K31	
551	かわらけ	在地	KB９	一括	＊10.0	－	－	騎西城Ⅳ期		K32	
552	かわらけ	在地	KB９	一括	＊11.0	＊6.6	2.2	騎西城Ⅲ期		K35	
553	かわらけ	在地	KB９	一括	＊8.8	＊5.0	1.8	騎西城Ⅳ期		K37	
554	かわらけ	在地	KB９	一括	8.7	5.5	1.7~1.8	騎西城Ⅳ期		K10	
555	ほうろく	在地	KB９	一括	－	－	5.2		17～18c	H04	
556	ほうろく	在地	KB９	J 集	－	－	5.8		16c	H05	
557	擂鉢	在地	KB９	一括	－	－	－		不明	鉢23	
558	擂鉢	在地	KB９	一括	－	－	－		不明	鉢25	
559	擂鉢	在地	KB９	一括	－	－	－		不明	鉢26	
560	片口鉢	在地	KB９	No.113	－	－	－		13c	鉢27	
561	香炉	在地	KB９	一括	＊9.0	－	－		不明	素他01	
562	片口鉢	常滑	第19次	一括	－	－	－		13c	鉢02	
563	稜皿	瀬戸美濃	第19次	No.11	＊10.0	－	－	大３		皿01	
564	稜皿	瀬戸美濃	第19次	一括	＊10.0	－	－	大３		皿02	
565	合子	瀬戸美濃	第19次	一括	－	＊5.0	－	古中Ⅰ・Ⅱ		他01	
566	鉢	肥前(唐津)	第19次	一括	－	－	－		16c 末～17c 前	鉢01	
567	染付碗	肥前(磁器)	第19次	一括	＊9.0	＊4.0	5.5		18c	伊01	
568	山茶碗	不明	第19次	一括	＊15.0	－	－			碗01	
569	かわらけ	在地	第19次	一括	＊8.0	－	－		13c～14c	K01	
570	擂鉢	在地	第20次	４溝(No.57)	－	－	－			鉢02	
571	青磁碗	龍泉窯系中国	第20次	拡張　４層	－	－	－	Ⅲ	13c 後～14c	青01	
572	青磁杯	龍泉窯系中国	第20次	一括	－	－	－	Ⅲ	13c 中～14c	青02	
573	片口鉢	常滑	第20次	一括	－	－	－		～13c 中	鉢04	
574	甕	常滑	第20次	一括	－	－	－		15c 後	袋01	
575	志野丸皿	瀬戸美濃	第20次	一括	＊10.0	＊5.5	2.4	登１ヵ		皿01	
576	擂鉢	瀬戸美濃	第20次	一括	－	－	－			鉢01	
577	擂鉢	丹波	第20次	拡張　１・２層	－	－	－		17c	鉢03	
578	かわらけ	在地	第20次	一括	＊10.0	＊5.0	2.9	騎西城Ⅰ期		K01	手づくね
579	甕	常滑	第21次	一括	－	－	－		不明	袋01	
580	縁釉小皿	瀬戸美濃	第21次	一括	＊10.0	－	－	大１		皿01	(灰)
581	平鉢	備前	第21次	No.２	－	－	－		16c～17c	鉢01	
582	染付碗	肥前(磁器)	第21次	一括	－	＊5.0	－		17c 後	伊01	
583	染付蓋付鉢	肥前(磁器)	第21次	一括	＊11.0	＊9.8	4.8		18c～19c	伊02	
584	かわらけ	在地	第21次	一括	＊11.0	＊6.3	2.6	騎西城Ⅱ期		K01	
585	かわらけ	在地	第21次	一括	＊10.0	－	－	騎西城Ⅲ期		K02	
586	染付皿	中国	第29次	１溝(中層No.86)	－	＊7.0	－	E	16c 末～17c 前	染01	
587	甕	常滑	第29次	１溝(中層No.73)	－	－	－		不明	袋07	
588	甕	常滑	第29次	１溝(下層No.135)	－	－	－	６b		町袋97	
589	天目	瀬戸美濃	第29次	１溝(下層No.120)	＊13.0	－	－	登２	17c 前～中	町天69	
590	折縁深皿	瀬戸美濃	第29次	１溝(No.12・下層113)	－	＊13.5	－	古後ⅢヵⅣ(古)	15c 前	町皿223	
591	端反皿	瀬戸美濃	第29次	１溝	＊10.0	－	－	大１		皿02	
592	志野菊皿	瀬戸美濃	第29次	１溝(中層No.106)	－	＊7.0	－	大４末		皿01	
593	擂鉢	瀬戸美濃	第29次	１溝(下層No.103)	－	－	－	大３後		鉢01	
594	擂鉢	瀬戸美濃	第29次	１溝(下層No.137・138・139・154)	＊36.0	－	－	登１(大４末カ)		鉢02	
595	片口	瀬戸美濃	第29次	１溝(中層No.104)	－	＊10.5	－		17c～	鉢06	
596	香炉	瀬戸美濃	第29次	１溝(下層No.101)	－	＊10.4	－		18c	香01	
597	香炉	瀬戸美濃	第29次	１溝(中層No.112)	＊11.0	＊8.0	6.4		18c	香02	

第19表　土器類一覧表９

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図No.	器種	産地	調査区	出土地点	口径	底径	器高	形式	年代	器種No.	備考
598	有耳壺	瀬戸美濃	第29次	１溝(No.17)	－	＊14.0	－		17c～	袋01	
599	有耳壺	瀬戸美濃	第29次	１溝(上層No.44･125)	＊10.5	－	－		17c～	袋06	
600	有耳壺	瀬戸美濃	第29次	１溝(下層No.99)	－	＊14.0	－		17c～	袋02	
601	梅瓶･瓶子	瀬戸美濃	第29次	１溝(上層No.116)	－	＊9.0	－	古中		袋04	
602	徳利形瓶	瀬戸美濃	第29次	１溝(下層No.122)	－	－	－	古中Ⅰ・Ⅱ		袋03	
603	梅瓶	瀬戸美濃	第29次	１溝(中層No.41)	－	－	－	古後		袋05	
604	蓋	瀬戸美濃	第29次	１溝(上層No.30)	6.3	－	－		17c～	他01	
605	擂鉢	丹波	第29次	１溝(中層No.68)	－	－	－		17c 後	鉢03	
606	染付皿	肥前(磁器)	第29次	１溝(中層No.146、一括)	13.0	7.6	3.0		18c 末～19c 中	伊01	
607	かわらけ	在地	第29次	１溝(No.14･中層43)	7.0	3.8	2.8～3.1	騎西城Ⅰ・Ⅱ期		K01	
608	ほうろく	在地	第29次	１溝(No.24)	－	－	5.1		16c	H01	
609	土鍋	在地	第29次	１溝(No.13･下層40･下層59)	＊34.0	－	－		～16c	D01	
610	片口鉢	在地	第29次	１溝(No.27)	＊35.0	－	－		13c 後	鉢05	
611	片口鉢	在地	第29次	１溝(下層No.168)	－	－	－		13c 後	鉢04	
612	染付皿	肥前(磁器)	第29次	一括	＊13.0	＊7.2	2.8		18c 末～19c 中	伊02	
613	土製円盤	瀬戸美濃	KB３	２溝	－	－	－	大～登		つぶて石01	
614	土製円盤	瀬戸美濃	KB３	２溝	－	－	－	大～登		つぶて石02	
615	土製円盤	瀬戸美濃	KB３	15壙	－	－	－		18c～19c	つぶて石03	
616	土製円盤	瀬戸美濃	KB３	６－44区	－	－	－		19c	つぶて石05	
617	土製円盤	肥前(磁器)	KB３	６－43区No.25	－	－	－		17c～	伊19	
618	土製円盤	在地	KB３	２溝(６－43区No.345)	－	－	－		17c～	つぶて石07	
619	土製円盤	在地	KB３	２溝(６－43区No.378)	－	－	－		17c～	つぶて石06	
620	土製円盤	在地	KB３	16井	－	－	－			つぶて石04	
621	土製円盤	瀬戸美濃	KB６	１溝	－	－	－			つぶて石03	
622	土製円盤	瀬戸美濃	KB６	No.82	－	－	－	登２		つぶて石01	
623	土製円盤	瀬戸美濃	KB６	一括	－	－	－		17c～	つぶて石02	
624	土製円盤	瀬戸美濃	KB６	一括	－	－	－			つぶて石04	
625	土製円盤	在地	KB６	１溝(No.244)	－	－	－			つぶて石05	
626	土製円盤	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－	大２～４		つぶて石01	
627	土製円盤	瀬戸美濃	KB３	２溝	－	－	－			他09	
628	土製円盤	瀬戸美濃	KB３	６－43区	－	－	－	登１～		他10	
629	土製円盤	瀬戸美濃	KB３	６－44区	－	－	－			他11	
630	土製円盤	肥前(磁器)	KB３	６－43区	－	－	－		17c 後～	伊20	
631	土製円盤	瀬戸美濃	KB６	一括	－	－	－			他05	
632	土製円盤	瀬戸美濃	KB６	一括	－	－	－			他06	
633	土製円盤	瀬戸美濃	KB６	ローム混り	－	－	－			他07	
634	土製円盤	京都･信楽	KB６	一括	－	－	－			他08	
635	土製円盤	在地	KB６	一括	－	－	－			素他01	
636	土製円盤	瀬戸美濃	KB９	17ab 溝	－	－	－			他06	
637	土製円盤	瀬戸美濃	KB９	19溝	－	－	－			他08	
638	土製円盤	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－			他07	
639	土製円盤	瀬戸美濃	KB９	一括	－	－	－			他09	
640	土製円盤	在地	KB９	一括	－	－	－			素他02	
641	転用陶器片(土鍋)	在地	KB３	６－43区	－	－	－			素他06	
642	転用陶器片(甕)	常滑	KB６	１溝(No.184)	－	－	－			袋03	
643	鞴の羽口	在地	KB３	２溝	－	－	－			素他04	
644	鞴の羽口	在地	KB３	12溝(６－40区No.251)	－	－	－			素他02	
645	鞴の羽口	在地	KB３	６－43区	－	－	－			素他03	
646	鋳型	在地	KB３	20a 壙	－	－	－			素他05	

第20表　土器類一覧表10

第２節　木製品類

本報告の調査では生活用具が出土し、櫛・下駄・・曲物・桶・漆椀などがある。

出土地点は２・３・６・７・９・12がKB３区で、１・４・５・８・10・11がKB９区である。

○生活に関するもの

「**衣**」では櫛（１）、下駄（２）が１点ずつ出土している。

１の櫛はKB９区の16号土壙から出土。梳櫛である。歯の劣化が進み欠損部分が多いが、全体の形は保たれている。

２の下駄は連歯下駄である。KB３区の46号土壙から出土。前歯、各緒穴付近が大きく欠損し、全体像がはっきりしない。板目取り。台の裏に大きな節の削り残しがある。なお、実測図上の破線は出土当時のラインであり、劣化が進む前の状態を示し、このことから後ろ緒穴が存在していたことがわかる。

「**貯蔵**」では桶の側板２点（３・４）、桶の底板３点（５・６・７）、曲物１点（９）が出土している。

３・４は桶の側板である。３はKB３区の46号土壙出土。遺物の状態は良好。タガの痕跡が観察できる。板目取り。４はKB９区の16号土壙出土。厚さはやや薄め。劣化が進み詳細は不明である。板目取り。

５は桶の底板である。KB９区16号土壙出土。ほぼ１／２残存。接合面に木釘痕あり。ゆがんだ形状から一度乾燥した可能性あり。

６も桶の底板と思われる。KB３区46号土壙出土。劣化が進み遺物の状態が良くないため詳細は不明である。一部炭化。木釘痕は確認できず。全体に薄い。

７も桶の底板である。KB３区10号井戸出土。ほぼ１／２残存。表面に成形痕が残る。木釘痕などは確認できず。柾目取り。

８は樽の蓋板の可能性がある。KB９区16号土壙出土。木釘が残る。丸い抉りは成形時のものの可能性もあるが、劣化が進んでおり詳細は不明。柾目取り。

９は曲物である。KB３区の２号溝から出土。底部の一部と側板の一部に黒色の付着物があるが未分析のため詳細は不明。

「**食膳**」では漆椀が２点（10・11）出土している。

10はKB９区２号井戸から出土。浅めで内外面ともに赤色漆塗り。高台部は欠損。高台裏に文様有り。漆膜は薄く硬質。高台脇から腰部にかけてやや直線的に立ち上がる。含水率高く遺物の状態が悪く自立出来ない。

11はKB９区16号土壙出土。内面赤色外面黒色漆塗り。文様は見あたらない。高台部は全て欠損。漆膜は薄く硬質。高台脇から腰部にかけて直線的で胴部から口縁部にかけてやや垂直に立ち上がる。この漆椀は形態や漆の質に新しい様相が見られ、本土壙の時期について、伴出の土器類と合わせ年代確定の有効な資料となる。

○用途不明のもの

12はKB３区10号井戸から出土。柄である。先端が丁寧に加工され平坦面が作り出されているが、使用方法などは不明。

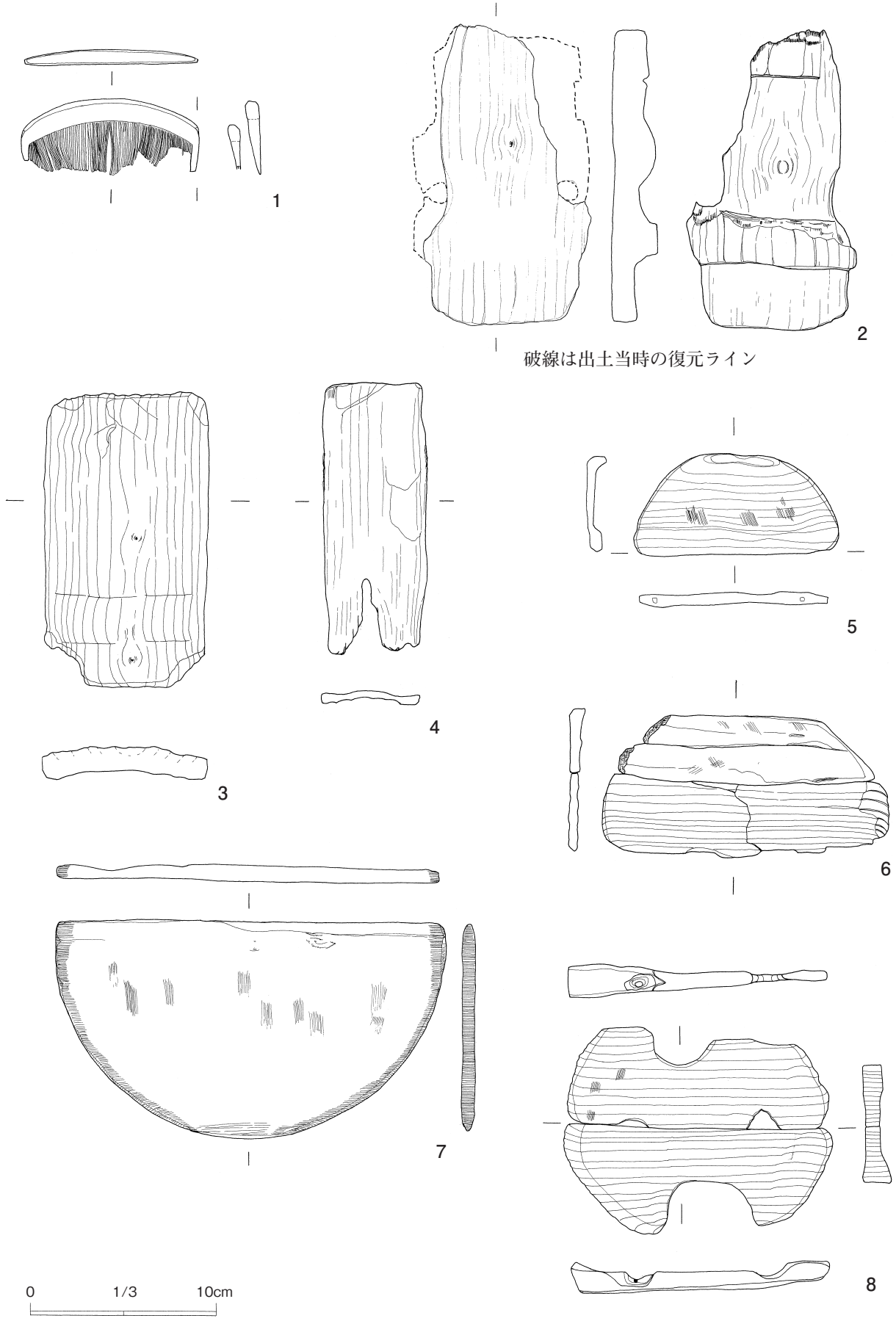
この他に含水率が高く劣化が進んだ漆椀片・桶板・板材など、遺物の状態が悪く図化出来なかったものが存在する。特にKB３区２号溝、KB９区16号土壙出土の遺物が多い。計測出来たものについてはデータを一覧表に掲載した。

また、馬の歯が４点KB３区２号溝から出土しているがこれは写真を掲載した。（図版42）

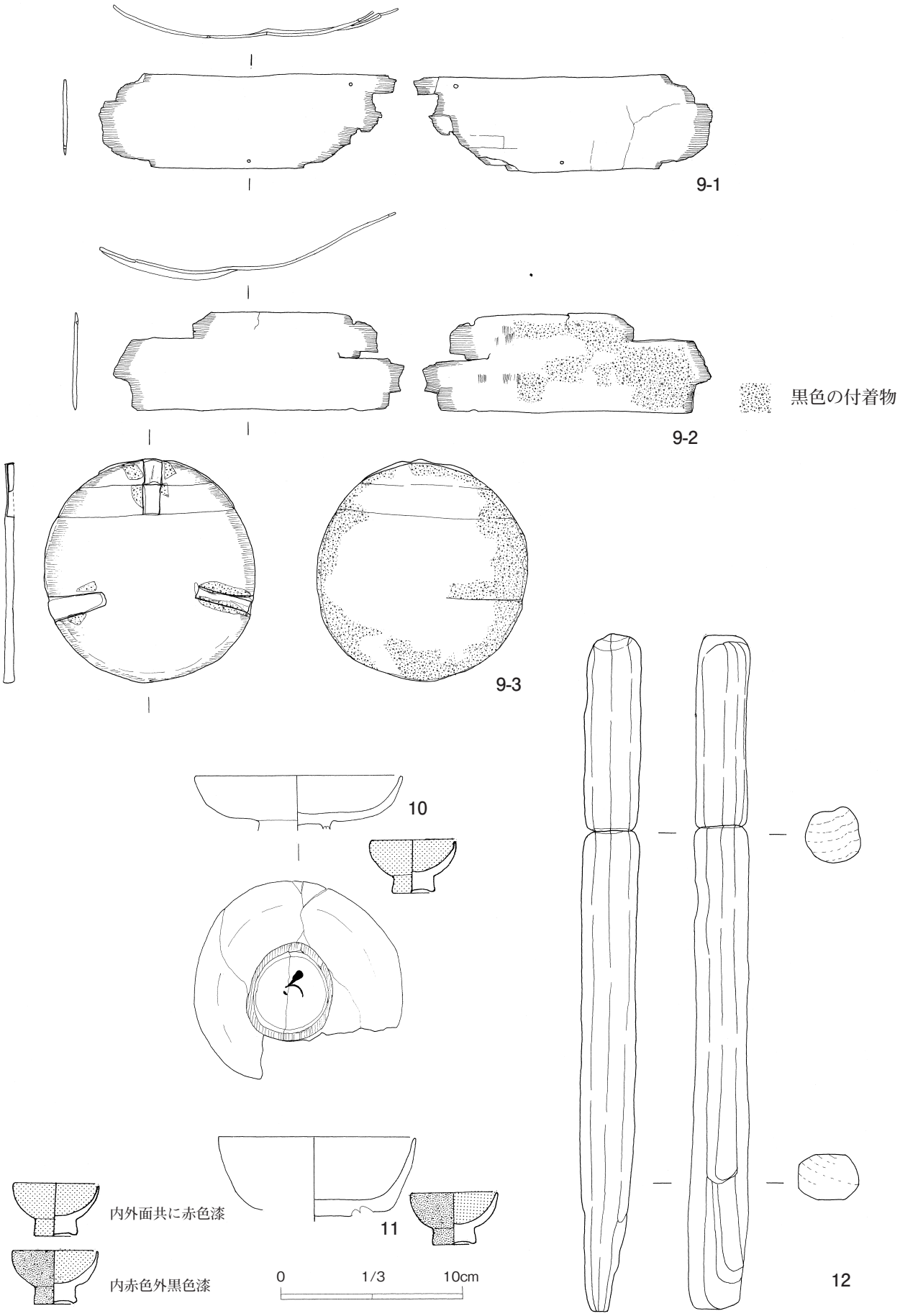
（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図No.	遺物名	出土地点	法量(cm)	特徴	備考	遺物 ID
1	櫛	KB09　16号土壙　No689	高さ(4.2)/幅　9.5/厚さ　0.8	梳櫛	歯の劣化進む	661-0705-0009-0012
2	下駄	KB03　6-40　No351　46号土壙	長さ(15.8)/幅　9.0/厚さ(2.4)	板目取り。連歯下駄	前部分が大きく欠損	661-0705-0003-0017
3	桶-側板	KB03　6-40　46号土壙　No297	長さ　15.8/幅　8.8/厚さ　1.5	板目取り	遺物の状態良好	661-0705-0003-0016
4	桶-側板	KB09　16号土壙　No613	長さ(14.6)/幅　5.5/厚さ　0.5	板目取り。非常に薄い		661-0705-0009-0009
5	桶-底板	KB09　16号土壙　No573	径　11.0/厚さ　0.8	側面に木釘痕あり	1/2残存。縮んだ痕跡あり	661-0705-0009-0003
6	桶-底板	KB03　6-40　46号土壙　No295	径　8.0/厚さ0.6	一部炭化	約1/2残存。遺物の状態非常に悪し	661-0705-0003-0015
7	桶-底板	KB03　10号井戸	径　21.0/厚さ　0.7	柾目取りか。表面に調整痕あり	1/2残存。縮んだ痕跡あり	661-0705-0003-0014
8	樽-蓋板か	KB09　16号土壙　No568	径　≒14.5/厚さ　1.8	柾目取りか	含水率高く状態悪し、詳細は不明	661-0705-0009-0002
9-1	曲物-側板	KB03　6-43　2号溝　No439	径11.5～12.0/厚さ　0.5			661-0705-0003-0006
9-2	曲物-側板	同上	長さ(16.5)/高さ　5.0/厚さ0.2	黒色の付着物あり		同上
9-3	曲物-底板	同上	長さ(15.8)/高さ　5.0/厚さ　0.2	黒色の付着物あり		同上
10	漆椀	KB09　2号井戸　No354	口径　11.4/器高(3.0)	内外面赤色漆塗。高台裏に文様あり	含水率高く劣化進行中	661-0705-0009-0001
11	漆椀	KB09　16号土壙　No576	口径　9.8～11.0/器高(4.3)	内面赤色外面黒色漆塗。無文様	高台部欠損	661-0705-0009-0004
12	柄	KB03　10号井戸	長さ　36.7/径　3.0	先端加工		661-0705-0003-0013
—	桶-側板	KB03　2号溝　No448	長さ(5.8)/幅(6.0)/厚さ1.0	板目取り	小破片の為詳細不明	661-0705-0003-0008
—	桶-底板	KB09　16号土壙	径　12.0/幅(3.5)/厚さ0.4		小破片の為詳細不明	661-0705-0009-0011
—	底板か	KB03　2号溝	長さ(7.2)/幅(1.8)/厚さ　0.2	非常に薄い	小破片の為詳細不明	661-0705-0003-0009
—	漆椀片	KB03　2号溝　No405	計測出来ず	内外面黒色漆塗	劣化が進行し破片化している	661-0705-0003-0003
—	漆椀片	KB03　2号溝	口径不明/器高(2.6)/高台径　4.2	内外面黒色漆塗。高台裏のみ赤色漆塗	高台の一部のみ遺存	661-0705-0003-0010
—	漆椀片	KB09　16号土壙　No607	口径　≒7.5/器高(3.1)	内面赤色外面黒色漆塗	口縁部小破片	661-705-0009-0008
—	板材	KB03　2号溝　No430	長さ(7.6)/幅(3.2)/厚さ0.9	板目取り	小破片の為詳細不明	661-0705-0003-0004
—	板材	KB03　17.20号溝	長さ(10.6)/幅　4.7/厚さ0.1	非常に薄い		661-0705-0003-0012
—	板材	KB09　16号土壙　No576	長さ(19.4)/幅(2.6)/厚さ0.5	目立った加工痕無し	劣化が進行中	661-0705-0009-0005
—	板材	KB09　16号土壙　No579	長さ(26.8)/幅(2.8)/厚さ　1.0	柾目取り		661-0705-0009-0007
—	楔状板材	KB03　19号溝　No344	長さ(20.5)/幅(1.9)/厚さ　1.2	目立った加工痕無し		661-0705-0003-0011
—	竹	KB09　16号土壙　No577	計測出来ず	両端切断	含水率高く、状態悪し	661-0705-0009-0006
—	ひょうたん	KB09　16号土壙	計測出来ず		破片化	661-0705-0009-0010
—	馬の歯	KB03　2号溝　No314-3	未計測			661-0705-0003-0001
—	馬の歯	KB03　2号溝　No434	未計測			661-0705-0003-0002
—	馬の歯	KB03　2号溝　6層	未計測			661-0705-0003-0008
—	馬の歯	KB03　2号溝　No314-6	未計測			661-0705-0003-0005

第21表　木製品一覧表



第67図　木製品１



第68図　木製品２

第３節　金属製品

金属製品は鉄製品と銅製品がある。それぞれ用途別に記述するが、銭貨は別に扱う。出土地点は遺構外が多く、溝出土も多いが流れ込みである。

（１）鉄製品

〇生活に関するもの

貯蔵の器の蓋（１）は円形で１／４程遺存する。上面中央に鈕を設け環が残る。下面には本体との合わせの稜を有す。他の用途も考えられる。

調理の刀子（２）は先端部を一部欠くが薄く遺存状態はよい。茎を有する。

灯りの火打金（３）は山形に分類され、全形が三角形で、頂上部・端部を欠損している。

住の釘（４・５）は断面角形のものを選んだ。４は上端を潰した後折り曲げ頭部を形成している。５はそのまま折り曲げている。

〇いくさに関するもの

鏃（６・７）は、６は鏃身が肉厚で方形、７は扁平で長い。

〇ほか

８は鉄板に棒状のものを横位の鉄片で押さえ付けており武具を連想させる。９は円盤状で中央に穿孔する。

（２）銅製品

〇生活に関するもの

曲物状容器（10）は調査時の踏圧により変形するが本来は右の復元図のような形態である。口縁部は折り返し玉縁となる。仏具の可能性もある。２号溝出土。

11から15は調度品あるいは建築に関するものか。

飾り金具（11）は全周欠損しており全形が窺えないが、右端が折れ立ち上がっている。表面に植物文？空間に魚々子文を施し金箔を張る。

環付きの金具（12）は埋め込み部を２本で作る。

板金具（13）は頭部を少々曲げ穿孔する。掛かり金具（14）は両端に２カ所ずつ穴をあける。身中央を90度捻る。

当て金具（15）は州浜状の形態をしており1.5mmの板から作り出す。

嗜好・遊びの煙管（16～27）は雁首と吸口があり雁首は火皿・首の形態が個体ごとに異なるが、大略16～20、22は首が長く21は短いものと思われる。20は小口側が有段となる。吸口も同様に多様であるが24・26は段を有する。

〇信仰に関するのもの

鋺（28）は口径2.8cm高さ1.5cmの小型のものである。胴部に稜線が１条巡り、僅かに高台を有する。KB３区22号土壙より出土したもので副葬品と思われる。

〇いくさに関するもの

小柄（29～33）は５点ある。29・30・32は刀身が遺存する。32・33は柄部に装飾が施される。32は線刻により斜線を描き上部は密集し中央は平行線である。33は陽刻により文様を描く。文様は不明。

切羽（34）は二つに折れ曲がる。復元長3.6cm。

弾丸（35～40）は各所で出土し37・38は中央に鋳型合わせ目の稜が、36・38には湯口が残り整形が粗雑である。

〇ほか

41は板状製品で断面弧状を呈し、取り付けたものか。

43・44は鉛製と思われ把手状を呈する。先端部は穿孔され取り付けたものか。

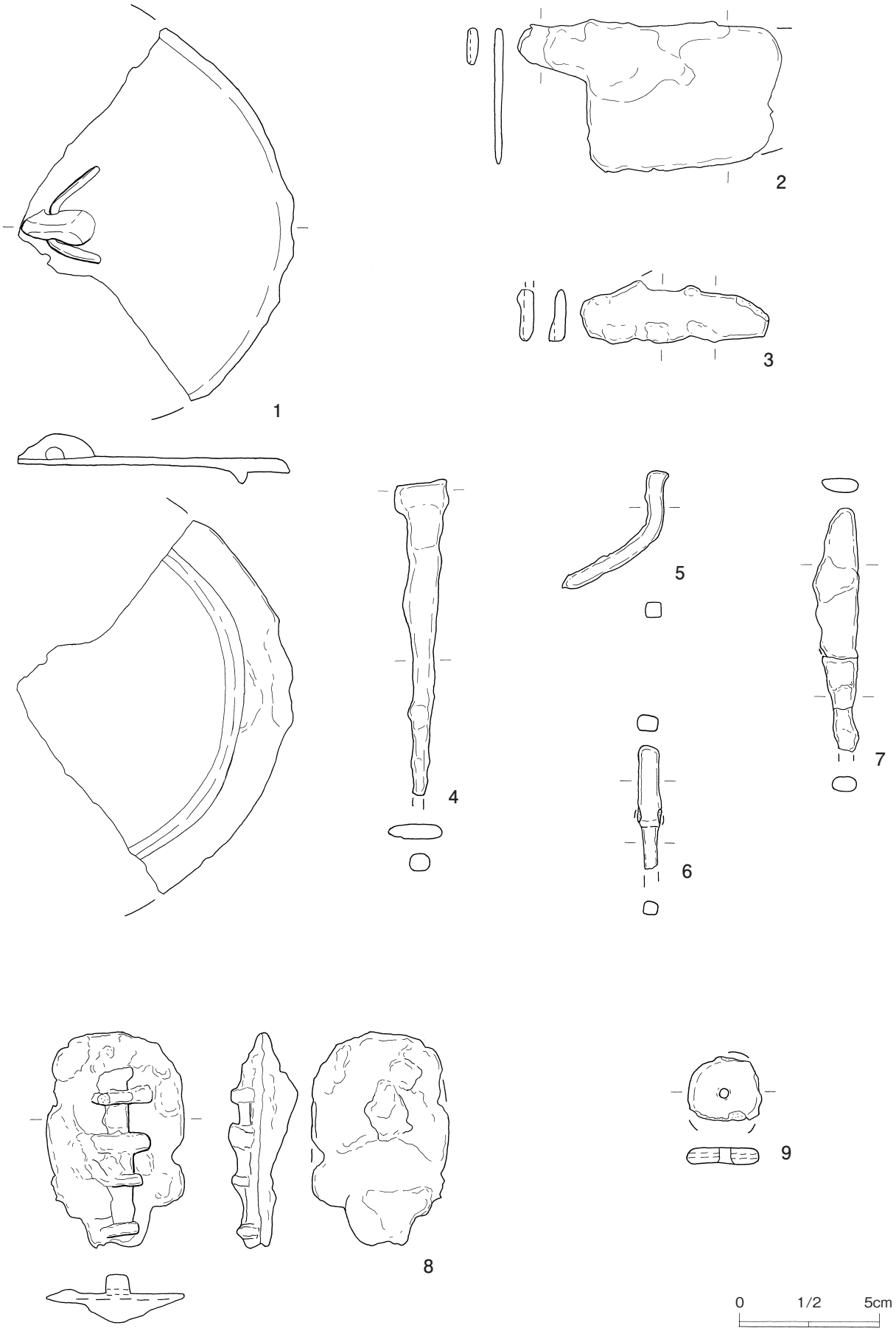
（３）銭貨

総数39枚が確認されている。うち近世の寛永通宝が７点、近現代の１銭が１点、他は中世以前の渡来銭である。

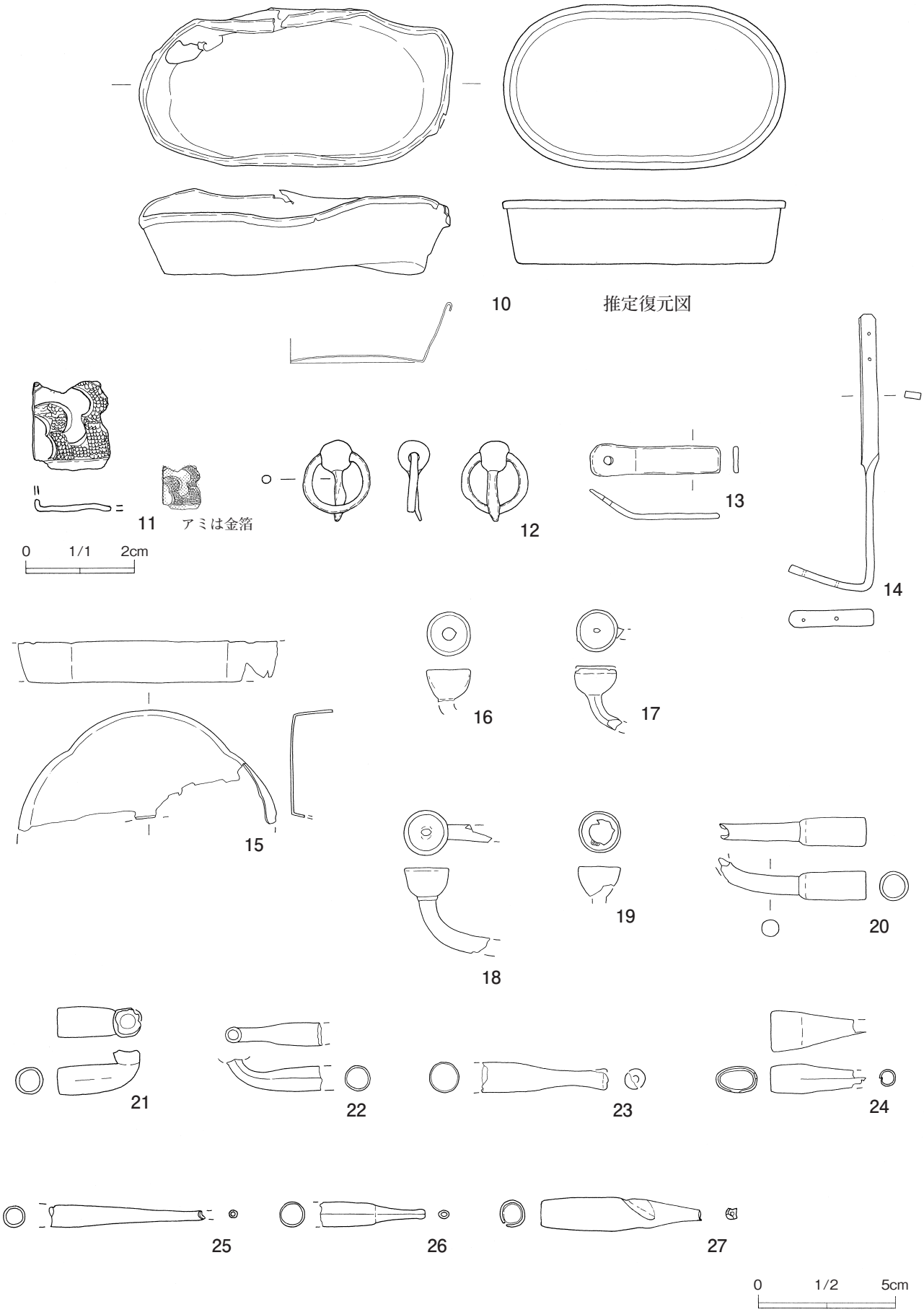
寛永通宝は古と新があり、KB３区４井と33壙で寛永銭（古）出土している。80・81は新で「文」の背文がある。

79は雁首銭である。

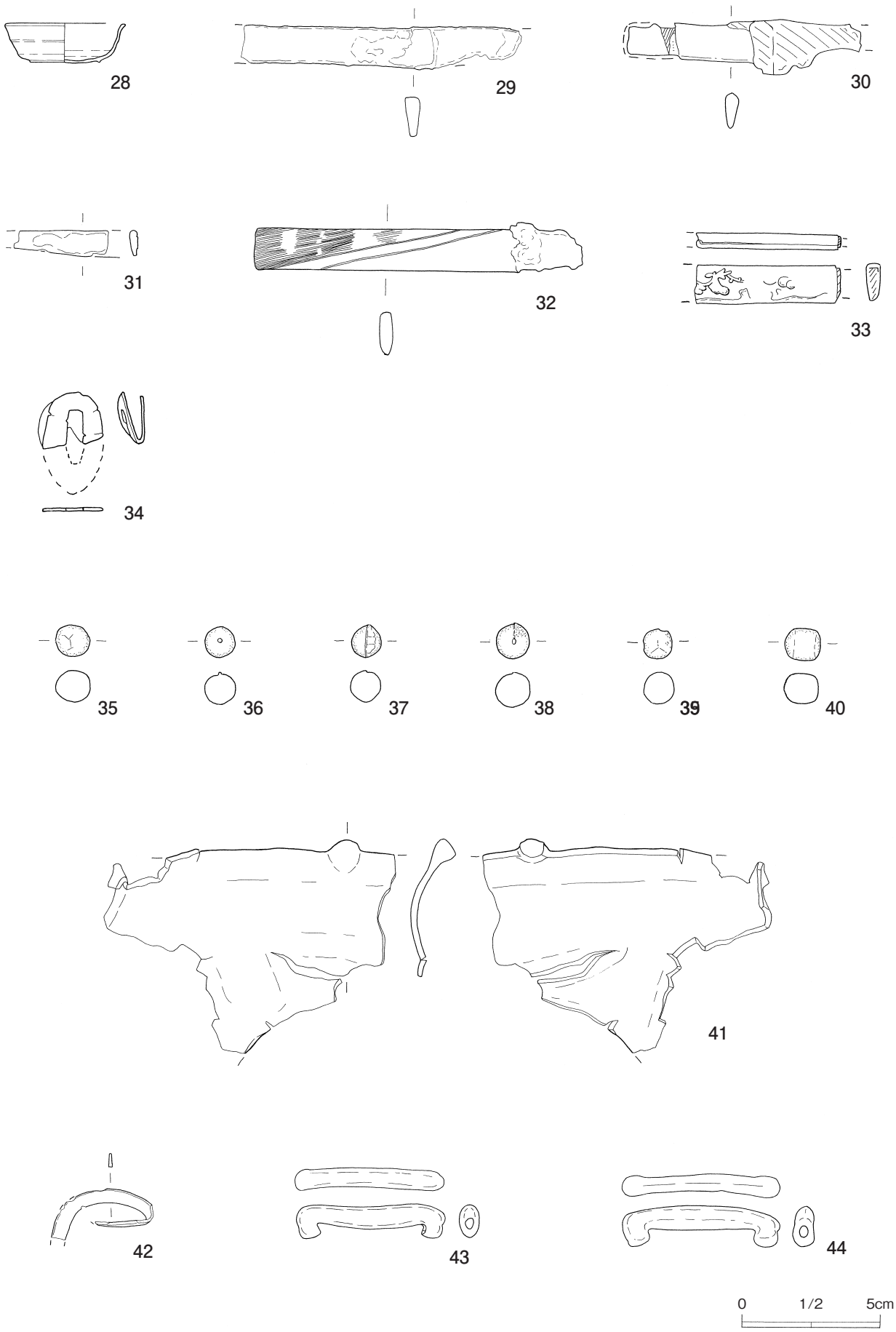
出土状況は、６－40区でやや多く出土するが、墓壙に由来するものと思われる。



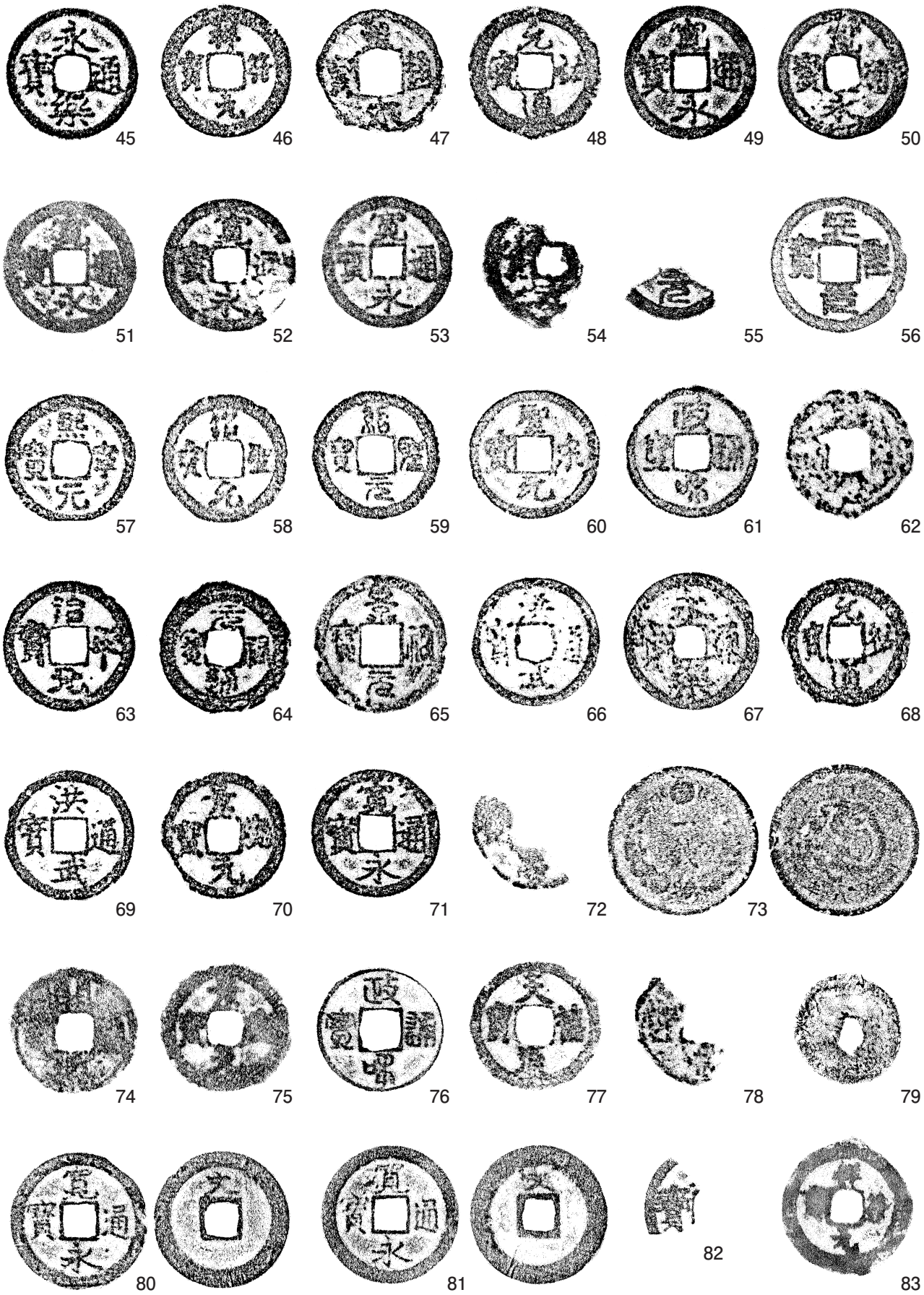
第69図　金属製品１（鉄１）



第70図　金属製品２（銅１）



第71図　金属製品３（銅２）



第72図　金属製品４（銭貨１）

0　1/1　2cm

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	器種	材質	調査区	出土地点	口径（長さ）	底径（幅）	器高（厚さ）	遺物 ID	遺物 ID２	備考
1	蓋	鉄	KB３	11井	－	(13.5)	1.2	0003-0002		
2	刀子	鉄	KB３	８P	9.4	5.4	0.3	0003-0004		
3	火打金	鉄	KB６	№27	5.7	(2.1)	0.5	0006-0001		
4	釘（角）	鉄	KB９	21溝（№256）	11.2	1.9	0.6	0009-0005		
5	釘（角）	鉄	KB３	６-40区№54	(4.2)	0.5	－	0003-0009		
6	鉄鏃	鉄	KB３	６-40区	(4.4)	0.7	0.5	0003-0006		
7	鉄鏃	鉄	KB９	側溝	(8.6)	1.6	0.5	0009-0007		
8	武具状製品	鉄	KB３	６-40区№26	7.6	4.9	2.4	0003-0005		
9	有孔円板	鉄	KB６	ローム混り	－	2.7	0.6	0006-0005		
10	曲物状容器	銅	KB３	２溝（№312）	11.4	5.8	2.5	0003-0002		
11	飾金具	銅	KB３	６-43区№62	(1.6)	(1.3)	0.1	0003-0010		
12	環付金具	銅	KB９	一括	3.0	2.5	1.2		町金150	
13	板金具	銅	KB９	側溝	4.8	1.0	0.2	0009-0010		
14	掛り金具	銅	KB９	一括	10.2	0.6	0.2	0009-0025		
15	当て金具	銅	KB９	側溝	(4.0)	9.4	1.5	0009-0012		
16	煙管（雁首）	銅	KB３	２溝（№86）	－	1.5	(1.1)	0003-0001		
17	煙管（雁首）	銅	KB６	１溝（№197）	(1.8)	1.5	(2.2)	0006-0001		
18	煙管（雁首）	銅	KB９	13溝（№673）	(3.1)	1.6	(3.1)	0009-0001		
19	煙管（雁首）	銅	KB９	16壙（№411）	－	1.5	(1.1)	0009-0002		
20	煙管（雁首）	銅	KB９	21溝（№161）	(5.4)	1.0	(1.5)	0009-0006		
21	煙管（雁首）	銅	KB９	一括	3.0	1.1	1.5	0009-0030		
22	煙管（雁首）	銅	KB９	一括	(3.5)	0.9	(1.2)	0009-0031		
23	煙管（吸口）	銅	KB３	６-43区	(3.8)	1.1	－	0003-0012		
24	煙管（吸口）	銅	KB６	№49	(3.5)	1.5	－	0006-0002		
25	煙管（吸口）	銅	KB９	21溝（№161）	5.6	0.8	－	0009-0007		
26	煙管（吸口）	銅	第20次	拡張	3.8	1.0	－	0020-0001		
27	煙管（吸口）	銅	第20次	拡張	5.7	1.2	－	0020-0002		
28	銅鋺	銅	KB３	22壙	4.5	2.5	1.5		町金116	
29	小柄	銅	KB３	12溝（№104）	(10.2)	2.5	0.4	0003-0003		
30	小柄	銅	KB３	12溝（№113）	(8.5)	2.0	0.4	0003-0004		
31	小柄	銅	KB３	12溝	(3.4)	1.0	0.3	0003-0005		
32	小柄	銅	KB９	16壙（№437）	12.0	1.6	0.5		町金058	
33	小柄	銅	KB９	一括	(5.2)	1.4	0.5	0009-0024		
34	切羽	銅	KB９	側溝	(2.0)	2.3	0.1	0009-0011		
35	弾丸	銅	KB３	６-44区	1.2	－	－	0003-0014		
36	弾丸	鉛	KB９	№115	1.1	－	－	0009-0009		
37	弾丸	銅	KB９	一括	1.2	－	－	0009-0026		
38	弾丸	鉛	KB９	一括	1.1	－	－	0009-0027		
39	弾丸	鉛	第21次	№22	1.1	－	－	0021-0001		
40	弾丸	銅	第29次	№159	1.2	－	－	0029-0001		
41	板状製品	銅	KB３	６-43区	(10.4)	(7.4)	0.2	0003-0013		
42	環状製品	銅	KB３	46壙６-40区	(3.2	0.5	0.17	0003-0008		
43	錘？	鉛	KB９	16壙（№572）	5.5	0.7	1.2	0009-0008		
44	錘？	鉛	KB９	一括	5.7	0.8	1.5	0009-0022		

№	調査区	出土地点	銭種　　（銭貨名は番号順）
45	KB３	２溝№451	永楽通宝
46-48	KB３	20溝６-40区№№287	祥符元宝、皇宋通宝、元祐通宝
49	KB３	４井	寛永通宝（古）
50	KB３	33壙№622	寛永通宝（古）
51	KB３	33壙№623	寛永通宝（古）
52	KB３	33壙№624	寛永通宝（古）
53	KB３	33壙№625	寛永通宝（古）
54	KB３	２T	洪武通宝
55	KB３	６-40区№24	不明
56-62	KB３	６-40区№57	天聖元宝、熙寧元宝、紹聖元宝２、聖宋元宝、政和通宝、不明
63-64	KB３	６-40区№58	治平元宝、元祐通宝
65-67	KB３	６-40区№63	景祐元宝、洪武通宝、永楽通宝
68-69	KB３	６-40区№70	元祐通宝、洪武通宝
70	KB３	６-40区№73	景徳元宝
71	KB３	６-40区№277	寛永通宝（古）
72	KB６	№67	不明
73	KB６	一括	１銭
74-76	KB９	２・５溝	開元通宝、景徳元宝、政和通宝
77-78	KB９	19溝	天禧通宝、不明
79	KB９	16壙№621	雁首銭
80-82	KB９	一括	寛永通宝（新）２、不明
83	第21次	№21	祥符元宝

第22表　金属製品一覧表

第４節　石製品類

ここでは、成形したものを使用した石製品と使用による損耗形態を呈す石器を石製品として、墓標・供養塔である板碑・五輪等を石造物として扱う。

いずれの遺物も遺構出土があるが流れ込みであろう。

（１）石製品

石臼は１～13で、搗臼（１）と粉挽臼・茶臼（２～13）に大別される。いずれも破片で全形は窺えない。１は搗臼の底部である。13は茶臼の下臼で、受けである。

14・15は、扁平で丸く径1.6cm前後の暗色の石で、碁石としておく。

硯は16～18で、16は陸・17は裏面、18は陸から海にかけての部分である。

砥石（19～37）は直方体を基本形とし、損耗により変形するものがある。泥岩質のものがほとんどである。

磨石（38～71）は礫の原形が残る物が多く使用により形成された面が不規則に存在する。デイサイトが多数を占める。名称が縄文時代のものを連想させるが砥石と区別するために分割しておく。

砥石・磨石共に金属を砥いだことによる線条痕が残るものが見られ、鎌や武器類などの刃物を対象としてものであろう。52は温石？、53は板碑転用、63は立体的で全面を使用して溝や穴が残る。

72～78は石英・チャートで擦痕・潰れが認められるもので火打石として扱った。判別は困難であるが火打金の出土例から当然存在するものとして想定しておくべきものである。

（２）石造物

【板碑】板碑は32点を数えるが、完形（略完形）は14号溝出土の83～86のみで、他は破片である。

○年号　年号がわかるものは83の元徳３年（1331）、84の貞和年間（1345～50）に加え、85の文永９年（1272）、86の貞和３年（1347）、93の文和２年（1353）、97の、嘉元年間（1303～06）がある。14号溝出土の80～92は13世紀第３四半期から14世紀第２四半期に収まる。

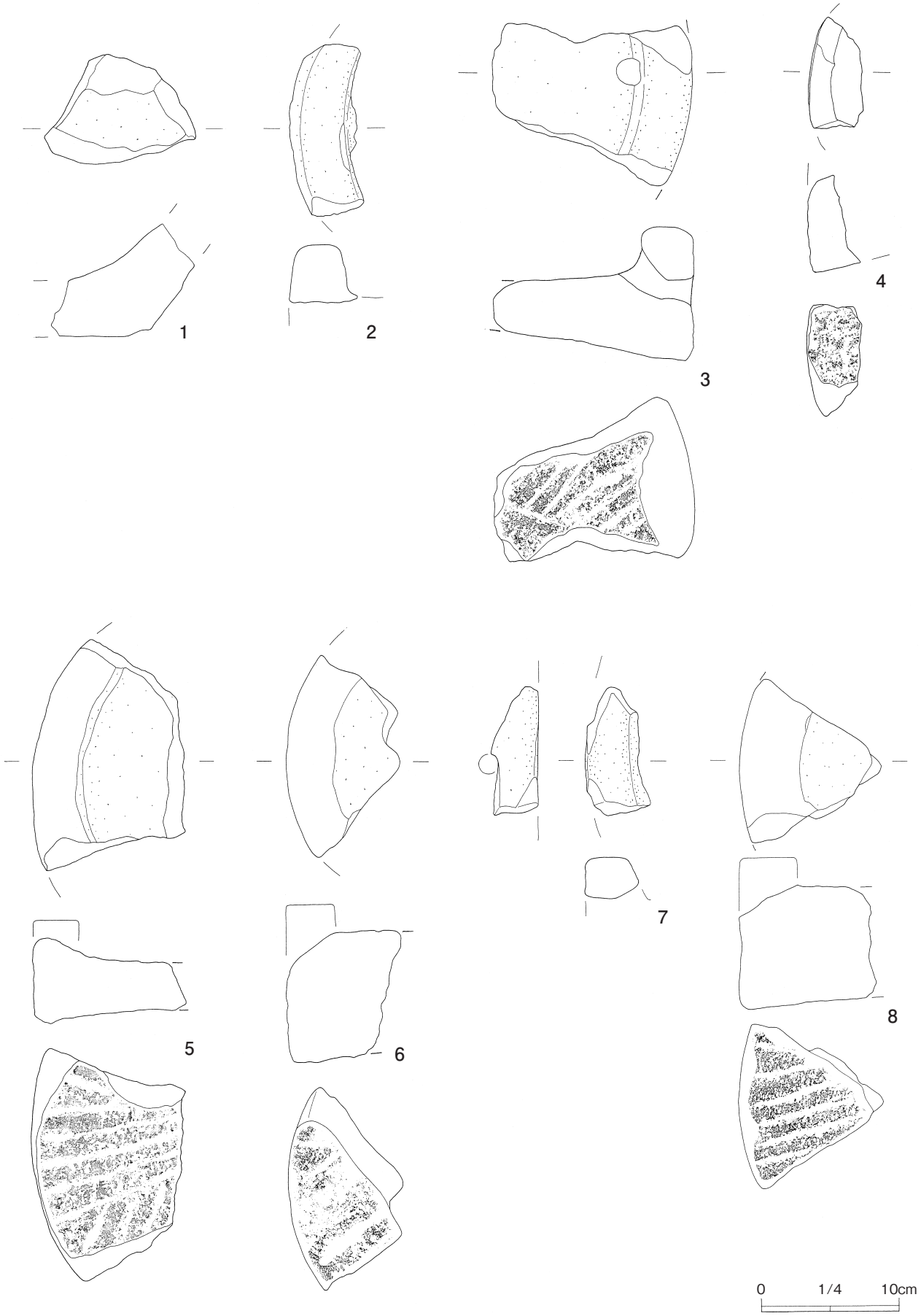
○製作・使用痕　製作時のものとして鑿痕が板材加工の裏面以外に表面に細かい加工痕（89）、85・88はケガキ、83・96・98・100はケガキ状の枠線が確認できる。２次使用としては表面に摩耗痕が認められるものがあり（84・87・98・101）、砥石として使用されたものであろう。また、敲打による潰れが82・99に認められる。同様に使用によるものか。

○付着物　廃棄以降であろうか、煤・炭化物が付着・赤化するものが多数あり（79・80・82・87・90・95・96・108）、なんらかの焼却や戦乱時の燃焼に伴うものであろう。

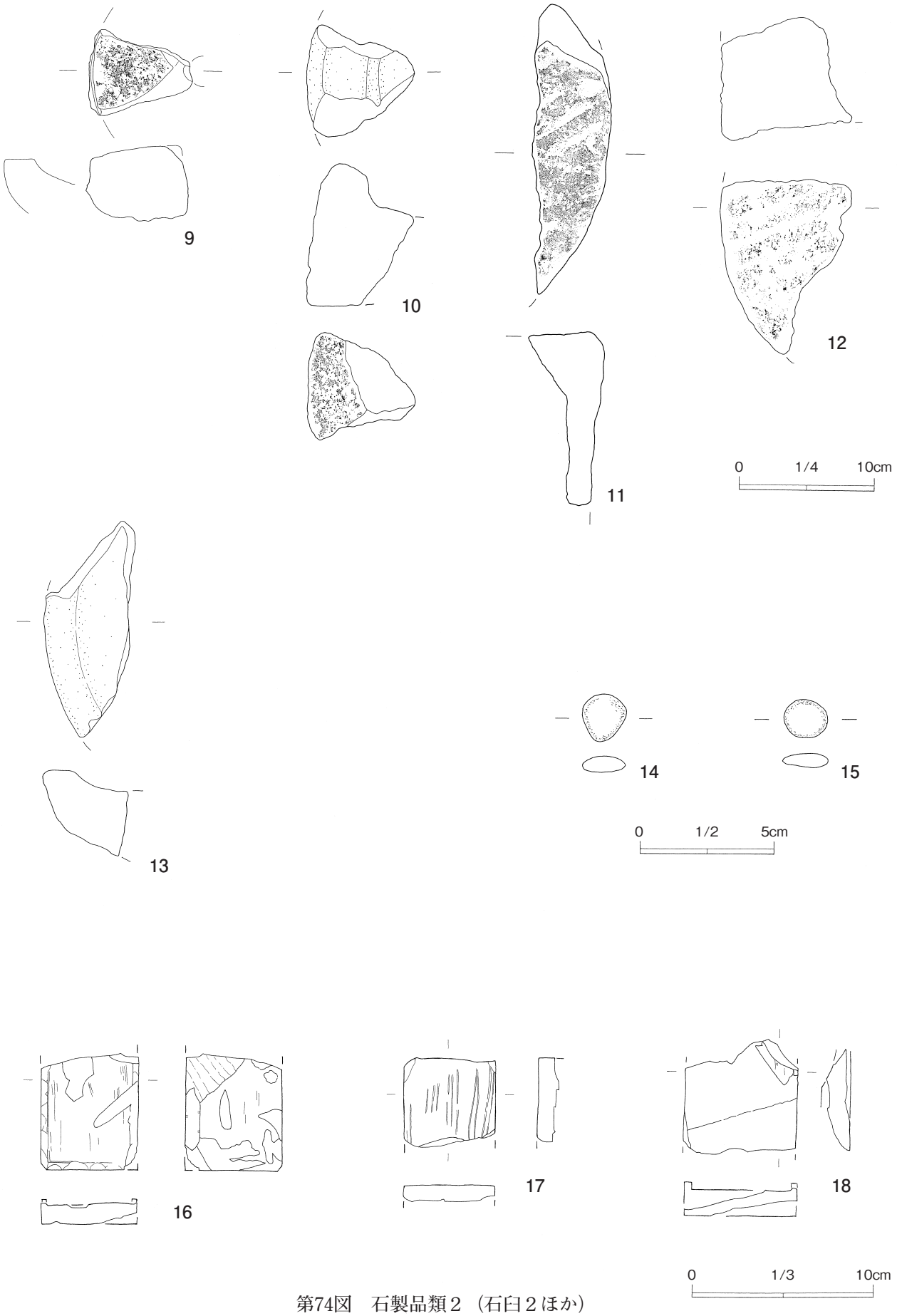
【五輪塔】

五輪塔は３点を数える。水輪・地輪があり111は遺存状況がよい。種子の周辺に墨が残り、不明瞭であるがバ・バー・バンで月輪に囲まれる。KB３区14溝出土で伴出の板碑群とともに隣接する墓域の存在が想定される。

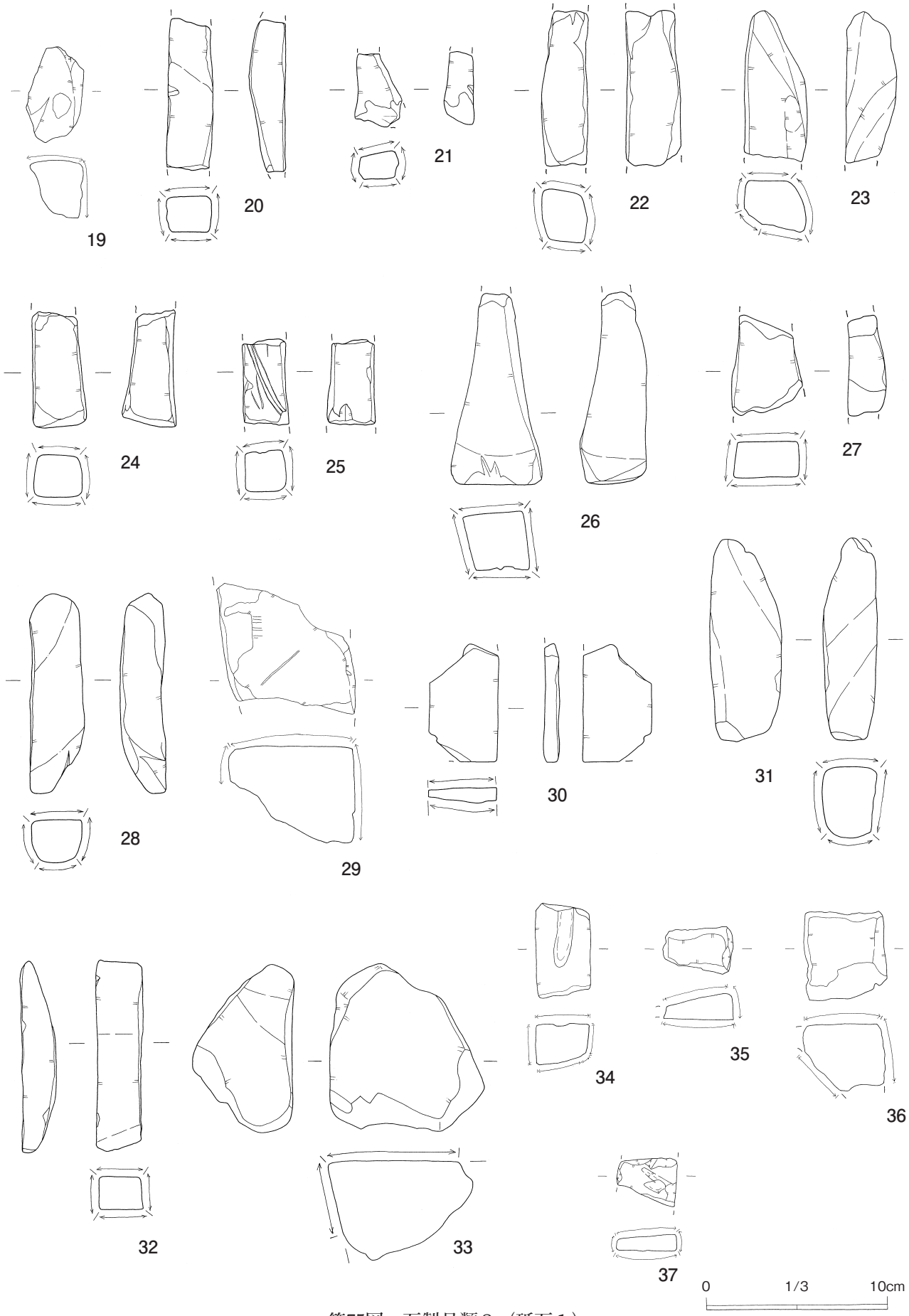
113・114は２次的な使用として、面を形成するほどの摩耗痕がある。砥石として使用されたものであろう。



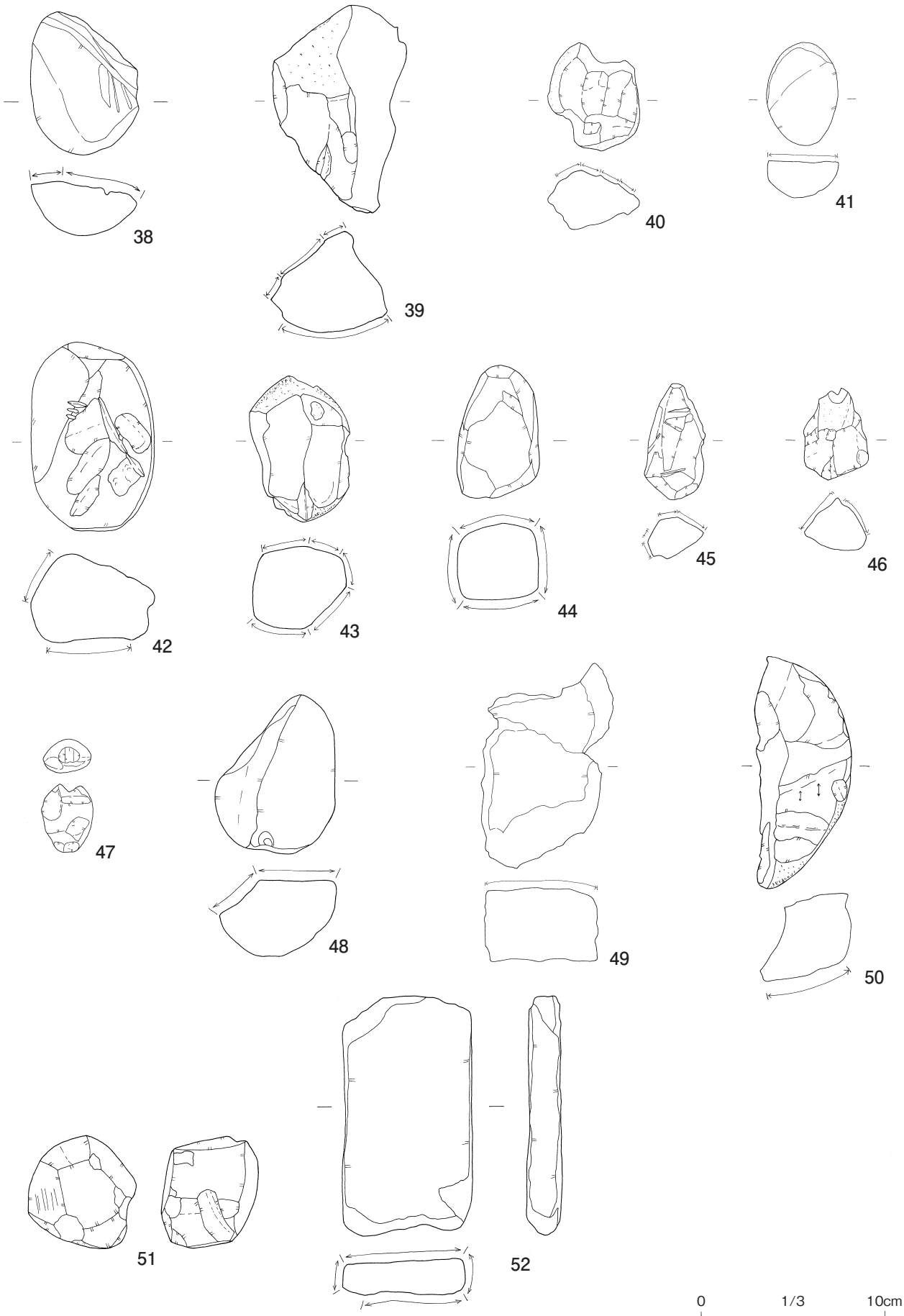
第73図　石製品類１（石臼１）



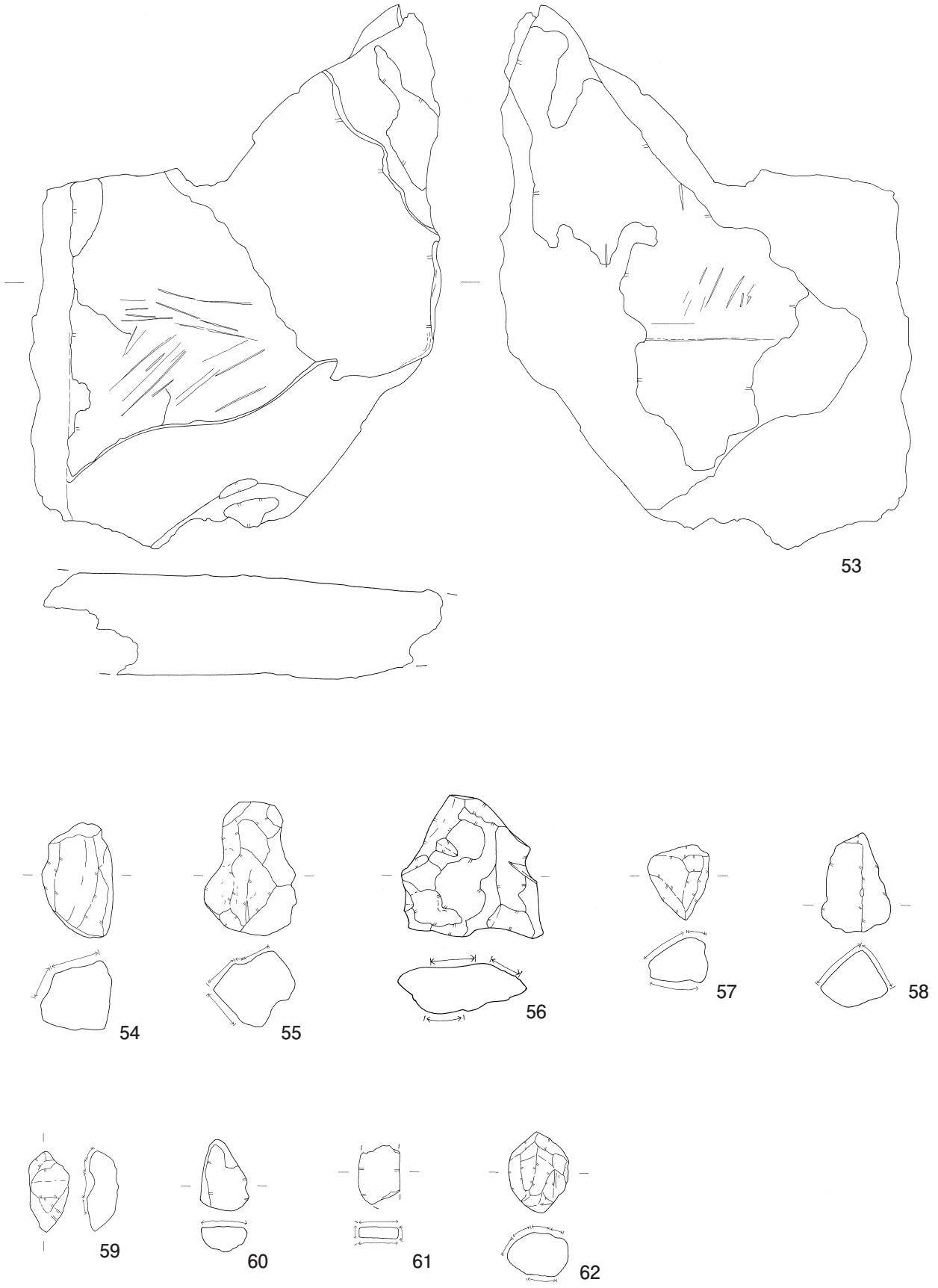
第74図　石製品類２（石臼２ほか）



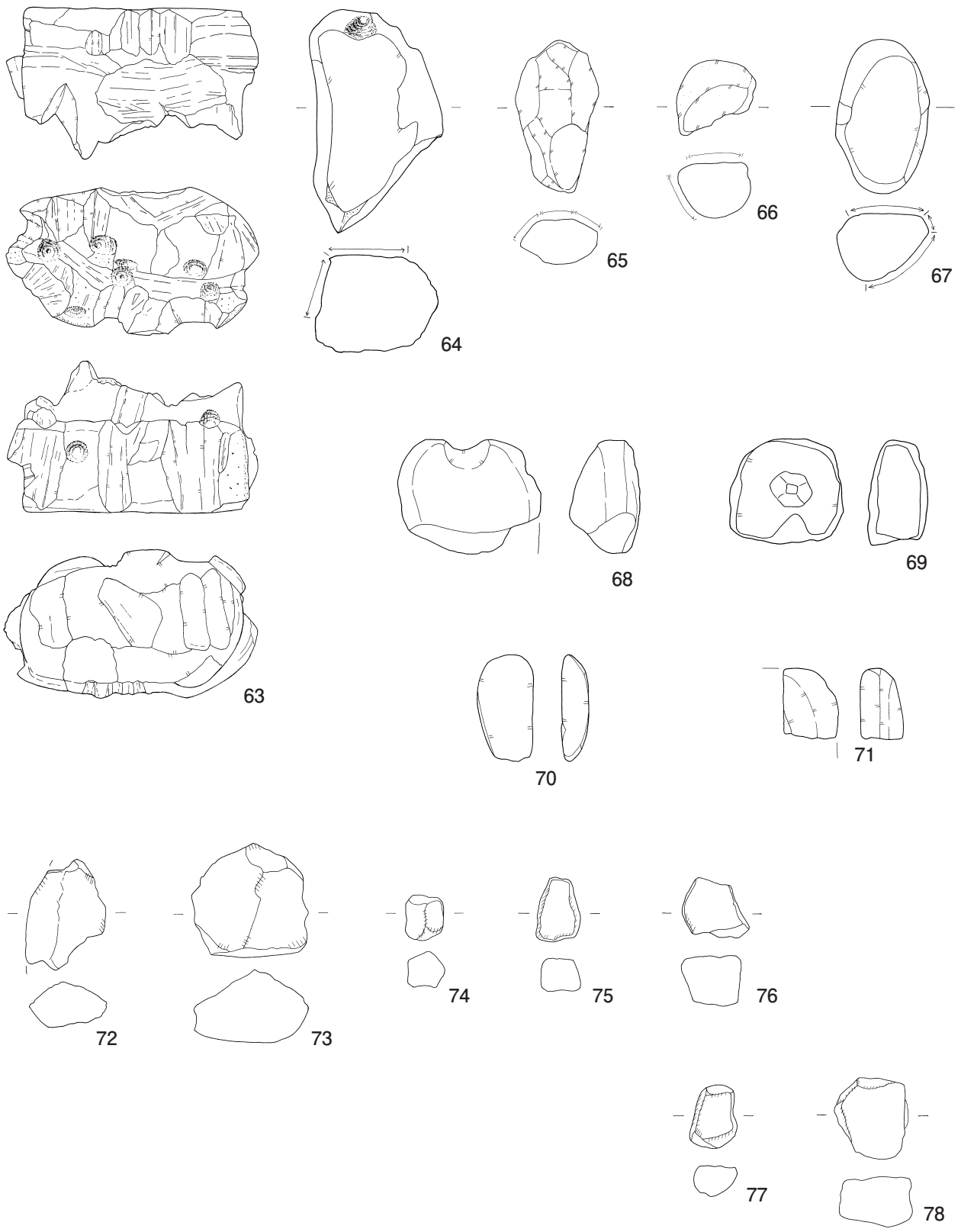
第75図　石製品類３（砥石１）



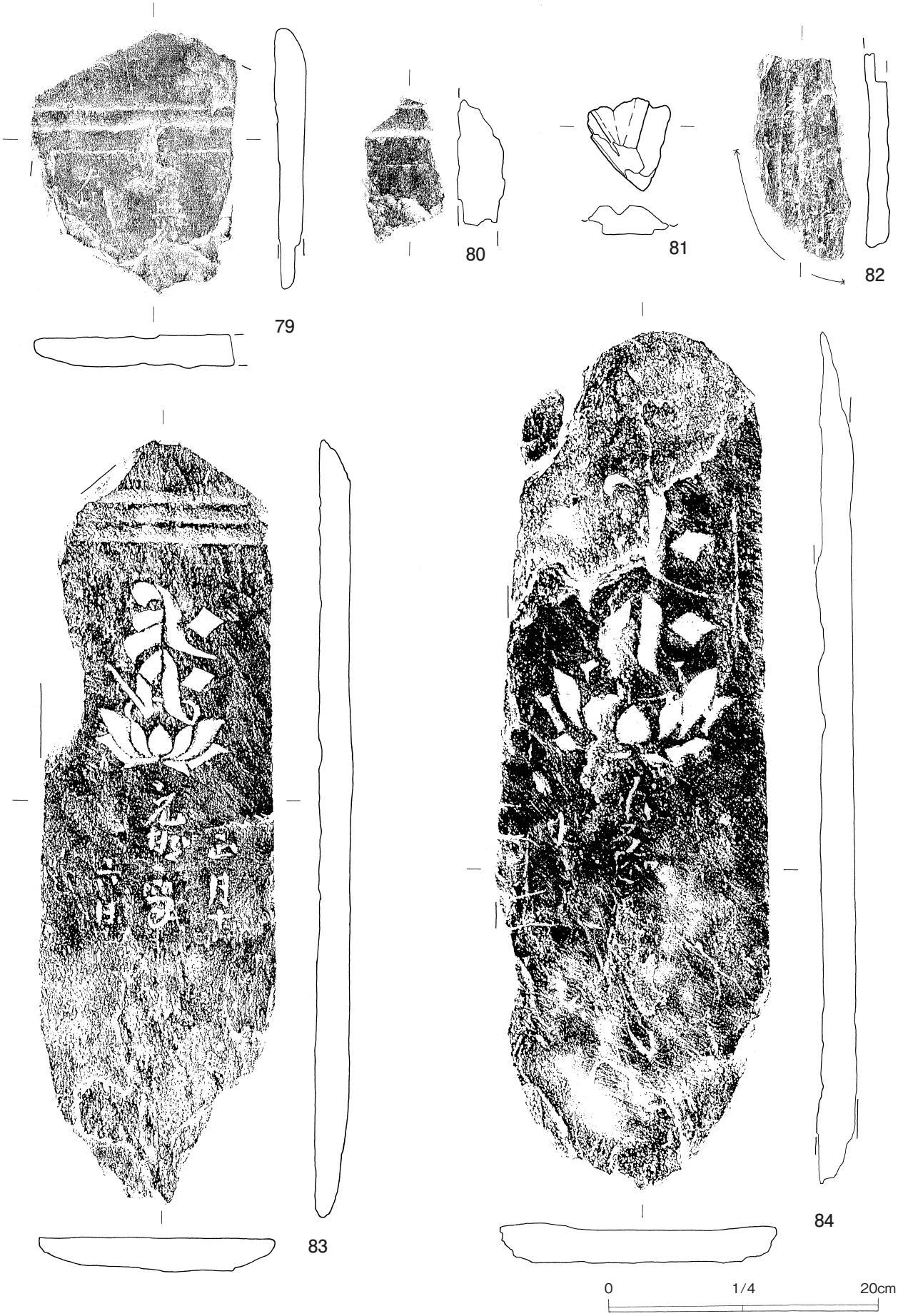
第76図　石製品類４（磨石１）



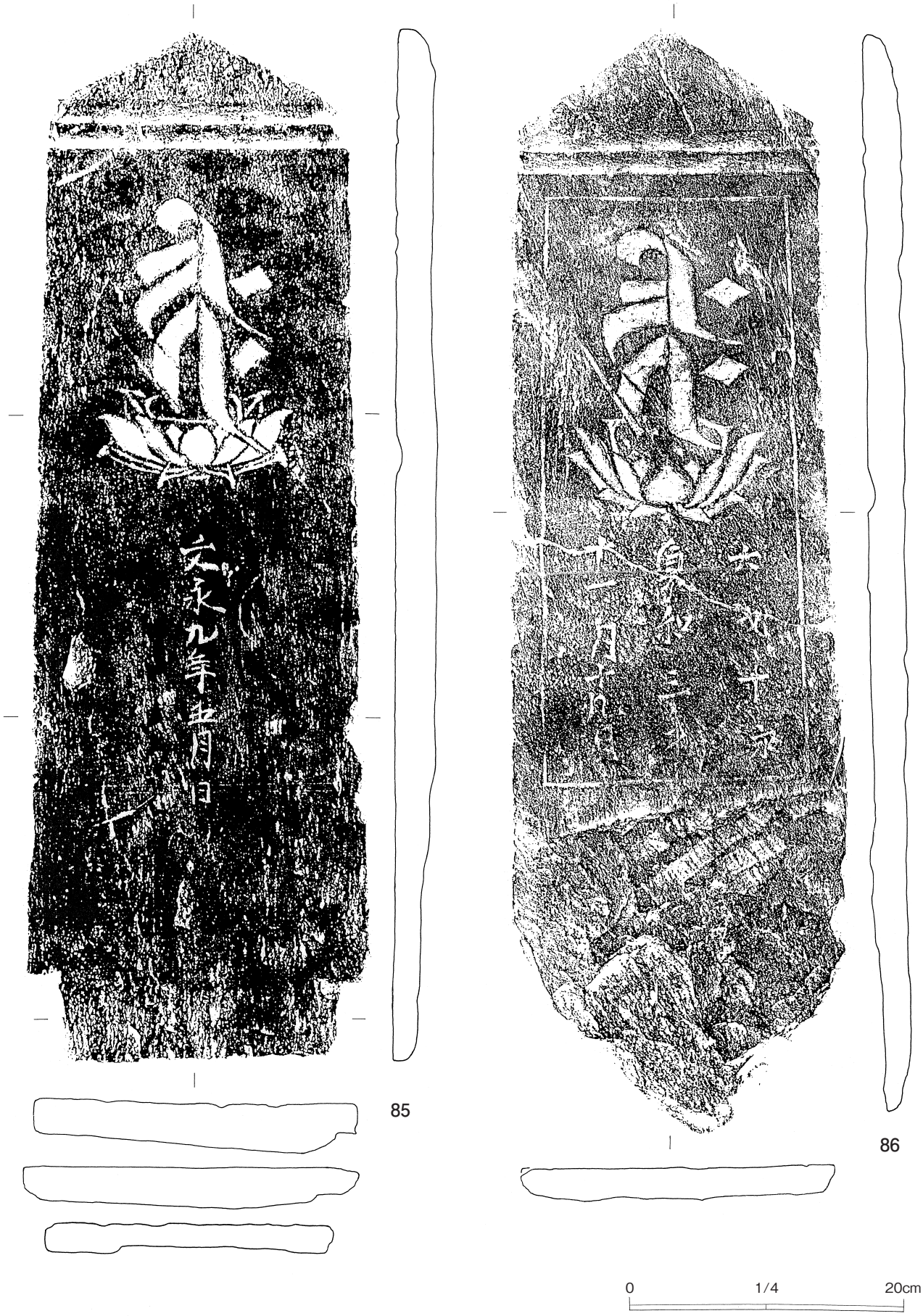
第77図　石製品類５（磨石２）



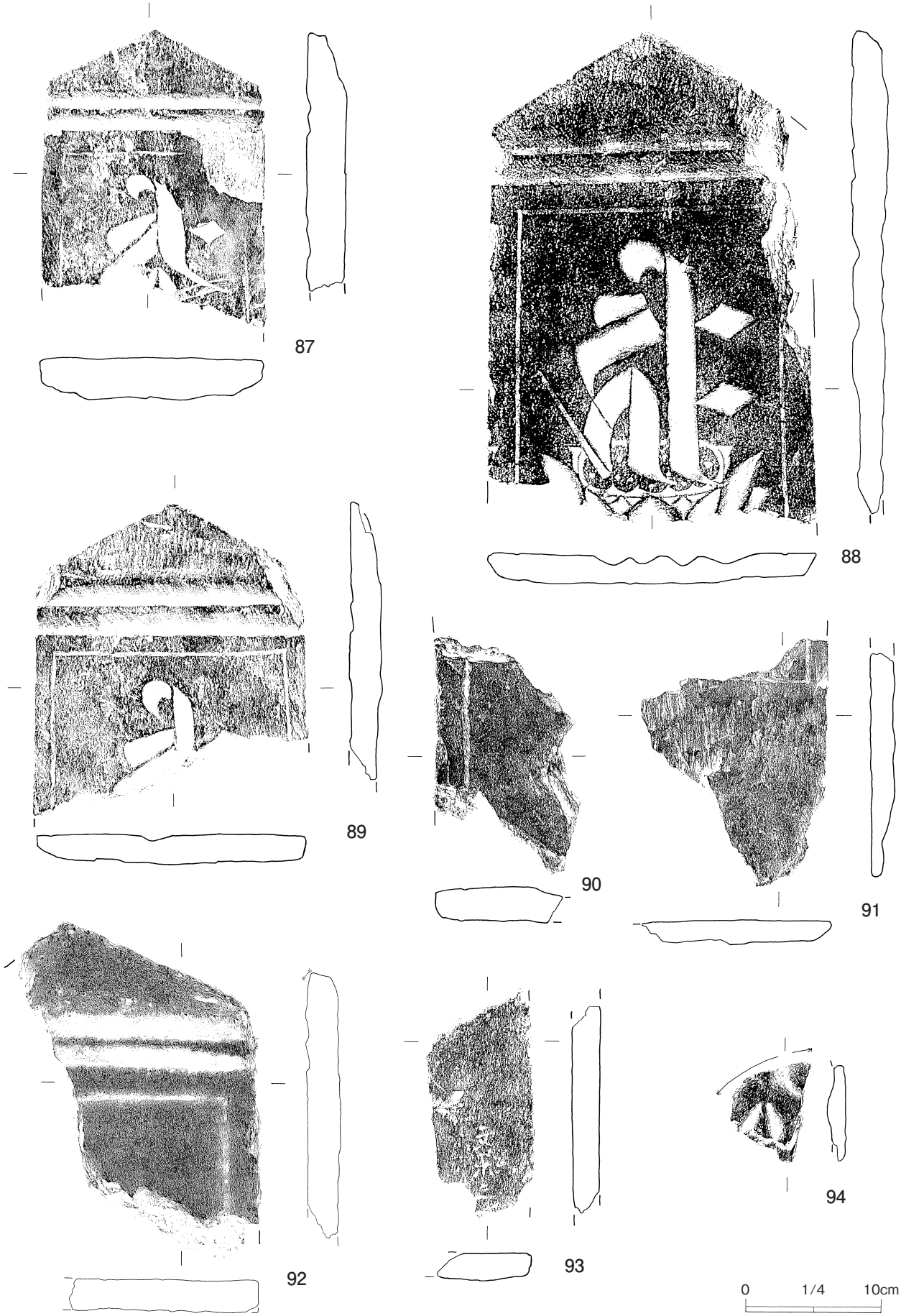
第78図　石製品類６（磨石３ほか）



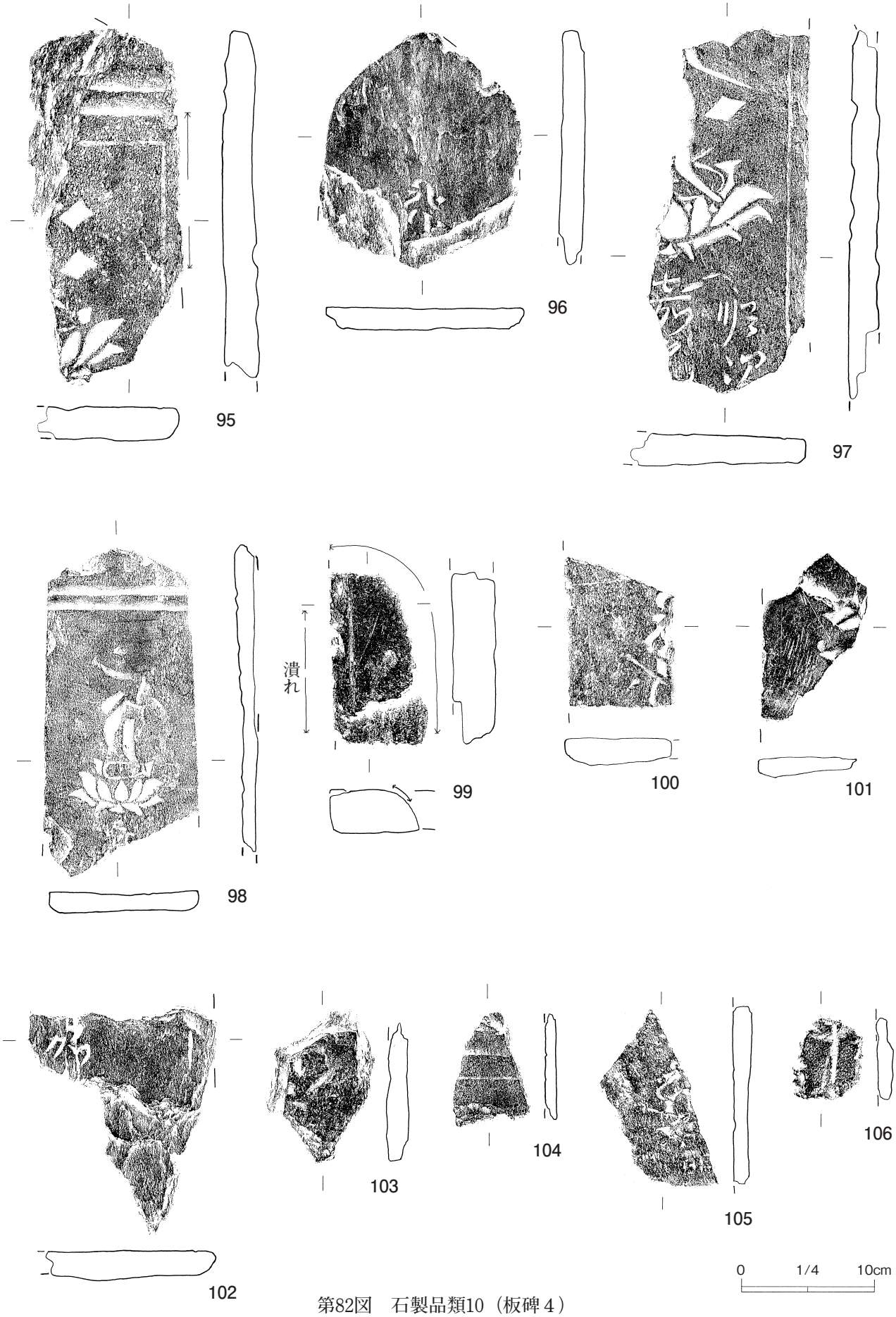
第79図　石製品類７（板碑１）



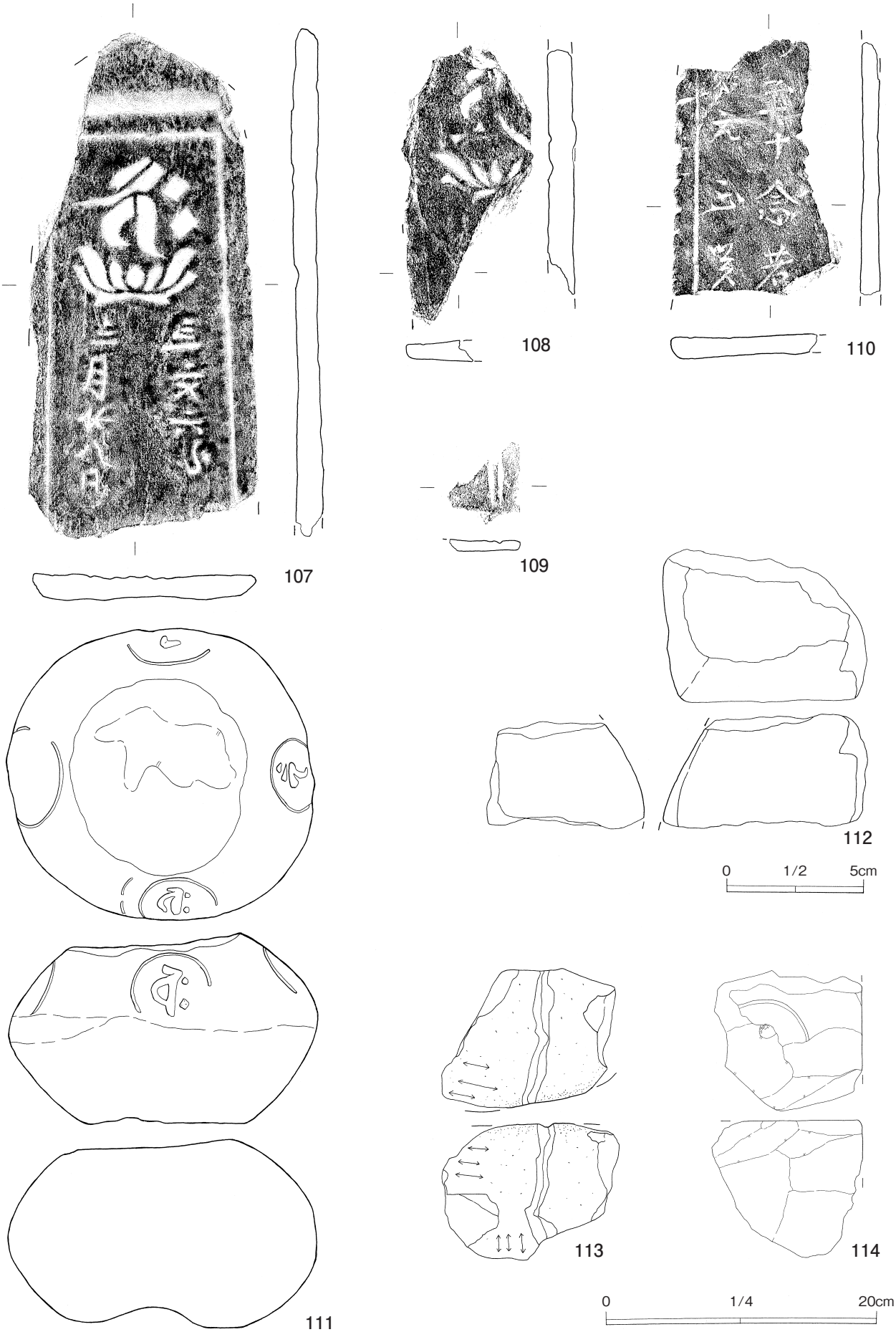
第80図　石製品類８（板碑２）



第81図　石製品類９（板碑３）



第82図　石製品類10（板碑４）



第83図　石製品類11（板碑５ほか）

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	遺物名	材質	調査区	出土地点	長さ	幅	厚さ	器種№	備考
1	搗臼	普通輝石安山岩	KB３	２溝（６−43区№377）	−	(11.0)	(8.2)	石23	
2	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	KB３	４溝（６−40区№18）	−	(12.4)	(4.2)	石04	
3	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	KB３	12溝（６−40区№106）	−	(11.5)	9.8	石06	
4	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	KB３	12溝（６−40区№119）	−	(8.2)	(6.8)	石03	
5	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	KB３	６−40区№317	−	(17.0)	(6.0)	石01	
6	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	KB３	９井（６−44区№576）	−	(14.5)	(9.0)	石07	
7	粉挽臼（上臼）	礫岩	KB３	６−44区№544	−	(9.0)	(3.0)	石05	
8	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	KB６	１溝（№205）	−	(11.0)	(8.5)	石02	
9	茶臼（下臼）	礫岩	KB６	ローム混り	−	(6.5)	(5.5)	石01	
10	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	KB９	21溝（№241）	−	(8.0)	10.5	石01	
11	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	第20次	一括	−	(19.0)	(13.0)	石01	
12	粉挽臼（上臼）	角閃石安山岩	第29次	１溝（№19）	−	(13.2)	(8.0)	石02	
13	茶臼（下臼）	角閃石安山岩	第29次	１溝（下層№123）	−	(10.5)	(4.8)	石01	
14	碁石	不明	KB３	33壙	1.7	1.6	0.6		
15	碁石	不明	第29次	一括	1.4	1.6	0.5		
16	硯	不明	KB９	21溝（№162）	(6.5)	5.4	(1.2)		
17	硯	不明	KB９	26溝（№687）	(5.0)	5.1	(1.0)		
18	硯	不明	KB９	一括	(6.4)	6.3	(1.6)		
19	砥石	泥岩	KB３	２溝	(5.3)	3.1	3.2		
20	砥石	泥岩	KB３	２溝	(8.6)	2.5	2.0	石19	
21	砥石	泥岩	KB３	２溝（６−44区）	(3.6)	2.4	1.5	石20	
22	砥石	泥岩	KB３	２ｂ溝（６−43区№443）	(8.5)	2.5	2.8	石11	
23	砥石	泥岩	KB３	４溝（６−40区№９）	(8.0)	3.4	2.8	石12	
24	砥石	泥岩	KB３	６−40区№282	(6.0)	2.8	2.8	石16	
25	砥石	泥岩	KB３	６−40区	(4.5)	2.5	2.6	石10	
26	砥石	泥岩	KB３	６−43区１Ｔ、６−43区	(10.5)	5.0	3.7	石14	
27	砥石	泥岩	KB３	６−43区１Ｔ	(5.5)	3.5	2.0	石09	
28	砥石	泥岩	KB３	６−43区	11.0	2.8	2.4	石15	
29	砥石	砂岩	KB３	６−44区№595	(7.3)	7.6	(5.4)		
30	砥石	不明	KB３	６−44区	(6.5)	3.8	0.8	石13	
31	砥石	泥岩	KB３	４Ｔ	11.2	3.0	4.0	石08	
32	砥石	泥岩	KB３	一括	10.5	2.5	1.8	石17	
33	砥石	砂岩	KB６	１溝№218	(9.0)	7.8	5.5	石03	
34	砥石	泥岩	KB９	一括	(5.2)	3.1	2.3		
35	砥石	泥岩	第20次	№65	(2.7)	(3.9)	1.5		
36	砥石	花崗岩	第20次	拡張４層	(5.0)	(4.6)	(3.7)		
37	砥石	泥岩	第29次	１溝	(3.2)	3.4	0.9		
38	磨石	デイサイト	KB３	１溝	(7.5)	6.0	2.8	石22	
39	磨石	デイサイト	KB３	１溝	11.3	(7.3)	5.5		
40	磨石	デイサイト	KB３	２溝（６−43区№129）	(6.0)	5.1	(3.2)		
41	磨石	デイサイト	KB３	２溝（６−43区№248）	5.7	3.8	2.1		
42	磨石	デイサイト	KB３	２溝（６−43区№407）	10.3	6.8	4.9		
43	磨石	デイサイト	KB３	２溝（６−43区№417）	7.9	5.5	4.5		
44	磨石	デイサイト	KB３	２溝	7.3	4.5	4.2	石24	
45	磨石	デイサイト	KB３	２溝	6.4	3.3	2.3		
46	磨石	デイサイト	KB３	２溝２層	5.0	3.6	2.9		
47	磨石	デイサイト	KB３	２溝６−44区	3.7	2.8	1.9		
48	磨石	デイサイト	KB３	４溝（６−40区№11）	8.5	6.6	4.3	石21	
49	磨石	不明	KB３	６溝（６−40区№170）、６−40区№96	(11.3)	(7.2)	4.0		
50	磨石	デイサイト	KB３	６溝（６−40区№177）	12.8	(5.3)	(4.7)		
51	磨石	デイサイト	KB３	14溝（６−40区№191）	6.1	5.2	5.9		
52	磨石	片岩	KB３	14溝（６−40区№329）	(13.0)	6.8	1.8	石18	
53	磨石	緑泥片岩	KB３	８井（６−44区№570）	(24.3)	21.6	5.4		
54	磨石（砥石）	デイサイト	KB３	19壙（６−44区№495）	6.1	3.7	3.7		
55	磨石	デイサイト	KB３	一括	7.0	(4.9)	4.0		
56	磨石	デイサイト	KB３	６−40区№161	7.6	7.6	2.7		
57	磨石	不明	KB３	６−40区	4.0	3.2	2.4		
58	磨石	デイサイト	KB３	６−40区	5.3	3.7	3.0		
59	磨石	デイサイト	KB３	６−43区	4.3	2.2	1.7		
60	磨石	デイサイト	KB３	６−43区	3.8	2.6	1.3		
61	磨石	デイサイト	KB３	６−43区	(3.1)	2.2	0.6		
62	磨石	デイサイト	KB３	６−43区東	4.3	3.2	2.3		

第23表　石製品類一覧表１

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図№	遺物名	材質	調査区	出土地点	長さ	幅	厚さ	器種№	備考
63	磨石	デイサイト	KB３	６-44区№591	13.0	7.2	7.8		
64	磨石	デイサイト	KB３	６-44区№594	11.6	7.0	5.0		
65	磨石	デイサイト	KB６	１溝№270	7.9	4.2	2.3		
66	磨石	デイサイト	KB６	１溝№283	3.5	3.9	2.9		
67	磨石	デイサイト	KB６	側溝	8.0	4.6	3.5	石04	
68	磨石	軽石	KB９	21溝	(4.5)	7.2	3.6	石05	
69	磨石	軽石	KB９	１井	5.4	5.6	2.9	石02	
70	磨石	デイサイト	KB９	２井	5.5	2.8	1.4	石04	
71	磨石	デイサイト	KB９	一括	(3.3)	(2.8)	2.2	石03	
72	火打石	石英	KB３	２溝（６-43区№98）	(5.8)	4.2	2.3		
73	火打石	石英？	KB３	33壙	5.9	6.0	3.8		
74	火打石	石英	KB３	６-43区	2.3	2.0	1.8		
75	火打石	チャート	KB６	１溝№208	3.3	2.4	1.6		
76	火打石	石英	KB９	19溝№153	3.0	3.2	2.6		
77	火打石	石英	KB９	20溝	3.3	2.1	1.7		
78	火打石	石英	KB９	19壙	4.2	3.7	2.6		

第24表　石製品類一覧表２

KB９　完掘

※　3区＝KB3　6区＝KB6　9区＝KB9　太字は銘文　法量の単位はcm

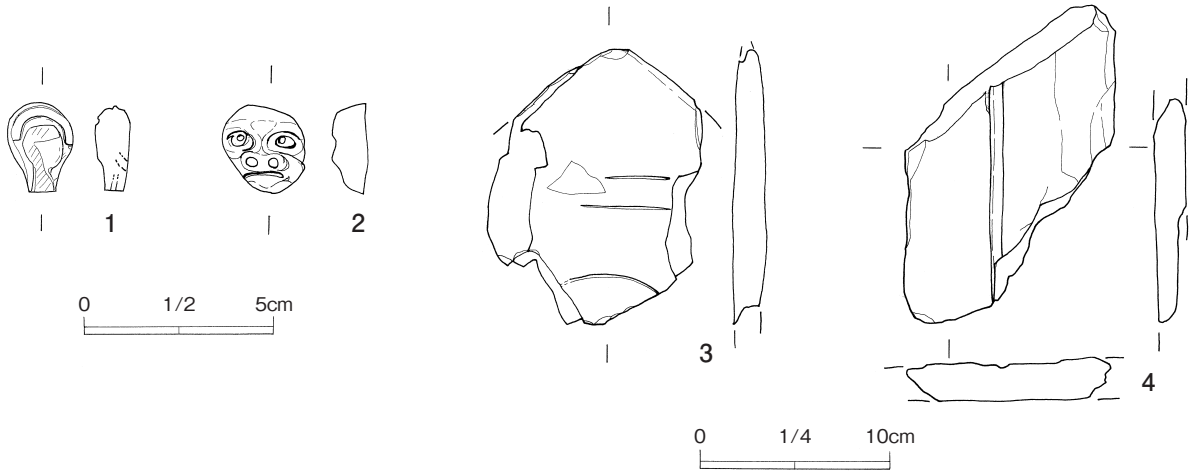
No.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	備考
79	板碑	3区　2溝No.209	19×15×2	表裏炭化物付着 **南無□** **南□**
80	板碑	3区　2溝No.327	12×7×4	裏面被熱による黒化
81	板碑	3区　2溝	10×6×2	**キリークか**
82	板碑	3区　12溝6—40区No.215	16×8×2	裏面被熱による黒化 下辺→印敲打による潰れ、使用によるものか
83	板碑	3区　14溝6—40区No.90	57×18×3	枠線ケガキ状 **キリーク（蓮座）元徳三年正月十六日**
84	板碑	3区　14溝6—40区No.88	63×20×2	表面・裏面→砥石使用の為摩耗 **キリーク（蓮座）貞和□□** **月□□**
85	板碑	3区　14溝6—40区No.84	75×72×4	ケガキ線あり　完形品 **キリーク（蓮座）文永九年五月日**
86	板碑	3区　14溝6—40区No.86・89	79×24×3	完形・2分断 **キリーク（蓮座）貞和三年丁亥** **十一月十九日**
87	板碑	3区　14溝6—40区No.87	22×17×3	表裏とも砥面多数 表裏炭化物付着厚い **キリーク**
88	板碑	3区　14溝6—40区No.140	36×24×3	二条線・ケガキ残る **キリーク（蓮座）**
89	板碑	3区　14溝6—40区No.141	23×20×2	頂部（縦）〜二条線（斜め）刻ノミ痕明瞭 **キリーク**
90	板碑	3区　14溝6—40区No.142	20×11×3	裏面炭化物付着 本尊種子の一部あり
91	板碑	3区　14溝6—40区No.181	18×14×2	表裏ス付着
92	板碑	3区　14溝6—40区No.85	24×16×2	本尊種子の一部あり　キリーク
93	板碑	3区　19溝6—40区No.260	12×8×2	**（蓮座）文和二**
94	板碑	3区　2井	8×6×1	**キリーク**
95	板碑	3区　5井	27×12×3	表側面炭化物付着 **バクか（蓮座）**
96	板碑	3区　7井No.475	18×15×2	二条線・枠線・ケガキ状 全面ス付着 **キリーク**
97	板碑	3区　15井	28×13×2	**キリーク（蓮座）順次□** **嘉元□**
98	板碑	3区　46土壙6—40区No.294	26×12×1	裏面砥石使用痕 枠線（上・左側）ケガキ一本の平行線 **バン（蓮座）正□**

第25表　石製品類一覧表３

※　3区＝KB3　6区＝KB6　9区＝KB9　太字は銘文　法量の単位はcm

No.	遺物名	出土地点	縦×横×厚	備考
99	板碑	3区　6—40区No.44	13×8×3	左側面大部分敲打による潰れ→印
100	板碑	3区　6—40区No.60	13×9×2	種子内に漆？　上・左にケガキ枠線 **キリーク（蓮座）**
101	板碑	3区　6—40区No.61	13×8×2	表ー砥石 **バクか**
102	板碑	3区　6—40区No.103	18×13×2	□**嘉**□
103	板碑	3区　No.531	12×8×2	表にス付着　蓮座の一部あり
104	板碑	3区　6—40区	9×6×1	
105	板碑	6区　1溝No.260	14×9×1	**キリーク（蓮座）明**□ **（応か）**
106	板碑	6区　6—25区No.93	6×5×1	
107	板碑	9区　1溝C—2No.471	39×17×2	□**文六年** **バク（蓮座）** **三月二八日**
108	板碑	9区　2溝No.140	21×10×2	表裏炭化物付着 **バン（蓮座）**
109	板碑	9区　21溝No.229	6×6×1	枠線一重
110	板碑	9区	19×13×2	**至十念若**□ **不取正覚**□
111	五輪塔（水輪）	3区　14溝6—40区No.186	22×23×14	上面平坦面あり 下面面凹あり 測面実測正面バク 左回りでバ→バー→バン 月輪に囲まれる バン、バクには墨が入る 被熱による黒化部分あり 角閃石安山岩
112	石造物か	3区　9井6—44区	12×15×13	一部被熱による黒化 普通輝石安山岩
113	五輪塔（水輪）	3区　第3トレンチ	10×11×8	表裏ともに砥面、擦痕あり 一部タール状黒色付着物あり 角閃石安山岩
114	五輪塔（地輪）	29次　下層No.167	10×11×10	正面に月輪を刻む、月輪内墨色 各面に砥面あり 角閃石安山岩

第26表　石製品類一覧表４



第84図　出土遺物補遺

（　）は残存値、＊は不確定な推定復元値　　法量の単位は cm

図No.	器種	材質	調査区	出土地点	口径	底径	器高	遺物 ID	備考
1	泥面子様製品		KB１	A－２G	2.3	1.7	0.9	0001-0002	
2	泥面子		KB１	C-20G	2.3	2.2	1.0	0001-0001	
3	板碑	緑泥片岩	KB１	A－５G №31	(14.6)	(11.2)	1.8	0001-0037	炭化物付着
4	板碑	緑泥片岩	KB２	25溝(K－８G №49)	(16.8)	(12.0)	2.5	0002-0022	

第27表　出土遺物補遺一覧表

第５節　出土遺物補遺

１は表面欠失、２は顔を表わし、いずれも素焼で同質のものである。３、４は板碑で３は炭化物が付着しているが、２条線、月輪が認められる。

KB２　調査風景

第Ⅴ章　まとめ

ここでは特徴的な遺構を取り上げ年代・性格を考察し、最後にKB３区の変遷を追うこととする。年代比定等無理をしている点が多々あるが、今後の叩き台として提示しておく。

※覆土中のテフラを天明期浅間山噴火に伴うのものとする。

第１節　KB３区

当調査区は『武州騎西之絵図』によると、武家屋敷の南西部に延びる堀周辺及び芝原土取場・篠原忠右衛門屋敷周辺に当たると思われる。

○溝

まず、『絵図』に描かれた堀と考えられるKB１区12号溝の延長を追う。方向性に併せて深さ・断面形態を考慮すると、KB１区12・10a号溝は２a号溝につながる。６－43・－40区接点は現道にあたるため、検出面のみの確認となった。北へ屈曲し、４b号溝へと続く。以降北へ直行し４c号溝または西へ屈曲するものと思われる。17世紀前半まで。

16a号溝・14号溝（南11m分）は連続しないが、延長上にあり深さ・断面形態とも同様で、関連する遺構と思われる。13～16世紀代の遺物が出土し、特に14号溝では、多数の板碑などが出土おり、あるいは16世紀代に城下再編にあたり墓域を削平し溝を埋めたものと考えて良いか。

１号溝はKB１区の切り合い旧：９a→12号溝：新（＝KB３区１a→２a号溝）から、２a号溝よりも古く16世紀代であろうか。

17ab・18号溝は特に他のものと走行方向が異なる。年代は19溝が16世紀前代までのものであることから16世紀代としておく。

○井戸状遺構

各地区に分布する。１・５・６・８・９・11・15号井戸はテフラが覆土上層にあり、４号井戸は寛永通宝出土、３・16号井戸は土器類の年代からいずれも廃城後と思われ、この頃のものは６－43・44区に多い。

○土壙

墓壙は33号土壙が廃城後（寛永通宝出土）である。22号土壙は骨が出土し銅碗の出土が墓壙の可能性を示す。

深く大規模なものは、10・46号土壙の２基あり長さ４m近く深さ１mを超える。機能を推定しがたいが46号土壙はテフラから廃城後と思われる。

第２節　KB６区

当調査区は『絵図』によると、武家屋敷の南西端の観音寺南周辺に当たる。絵図に見られる外川村への道は、土地区画整理前まで当調査区に北接して東西に走行していた。１号溝はその道に沿うもので、観音寺南の無記名の屋敷地北端に位置するものであろう。

第３節　KB９区

当調査区は『絵図』によると、武家屋敷の南西端で木□長右衛門・若林兵庫・無記名の屋敷地にあたる。また出土する土器類の年代から15・16世紀にも当区周辺が利用されていたことが考えられる。

○溝

在城期の可能性を持つものは18a・18b・５・２号溝で隣接する第45次調査区の成果と併せて若林屋敷の南端の堀と思われる。19号溝も同様だが走行位置からより古い段階のものとしておく。廃城後で大規模なものは21号溝で18世紀以降である。

○井戸状遺構

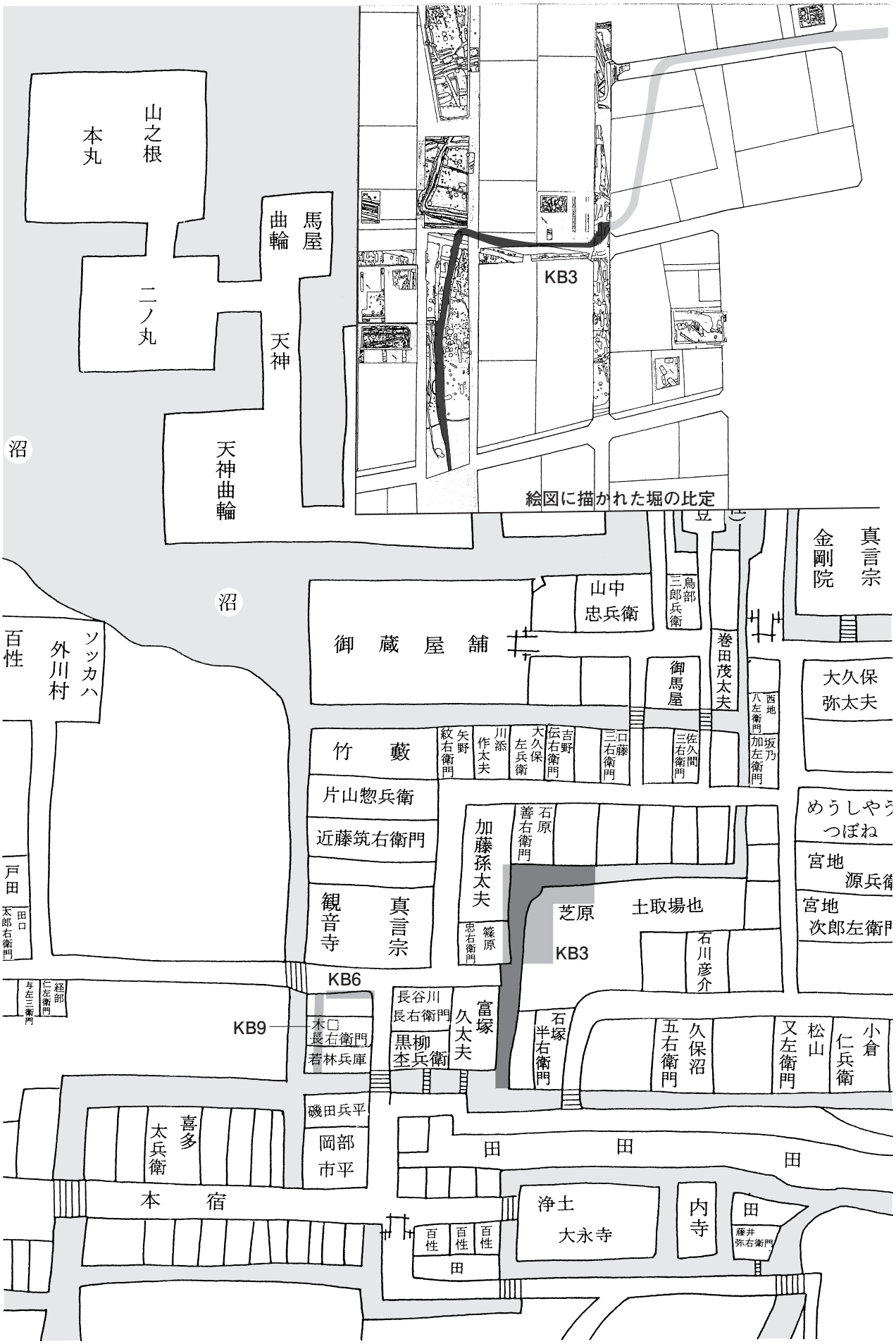
調査区北側に位置し、２号井戸には当遺跡唯一の井戸側を備えるものである。だが、崩落しにくいローム層での使用にはその補強以外の意図があったのであろう。

○土壙

しっかりしているものは、図を掲載した14・16・17・19・21号土壙である。そのうち、在城期の可能性を残すものは14・19・21号土壙である。16号土壙は廃城後のもので、土器類・木製品類が大量に廃棄されており、18世紀以降であろう。

第４節　他調査区

第21次２号溝はKB３区22号溝とつながる。前年



第85図　『絵図』との対照図

の報告ではＴ２溝と命名し16世紀前から中頃の年代を与えた。

第29次１号溝は前述同様Ｔ５溝とし17世紀後半とした。今回の成果に照らしてもいずれも大きな齟齬はないものと思われる。

第５節　遺構の変遷

溝については、遺物の流れ込みや確認できなかった遺構に伴う遺物がある。さらに掘り返し・長い埋没時間など、時期決定に不確実な部分を伴うが今後の考察の叩き台として敢えて、KB３区を中心に年代的変遷を追う。

ただし、各段階には他時期の遺構が共存するものと思われる。

【第１段階】（16世紀前半？）

第21次２号溝＝Ｔ３溝が相当する。また、KB３区６－43区の17a·b、18号溝も本段階と思われる。

【第２段階】（16世紀中～後？）

６－43区１b 号溝が東西に走行し、平行する２b 号溝も同段階とする。また、６－40号線の14・16a 号溝は南北方向に断続しながらも一つの堀として機能したと思われる。

【第３段階】（16世紀後～17世紀初）

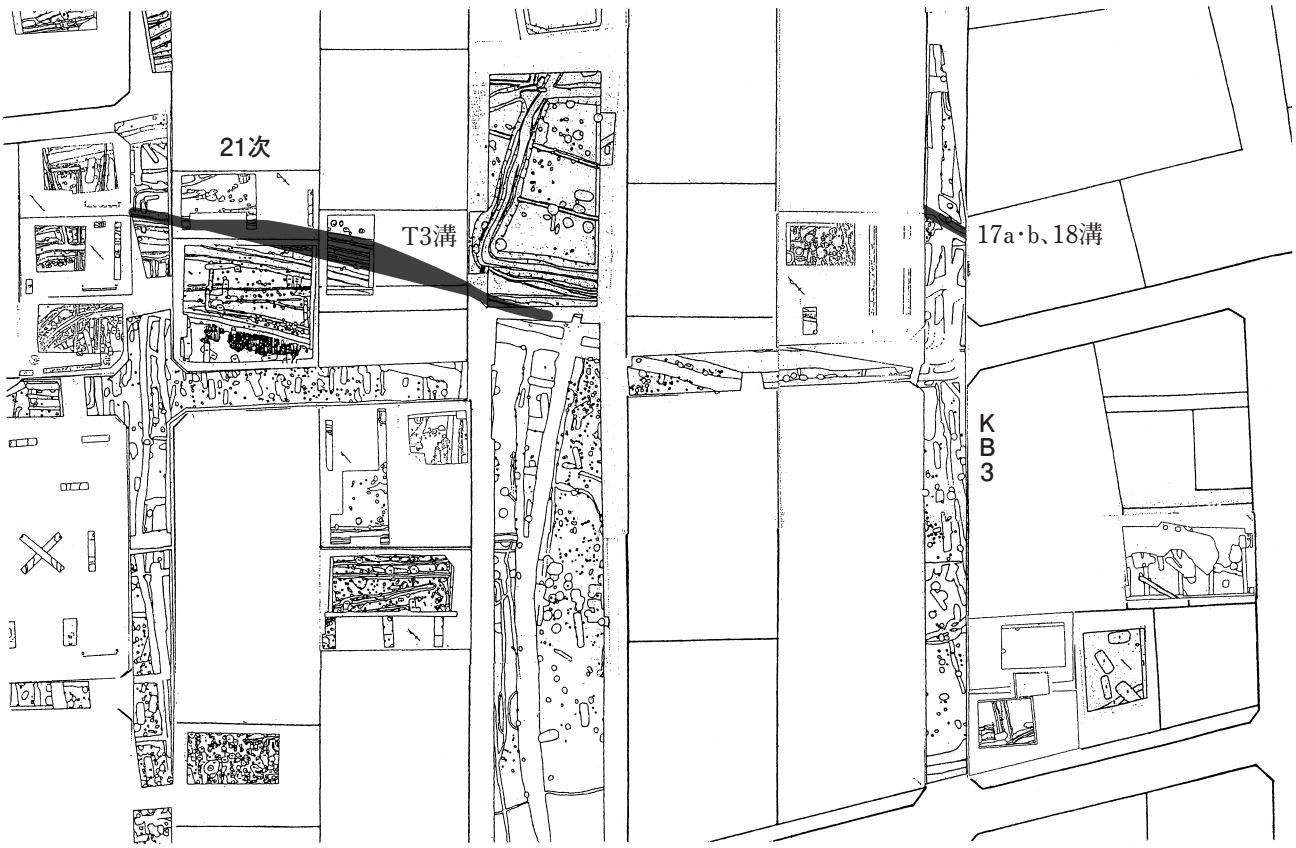
松平・大久保氏が城主の時期である。KB３区２a 号溝が相当し、KB１区12・10a 号溝とつながりＴ６溝とする。前回『絵図』に描かれた堀として報告したものである。

【第４段階】（17世紀後半）

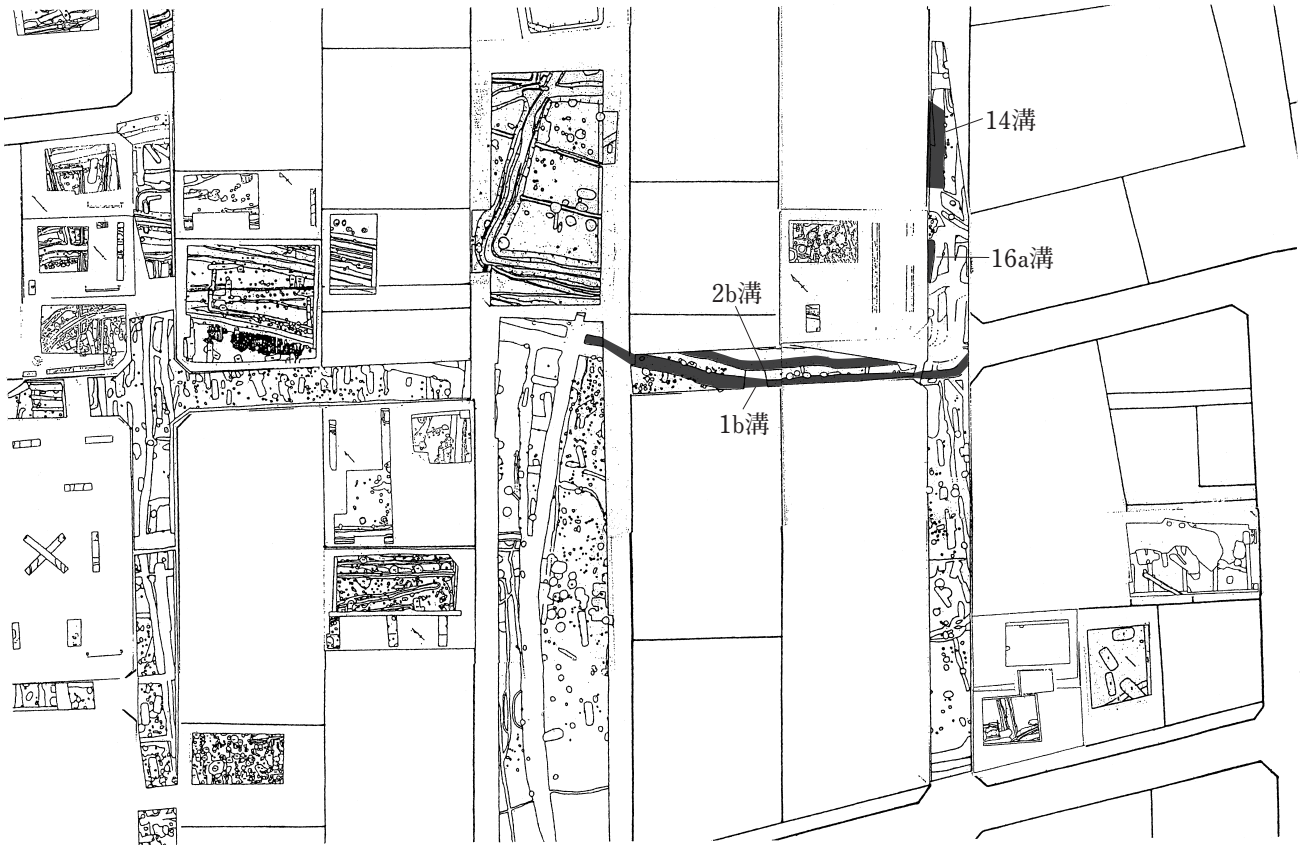
第29次１号溝が相当する。KB２区８号溝とつながりＴ５溝として東西方向に走行する。

また、寛永通宝（古）が出土したKB３区４号井戸・33号土壙をこの時期としておく。銅鋺・骨が出土した22号土壙をこの時期とすると小規模な墓域が存在したか。

前後の時代にも遺物は存在するがここでは省略する。

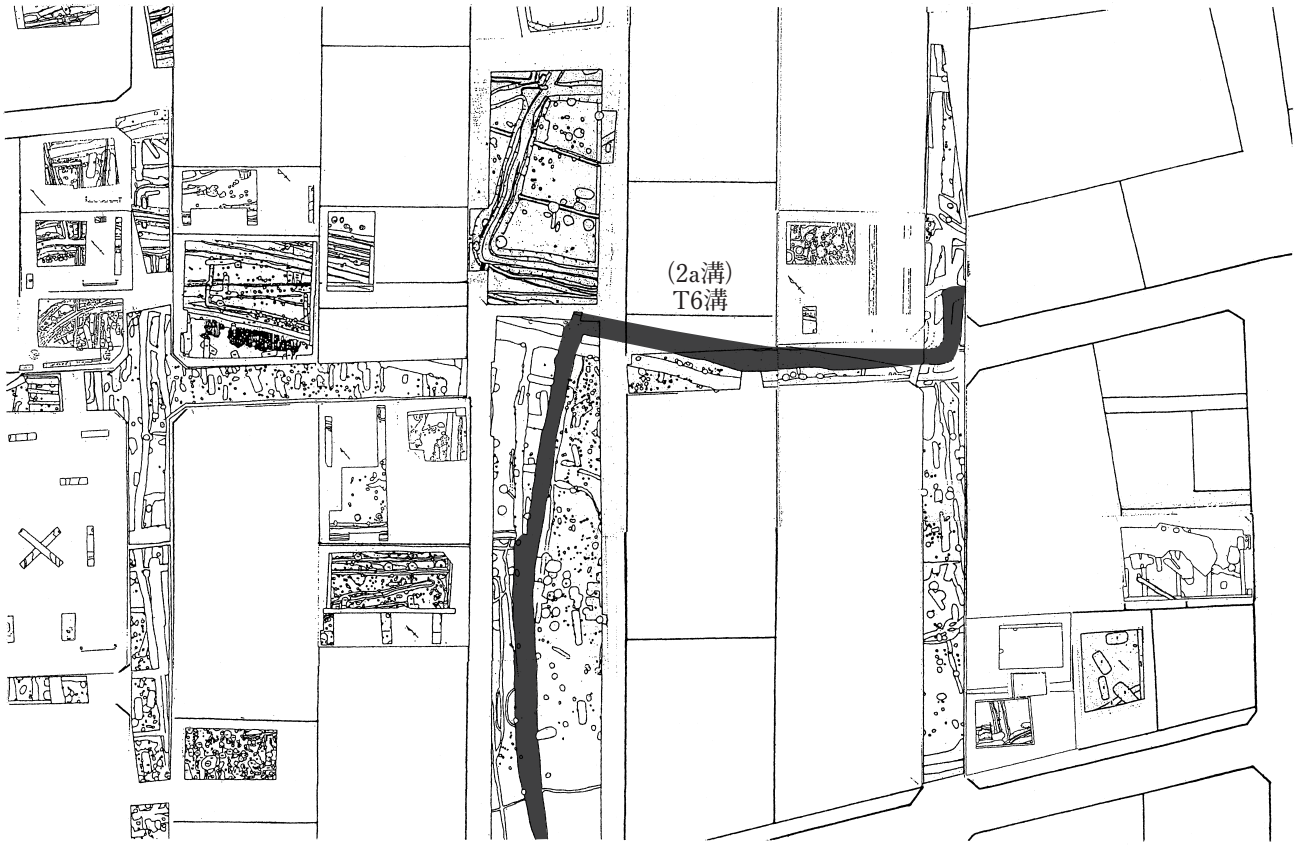


第１段階

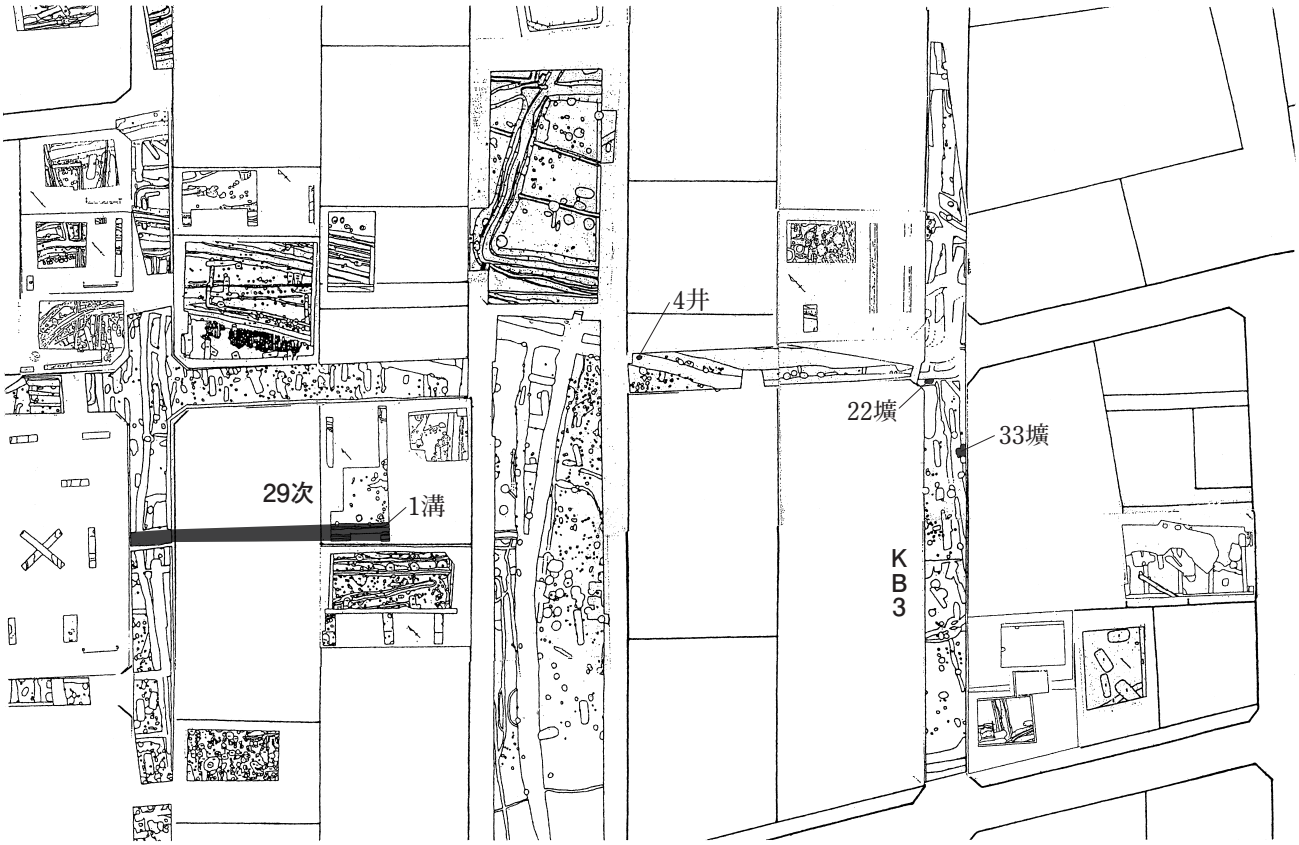


第２段階

第86図　遺跡の変遷１



第３段階



第４段階

第87図　遺跡の変遷２

参考文献

秋本太郎　2008　「戦国期北関東のかわらけ－戦国大名支配との関連－」『中世東国の世界３　戦国大名北条氏』高志書院

浅野晴樹　1988　「関東における中世在地産土器について」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』第４号

1991　「東国における中世在地系土器について－主に関東を中心に－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集

大橋康二　1984　「肥前陶磁の変遷と出土分布」『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館

小野正敏　1982　「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』№２貿易陶磁研究会

2000　「遠江の出土陶磁器組成の特徴」『横地城跡　総合調査報告書　資料編』菊川町教育委員会

『騎西町史』考古資料編１　2001　騎西町教育委員会

『騎西町史』考古資料編２　1999　騎西町教育委員会

『騎西町史』通史編　2005　騎西町教育委員会

九州近世陶磁学会　2000　「九州陶磁の編年」　九州陶磁学会

2001　「国内出土の肥前陶磁」　東日本の流通をさぐる　九州陶磁学会

島村範久・嶋村英之・坂本征男　1997　「騎西武家屋敷跡城　妙光寺第１・２次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第２集　騎西町遺跡調査会

島村範久　2005　「騎西（私市）城跡」『シンポジウム　埼玉の戦国時代　検証　比企の城』資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会

2005　「騎西（私市）城跡」『戦国の城』高志書院

2009　「騎西武家屋敷跡城　第40次発掘調査報告書」騎西町遺跡調査会報告書第６集　騎西町遺跡調査会

嶋村英之　2011　「騎西城武家屋敷跡　第17・28・35・36・39・41・43次調査」加須市埋蔵文化財調査報告書第１集　加須市教育委員会

嶋村英之・島村範久・嶋村薫　2011　「騎西城武家屋敷跡　KB大英寺・１・２区調査－中近世編－」加須市埋蔵文化財調査報告書第２集　加須市教育委員会

田中　信　1996　「川越市内出土の中世土師器について－特に河越館跡および周辺出土を中心に－」『川越市埋蔵文化財調査報告書（ＸⅠ）』川越市教育委員会

2005　「山内上杉氏の土器（かわらけ）とは」『戦国の城』高志書院

2005　「出土遺物からみた山内上杉（越後上杉氏）の城・陣所」『シンポジウム　埼玉の戦国時代　検証　比企の城』
資料集　史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会

2010　「葛西城と扇谷上杉氏のかわらけ」『葛西城と古河公方足利義氏』雄山閣

塚田良道　1989　「忍城跡の発掘調査」『行田市郷土博物館研究報告』Vol１行田市郷土博物館

中野晴久　1994　「生産地における編年について」『全国シンポジウム中世常滑焼をおって』資料集

2005　「常滑・渥美窯」『陶磁器から見る静岡県の中世社会』菊川城館遺跡国指定記念シンポジウム資料集

服部実喜　2008　「かわらけから見た北条氏の権力構造」『中世東国の世界３　戦国大名北条氏』高志書院

藤澤良祐　1987　「本業焼の研究（１）」　研究紀要Ⅵ　瀬戸市歴史民俗資料館

1988　「本業焼の研究（２）」　研究紀要Ⅶ　瀬戸市歴史民俗資料館

1989　「本業焼の研究（３）」　研究紀要Ⅷ　瀬戸市歴史民俗資料館

2002　「瀬戸・美濃大窯の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯　財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター

2008　「中世瀬戸窯の編年」　高志書院

横田賢次郎・森田　勉　1978　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』４

図　　版

６－43号線区　西　完掘　（東から）

６－43号線区　東　完掘　（西から）

遺構２　KB３－２

６－44号線区　南　完掘　（南から）

６－44号線区　中央　完掘　（南から）

６－44号線区　中央　完掘　（北から）

６－44号線区　北　完掘　（南から）

遺構４　KB３－４

６－44号線区　北　完掘　（北から）

６－40号線区　完掘　（南から）

６－40号線区　北　（南から）

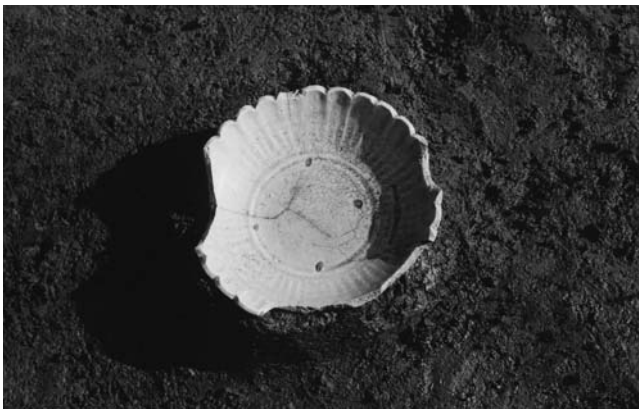
１号溝　西側　（東から）

１号溝　（６－44号線区・東から）

遺構６　KB３－６

１号溝　土層堆積

２号溝　土層堆積

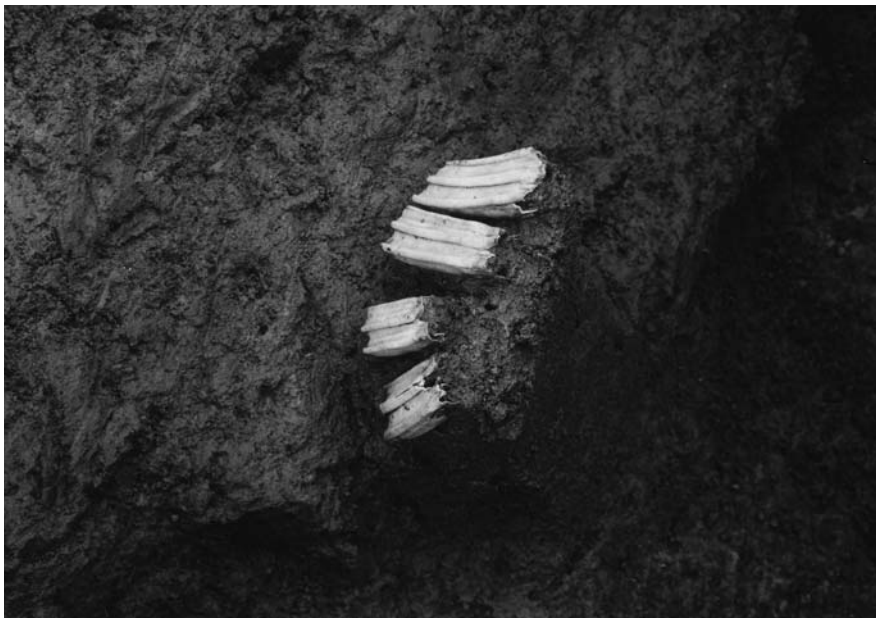


２号溝　皿（土－36）出土

同　天目出土

２号溝　完掘　（東から）

２号溝　遺物出土



２号溝　馬の歯出土

２号溝　タガ出土

遺構８　KB３－８

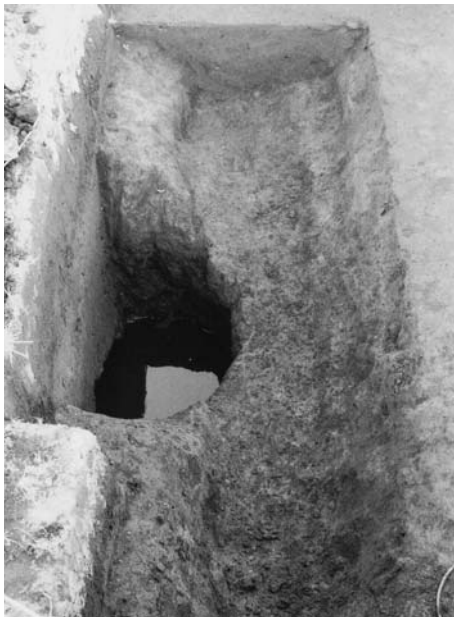
３号溝　完掘

４号溝　完掘

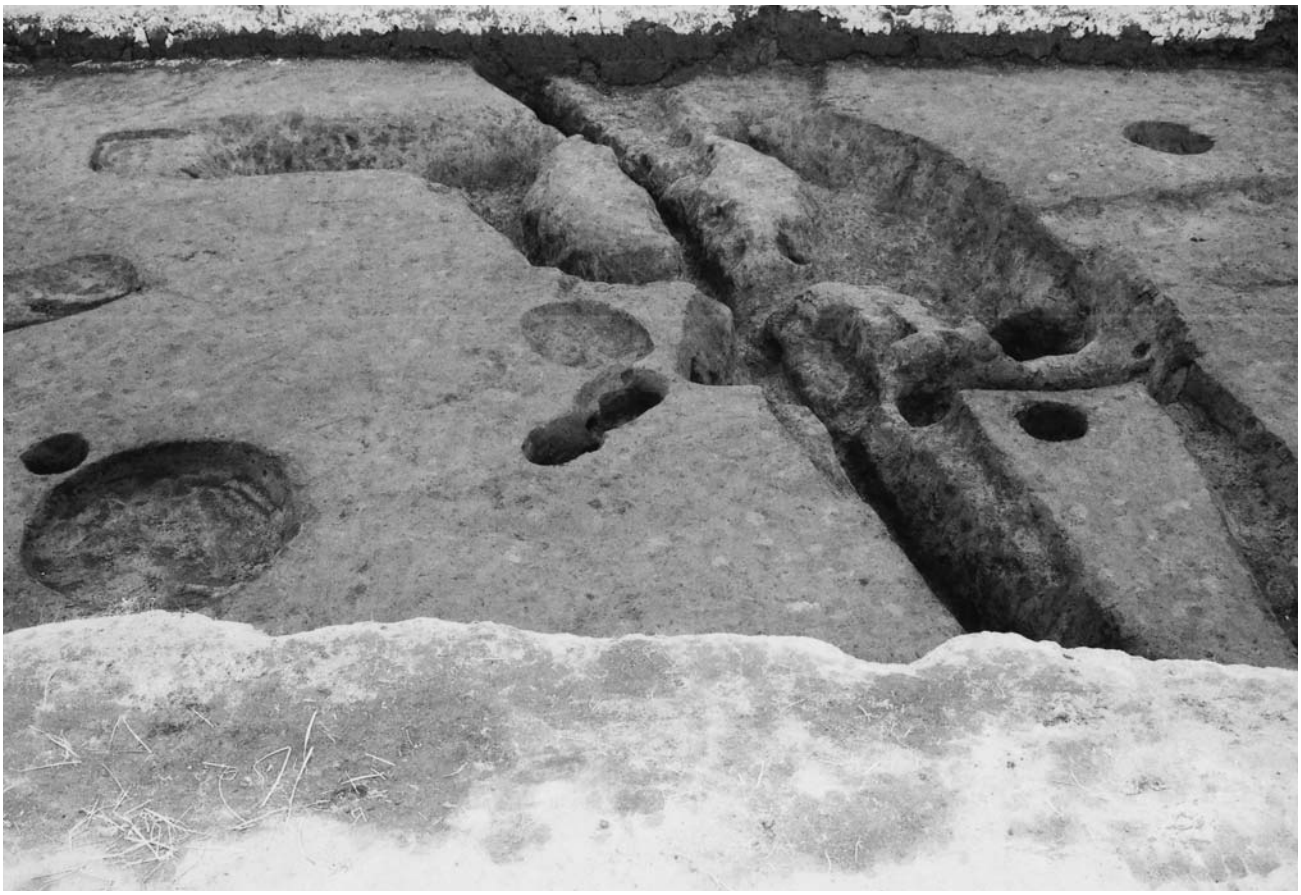
４a·b 号溝　完掘

４c（右）・15号溝　（北から）

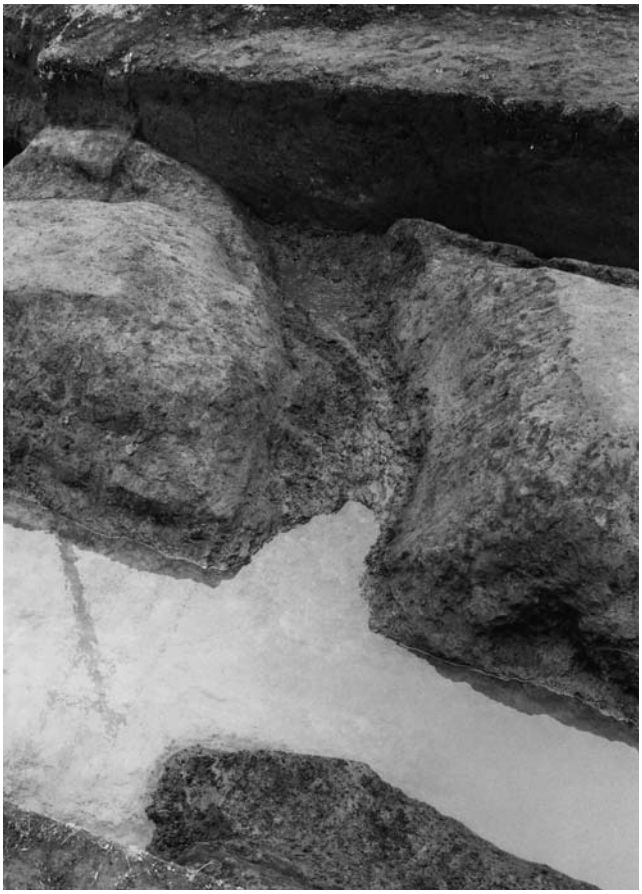
４号溝　遺物出土



６号溝　南　完掘



９・10号溝周辺



12号溝　完掘

14号溝　完掘　（北から）

14号溝　板碑出土

板碑出土　（石－85）

同出土　（石－88～90）

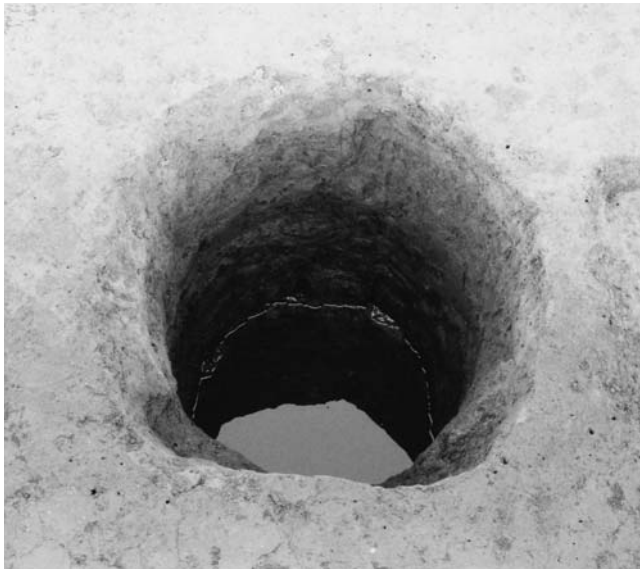
遺構12　KB３－12

15・17ab・18号溝　完掘

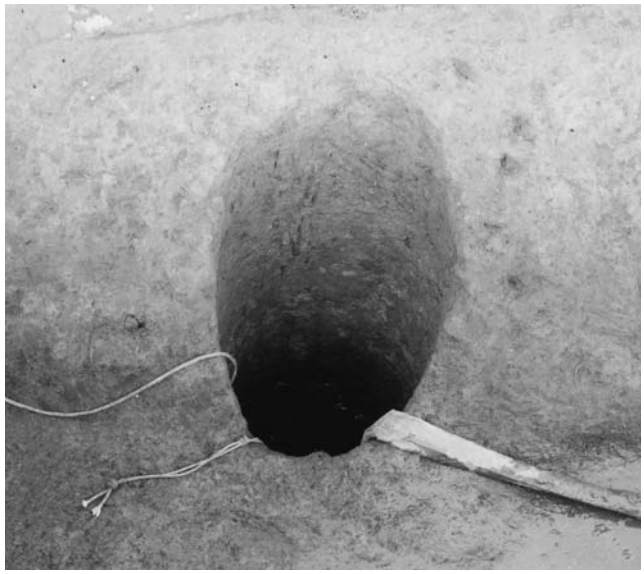
16a·b 号溝　完掘

１号井戸　完掘

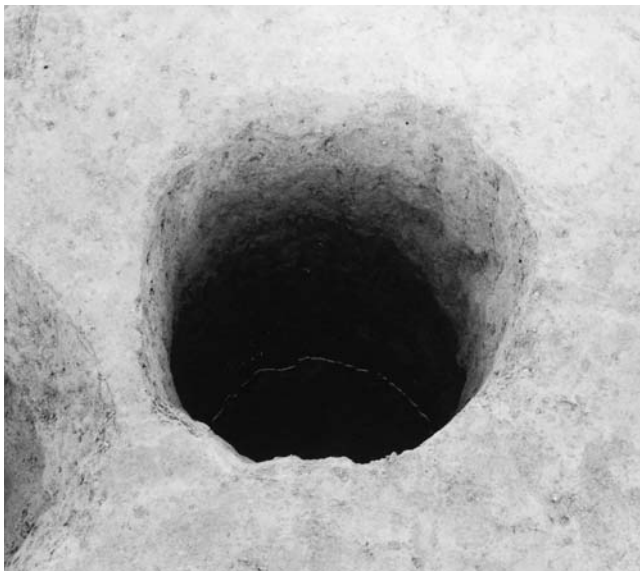
２号井戸　完掘



３号井戸　完掘

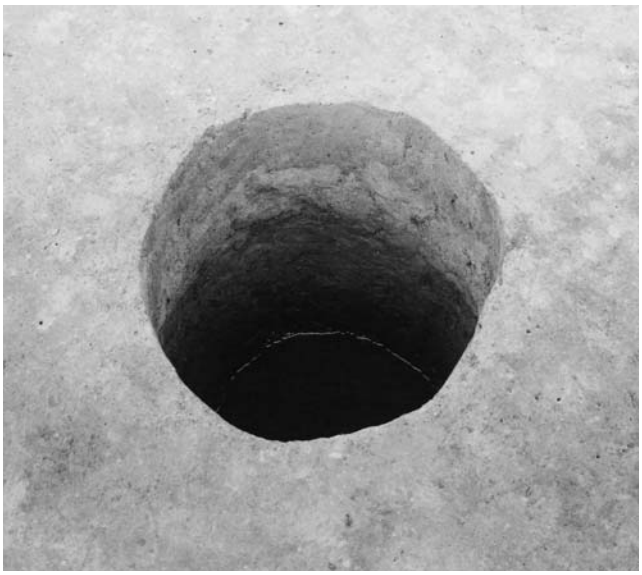


４号井戸　完掘



５号井戸　完掘

６号井戸　完掘



７号井戸　完掘

８号井戸　遺物出土

８号井戸　完掘

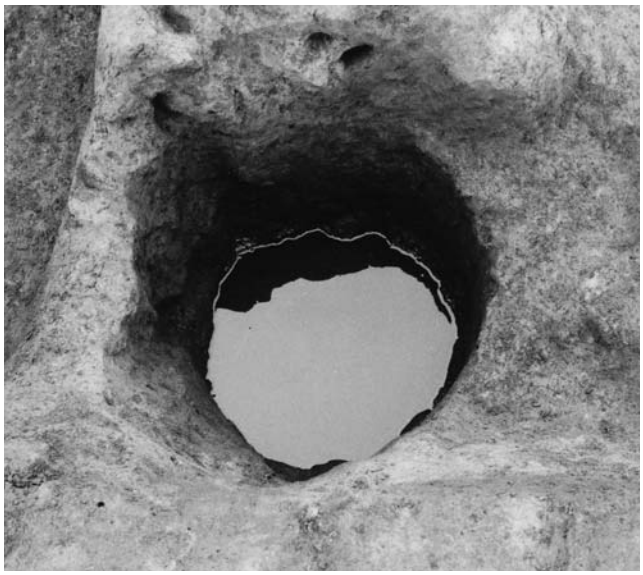
９号井戸　完掘

10号井戸　完掘

11号井戸　完掘

12号井戸　完掘

13号井戸　完掘



14号井戸　完掘

16号井戸　完掘

17号井戸　完掘

19号井戸　完掘

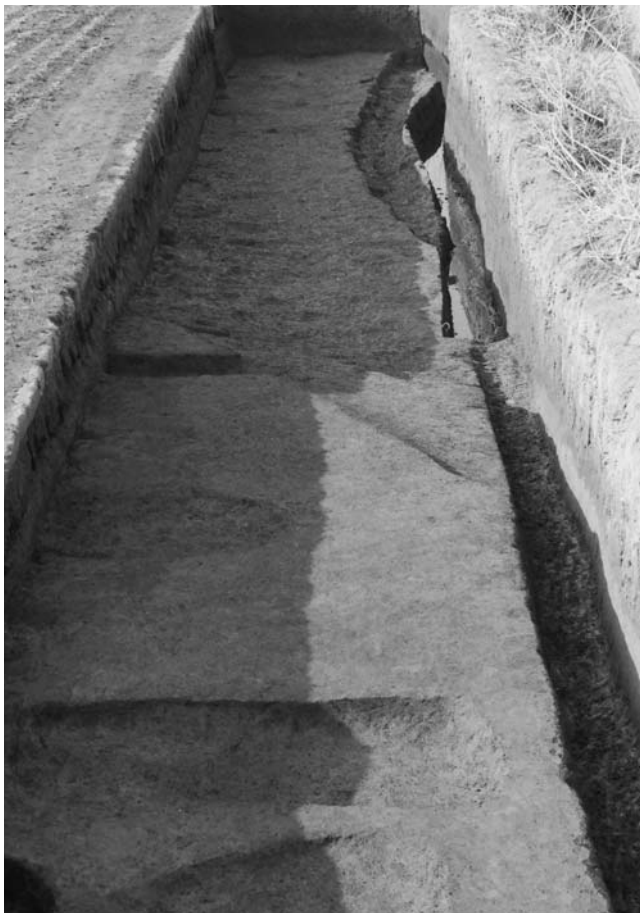
遺構16　KB３－16

10号土壙　完掘

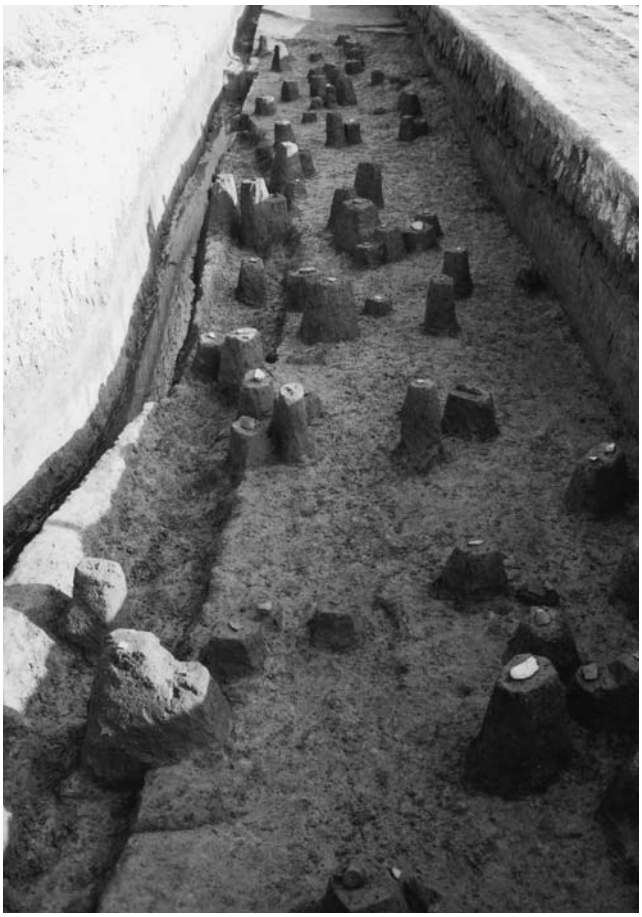
22号土壙　銅鋺（金－28）出土

46号土壙
遺物（木－６・石－98）出土

調査風景



完　　掘



１号溝　遺物出土

１号井戸　完掘

調査前風景

南　完掘

遺構20　KB９－２

中央・北　完掘

中央　完掘　（南東から）

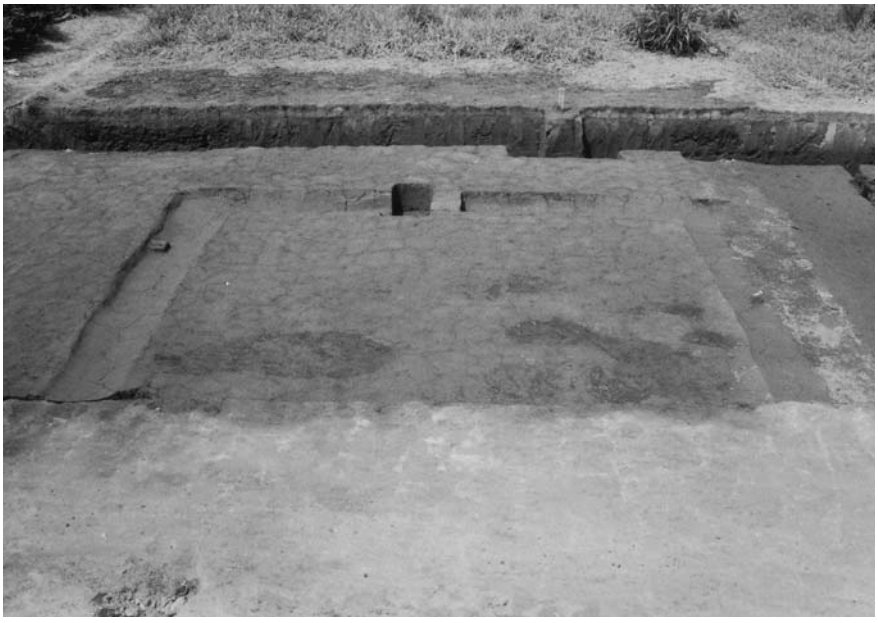
北　完掘　（北から）

１号溝　完掘

遺構22　KB９－４

３号溝　完掘

２・５号溝　完掘



６号溝　完掘

17・20（右）号溝　完掘

19号溝　完掘

21号溝　完掘

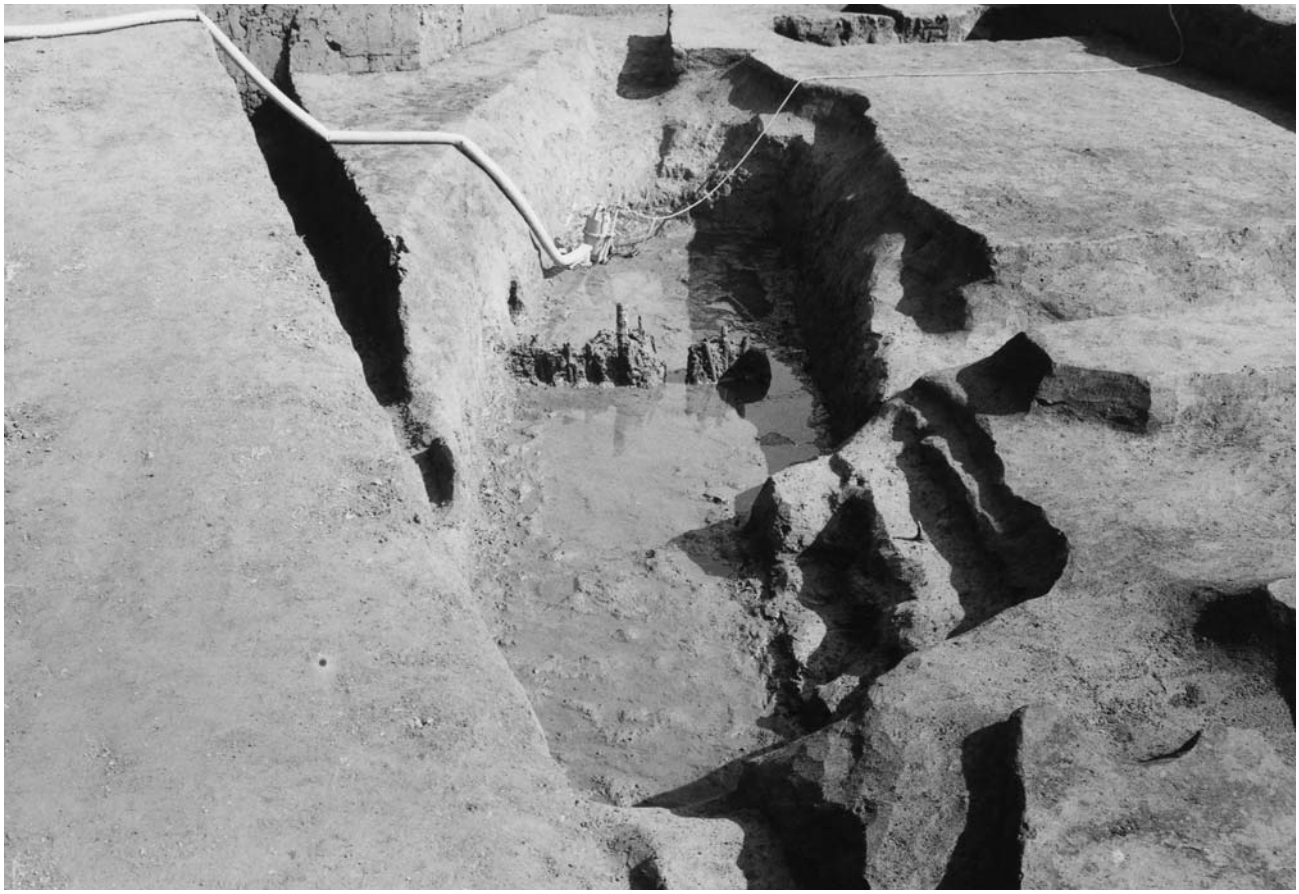
遺構24　KB９－６

21号溝　遺物出土

１号井戸　完掘

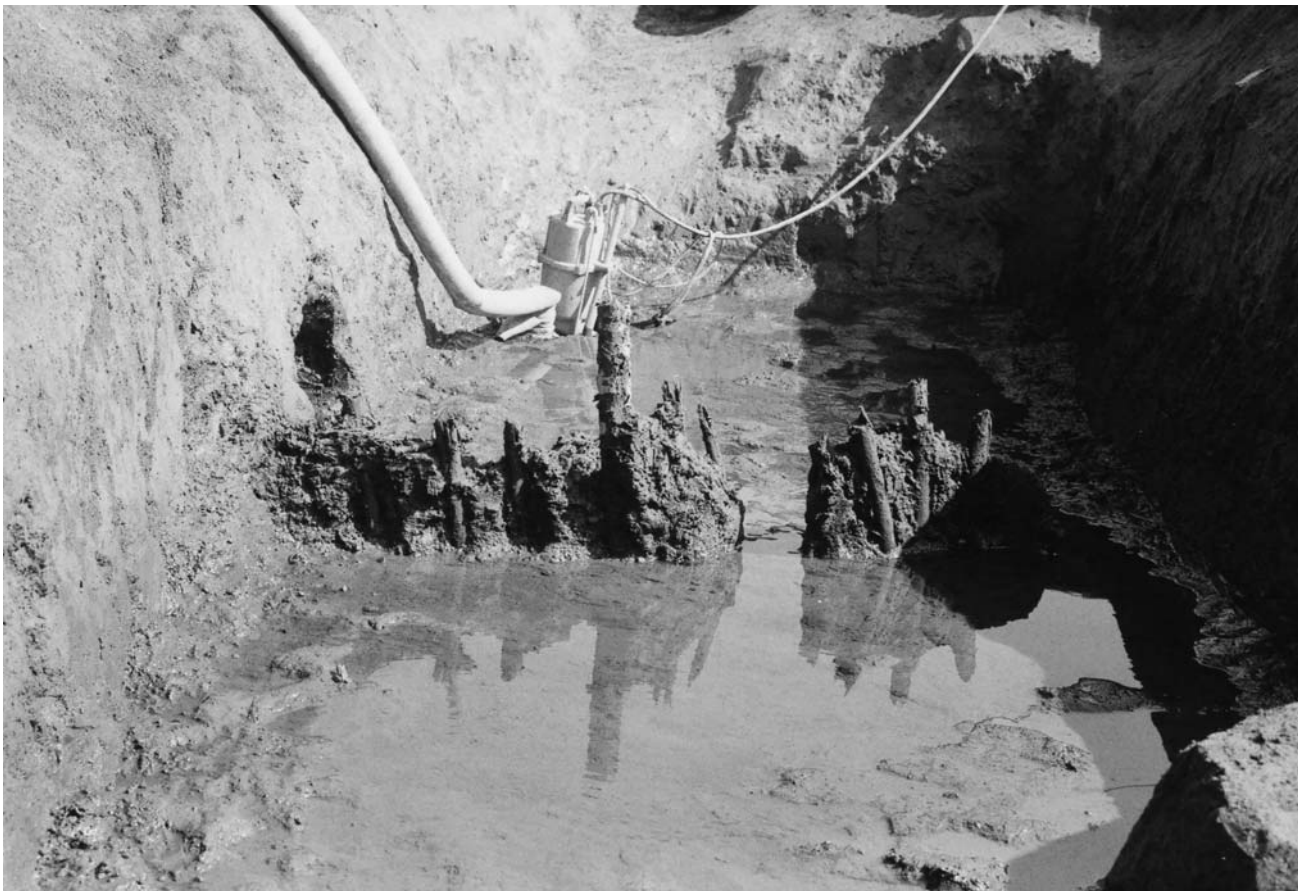
２号井戸　完掘

１号建物跡　完掘



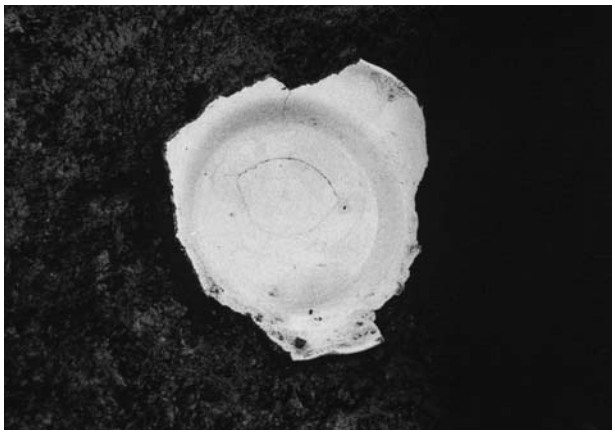
16号土壙　完掘

遺構26　KB９－８



16号土壙　杭列検出

16号土壙　遺物（土－438・442）出土



16号土壙　鉢（土－437）出土

同　鉢（土－438）出土

同　小柄（金－32）出土

17号土壙　完掘

16号土壙　蓋板？（木－８）出土

19号土壙　完掘

21号土壙　完掘

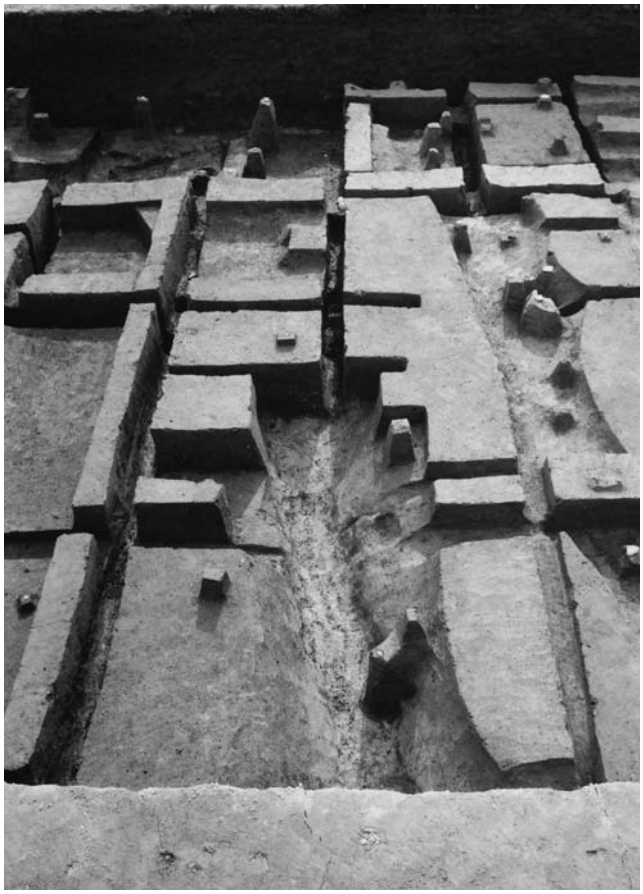
遺構28　第19次

調査前風景

完　　掘

1号溝　完掘

4号溝　完掘



5号溝　完掘

6号溝　完掘

遺構30　第21次

完掘　（東から）

１号溝　完掘

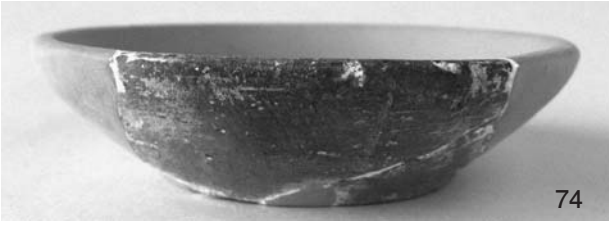
２号溝　完掘

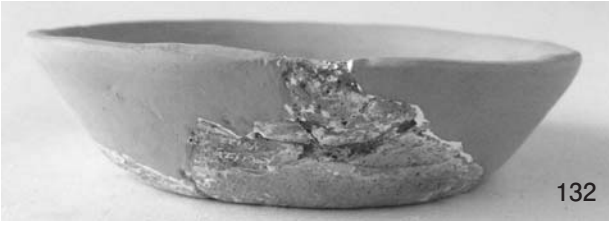
完掘　（北から）

１号溝　完掘

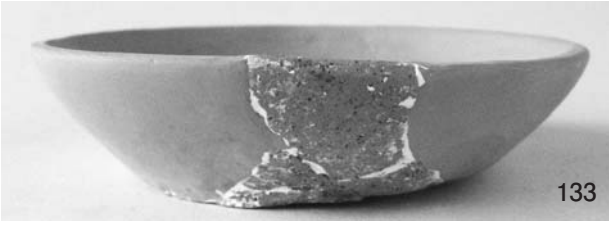
１号溝　香炉（土－597）出土

土器類１



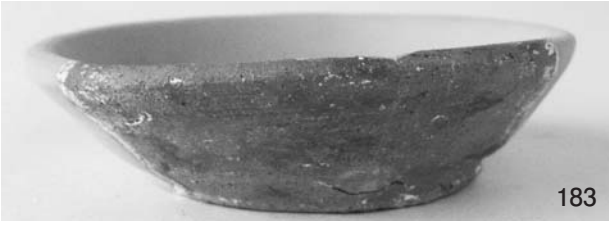


KB３区　土器類


133

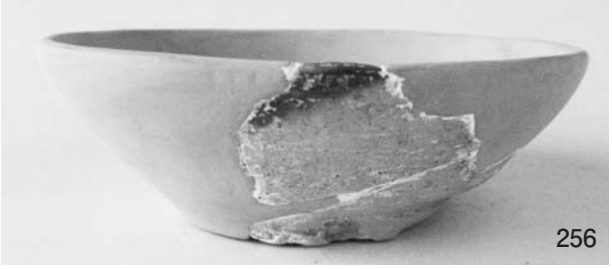
149

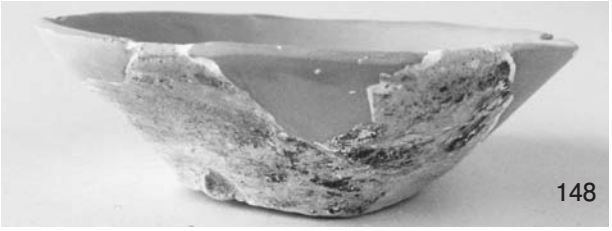
167


183

251

253


256


148

162

168

196

252

255

257

258

KB３区　土器類２

土器類３

303

319

372

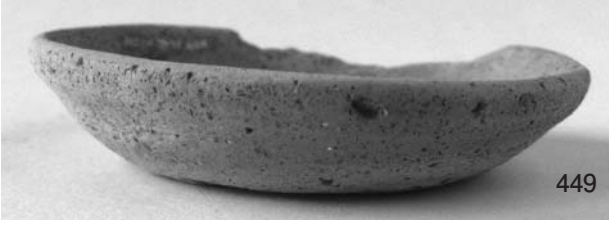
376

384

385

387

422


449

451

540

554

359

※303、319、359は KB6
372～554は KB9

KB６・９区　土器類

他

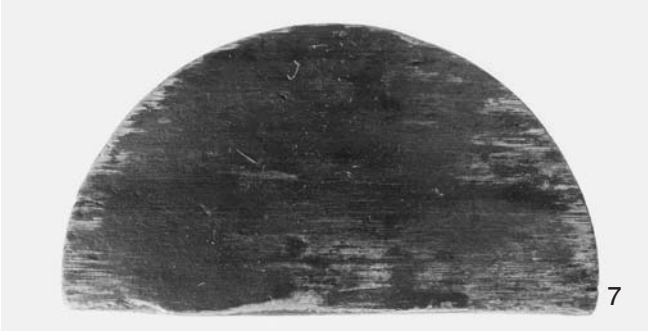
木製品

3

4

5

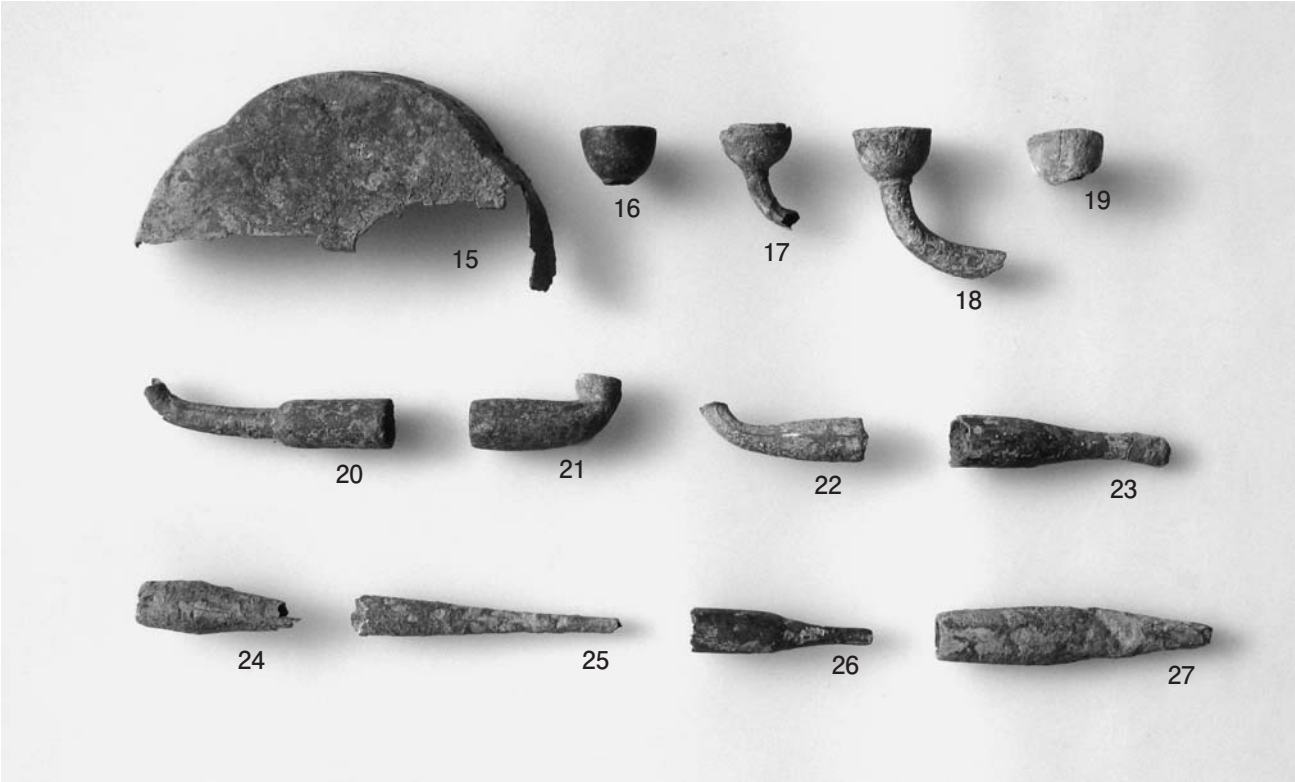
6


7

8

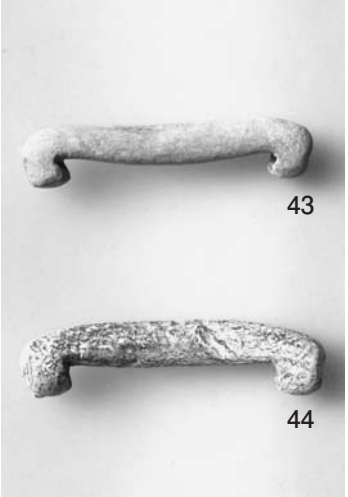
12

9−1
9−2
9−3

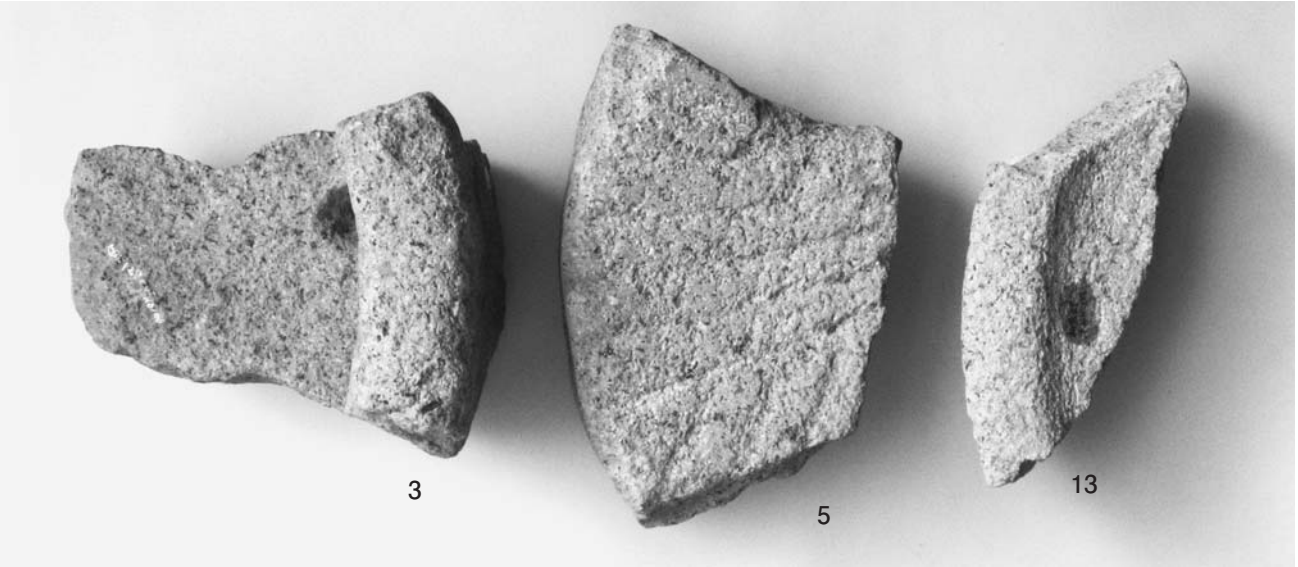


煙管等

弾丸



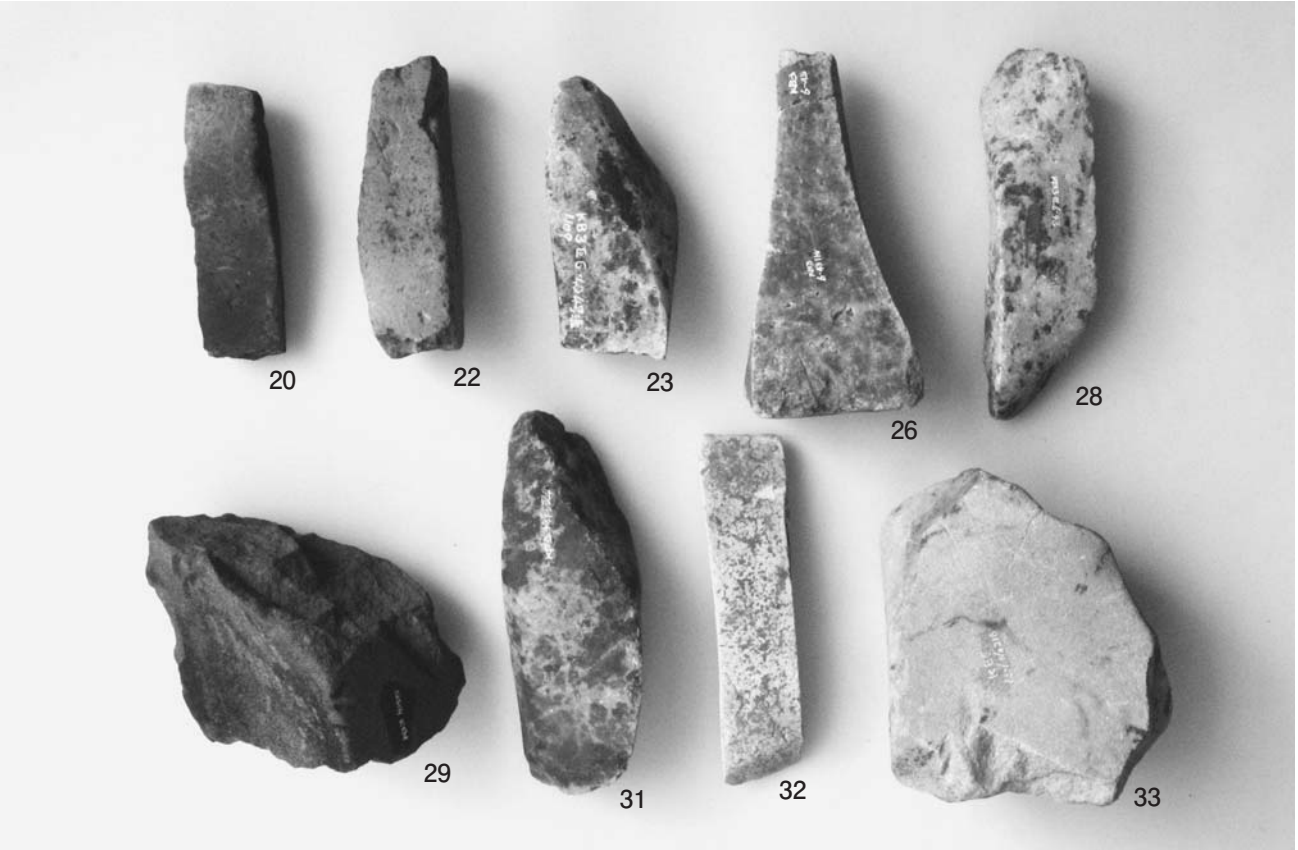
石製品類 1



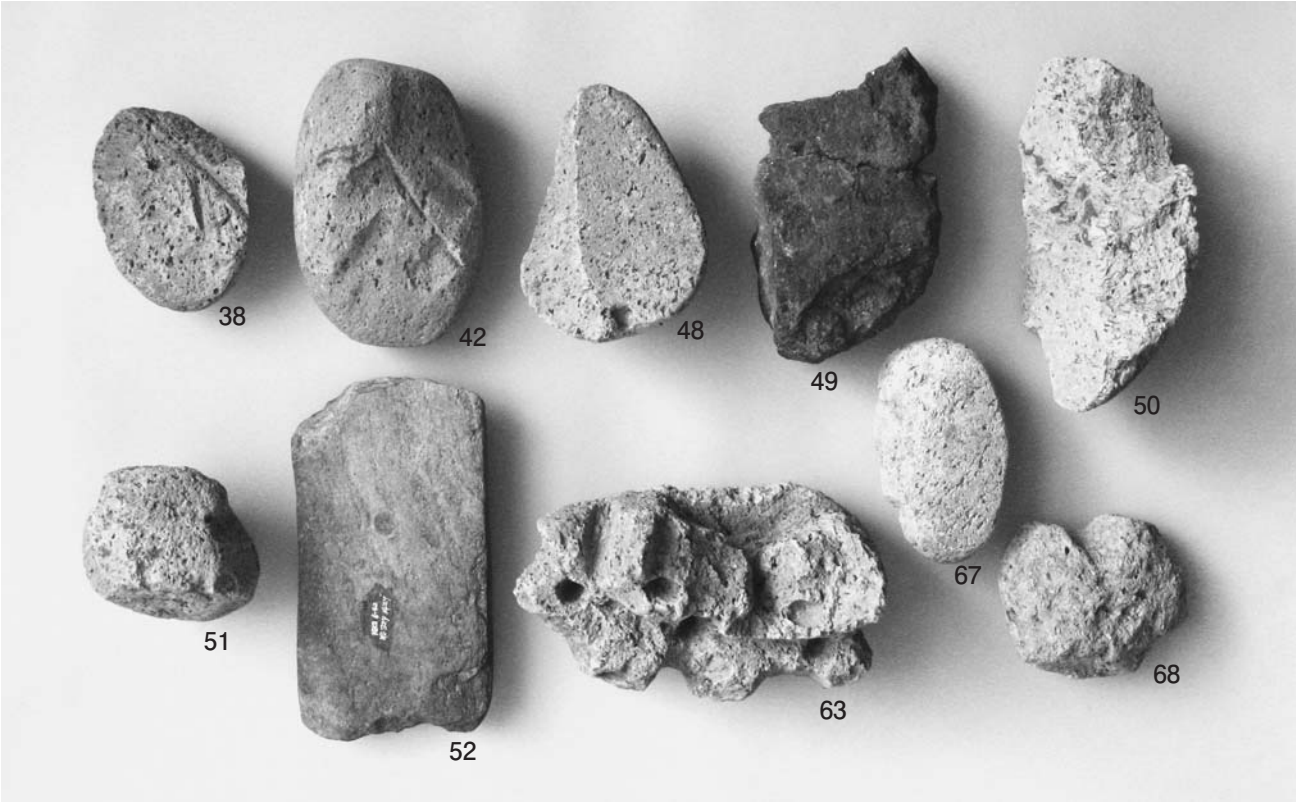
石臼

碁石

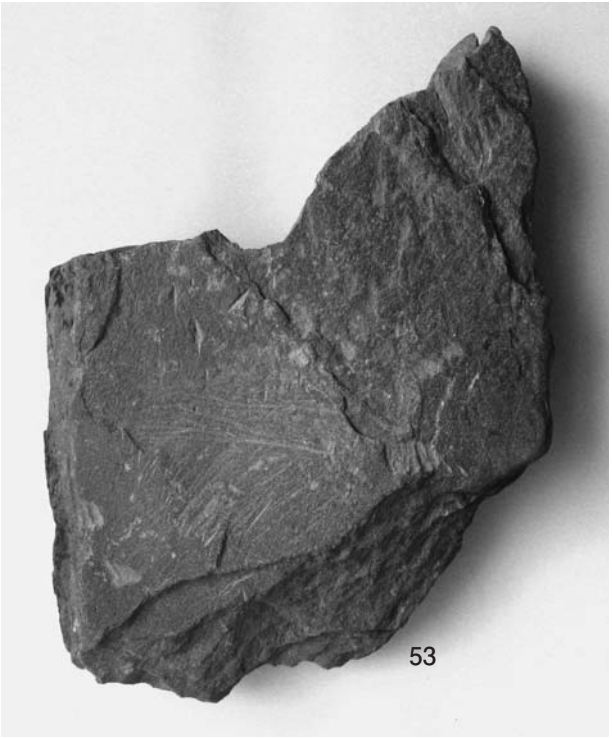
硯



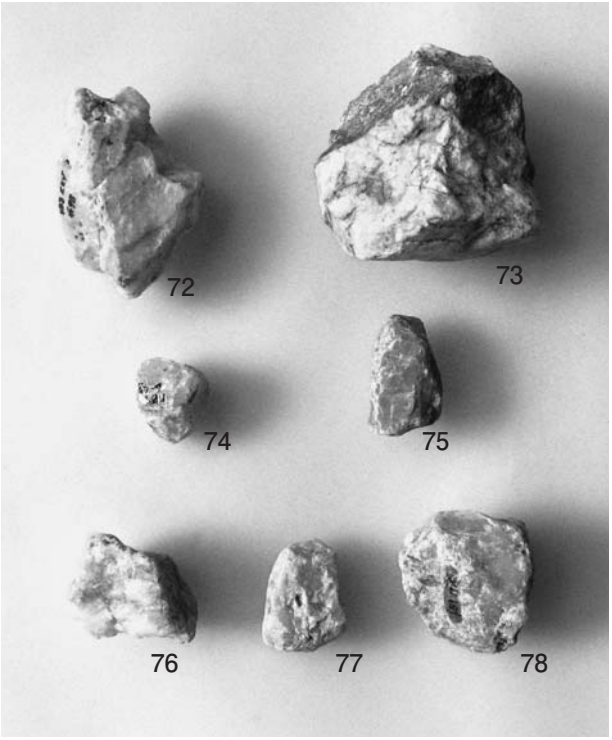
砥石



磨石



砥石



火打石

石製品類３

98

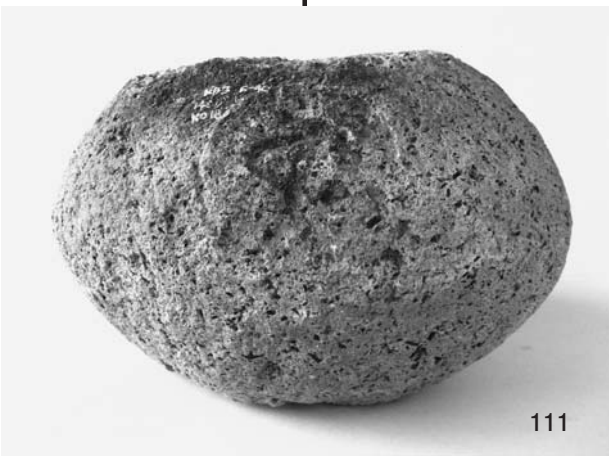
107

87

88

89

99


111

動物遺存体

報　告　書　抄　録

フリガナ	キサイジョウブケヤシキアト
書名	騎西城武家屋敷跡
副書名	KB３・６・９区第19・20・21・29次発掘調査　－中近世編－
巻次	
シリーズ名	加須市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第４集
編著者名	嶋村英之　島村範久　嶋村薫
編集機関	加須市教育委員会
所在地	〒347-8501　埼玉県加須市下三俣290番地　0480-73-1111
発行年月日	西暦2012年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
私市城 武家屋敷跡	埼玉県加須市 根古屋 第３区／字前76他 第６区／同66他 第９区／同62-２他 第19次／仮48-10-1 第20次／仮48-10-2 第21次／仮35-８ 第29次／仮38-３-２	11421	070	 36°6′5″ 36°6′9″ 36°6′8″ 36°6′3″ 〃 36°6′7″ 36°6′6″	 139°35′ 3″ 139°34′55″ 139°34′53″ 139°34′ 2″ 〃 139°35′ 0″ 139°34′60″	３区19841203～19850308 ６区19851202～19860121 ９区19850627～1117 19次19900705～0910 20次19900918～1122 21次 ′ 911010～′ 920208 29次19920217～0319	840 110 586 60 56 66 117	土地 区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
私市城 武家屋敷跡	城館跡	第３区中近世 第６区中近世 第９区中近世 第19次中近世 第20次中近世 第21次中近世 第29次中近世	溝27井戸20土壙47 溝３井戸１土壙４ 溝36井戸２土壙18 土壙２ 溝６ 溝２土壙７ 溝１土壙４	土器類・曲物・下駄・鉄鏃・小柄・銅鋺・銭貨・煙管・磨石・火打石・板碑・五輪等 土器類・火打金・銭貨 土器類・煙管・弾丸・切羽・硯 土器類・櫛・漆椀 土器類・煙管・粉挽臼 土器類・弾丸・銭貨 土器類・弾丸	板碑一括出土

要約	文献による騎西城は1455年から1632年の約180年間に亘るもので江戸初期の絵図によりその城下は明らかとなっている。３区では１区からつながる、絵図に記載される堀を確認した。他にその前後の時期の堀や井戸・土壙などの遺構を検出した。

加須市埋蔵文化財調査報告書　第４集

騎西城武家屋敷跡

KB３・６・９区　第19・20・21・29次発掘調査
－中近世編－

平成24年３月25日印刷
平成24年３月31日発行

発　行　加須市教育委員会
〒347－8501　埼玉県加須市下三俣290番地
印　刷　関東図書株式会社